

青森県埋蔵文化財調査報告書 第304集

十腰内(1)遺跡II

—県営津軽中部広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2001年3月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第304集

とこしない
十腰内(1)遺跡II

—県営津軽中部広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2001年3月

青森県教育委員会



北区遺構検出状況



縄文時代晩期の土器



土偶・岩版・石刀・石棒



玉の未製品が入った土器

序

津軽富士と呼ばれ、秀麗な山容を誇る岩木山^{いわきさん}の麓には、縄文時代から弥生・平安時代、そして中・近世にいたるまでの遺跡が数多く分布しています。

弘前市にある十腰内^{とこしない}(1)遺跡は、これらのなかで、比較的古くから注目され、縄文時代晩期^{かむがわが}の亀ヶ岡式土器^{どくわう}・土偶などの優品を出土したことでひろく知られた遺跡です。しかし、最近まで本格的な調査が行われなかったため、その内容はほとんど知られていなかったのが実情です。

この遺跡が、県営津軽中部広域農道建設事業の区域に含まれることとなったため、平成9年度に当センターによってはじめて大規模な発掘調査が行われました。この調査報告書は、平成11年に刊行されており、この遺跡が大型竪穴住居跡を含む縄文時代晩期の集落跡であることが明らかにされました。

平成11年度には、当センターが先の調査区の東側にあるりんご園内を発掘調査しました。この調査によって、縄文時代晩期の竪穴住居跡のほかに、後期の竪穴住居跡も発見され、この遺跡が縄文時代後期から営まれていた集落跡であることが判明しました。

この調査報告書は、平成11年度の調査結果をまとめたものです。この報告書が、埋蔵文化財の調査資料として、本県や東北地方北部の考古学研究、文化財の保護・普及活動を行ううえでご参考になれば幸いです。

この遺跡の発掘調査の実施・出土品の整理・調査報告書の作成にあたり、ご指導・ご協力いただいた関係各位に対し、心から感謝を申しあげます。

平成13年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島 邦夫

例 言・凡 例

- 1 本報告書は、平成11年度に青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施した、県営津軽中部広域農道建設事業に伴う弘前市十腰内(1)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集し作成した。編集・執筆は当センター職員が分担し、各執筆者についてはそれぞれの文末に担当者名を記した。
- 3 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「五所川原」と弘前市発行の1万分の1「弘前市管内図」を複製したものである。
- 4 遺構・遺物の本文・挿図における表現は、原則として次の様式・基準によった。
 - (1) 図中の方位は座標北である。
 - (2) 遺構図面中にある土層断面図及び横断面図には、“-”の横に標高を付してある。
 - (3) 土層の注記には『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄：1996)を用いた。
 - (4) 住居跡内の遺物の取り上げについては、床面にはは密着して出土したものを「床面」、床面から約4cmまでの高さから出土したものを「床面直上」として扱った。
 - (5) 遺物には観察表を付し、出土地点、出土層位、法量、その他諸特徴を一覧できるようにまとめた。土器計測値は、「口径」については口縁部が、「底径」については底部が、「器高」については口縁部から底部まで遺存しているものの実測値を示している。表中で“()”中の値は、「口径」及び「底径」は推定値を、「器高」については現存値を示している。また、石器の計測値はすべて現存値であり、破片については、計測値を()でくくっている。
 - (6) 本文・挿図・観察表・写真図版の遺物番号は原則的に一致させてある。
 - (7) 図中で使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。

〈遺 構〉



焼 土



被 熱

〈遺 物〉



石器・タタキ/凹み



石器・スリ



石器・赤色顔料



石器・被熱

- 5 調査現場で第10号竪穴住居跡（S I-10）と呼称した遺構については、整理作業における検討の結果、第72号土坑（S K-72）に変更した。ただし、出土遺物はないため、注記の変更はない。
- 6 挿図の縮尺は、原則として、土器・土器片は2/5、剥片石器は2/3、礫石器は1/3、土製品は2/3、石製品は岩版、石棒・石剣・石刀類は1/2、円盤状石製品は1/3、古銭等は2/3とし、各図ごとにスケールを付した。しかし、写真図版については縮尺が統一されていない部分もあるため付していない。
- 7 資料の鑑定や試料の同定、分析については次の方々や機関に委託した。
- | | |
|--------------|-----------------------|
| 石器の石質鑑定 | 佐々木 辰雄（青森県立八戸南高等学校教諭） |
| 放射性炭素による年代測定 | （株）地球科学研究所 |
- 8 「引用・参考文献」については第V章の末尾にまとめた。
- 9 出土遺物・写真等については、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 10 発掘調査の実施及び報告書の作成にあたり、下記の方々及び機関からご教示・ご協力をいただいた。（アイウエオ順、敬称略）
- 石本 省三・岩井 浩介・角張 淳一・鈴木 克彦・清野 彰史・成田 正彦・古市 豊司・弘前市立裾野公民館

目 次

カラー写真

序

例言・凡例

目次

挿図目次・写真目次

第I章 調査概要	1
第1節 調査要項	1
第2節 調査方法	2
第3節 調査経過	5
第4節 調査区内の基本層序	9
第II章 検出遺構と遺物	11
第1節 竪穴住居跡	11
第2節 土坑	32
第3節 土器埋設遺構	40
第4節 集石遺構	41
第III章 遺構外の遺物	55
第1節 遺物集中区の遺物出土状況	55
第2節 縄文土器	59
第3節 石器	91
第4節 土製品	135
第5節 石製品	140
第6節 古銭ほか	141
第IV章 自然科学的分析	156
第V章 まとめ	161

〔引用・参考文献〕

写真図版

報告書抄録

挿図目次

図1 遺跡位置		図46 遺構外出土土器(10)	76
図2 周辺の地形図	2	図47 遺構外出土土器(11)	77
図3 試掘調査トレンチ配置図	6	図48 遺構外出土土器(12)	78
図4 遺構配置図(平成9・11年度)	7	図49 遺構外出土土器(13)	79
図5 遺構配置図(平成11年度調査区)	8	図50 遺構外出土土器(14)	80
図6 基本層序	10	図51 遺構外出土土器(15)	81
図7 第4号竪穴住居跡	12	図52 遺構外出土土器(16)	82
図8 愛4号竪穴住居跡出土遺物	13	図53 遺構外出土土器(1)	94
図9 第5号竪穴住居跡	14	図54 遺構外出土土器(2)	95
図10 第6号竪穴住居跡(1)	16	図55 遺構外出土土器(3)	96
図11 第6号竪穴住居跡(2)	17	図56 遺構外出土土器(4)	97
図12 第7号竪穴住居跡	19	図57 遺構外出土土器(5)	98
図13 第7号竪穴住居跡出土遺物(1)	20	図58 遺構外出土土器(6)	99
図14 第7号竪穴住居跡出土遺物(2)	21	図59 遺構外出土土器(7)	100
図15 第7号竪穴住居跡出土遺物(3)	22	図60 遺構外出土土器(8)	101
図16 第7号竪穴住居跡出土遺物(4)	23	図61 遺構外出土土器(9)	102
図17 第8号竪穴住居跡	25	図62 遺構外出土土器(10)	103
図18 第8号竪穴住居跡遺物出土状況・ 第8号竪穴住居跡出土遺物(1)	26	図63 遺構外出土土器(11)	104
図19 第8号竪穴住居跡出土遺物(2)	27	図64 遺構外出土土器(12)	105
図20 第8号竪穴住居跡出土遺物(3)	28	図65 遺構外出土土器(13)	106
図21 第9号竪穴住居跡	30	図66 遺構外出土土器(14)	107
図22 第9号竪穴住居跡出土遺物	31	図67 遺構外出土土器(15)	108
図23 第54～58号土坑	37	図68 遺構外出土土器(16)	109
図24 第59～65号土坑	38	図69 遺構外出土土器(17)	110
図25 第66～72号土坑	39	図70 遺構外出土土器(18)	111
図26 第3号土器埋設遺構	40	図71 遺構外出土土器(19)	112
図27 第1・2号築石遺構	42	図72 遺構外出土土器(20)	113
図28 第1・2号築石遺構出土遺物	43	図73 遺構外出土土器(21)	114
図29 第1号築石遺構出土遺物(1)	44	図74 遺構外出土土器(22)	115
図30 第1号築石遺構出土遺物(2)	45	図75 遺構外出土土器(23)	116
図31 第2号築石遺構出土遺物(1)	46	図76 遺構外出土土器(24)	117
図32 第2号築石遺構出土遺物(2)	47	図77 遺構外出土土器(25)	118
図33 第2号築石遺構出土遺物(3)	48	図78 遺構外出土土器(26)	119
図34 I C-71・72グリッド遺物出土状況	56	図79 遺構外出土土器(27)	120
図35 I E-72・73グリッド遺物出土状況	57	図80 遺構外出土土器(28)	121
図36 I F-70グリッド遺物出土状況	58	図81 遺構外出土土器(29)	122
図37 遺構外出土土器(1)	67	図82 遺構外出土土器(30)	123
図38 遺構外出土土器(2)	68	図83 遺構外出土土器(31)	124
図39 遺構外出土土器(3)	69	図84 遺構外出土土器(32)	125
図40 遺構外出土土器(4)	70	図85 遺構外出土土器(33)	126
図41 遺構外出土土器(5)	71	図86 遺構外出土土器(34)	127
図42 遺構外出土土器(6)	72	図87 遺構外出土土器(35)	128
図43 遺構外出土土器(7)	73	図88 遺構外出土土製品(1)	136
図44 遺構外出土土器(8)	74	図89 遺構外出土土製品(2)	137
図45 遺構外出土土器(9)	75	図90 遺構外出土土製品(3)	138
		図91 遺構外出土土棒・石剣	142

図92	遺構外出土石剣・石刀	143
図93	遺構外出土岩版・円形石製品	144
図94	遺構外出土玉類ほか	145
図95	遺構外出土円盤状石製品(1)	146

図96	遺構外出土円盤状石製品(2)	147
図97	遺構外出土円盤状石製品(3)	148
図98	遺構外出土円盤状石製品(4)	149
図99	遺構外出土円盤状石製品(5)	150

写真目次

写真1	遺跡の状況(調査前)	169
写真2	調査風景と基本層序	170
写真3	第4号竪穴住居跡(1)	171
写真4	第4号竪穴住居跡(2)	172
写真5	第4号竪穴住居跡(3)	173
写真6	第4・6号、第5号竪穴住居跡	174
写真7	第6号竪穴住居跡(1)	175
写真8	第6号竪穴住居跡(2)	176
写真9	第6号竪穴住居跡(3)	177
写真10	第6号竪穴住居跡(4)	178
写真11	第7号竪穴住居跡(1)	179
写真12	第7号竪穴住居跡(2)	180
写真13	第7号竪穴住居跡(3)	181
写真14	第7号竪穴住居跡(4)	182
写真15	第8号竪穴住居跡(1)	183
写真16	第8号竪穴住居跡(2)	184
写真17	第8号竪穴住居跡(3)	185
写真18	第8号竪穴住居跡(4)	186
写真19	第9号竪穴住居跡(1)	187
写真20	第9号竪穴住居跡(2)	188
写真21	第54・61号土坑	189
写真22	第55号土坑	190
写真23	第56号土坑	191
写真24	第57号土坑	192
写真25	第58号土坑	193
写真26	第59号土坑	194
写真27	第60号土坑	195
写真28	第62号土坑	196
写真29	第63号土坑	197
写真30	第64号土坑	198
写真31	第65号土坑	199
写真32	第66・70号土坑	200
写真33	第67号土坑	201
写真34	第68号土坑	202
写真35	第69号土坑	203
写真36	第71・72号土坑	204
写真37	第3号土器埋設遺構	205
写真38	第1号集石遺構	206
写真39	第2号集石遺構	207
写真40	遺物出土状況(1)	208
写真41	遺物出土状況(2)	209
写真42	遺物出土状況(3)	210

写真43	遺物出土状況(4)	211
写真44	遺物出土状況(5)	212
写真45	遺物出土状況(6)	213
写真46	遺物出土状況(7)	214
写真47	遺物出土状況(8)	215
写真48	遺物出土状況(9)	216
写真49	遺物・遺跡見学会	217
写真50	遺跡の状況(調査後)	218
写真51	遺跡の状況(調査後)	219
写真52	第4～7号竪穴住居跡出土遺物	220
写真53	第7号竪穴住居跡出土遺物	221
写真54	第8号竪穴住居跡出土遺物	222
写真55	第8・9号竪穴住居跡、第58号土坑、第3号土器埋設遺構、第1・2号集石遺構出土遺物	223
写真56	第1号集石遺構出土遺物	224
写真57	第2号集石遺構出土遺物	225
写真58	遺構外出土土器(1)	226
写真59	遺構外出土土器(2)	227
写真60	遺構外出土土器(3)	228
写真61	遺構外出土土器(4)	229
写真62	遺構外出土土器(5)	230
写真63	遺構外出土土器(6)	231
写真64	遺構外出土土器(7)	232
写真65	遺構外出土土器(8)	233
写真66	遺構外出土土器(9)	234
写真67	遺構外出土土器(10)	235
写真68	遺構外出土土器(1)	236
写真69	遺構外出土土器(2)	237
写真70	遺構外出土土器(3)	238
写真71	遺構外出土土器(4)	239
写真72	遺構外出土土器(5)	240
写真73	遺構外出土土器(6)	241
写真74	遺構外出土土器(7)	242
写真75	遺構外出土土製品	243
写真76	遺構外出土石棒・石剣・石刀	244
写真77	遺構外出土岩版・玉類・古銭ほか	245
写真78	遺構外出土円盤状石製品(1)	246
写真79	遺構外出土円盤状石製品(2)	247
写真80	遺構外出土円盤状石製品(3)	248



図1 遺跡位置

第I章 調査の概要

第1節 調査要項

1 調査目的

青森県営津軽中部広域農道建設事業に先立ち、当該地区に所在する弘前市十腰内(1)遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財活用に資する。

2 発掘調査期間 平成11年4月20日から同年6月30日まで

3 遺跡名及び所在地

遺跡名 十腰内(1)遺跡(青森県遺跡台帳番号02010)

所在地 青森県弘前市十腰内字猿沢84ほか

4 調査対象面積 2,700平方メートル

5 調査委託者 青森県農林部

6 調査受託者 青森県教育委員会

7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関 弘前市教育委員会

9 調査体制

調査指導員 村越 潔 青森大学教授(考古学)

調査協力員 佐藤 圭一郎 弘前市教育委員会教育長

調査員 藤沼 邦彦 弘前大学人文学部教授(考古学)

伊藤 昭雄 青森県立木造高等学校車力分校教諭(地質学)

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

所 長 中島 邦夫

次長・調査第一課長 成田 誠治

総務課長 成田 孝夫(現、青森県工業振興課課長補佐)

調査第一課

文化財保護主事 神 康夫(現、青森県教育庁文化課埋蔵文化財班文化財保護主事)

文化財保護主事 齋藤 正

調査補助員

壺田 英人

新谷 幸子

長濱 久美子

伊藤 敦子

(福田 友之)

第2節 調査方法

十腰内(1)遺跡の平成11年度の調査区は標高88~94mの河岸段丘にあたる。農道予定部分を「北区」、農道建設に伴う市道十腰内・巖鬼山線の付け替え部分を「南区」と呼称して調査を進めた。

グリッドの設定は公共座標を基準として $X=81571m$ 、 $Y=41840m$ を基準とし、1辺12mの正方形を大区画として調査区に割り付けた。また、 $4 \times 4m$ のグリッドを設定し、12m単位に木杭を4m単位にグリッドピンを打設した。グリッドは平成9年度調査区から連続するものである。

グリッドの呼称については、東西方向では東に向かって数が増える算用数字を、南北方向では南へ向かって順にアルファベットを付し、双方を組み合わせたもので呼称とした。

ベンチマークは平成9年度調査区内のベンチマークを用い、適宜、調査区内に移設し用いた。調査の方法はグリッド法を基本とした分層発掘とした。

遺構番号の命名は、確認順、調査着手順に行った。遺構の精査は必要に応じてセクションベルトを設けて行い、土層観察後に掘り下げた。堆積土が遺構壁面等と区分することが困難なものについては、サブトレンチを設定し確認を行った。

土層順は、調査区内の基本層序については表上から下位に順にローマ数字を用い、さらに細分された土層にはアルファベットの小文字を付け加えた。遺構内の堆積土については、上位から下位に順に算用数字をつけた。土層の観察には「新版標準土色帖」(小山・竹原:1996)を用いて注記した。

実測図の作成は、20分の1の縮尺を基本とした簡易遺り方実測で行ったが、規模や遺物の出土状態に応じて10分の1の縮尺で作成した。また、遺物の取り上げはグリッド単位、および遺構の層位ごとに行った。

写真撮影は、35mmモノクロームネガとカラーリバーサルフィルムの2種類を用いて行い、遺構・遺物の検出状況に応じてカラーネガフィルムやインスタントカメラも用いた。

(齋藤 正)

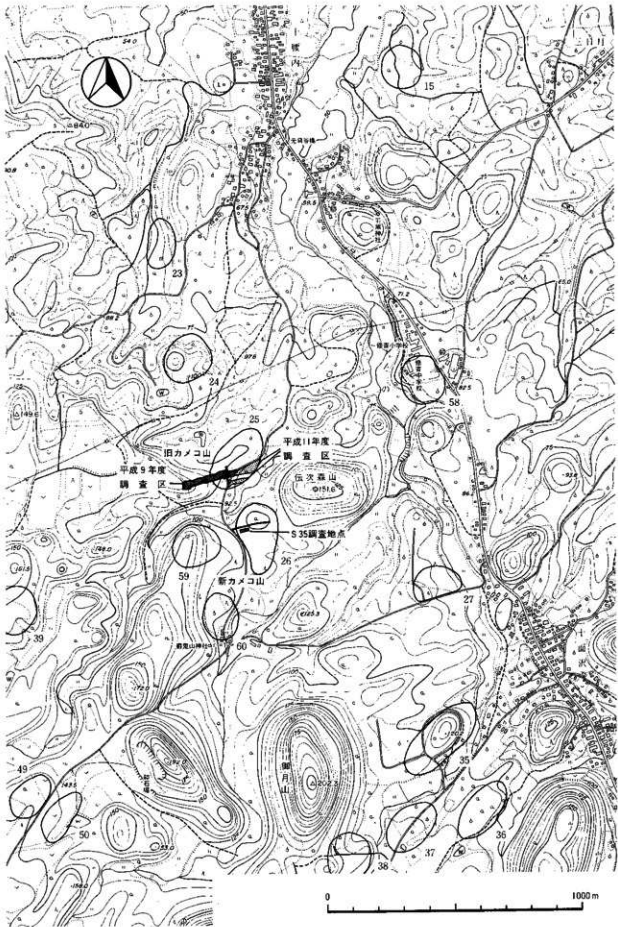


図2 周辺の地形図

十腰内(1)遺跡と周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺 跡 名	所 在 地	時 代
1	19017	月見野(3)遺跡	森田村森田月見野	縄文(晩)
2	19015	月見野(1)遺跡	森田村森田月見野	縄文(晩)、平安
3	19018	藤山(1)遺跡	森田村床舞字藤山	縄文(後、晩)
4	19019	藤山(2)遺跡	森田村床舞字藤山	縄文(前～晩)
5	19027	鶴喰(8)遺跡	森田村床舞字鶴喰	縄文(前、晩)
6	19023	鶴喰(4)遺跡	森田村床舞字鶴喰	縄文(前、晩)
7	19004	八重菊(1)遺跡	森田村大船字八重菊	縄文(晩)、平安
8	19009	欠伏長根遺跡	森田村大船字藤山	縄文(前～晩)
9	15027	大倉遺跡	鯉ヶ沢町能石町字大倉	縄文(後、晩)、平安
10	19021	鶴喰(2)遺跡	森田村床舞字鶴喰	縄文(晩)
11	19033	藤山南遺跡	森田村床舞字藤山	縄文(後、晩)
12	02159	野中(1)遺跡	弘前市十腰内字野中	縄文(後、晩)
13	02164	野中(6)遺跡	弘前市十腰内字野中	縄文(後、晩)
14	02165	野中(7)遺跡	弘前市十腰内字野中	縄文(後、晩)
15	02162	野中(4)遺跡	弘前市十腰内字野中	縄文(後、晩)
16	15059	湯舟(7)遺跡	鯉ヶ沢町湯舟町字七尾	縄文(前、後、晩)、平安
17	15062	大平(2)遺跡	鯉ヶ沢町能石町字大平	縄文(後、晩)
18	02132	猿沢(15)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
19	02135	猿沢(18)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(晩)
20	02137	猿沢(20)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
21	02138	猿沢(21)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
22	02139	猿沢(22)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(晩)、平安
23	02156	猿沢(39)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
24	02069	猿千山遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(晩)
25	02010	十腰内(1)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
26	02011	十腰内(2)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
27	02200	髯(11)遺跡	弘前市十面沢字髯	縄文(後、晩)
28	02178	森田(5)遺跡	弘前市十面沢字森田	縄文(晩)
29	02174	浜巻ノ神(2)遺跡	弘前市十面沢字浜巻ノ神	縄文(後、晩)
30	02179	浜巻ノ神(4)遺跡	弘前市十面沢字浜巻ノ神	縄文(後、晩)
31	02182	湯ヶ森(2)遺跡	弘前市十面沢字湯ヶ森	縄文(後、晩)
32	02180	大面遺跡	弘前市十面沢字大面	縄文(晩)
33	02072	常夜森遺跡	弘前市十面沢字大面	縄文(晩)
34	02201	十面沢沢田(2)遺跡	弘前市十面沢字沢田	縄文(晩)
35	02187	髯(1)遺跡	弘前市十面沢字髯	縄文(晩)
36	02189	髯(3)遺跡	弘前市十面沢字髯	縄文(晩)
37	02188	髯(2)遺跡	弘前市十面沢字髯	縄文(晩)
38	02190	髯(4)遺跡	弘前市十面沢字髯	縄文(中、後、晩)、平安
39	02147	猿沢(30)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
40	02148	猿沢(31)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(晩)、平安
41	15028	大平野遺跡	鯉ヶ沢町能石町字大平	縄文(後、晩)
42	15063	大平(3)遺跡	鯉ヶ沢町能石町字大平	縄文(前、後、晩)、平安
43	02127	猿沢(10)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
44	02126	猿沢(9)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
45	02124	猿沢(7)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
46	02118	猿沢(1)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(前、後、晩)
47	02119	猿沢(2)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)、平安
48	02130	猿沢(14)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(晩)
49	02150	猿沢(33)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
50	02151	猿沢(34)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
51	02152	猿沢(35)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
52	02153	猿沢(36)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後、晩)
53	02202	猿沢(42)遺跡	弘前市十面沢字猿沢	縄文(後、晩)
54	02192	髯(6)遺跡	弘前市十面沢字髯	縄文(晩)
55	02191	髯(5)遺跡	弘前市十面沢字髯	縄文(後、晩)
56	02185	湯ヶ森(5)遺跡	弘前市十面沢字湯ヶ森	縄文(後、晩)
57	02007	大森山遺跡	弘前市大森字藤山	縄文(前、後、晩)
58	02199	赤取遺跡	弘前市十面沢字赤取	縄文(前)
59	02012	巖鬼山神社元宮遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(中、後)、平安
60	02158	猿沢(41)遺跡	弘前市十腰内字猿沢	縄文(後)

第3節 調査経過

(1) これまでの調査

岩木山麓にある多数の遺跡のなかで、十腰内(1)遺跡(旧カメコ山)は、明治20年代から発掘が行われ、多数の縄文時代晩期の土器・土偶などが発見されている。出土品の一部は、現在東北大学や東京国立博物館などに所蔵されている。しかし、最近までこの遺跡の学術的調査はほとんど行われず、遺跡の内容も不明であった。昭和35年に岩木山麓埋蔵文化財緊急調査特別委員会によって調査された「十腰内遺跡」は、付近にある別の遺跡(新カメコ山)で、現在の遺跡名では十腰内(2)遺跡である。

平成7年になって、十腰内(1)遺跡地区が県農林部による津軽中部広域農道建設事業区域にかかることが判明し、県教育委員会文化課からの要請をうけて、当センターによって平成8年5月7日から6月6日まで試掘調査が行われ、翌平成9年7月1日から9月19日までは、遺跡の西側地区が発掘調査された。この成果は、「十腰内(1)遺跡」(青森県埋蔵文化財調査報告書第261集)として刊行された。その後、農道延長部分の東側地区の発掘調査が、当センターによって平成11年4月20日から6月30日まで行われることとなった。(福田 友之)

(2) 平成11年度発掘調査の経過

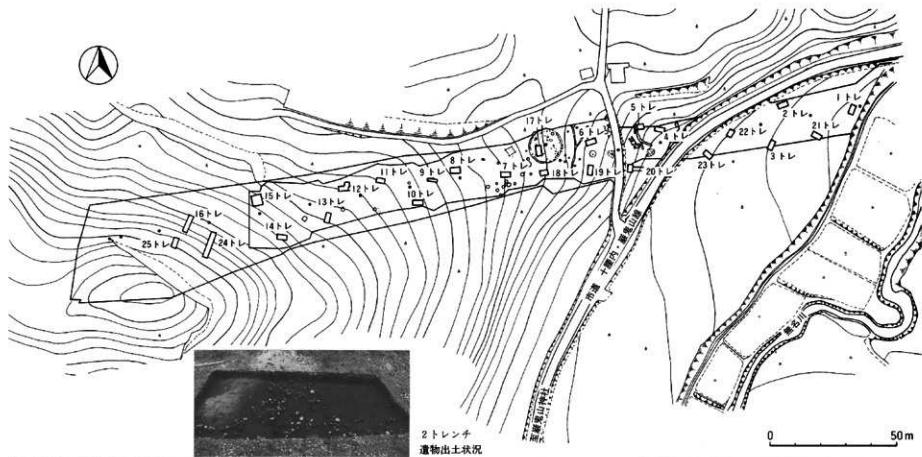
平成8年度に試掘調査を実施し、平成9年度に丘陵地部分6,400㎡、平成11年度には9年度調査区の東側及び東南側をあわせて2,700㎡の発掘調査を実施した。

平成9年度の調査において、縄文時代前期から平安時代にかけての遺構・遺物を包含する遺跡であることが判明した。調査成果の特筆すべき点として、遺構では、県内4例目の縄文時代晩期的大型住居跡(直径13m)の発見があげられる。また、遺物では、大型住居跡内出土の赤色顔料が付着した玉髓製石鏃、容器状物質があげられる。

平成11年度の調査経過はつぎの通りである。4月20日(火)、調査器材を搬入して、環境整備を行う。農道予定部分を「北区」、農道建設に伴う市道十腰内・蔵鬼山線の付け替え部分を「南区」と呼称することとした。開始当初、遺構・遺物の状況を確認するために、トレンチを設定し、粗掘りを行った。この結果、「北区」の東側部分にリング圍造成土とそれ以前の水田造成土が厚く堆積していることがわかったため、表土を重機を使用して撤去することにした。

5月上旬から、「南区」の粗掘りを開始した。中旬には「南区」の粗掘りをほぼ終了したが、「北区」はリング圍を造成した際に盛った土と水田耕作土が厚いことから粗掘りが難航した。この頃から、63グリッドライン以東で土坑が検出され始め、精査を行った。下旬から、第4号竪穴住居跡の精査を開始した。6月上旬に、第5・6号竪穴住居跡、土坑・集石遺構の精査を進めた。6月4日(金)に弘前市立修善小学校6年生が来訪し、遺跡・遺物見学を行った。6月中旬に、第7～9号竪穴住居跡の精査を開始したが、天候不順により調査は困難をきわめた。6月下旬に、調査区東側の第6～9号竪穴住居跡、土坑の精査に力を注いだ。

6月30日(水)は雨のなか、第6～9号竪穴住居跡の精査を行い、すべての遺構精査を終了した。精査終了後に調査器材を整理・洗浄し、搬出した。(齋藤 正)



2トレンチ
遺物出土状況



23トレンチ
完形状況



3トレンチ
遺物出土状況



1トレンチ
遺物出土状況

図3 試掘調査トレンチ配置図

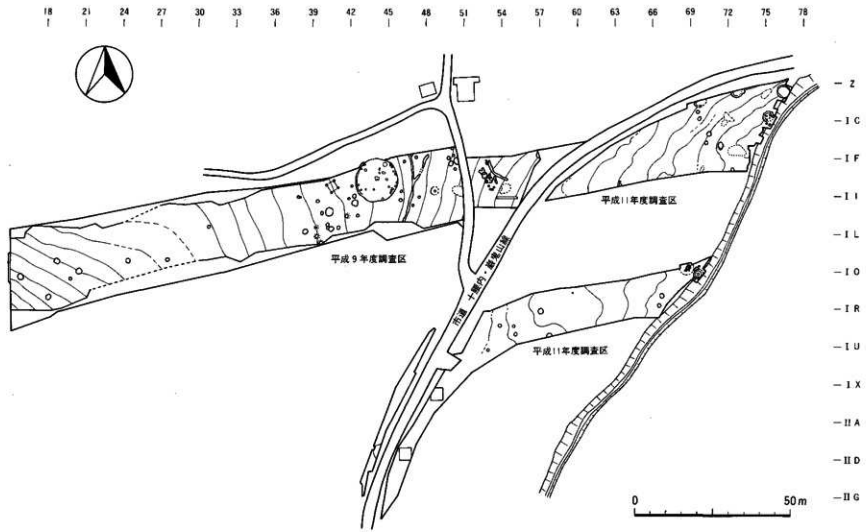


図4 遺構配置図(平成9・11年度)

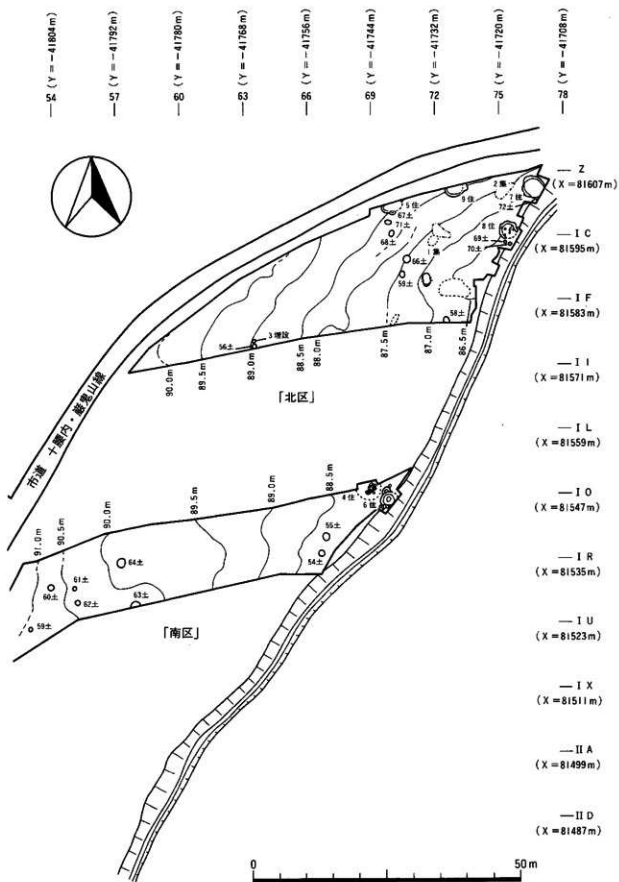


図5 遺構配置図(平成11年度調査区)

第4節 調査区内の基本層序

十腰内(1)遺跡は、平成9年度の報告書に述べたように、岩木山の北東にのびる山麓末端付近に位置し、長前川に注ぐ無名川の北側丘陵地と沖積地に立地している。標高は90～120mである。

今回の調査区内の基本層序は平成9年度とほぼ同様で大きく変化する箇所はない。

平成11年度の発掘調査では「北区」東側部分のIH-74グリッドで基本層序を記録した。色調及び諸特徴は以下のとおりである。なお、第Ic層、第Id層は調査区内の一部の範囲内に堆積していたために基本層序図には記載できなかった。

第Ia層 黒褐色土	10YR3/1	厚さ35cm～45cm。耕作土である。粘性・湿性がやや有る。空隙少々と木根があり、硬くもろい、乾くと格子目状のひび割れが目立つ。耕作による攪乱層で、ローム粒が少量混入している。
第Ib層 黒褐色土	10YR2/2	厚さ25cm～30cm。粘性・湿性がやや有り、硬くもろい。ローム粒・焼土粒が少量混入している。
第Ic層 黒褐色土	10YR2/1	粘性・湿性がやや有り、ローム粒・炭化物粒が少量混入している。
第Id層 黒褐色土	10YR2/1	粘性・湿性がやや有り、ローム粒・炭化物粒が少量混入している。
第II層 黒褐色土	10YR2/2	厚さ10cm～20cm。粘性・湿性があり、全体的にソフトな感じである。焼土粒・炭化物粒が微量混入している。
第III層 黒褐色土	10YR2/3	厚さ5cm～15cm。粘性・湿性があり、全体的にソフトな感じである。炭化物粒(大きいもので7～8mm)が少量混入し、白頭山一苫小牧火山灰(B-Tm)が全体的に混入しているが、ところによりまとまった堆積をしている。平安時代の生活面と考えられる。
第IVa層 黒褐色土	10YR2/3	厚さ20cm～45cm。粘性・湿性があり、全体的にソフトな感じである。下位になるほど暗い色調となる。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。縄文土器の包含層である。
第IVb層 黒色土	10YR2/1	厚さ10cm～25cm。粘性・湿性があり、木炭粒が少量混入する。

- 第V層 漸移層 厚さ10cm～20cm。粘性・湿性があり、比較的軟らかい。
- 第VI層 暗褐色土 10YR3/3 厚さ10cm～20cm。均質で比較的軟らかい。粘土質ローム。
- 第VII層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 厚さ10cm～25cm。粘性・湿性があり、比較的軟らかいローム。
 亜角礫～亜円礫(暗紫灰色安山岩)が、大きいもので60cm、小さいもので10cm大のものが含まれる。これら亜角礫～亜円礫は均等な分布をなさず、密集部とそうでない部分がある。岩屑雪崩堆積物層に相当する層である。

(齋藤 正)

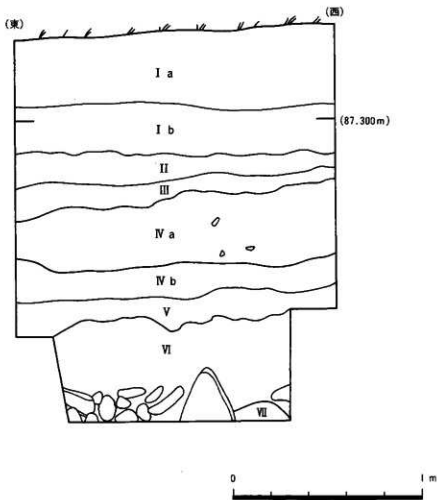


図6 基本層序

第II章 検出遺構と遺物

竪穴住居跡、土坑、土器埋設遺構、集石遺構が検出されたが、集石遺構を除いた遺構の番号は前回の報告書（青森県教育委員会 1999）から継続するものであり、竪穴住居跡は第1～3号竪穴住居跡、土坑は第1～53号土坑、土器埋設遺構は第2号土器埋設遺構まではすでに報告済である。

第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡が6軒検出された。縄文時代後期のものが2軒、縄文時代晩期のものが4軒である。北区に4軒、南区に2軒の分布であった。

第4号竪穴住居跡（図7・8、写真3～6・52）

〔位置と確認〕南区東端のIN-I O-69～70グリッドに位置する。表土除去作業後、第IV層の精査中に、広範囲に広がる黒色土もしくは黒褐色土の部分と大量の遺物が確認されたため、大型の土坑等が重複していると考えられ、土層観察用のベルトを設定して、掘り下げ確認した。

〔平面形・規模〕径約3mの円形を呈する。

〔壁・床面〕北東壁・南西壁は緩やかに立ち上がるが、西北壁はやや急に立ち上がったあと途中から、緩やかな傾斜になる。東南壁は耕作のため明確ではないが緩やかに立ち上がるものと思われる。床面は確認面からの深さは10～35cmで、やや凹凸がある。

〔柱穴・ピット〕竪穴住居跡内から検出されたピットは10基、竪穴住居跡外からは4基である。深さは、竪穴住居跡内のピット4・6がそれぞれ31cm、36cmと深いのに対して、他のピットは11～20cmと比較的浅い。竪穴住居跡外のピット1・3は30cm・40cmであるのに対して、ピット2・13は19cm、22cmである。

〔その他の施設〕住居跡の北西側に長軸1.4m・短軸50cmの半円状の張り出し部が検出された。断面形からは緩やかに階段状に立ち上がっているのが確認される。周辺にはピット13を検出したが、張り出し部に伴うものかどうかは不明である。

〔堆積土〕黒色土、黒褐色土を主体としており、12層に分層される。

〔炉〕中央に地床炉が1基検出されており、規模は径約65cmの円形を呈する。炉面下3～6cmまで焼土化していた。

〔出土遺物〕縄文時代晩期の土器が確認面及び堆積土中から検出されている。1・4は壺形土器の胴部破片で同一個体である。全面に単節LR縄文が施され、内面にはナデ調整が施されている。2は粗製の小型壺形土器の胴部破片である。胴部上半で緩やかに屈曲し、そのまま口縁部に至ると考えられる。3は無文の深鉢形土器である。底部から外反しながら立ち上がり、胴部中程で屈曲し、頸部に向けて内湾している。いずれも縄文時代晩期のものと考えられる。

粘土塊が住居跡堆積土とピット3の堆積土から出土している。重量は住居跡内堆積土から出土したものが414.3g、ピット3の堆積土から出土したものが109.9gである。

〔年代〕出土した土器の型式によって、縄文時代晩期の住居跡と考えられる。

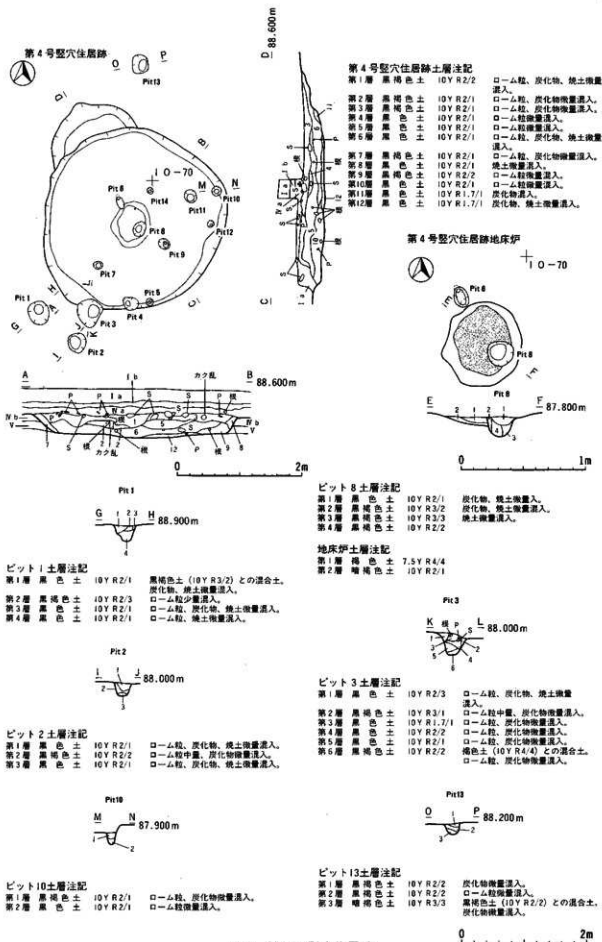


図7 第4号壑穴住居跡

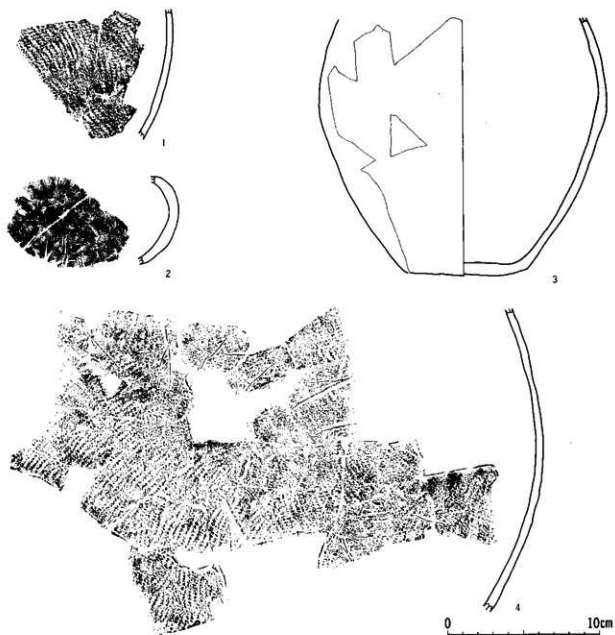


图8 第4号竖穴住居跡出土遺物

第5号竪穴住居跡 (図9、写真6・52)

【位置と確認】 北区の中央部北、標高約88.5mのIA-69〜70グリッドに位置する。第IV層の精査中に地床炉が検出され、さらに調査区域外の土層露出面に断面が現れていたことにより確認された。

【平面形・規模】 調査区域内の南側部分のみが調査された。そのため、全体の平面形は不明である。確認部分での規模は、断面形から判断して、径3.1mの円形を呈するものと思われる。

【壁・床面】 東壁の立ち上がりは不明であるが西壁は緩やかに立ち上がっている。床面はほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】 ピットが5基検出されている。深さは、ピット1は23.7cm、ピット2は39.4cm、ピット3は37.9cm、ピット4は18.5cm、ピット5は17.1cmである。

【その他の施設】 確認されなかった。

【堆積土】 黒色土、黒褐色土を主体としており、7層に分層される。5〜7層は掘り方である。

【炉】 地床炉が1基検出されている。規模は径約30cmの円形を呈する。炉面下5〜15cmまで焼土化していた。

【出土遺物】 堆積土中から少量の土器片が出土している。1は深鉢形土器の底部破片と考えられるが、底面に網代痕・木葉痕などは観察されなかった。縄文時代後〜晩期のものと考えられる。

【年代】 出土した土器および他の遺構との関係から、縄文時代後〜晩期の住居跡と考えられる。

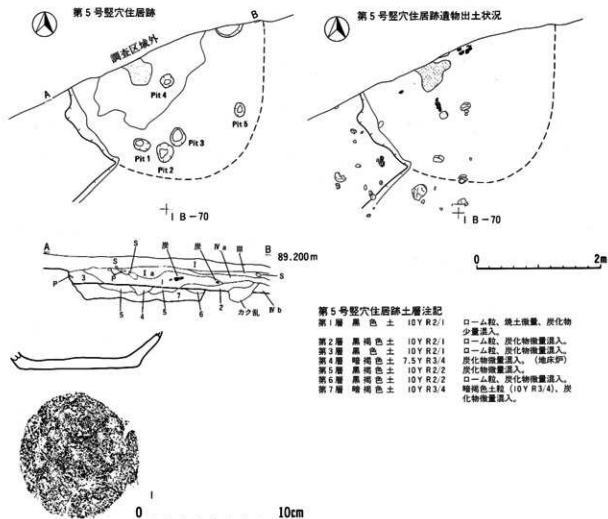


図9 第5号竪穴住居跡・出土遺物

第6号竪穴住居跡（図10・11、写真6～10・52）

〔位置と確認〕南区東側、I N-68～69グリッドに位置し、第4号竪穴住居跡の北西部に隣接している。第IV層の精査中に、焼土と土器埋設炉を伴う二重の石囲炉の土器を検出したことで確認した。

〔平面形・規模〕水田耕作により破壊をされているため、詳細は不明である。

〔壁・床面〕壁は耕作、風倒木により破壊されていたため、確認できなかった。床面にはやや凹凸が見られる。

〔柱穴・ビット〕ビット5基が検出されている。深さは、ビット1は16cm、ビット2は41cm、ビット3は36cm、ビット4は23cmを計るが、ビット5は不明である。

〔その他の施設〕確認できなかった。

〔堆積土〕黒色土、黒褐色土を主体としている。3層に分層された。

〔炉〕石囲炉と土器埋設石囲炉の2基の炉が検出された。石囲炉には隣接して炭化物や焼土粒が混じった黒褐色土の円形プランが確認された。土層断面でみると、黒褐色土の掘り込みの深さは5cmであり、石囲炉の焼土化した部分の掘り込みの深さは6cmである。一方、黒褐色土の混入物に炭化物や焼土粒があることから考えて円形プランの落ち込みは地床炉であった可能性がある。このような観察によって、地床炉を使用しなくなった後、石囲炉が作られていることが推定できる。石囲炉の規模は長軸63cm×短軸56cmで、炉内は焼土化しており、炉の石も被熱により赤変している。

土器埋設石囲炉は南東側に石が見られないことから正確な形状は不明である。しかし、炉体土器を囲む内側の炉石に続くように黒色土が巡っていることから、黒色土は何かの原因により石が抜き取られた際に生じた痕跡と思われる、本来は石が土器を囲む形状を呈していたと考えられる。確認できる内側の石囲部分では長さが約76cm、外側の石囲部分では約125cmを測る。炉内は7層に分層される。第1～3層が炉石の掘り方で4層が土器の掘り込みである。掘り方の深さは27cmである。土器内は3層に分層され、深さは土器の底部まで20cmである。炉内は焼土化しており、炉の石も強い被熱により、赤変している。

〔出土遺物〕堆積土中から縄文時代晩期の土器が出土した。1は磨消縄文が旋されている鉢形土器の胴部破片である。2は壺形土器の口縁部破片である。3は土器埋設炉として使用されていたものである。口縁部および底面は欠損している。胴部全面には単筋LR縄文が施されている。

石囲炉の北西側の床面直上および床面から炭化材が出土した。このうち1点の炭化材について放射性炭素年代測定（AMS法）を行ったところ、1950年より3040±40年前という結果が得られた（第IV章参照）。

〔年代〕出土した土器の型式、炭化材の放射性炭素年代測定値によって、縄文時代晩期の住居跡と考えられる。

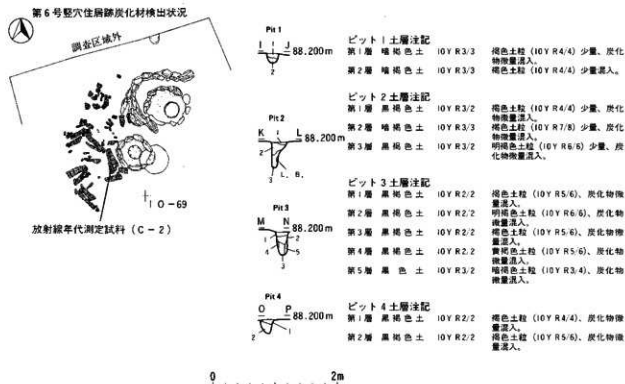
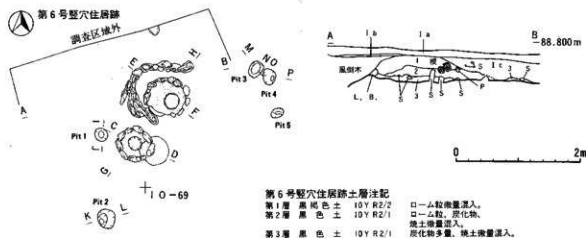


図10 第6号竪穴住居跡(1)

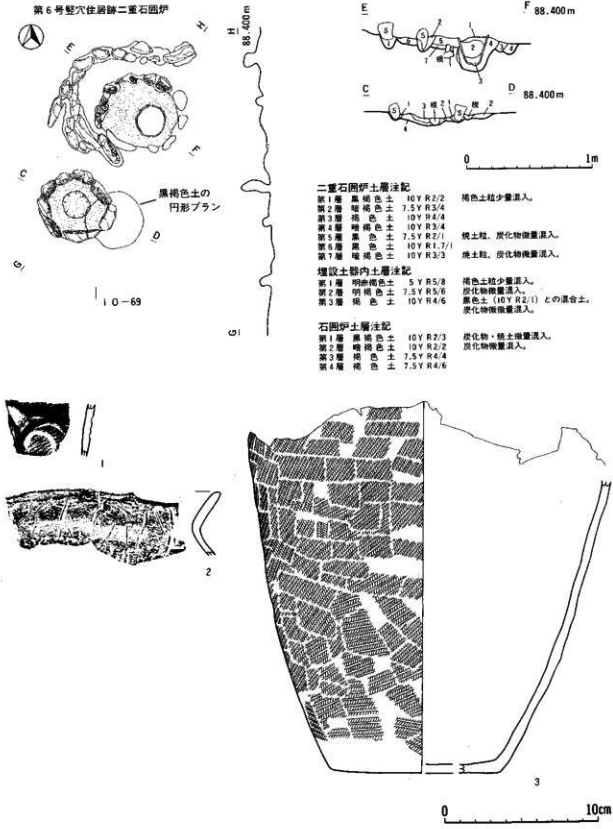


図11 第6号竪穴住居跡(2)・出土遺物

第7号竪穴住居跡(図12~16、写真11~14・52・53)

〔位置と確認〕北区北東端、標高87~87.5m前後のZ-76~77グリッドに位置する。第IV層の精査中に多量の遺物及び黒色土、黒褐色土の半円形プランが確認されたため、調査区ぎわまで掘り・精査を行い、拡張して円形のプランを確認した。

〔平面形・規模〕炉を中心にして、南東側が風倒木の影響を受けているため正確な規模は不明であるが、北西側と同様の壁があったと仮定すれば直径は約4.5mの円形を呈すものと思われる。

〔壁・床面〕壁はやや開き気味に立ち上がる。確認面からの深さは18~50cmである。また、床面は南東側を除いてしっかりしている。

〔柱穴・ビット〕住居跡内から8基検出されている。深さはビット1は19.3cm・ビット2は13.2cm・ビット3は26cm・ビット4は6.4cm・ビット5は3.8cm・ビット6は17.9cmである。7・8は不明である。

〔その他の施設〕住居跡の南西側にビットが2個平行して並んでいるのが確認された。出入口の可能性があり、2個のビットの間隔は約20cmである。また、ビット2とビット3の間を通る、長さおよそ170cm、深さ6~10cmの浅い溝状の掘り込みも確認されている。東側にも長さおよそ35cm、深さ3cmの浅い溝状の掘り込みが確認されたが、両者とも性格は不明である。

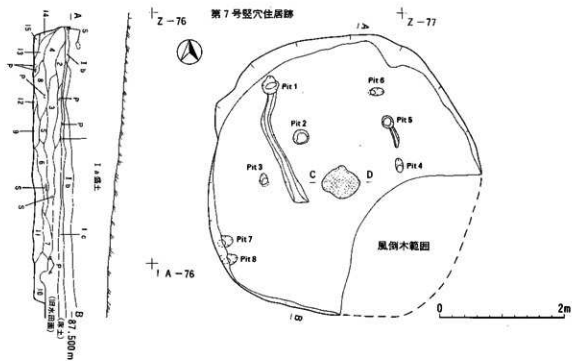
〔堆積土〕黒色土、黒褐色土を主体としており、15層に分層される。

〔炉〕中央部から粗製の深鉢形土器の破片で覆われた地床炉が1基検出された。規模は径約63cmで不整形円形を呈し、炉面下3~6cmが焼土化していた。

〔出土遺物〕土器は、床面から出土した縄文時代後期後葉の十腰内IV式土器を中心に、後期前葉の十腰内I式から晩期後葉の大洞A式土器と考えられるものまでが堆積土中から出土している。1~4・14は縄文時代後期に属する一群である。1は深鉢形土器の胴部破片である。2・3および14は沈線文で区画された文様帯内に、撚りの異なる原体を用いて羽状縄文が施されている。4は完形の鉢形土器である。3・4は同一地点の床面から出土している。5~13・15~18は縄文時代晩期に属するものである。5~10は鉢形土器の口縁部破片であり、5には三叉文が施されている。8は口唇部にB突起が施され、口縁部には羊歯状文が施されている。11・12は大洞C₁式土器と考えられる。鉢形および浅鉢形土器の胴部破片であり、雲形文が施される。13は鉢形土器の胴部破片であり、工字文が施される。19~36は粗製土器の一群であり、19~26・34・35は縄文施文、28~33・36は無文のものである。26は深鉢形土器で底部付近は欠損している。地床炉直上からほぼ一個体分までまとめて検出された。胴部下半に補修孔が施される。27には糸痕文が施されている。礫石器は磨石1点、敲石1点が出土している。剥片石器は、先端が折損した石鎌と菱形状で基部に黒色物質が付着した石鎌各1点、石錐1点、製作途中と思われる石匙1点が出土している。

炉を中心とした北西側の床面直上及び床面から炭化材がやや広い範囲にわたって検出された。このうち2点の炭化材について放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、1950年から3,260±40年前という結果が得られた(第IV章参照)。

〔年代〕出土した土器の型式、炭化材の放射性炭素年代測定値によって、縄文時代後期後葉(十腰内IV式期)の竪穴住居跡と考えられる。



第7号竪穴住居跡土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R1.7/1 にごい黄褐色土粒 (10Y R4/3)、炭化物微量混入。
- 第2層 黒色土 10Y R2/1 明黄褐色土粒 (10Y R6/6)、炭化物微量混入。
- 第3層 黒色土 10Y R2/1 にごい黄褐色土粒 (10Y R4/3)、にごい赤褐色土粒 (5Y R4/4) 微量混入。
- 第4層 黒色土 7.5Y R1.7/1 黄褐色土粒 (10Y R2/2)、褐色土粒 (7.5Y R4/4)、炭化物微量混入。
- 第5層 黒色土 10Y R2/1 にごい黄褐色土粒 (5Y R3/3) 多量混入、黒色土 (10Y R1.7/1)、炭化物微量混入。
- 第6層 黒色土 10Y R2/1 褐色土 (10Y R4/4)、炭化物微量混入。
- 第7層 黒褐色土 7.5Y R1.7/1 暗褐色土粒 (10Y R3/4) 少量、炭化物微量混入。
- 第8層 黒色土 10Y R2/1 褐色土粒 (10Y R4/4)、炭化物微量混入。

- 第9層 黒色土 10Y R2/1 暗褐色土粒 (10Y R3/4)、炭化物微量混入。
- 第10層 黄褐色土 10Y R2/2 暗褐色土粒 (10Y R3/4) 少量、炭化物微量混入。
- 第11層 黒色土 10Y R2/2 暗褐色土粒 (10Y R3/3) 多量、炭化物微量混入。
- 第12層 黒色土 10Y R2/1 暗褐色土粒 (10Y R3/4)、炭化物微量混入。
- 第13層 黄褐色土 10Y R2/1 暗褐色土粒 (10Y R4/4)、炭化物微量混入。
- 第14層 暗褐色土 10Y R3/3 黒色土粒 (10Y R2/2)、炭化物微量混入。
- 第15層 黒色土 10Y R2/1 暗褐色土粒 (10Y R3/3)、炭化物微量混入。

第7号竪穴住居跡地床炉遺物出土状況



- 地床炉土層注記
- 第1層 明褐色土 7.5Y R5/6
 - 第2層 明赤褐色土 2.5Y R5/6



第7号竪穴住居跡炭化材・遺物出土状況

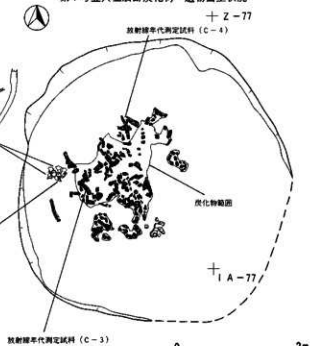


図12 第7号竪穴住居跡

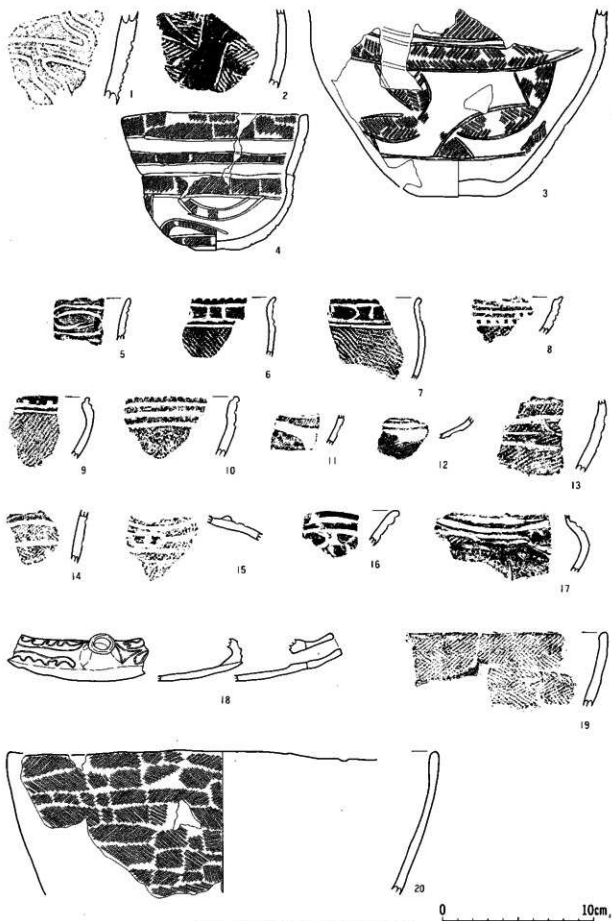


图13 第7号竖穴住居跡出土遺物(1)

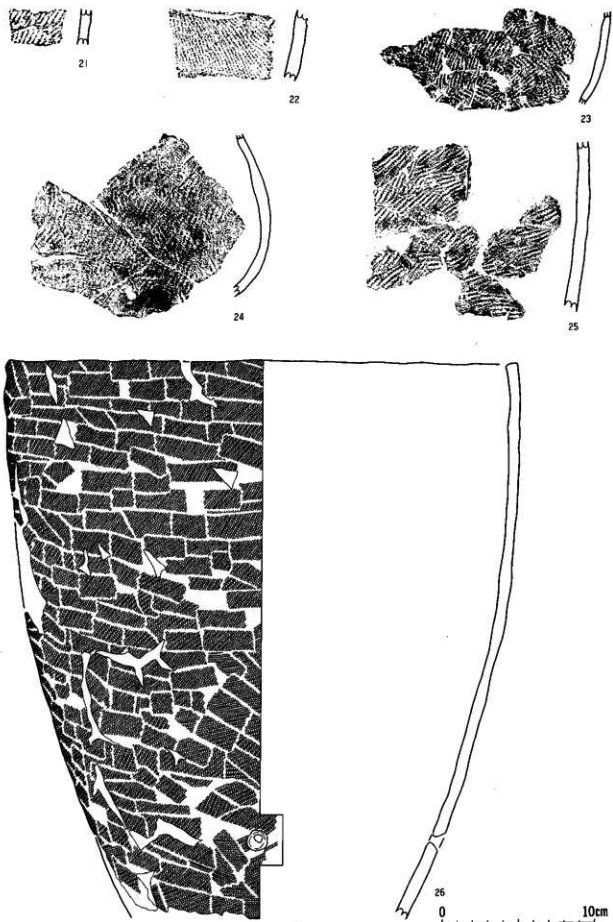


图14 第7号整穴住居跡出土遺物(2)

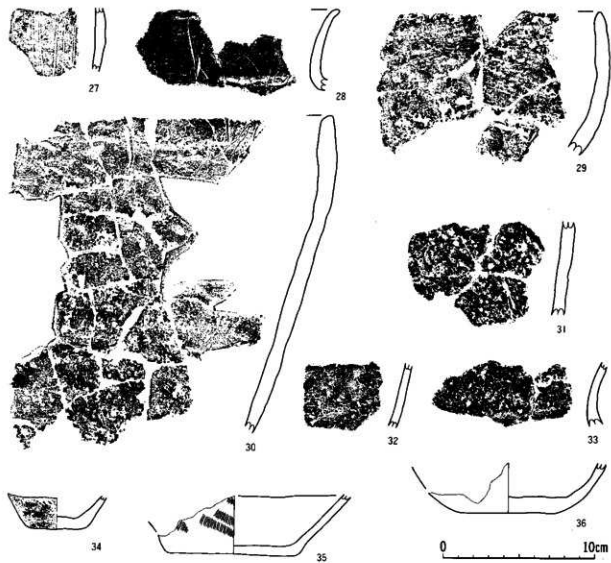


图15 第7号竖穴住居跡出土遺物(3)

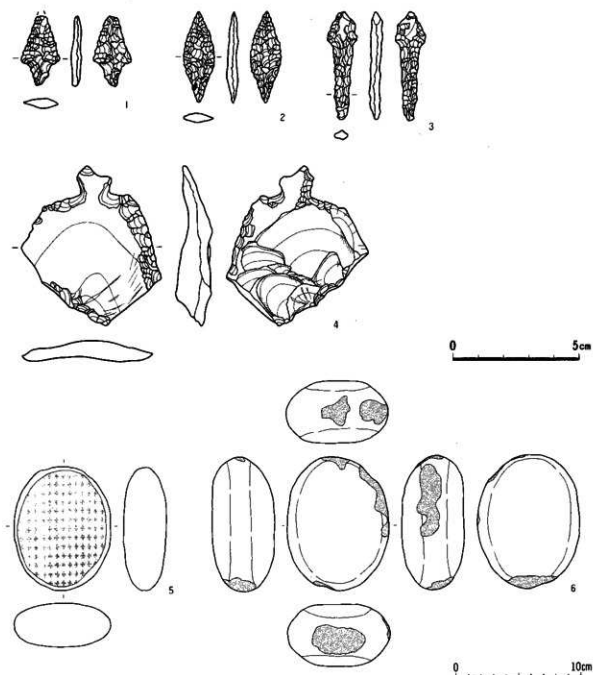


图16 第7号竖穴住居跡出土遺物(4)

第8号竪穴住居跡 (図17~20、写真15~18・54・55)

〔位置と確認〕 北区の東端、標高86.5m前後のI B-75グリッドに位置する。第IV層の精査中に遺物及び黒色土、黒褐色土による半円形プランが確認されたことにより、調査区ごままで粗掘り・精査を行い円形のプランを確認した。

〔平面形・規模〕 3.4×3.65mの円形を呈する。

〔壁・床面〕 北壁・南壁とも、床面から立ち上がり内側にくびれたあと、外側に開く形状をしている。西壁も床面からはほぼ垂直に立ち上がり、外側に開く形状を呈している。東壁は確認できなかった。

〔柱穴・ピット〕 住居跡内から9基検出されている。住居跡隅にあるピット1、ピット2、ピット3、ピット9が主柱穴と思われ、中央部の炉を中心にして、西側が広がる台形状に配置されている。ピット1とピット2の間は1.77m、ピット2とピット9の間は2.7m、ピット9とピット3の間は2.1m、ピット1・ピット3の間は2.3mを計る。ピット1は長さ28cm・深さ13.5cm、ピット2は長さ38cm・深さ88.2cm、ピット3は長さ30cm・深さ6.7cm、ピット9は長さ45cm・深さ36cmであり、いずれも平面形は隅丸方形である。他のピットの深さはピット4は14cm、ピット5は10.5cm、ピット6は2.8cm、ピット7は10.5cm、ピット8は14cmである。

〔その他の施設〕 確認されなかった。

〔堆積土〕 黒色土、黒褐色土、暗褐色土を主体にしており、19層に分層される。

〔炉〕 住居跡のほぼ中央部から粗製の深鉢形土器の破片で覆われた地床炉が1基検出されている。規模は径約63cmのほぼ円形を呈し、炉面下3~6cmが焼土化していた。

〔出土遺物〕 遺物は堆積土中および床面から出土している。土器は縄文時代後期後葉~晩期の土器が出土している。1~8は、縄文時代後期後葉に属すると考えられる一群である。1~5は鉢形土器の口縁部および胴部破片であり、6は口縁部を欠損する鉢形土器である。7は壺形土器の頸部破片である。床面に正立した状態で出土している。8は台付き鉢形土器である。完形で、住居跡ほぼ中央の床面から出土している。10は壺形土器である。胴部全面にLR縄文が施されている。頸部は無文で、口縁部には1単位のB突起が施される。11~26は粗製土器の一群である。26は完形の注口土器で、住居跡北東端の床面直上から出土している。石器は堆積土から両側縁に調整がなされた縦型石匙が1点、底面から削器が1点出土した。

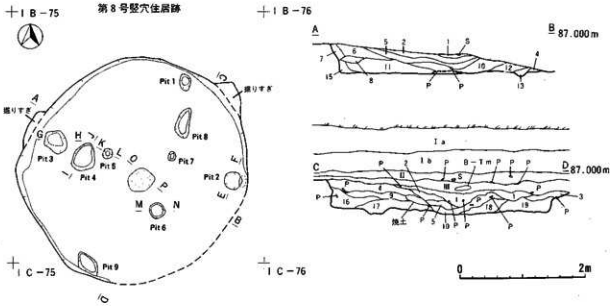
〔年代〕 出土した土器の型式によって、縄文時代後期後葉(十腰内IV式期)の住居跡と考えられる。

第9号竪穴住居跡 (図21・22、写真19・20・55)

〔位置と確認〕 北区の北端、標高88m前後のZ-72~73グリッドに位置する。第IV層の精査中に焼土の不整形な広がりが見られたため、土層観察用のベルトを設定して、掘り下げ確認した。

〔平面形・規模〕 風倒木痕によって東側と南側が壊されており、さらに、調査区域内の南側部分しか調査されていないため、全体の平面形は不明である。確認部分での規模は、南北3.15m・東西2.8mを計る。

〔壁・床面〕 東西南北の四壁のうち、北壁は調査区外に延び、東・南壁が風倒木によって壊されているため不明である。西壁は、床面からはほぼ垂直に立ち上がり、外に向かって広がる形状を呈している。床面は、ほぼ平坦である。



第8号竪穴住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色土 10Y R1.7/1 黄褐色土粒 (10Y R4/6) 微量混入。
- 第2層 黒色土 10Y R2/1 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 微量混入。C.ふい黄褐色土粒 (10Y R4/3) 微量混入。
- 第3層 黒色土 10Y R2/1 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 微量混入。
- 第4層 黒色土 2.5Y R2/1 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 微量混入。
- 第5層 黒色土 10Y R1.7/1 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 微量、炭化物、焼土微量混入。
- 第6層 黒色土 10Y R2/2 黄褐色土粒 (10Y R4/4)、炭化物微量混入。
- 第7層 褐色土 10Y R4/4 黄褐色土粒 (10Y R4/6)、炭化物微量混入。
- 第8層 黒褐色土 10Y R2/2 黄褐色土粒 (10Y R5/6)、炭化物微量混入。
- 第9層 黒褐色土 10Y R2/2 褐色土粒 (10Y R4/4) 微量、炭化物少量混入、焼土微量混入。

- 第10層 黒褐色土 10Y R2/2 明黄褐色土粒 (7.5Y R5/8) 少量、炭化物、焼土微量混入。
- 第11層 褐色土 10Y R3/3 褐色土粒 (10Y R4/4) 中量、炭化物、焼土微量混入。
- 第12層 暗褐色土 10Y R3/3 褐色土粒 (10Y R4/4) 中量、炭化物、焼土微量混入。
- 第13層 暗褐色土 10Y R3/3 褐色土粒 (10Y R4/4)、炭化物、焼土微量混入。
- 第14層 褐色土 10Y R4/6 炭化物、焼土微量混入。
- 第15層 暗褐色土 10Y R3/3 黒色土 (10Y R2/2) との混合土、炭化物微量混入。
- 第16層 黒色土 10Y R2/1 明褐色土粒 (7.5Y R5/8) 微量混入。
- 第17層 暗褐色土 10Y R3/3 明褐色土粒 (7.5Y R5/8) 中量混入。
- 第18層 黒褐色土 10Y R2/2 明褐色土粒 (7.5Y R5/8) 中量混入。
- 第19層 黒褐色土 10Y R2/2 明褐色土粒 (7.5Y R5/8) 微量混入。

第8号竪穴住居跡地床炉遺物出土状況

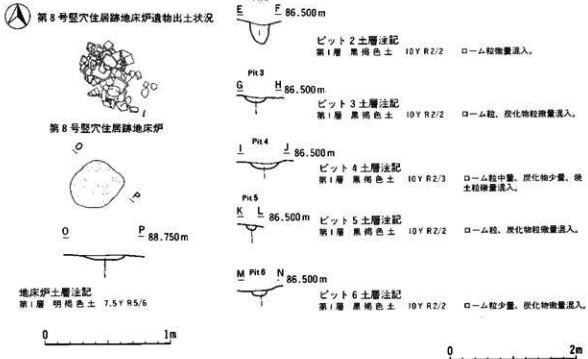


図17 第8号竪穴住居跡(1)

第8号竖穴住居跡出土遺物狀況

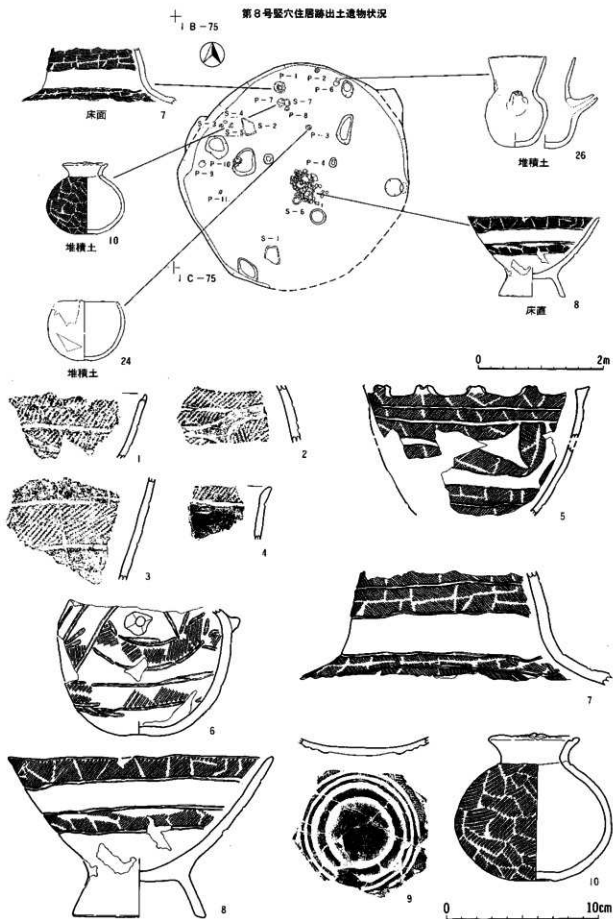


图18 第8号竖穴住居跡遺物出土狀況·第8号竖穴住居跡出土遺物(1)

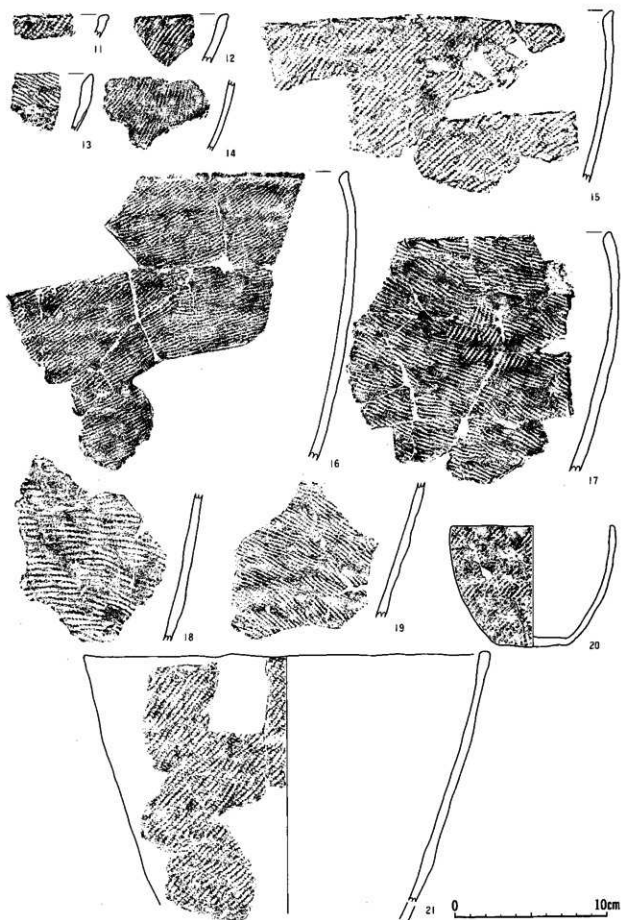


图19 第8号竖穴住居跡出土遺物(2)

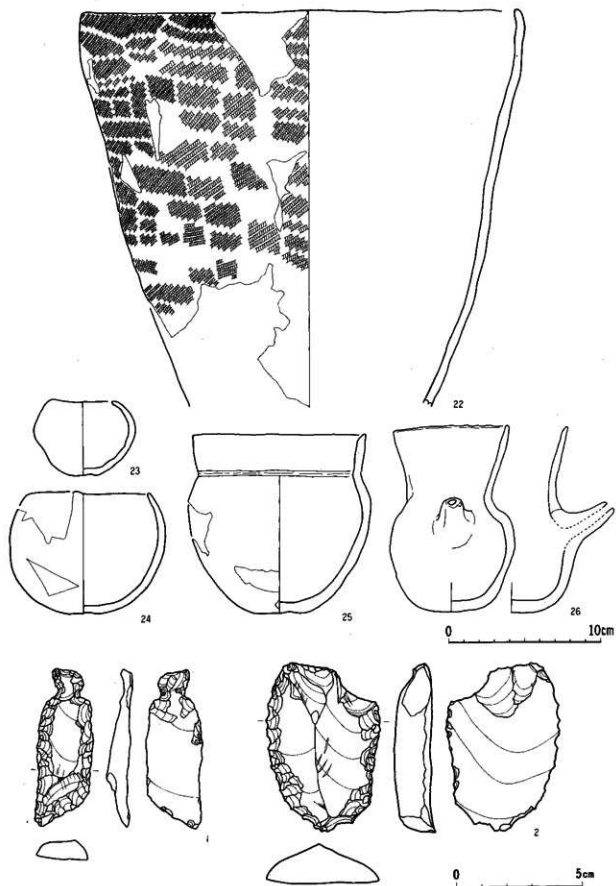


圖20 第8号堅穴住居跡出土遺物(3)

[柱穴・ピット] 住居跡内にピットが2基検出された。

[その他の施設] 確認されなかった。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体としており、19層に分層された。

[炉] 中央部に地床炉が1基検出されている。規模は長さ77cm・幅50cmのほぼ楕円形を呈する。

[出土遺物] 堆積土とピットから縄文時代晩期の土器が出土した。1は浅鉢の口縁部破片である。口縁にはB突起が付き、その下には雲形文が施されている。4は壺形土器の頸部破片である。5～10は粗製土器の一群である。5～8は同一個体でピットから出土している。いずれも全面に単節L R縄文が施されている。9は深鉢形土器の胴部破片で、条痕文が施されている。

[年代] 出土した土器の型式によって、縄文時代晩期の住居跡と考えられる。

[小結]

今回検出された住居跡はすべて、調査区の東側に立地しており、68グリッドライン以西には見られない状況である。住居跡の時期は縄文時代後期のものが2軒（第7・8号竪穴住居跡）、縄文時代晩期のものが4軒（第4・5・6・9号竪穴住居跡）であった。それぞれの時期の住居跡についてまとめておくことにする。

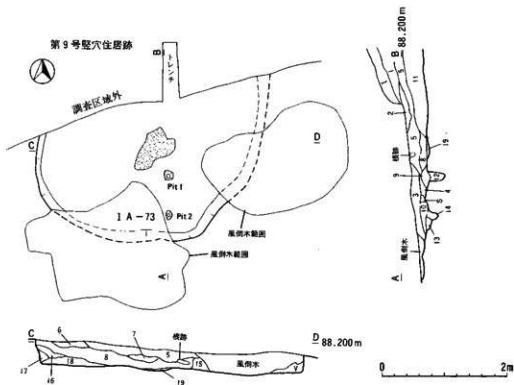
縄文時代後期の第7・8号竪穴住居跡については、ともに後期後葉の十腰内Ⅳ式の土器が出土しており、標高87～86.5mの等高線上に位置し、住居構築時に緩やかな緩斜面を選択し、隣接して構築されたと考えられることから、2軒の住居跡が同時に存在していたと捉えることが可能であろう。

炉の形態は2軒ともに地床炉であり、地床炉をほぼ完形の粗製深鉢形土器の破片で覆うことは興味深いことである。類例を求めると岩手県一戸町笹の木遺跡（縄文時代後期中葉～後葉）のS I 02住居跡に見られ、一団体の土器を壊した破片で地床炉が覆われている。報告書では廃棄の際に被せられたものと推察されている。これらは竪穴住居跡を廃絶した際の炉に対する、当時の人間の意識的行為・心性を示唆しているものと考えられる。

青森県を含めた北東北3県の縄文時代後期の住居跡には、出入り口施設があるものがある。出入り口施設とされるものには、①対になるピット・柱穴が構築されるもの。②短い溝状のピットが2条平行しているもの。③短い溝状のピットが「H」字形に構築されるもの。④短い溝状のピットが「コ」の字形に構築されるものなどがある。本遺跡の住居跡には、出入り口施設とされるこれらのものは明確には確認できないが、第7号竪穴住居跡の南西側に見られる対になるピットが出入り口施設である可能性もある。主柱穴と壁柱穴の関係から観察すると、主柱穴が明確に見えるのは第8号竪穴住居跡だけである。壁柱穴はどの住居跡にも見られない。

本遺跡の縄文時代晩期の住居跡の炉の形態については地床炉・石囲炉・土器埋設炉とバリエーションに富んでいる。特に第6号竪穴住居跡は地床炉を構築し、一定の期間使用した後に、石囲炉を構築し、使用していることが推定できる。しかし、土器埋設炉と石囲炉の新旧関係および同時存在については不明である。

(齋藤 正)



第9号竪穴住居跡土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1
- 第2層 黒色土 10Y R2/1
- 第3層 黒褐色土 7.5Y R2/1
- 第4層 黒色土 7.5Y R2/1
- 第5層 黒色土 10Y R1.7/1
- 第6層 黒褐色土 10Y R2/1
- 第7層 黒褐色土 10Y R2/2
- 第8層 黒色土 7.5Y R1.7/1
- 第9層 黒色土 10Y R2/2
- 第10層 黒褐色土 10Y R2/2

- 褐色土粒 (10Y R5/6) 微量混入。
- 黄色土粒 (7.5Y R2/1) 微量混入。
- にぶい黄褐色土粒 (10Y R4/3) 中量、炭化物微量混入。
- 褐色土 (7.5Y R4/4) 中量、黄褐色土粒 (10Y R5/6) 微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R5/6)、炭化物微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R4/6) 微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 微量混入。
- にぶい黄褐色土粒 (10Y R4/3)、炭化物微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R4/6) 少量、炭化物微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 少量、炭化物微量混入。

- 第11層 黒色土 7.5Y R2/1
- 第12層 黒褐色土 10Y R2/2
- 第13層 黒褐色土 7.5Y R2/1
- 第14層 黒褐色土 10Y R2.3
- 第15層 黒褐色土 10Y R2/2
- 第16層 黒色土 10Y R1.7/1
- 第17層 褐色土 10Y R4.4
- 第18層 黒色土 10Y R1.7/1
- 第19層 赤褐色土 5Y R4.8

- 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 中量、炭化物微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R4/6)、少量、炭化物微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R4/6)、炭化物微量混入。
- にぶい黄褐色土粒 (10Y R4/3)、炭化物、焼土ブロック微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R4/3)、炭化物微量混入。
- 黄褐色土粒 (10Y R5/6) 微量混入。
- 黄褐色土 (10Y R3.2) との混合土。
- 黄褐色土粒 (10Y R5/6)、炭化物微量混入。
- 火床底。

図21 第9号竪穴住居跡

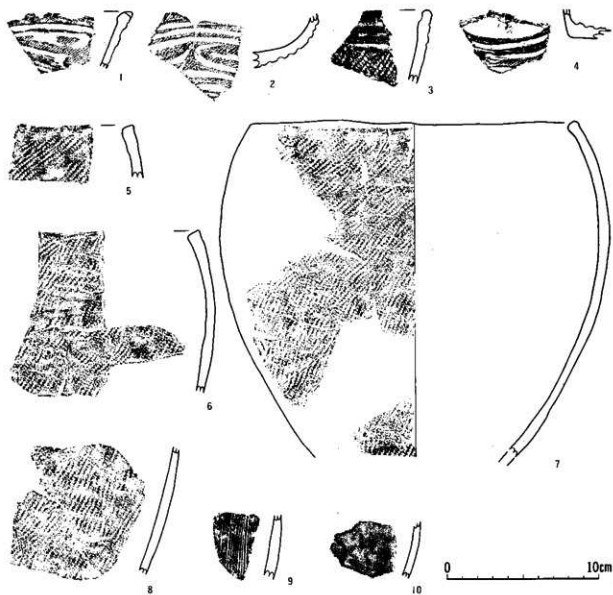


图22 第9号竖穴住居跡出土遺物

第2節 土 坑

土坑は計19基検出された。検出地域は調査区全体にわたっている。

第54号土坑 (図23、写真21)

[位置・確認] 南区のI Q-66グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土の円形プランとして確認した。

[平面形・規模] 東西94cm、南北87cmのほぼ円形であり、確認面からの深さは36cmである。

[壁・底面] 東西南北の四壁とも開口部に向かって垂直に立ち上がっており、底面は平坦である。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体としており、4層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第55号土坑 (図23、写真22)

[位置・確認] 南区のI P-66グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランとして確認した。

[平面形・規模] 東西124cm、南北127cmの円形であり、確認面からの深さは32cmである。

[壁・底面] 壁は開口部に向かって垂直に立ち上がっており、底面は平坦である。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体としており、5層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第56号土坑 (図23、写真23)

[位置] 北区の標高89mよりやや低いI H-63グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランとして確認した。

[平面形・規模] 調査区域外に延びているため北側部分のみを精査した。そのため、全体のプランは不明である。確認部分での規模は、長軸が67cmであり、地表面からの深さは約55cmである。

[壁・底面] 北東壁は緩やかに上方に傾斜し、途中から急角度で立ち上がっている。南西壁は段状に立ち上がっている。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体としており、3層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 第三層を掘り込んで構築されていることから、平安時代以降の遺構と考えられる。

第57号土坑 (図23、写真24)

[位置] 北区の標高87.5m前後のI D-70グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランとして確認した。

[平面形・規模] 東西104cmの円形である。残り約3分の1は掘りすぎたため、南北の長さは不明であ

り、確認面からの深さは41cmである。

〔壁・底面〕 壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒色土、黒褐色土を主体としており、10層に分層される。

〔出土遺物〕 なし。

〔年代〕 時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

第58号土坑（図23・25、写真25・55）

〔位置〕 北区のI F-72グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

〔平面形・規模〕 径91cmの円形であり、確認面からの深さは102～126cmである。

〔壁・底面〕 開口部に向かって、南東壁及び南壁は、ほぼ垂直に立ち上がるが、北西壁及び北壁は段状に立ち上がっている。底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒色土、黒褐色土を主体にしている。4層に分層される。

〔出土遺物〕 堆積土より石皿の破片が出土した。

〔年代〕 出土遺物から、縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

第59号土坑（図24、写真26）

〔位置〕 南区のI U-53グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

〔平面形・規模〕 径60cmの円形であり、確認面からの深さは11cmである。

〔壁・底面〕 壁は開口部に向けて、緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体にしている。2層に分層される。

〔出土遺物〕 なし。

〔年代〕 時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

第60号土坑（図24、写真27）

〔位置〕 南区のI S-53～54グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

〔平面形・規模〕 径96cmの円形であり、確認面からの深さは38cmである。

〔壁・底面〕 緩やかに立ち上がり、底面は丸みを帯びている。

〔堆積土〕 黒色土、黒褐色土を主体にしている。4層に分層される。

〔出土遺物〕 なし。

〔年代〕 時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

第61号土坑（図24、写真21）

〔位置〕 南区のI S-55グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

〔平面形・規模〕 径80cmの円形であり、確認面からの深さは40cmである。

〔壁・底面〕 壁は急角度で立ち上がり、底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒色土、黒褐色土を主体としており、5層に分層される。第4層の暗褐色土は壁の崩落によるものと考えられる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

第62号土坑 (図24、写真28)

[位置] 南区の I S～I T-55グリッドに位置する。第IV層精査中に黒色土のプランにより確認した。

[平面形・規模] 径89cmの円形であり、確認面からの深さは40cmである。

[壁・底面] 壁は急に立ち上がって、底面は丸みを帯びている。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体にしている。4層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

第63号土坑 (図24、写真29)

[位置] 南区の I T-58グリッドに位置する。第IV層精査中に黒色土の半円形プランとして確認した。

[平面形・規模] 調査区域外に延びているため北側部分のみを精査した。そのため、全体のプランは不明である。確認部分での規模は、径150cmであり、確認面からの深さは61～70cmである。

[壁・底面] 壁は緩やかに開口部に向かって立ち上がっている。底面はやや凹凸がある。

[堆積土] 黒褐色土の単層に分層できた。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

第64号土坑 (図24、写真30)

[位置] 南区の I R-57グリッドに位置する。第IV層精査中に黒色土の円形プランとして確認した。

[平面形・規模] 開口部で径134～150cm、くびれ部分で115～125cm、底部で162cmの円形である。確認面からの深さは114cmである。

[壁・底面] 壁は底面から、中間の位置でくびれをなして立ち上がっている。断面形はいわゆるフラスコ状で、底面は平坦である。

[堆積土] 12層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物は出土していないが、形態から縄文時代後期か晩期のもと思われる。

第65号土坑 (図24、写真31)

[位置] 北区の標高87mより低い I D～I E-71グリッドに位置する。第IV層精査中に黒色土の円形プランとして確認した。

[平面形・規模] 東西方向150cm、南北方向204cmの楕円形であり、確認面からの深さは42cmである。また、地表面からは167cmの深さである。

[壁・底面] 開口部に向け、立ち上がるように広がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色土を主体とする。5層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第66号土坑 (図25、写真32)

[位置] 北区の標高87.5m前後、I C～I D-70グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

[平面形・規模] 径119～124cmの円形である。確認面からの深さは52cmである。

[壁・底面] 開口部に向け緩やかに立ち上がるように開く。底面はやや起伏がある。

[堆積土] 黒色土・黒褐色土を主体にして3層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第67号土坑 (図25、写真33)

[位置] 北区の標高88.5mのI A-69～70グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

[平面形・規模] 長軸92cmの楕円形である。確認面からの深さは25cmである。

[壁・底面] 壁は開口部に向けて、急に開くように立ち上がる。底面は少し起伏がある。

[堆積土] 黒色土を主体にしている。4層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第68号土坑 (図25、写真34)

[位置] 北区のI B-69～70グリッドにあり、第71号土坑の南東側に位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

[平面形・規模] 径94～100cmの円形であり、確認面からの深さは34～50cmである。

[壁・底面] 開口部に向かって立ち上がり、底面から16cmほどの位置で段状に立ち上がっている。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体にしている。3層に分層される。

[出土遺物] 縄文土器が堆積土から出土したが細片のため、図示しなかった。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第69号土坑 (図25、写真35)

[位置] 第8号竪穴住居跡の南側、I C-75グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

[平面形・規模] 径92cmの円形であり、確認面からの深さは30cmである。

[壁・底面] 壁は両壁とも開口部に向かって、開くように立ち上がっている。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体にしており、6層に分層される。

[出土遺物] 縄文土器が堆積土から出土したが細片のため、図示しなかった。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第70号土坑 (図25、写真32)

[位置] 第8号住居跡の南東側、I C-75グリッドに位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランにより確認した。

[平面形・規模] 径58cmの円形である。確認面からの深さは14cmである。

[壁・底面] 壁は両壁とも開口部に向かって、開くように立ち上っている。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体にしている。2層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第71号土坑 (図25、写真36)

[位置] 北区のI B-69~70グリッドにあり、第67号土坑の南西側に位置する。第IV層の精査中に黒色土のプランとして確認した。

[平面形・規模] 径90cmの円形であり、確認面からの深さは20cmである。

[壁・底面] 東壁は段状に立ち上がっている。西壁は緩やかに立ち上がり、開口部付近で垂直に立ち上がっている。

[堆積土] 黒色土、黒褐色土を主体にしており、4層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

第72号土坑 (図25、写真36)

[位置と確認] 北区のI A-76グリッドに位置し、第7号竪穴住居跡の南東側に隣接している。第IV層の精査中に黒色土により確認した。調査区域外に延びているため、全体のプランは不明である。

[平面形・規模] 北西部分のみを精査した。確認部分での規模は、長軸51cm、短軸32cmを計る。

[壁・底面] 両壁とも緩やかに立ち上がっており、床面には凹凸が認められる。

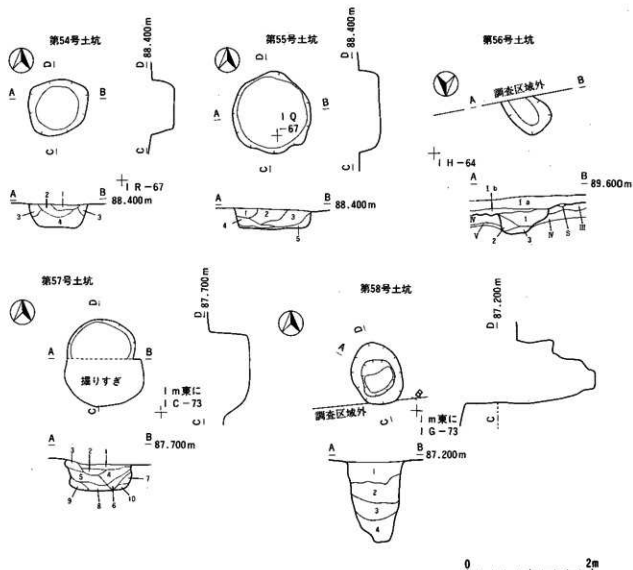
[ビット] ビットが3基検出された。

[堆積土] 黒色土を主体にしており、2層に分層される。

[出土遺物] なし。

[年代] 時期を特定する遺物が出土していないため、不明である。

(齋藤 正)



第54号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒、炭化物微量混入。
- 第2層 黒色土 10Y R1.7/1 ローム粒、炭化物微量混入。
- 第3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒、炭化物微量混入。
- 第4層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒、炭化物微量混入。

第56号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒20%混入。
- 第2層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒7%混入。
- 第3層 黒褐色土 10Y R3/2 黒色土 (10Y R5/6) との混合土、ローム粒微量混入。

第58号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒中量混入。
- 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 濃い黄褐色土 (10Y R5/6) との混合土。
- 第3層 黒褐色土 10Y R3/1 暗褐色土 (10Y R3/4) との混合土。
- 第4層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒少量混入。

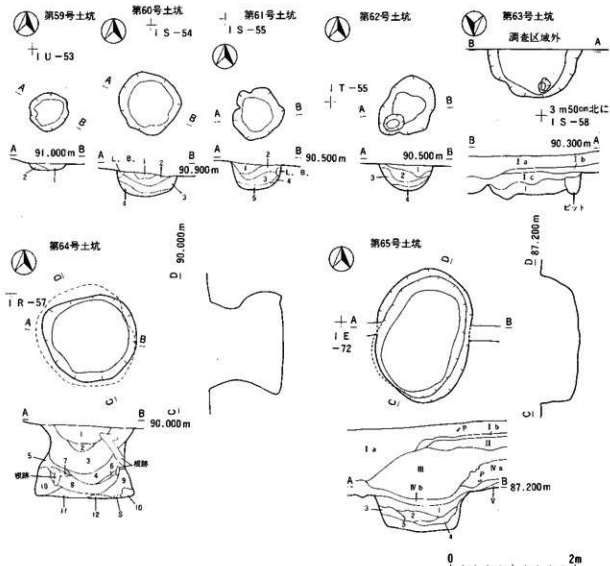
第55号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒、炭化物微量混入。
- 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒、炭化物微量混入。
- 第3層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒、炭化物微量混入。
- 第4層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒、炭化物微量混入。
- 第5層 黒褐色土 10Y R3/3 ローム粒、炭化物微量混入。

第57号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒微量混入。
- 第2層 黒褐色土 10Y R2/1 ローム粒少量混入。
- 第3層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒微量混入。
- 第4層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒多量、炭化物微量。
- 第5層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒少量混入。
- 第6層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒微量混入。
- 第7層 黒褐色土 10Y R3/1 黒色土 (10Y R2/1) との混合土、ローム粒中量混入。
- 第8層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒少量混入。
- 第9層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒微量混入。
- 第10層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒微量混入。

図23 第54～58号土坑



第59号土坑土層注記

- 第1層 黒褐色土 10Y R2/2 □-ム粒少量混入。
- 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 □-ム粒少量混入。

第61号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒微量混入。
- 第2層 黒色土 10Y R1.7/1 □-ム粒微量混入。
- 第3層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒微量混入。
- 第4層 暗褐色土 10Y R3/1 □-ム粒少量混入。L、B主伴土。
- 第5層 黒褐色土 10Y R2/2 □-ム粒微量混入。

第64号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒、焼土粒少量混入。
- 第2層 黒色土 10Y R1.7/1 □-ム粒、焼土粒少量混入。
- 第3層 黒褐色土 10Y R3/1 □-ム粒少量混入。
- 第4層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒少量混入。
- 第5層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒少量混入。
- 第6層 黒褐色土 10Y R1.7/1 □-ム粒微量混入。
- 第7層 黒褐色土 10Y R2/3 □-ム粒微量混入。
- 第8層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒少量混入。
- 第9層 黒褐色土 10Y R3/2 □-ム粒微量混入。
- 第10層 暗褐色土 10Y R3/3 褐色土ローム(10Y R4/6)との混合土。
- 第11層 黒色土 10Y R3/2 □-ム粒少量混入。
- 第12層 黒褐色土 10Y R2/2 □-ム粒微量混入。

第60号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R1.7/1 □-ム粒少量混入。
- 第2層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒少量混入。
- 第3層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒少量混入。
- 第4層 黒褐色土 10Y R2/2 □-ム粒微量混入。

第62号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R1.7/1 □-ム粒微量混入。
- 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 □-ム粒微量混入。
- 第3層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒、L、B少量混入。
- 第4層 暗褐色土 10Y R3/2 □-ム粒少量混入。

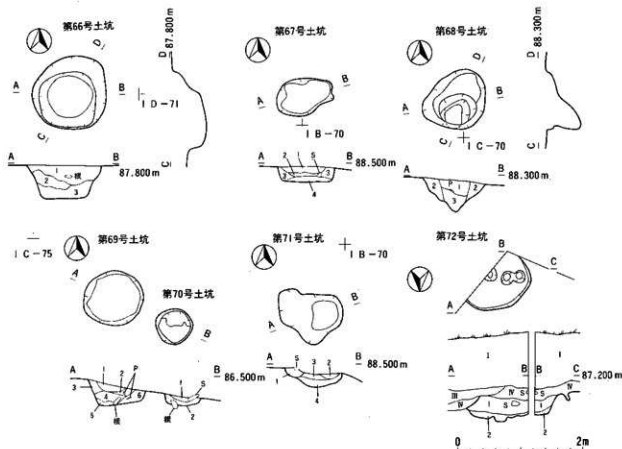
第63号土坑土層注記

- 第1層 黒褐色土 10Y R2/2 □-ム粒少量混入。

第65号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒微量混入。
- 第2層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒中量、炭化物微量混入。
- 第3層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒少量混入。
- 第4層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒、炭化物少量混入。
- 第5層 黒色土 10Y R2/1 □-ム粒少量混入。

図24 第59～65号土坑



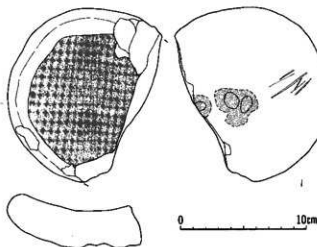
第66号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒中量混入。
 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 □—ム粒少量混入。
 第3層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒、L、B中量混入。

第68号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒、炭化物粒微量混入。
 第2層 黒褐色土 10Y R1.7/1 □—ム粒少量混入。炭化物粒微量混入。
 第3層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒、L、B少量混入。

第68号土坑出土遺物



第67号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒、炭化物粒少量混入。
 第2層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒、炭化物粒少量混入。
 第3層 黒色土 10Y R2/1 暗褐色土(10Y R3/3)との混合土。炭化物粒微量混入。
 第4層 黒色土 10Y R1.7/1 炭化物粒微量混入。

第69号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒少量混入。
 第2層 黒褐色土 10Y R1.7/1 □—ム粒中量混入。
 第3層 黒色土 10Y R2/1 黒褐色土(10Y R2/2)との混合土。□—ム粒中量混入。
 第4層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒微量混入。
 第5層 黒褐色土 10Y R2/2 □—ム粒少量混入。
 第6層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒少量混入。

第70号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R1.7/1 □—ム粒微量混入。
 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 □—ム粒少量混入。

第71号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □—ム粒、炭化物粒微量混入。
 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 焼土粒微量混入。
 第3層 黒色土 10Y R2/2 □—ム粒少量、炭化物粒微量混入。
 第4層 黒色土 10Y R1.7/1 □—ム粒少量混入。

第72号土坑土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R2/1 □—ム、炭化物微量混入。
 第2層 黒褐色土 10Y R2/2 □—ム少量、炭化物粒微量混入。

図25 第66～72号土坑・出土遺物

第3節 土器埋設遺構

土器埋設遺構は1基のみ検出された。

第3号土器埋設遺構 (図26、写真37・55)

〔位置〕 北区の南西側、標高89mほどにあるIC-75グリッドに位置する。第IV層の精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 やや正立状態で埋設されていた。掘り方の平面形は楕円形であり、長さは28cmである。断面形は開口部25cm、底部10cm、深さ15cmである。

〔埋設土器〕 縄文時代晩期の粗製壺形土器と思われる。文様は単節R L縄文で、口頸部に3条の沈線文が施されている。内面にはミガキが施されている。

〔堆積土〕 埋設土器内には黒褐色土が堆積していた。掘り方は黒色土・黒褐色土を主体とする3層に分層された。また、土器内堆積土から小礫が1点出土している。

〔年代〕 出土した土器の型式によって、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

(齋藤 正)

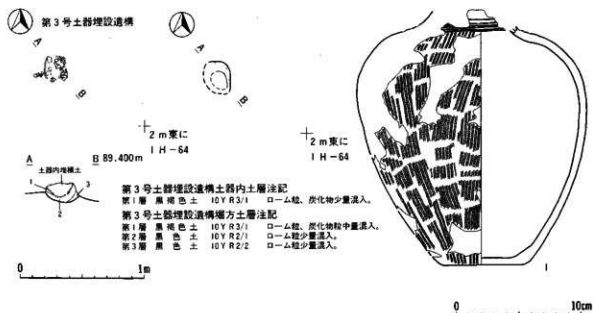


図26 第3号土器埋設遺構

第4節 集石遺構

集石遺構は2基検出された。前回の調査以来、初めての検出である。

第1号集石遺構（図27～30、写真38・55・56）

〔位置〕 北区の東側、標高88m前後のI E～I C-72グリッドに位置する。第II層の精査中に確認した。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 長軸5.6m、短軸3.1mの不整楕円形状に礫が集中しており、周辺にも、まばらに礫が散在している。礫には熱を受けて変色したものはない。

〔施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 集石に混じって、縄文時代晩期前葉（大洞B・BC式）の土器片のほか、土師器片、石皿、凹石、円盤状石製品が出土している。

〔年代〕 第II層で検出されたことから平安時代以降の遺構と考えられる。

第2号集石遺構（図27・28・31～33、写真39・55・57）

〔位置〕 北区の北東側、標高87.5m前後のZ～I A-75グリッドに位置する。第IV層の精査中に確認した。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 長さ68cm、幅28cmほどの五角形の礫を中心に礫が集中しており、周辺にも、まばらに礫が散在している。礫には熱を受けて変色したものはない。

〔施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 集石の中から、縄文時代晩期の土器片のほか、石皿、凹石、円盤状石製品、石棒の破片が出土している。

〔年代〕 出土した土器等によって、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

（齋藤 正）

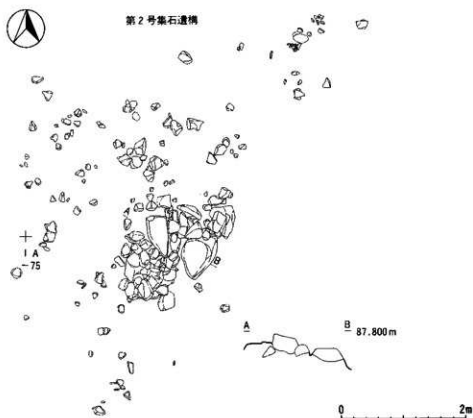
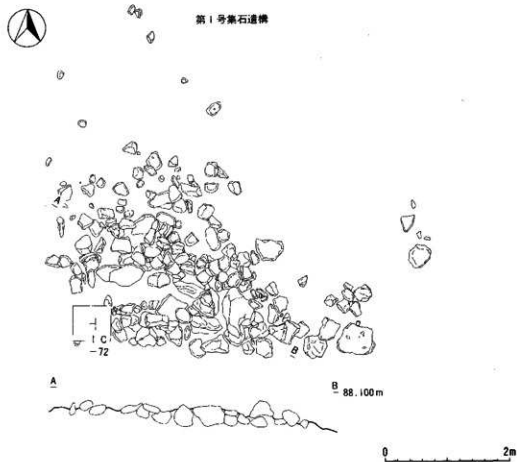


図27 第1号、第2号集石遺構

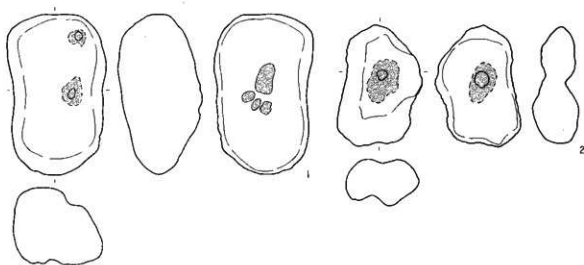


第1号集石遺構出土土器

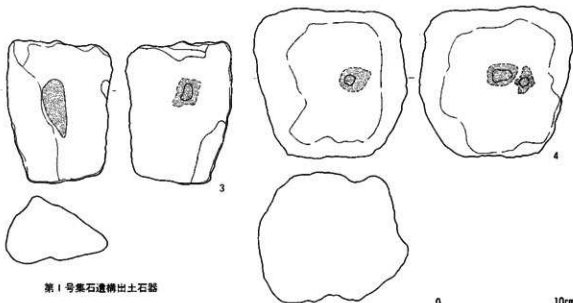


第2号集石遺構出土土器

0 10cm



第1号集石遺構出土土器



0 10cm

図28 第1・2号集石遺構出土遺物

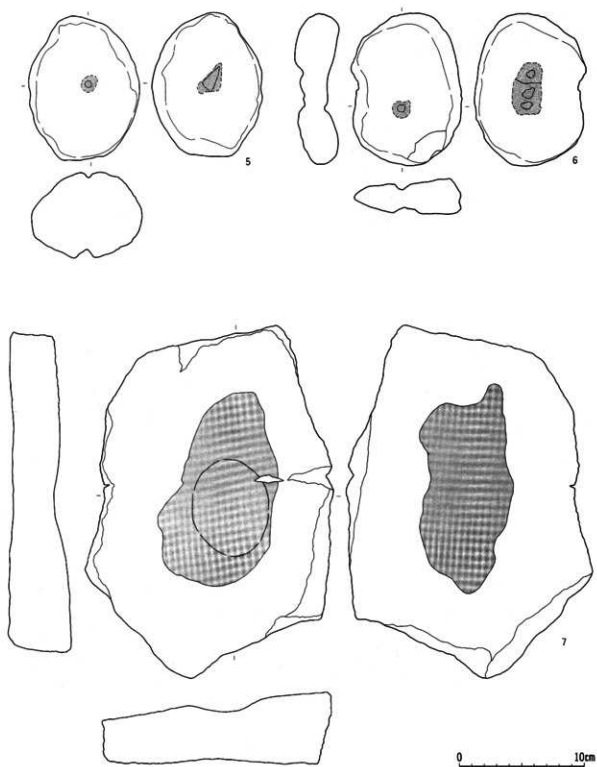


図29 第1号集石遺構出土遺物(2)

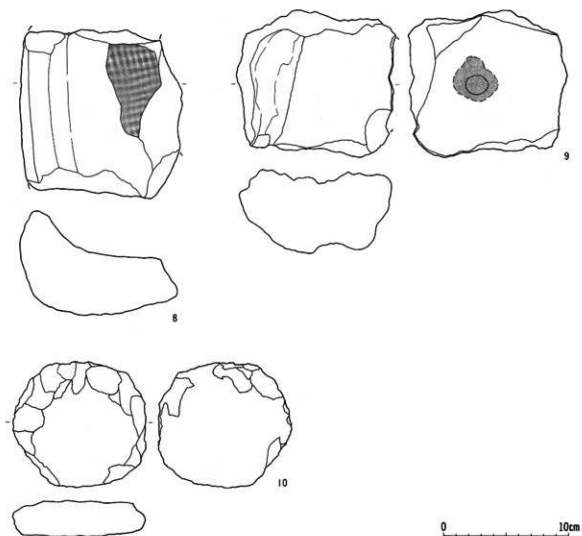


图30 第1号集石遺構出土遺物(3)

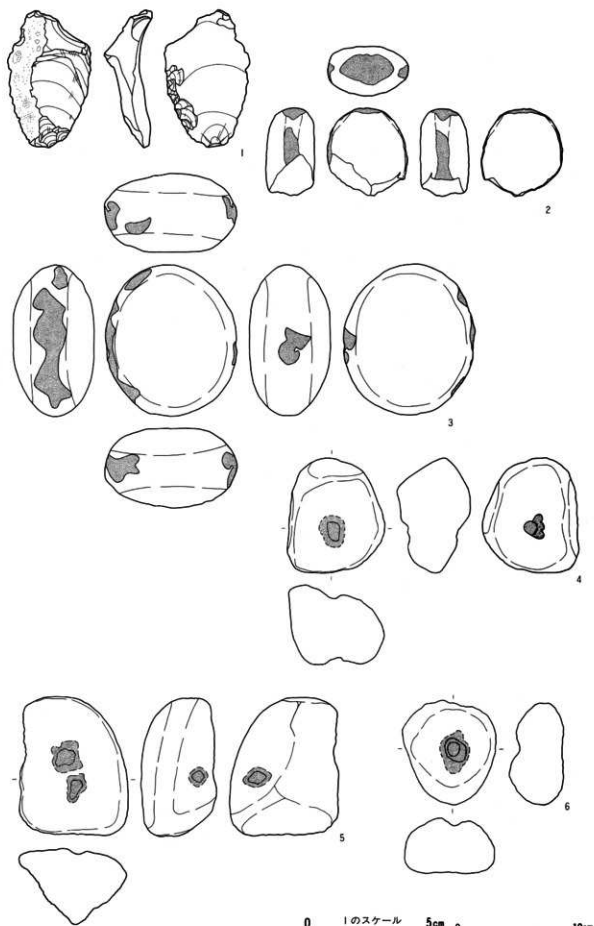


図31 第2号集石遺構出土遺物(1)

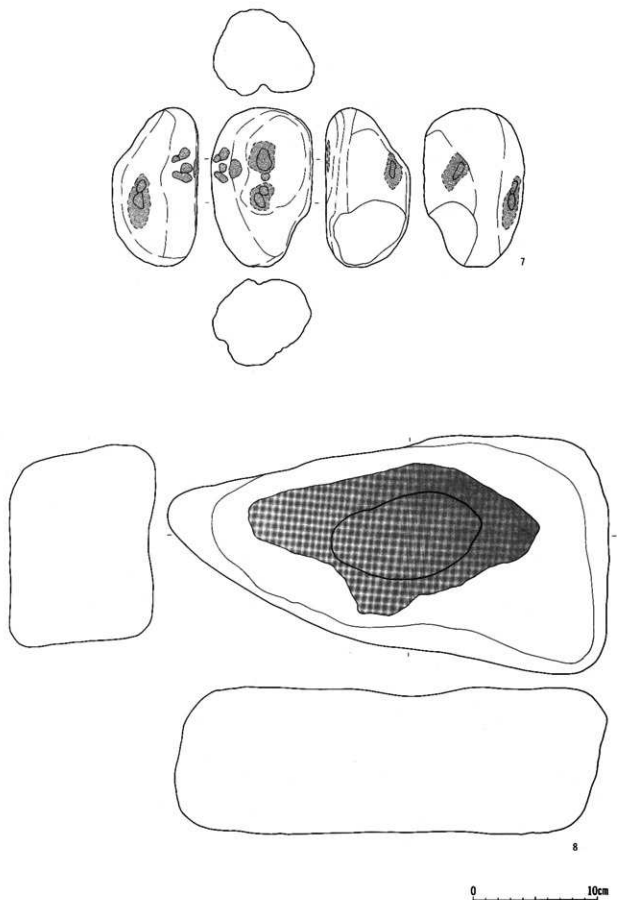


图32 第2号集石遺構出土遺物(2)

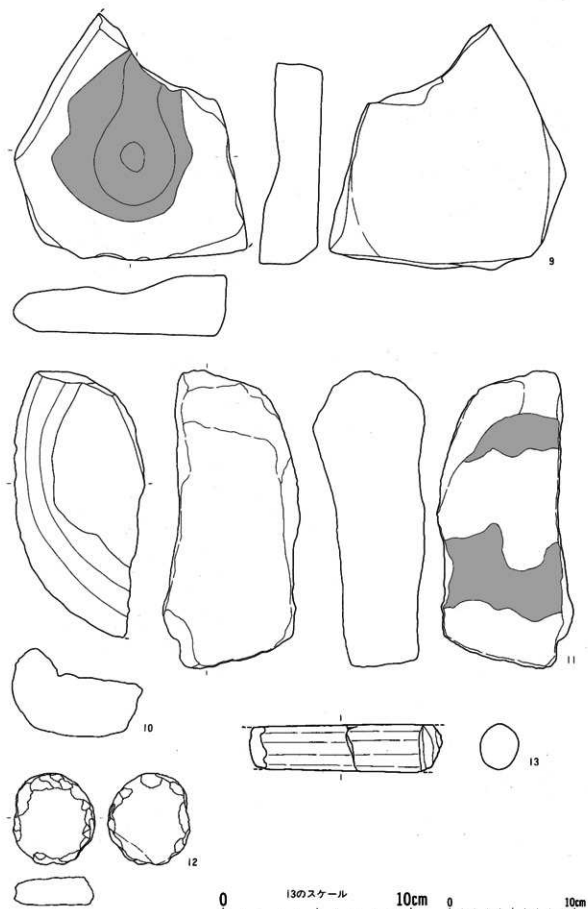


図33 第2号集石遺構出土遺物(3)

第4号竪穴住居跡 土器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
8	1	S I-04	確認面	深鉢	胴部				LR (ヨコ)	ナデ	Ⅳ-8	4と同一個体	80
8	2	S I-04	確認面	小型壺	胴部				無文		Ⅳ-8		101
8	3	S I-04	確認面	深鉢	胴部下半		8.0	(16.6)	無文	ナデ	Ⅳ-8		37
8	4	S I-04	確認面	深鉢	胴部				LR (ヨコ)	ナデ	Ⅳ-8	1と同一個体	79

第5号竪穴住居跡 土器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	底面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
9	1	S I-05	堆積土	壺?	底部		8.0		無文		Ⅳ-8		149

第6号竪穴住居跡 土器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
11	1	S I-06	炉 堆積土	深鉢?	胴部				磨消縄文	ミガキ	Ⅳ-8	内面炭化物付着	411
11	2	S I-06	堆積土	壺	口縁部				LR (ヨコ)		Ⅳ-8	P-2	151
11	3	S I-06	埋設炉	深鉢	胴部下半		11.0	(24.2)	LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8		124

第7号竪穴住居跡 土器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
13	1	S I-07	堆積土	深鉢	胴部				沈線文	ミガキ	Ⅲ-1	外面炭化物付着	404
13	2	S I-07	堆積土	鉢	胴部				羽状縄文 (LR・RL)	ミガキ	Ⅲ-4		166
13	3	S I-07	床直	深鉢	底部~胴部		5.5	(12.3)	平行沈線、羽状縄文 (LR・RL)	ナデ	Ⅲ-4	底面ミガキ、外面炭化物付着	22
13	4	S I-07	床面	鉢	光彩	12.4	3.4	9.0	磨消縄文、LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-4		14
13	5	S I-07	堆積土	鉢?	口縁部				小波状口縁、三叉文		Ⅳ-1		392
13	6	S I-07	堆積土	鉢	口縁部				平行沈線、連続刺突、口唇部キザミ、LR (タテ・ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-1	内外面炭化物付着、7と同一個体	347
13	7	S I-07	堆積土	鉢	口縁部				平行沈線、連続刺突、口唇部キザミ、LR (タテ、斜)	ミガキ	Ⅳ-1	内外面炭化物付着、6と同一個体	365
13	8	S I-07	堆積土	鉢	口縁部				沈線、半歯状文、LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-3	口縁内側沈線	396
13	9	S I-07	堆積土	鉢	口縁部				小波状口縁、沈線、LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	口縁内側沈線、海綿骨針	351

(大きさ=cm)

図	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
13	10	S I - 07	堆積土	鉢	口縁部				平行沈線、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-8	口縁内側沈線	393
13	11	S I - 07	堆積土	鉢	胴部				雲彩文、LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-3		399
13	12	S I - 07	堆積土	浅鉢	胴部				平行沈線、雲彩文		Ⅳ-3		402
13	13	S I - 07	堆積土	鉢	胴部				平行沈線、工字文、LR (ヨコ)	ナデ	Ⅳ-5		425
13	14	S I - 07	堆積土	鉢	胴部				磨消縄文、羽状縄文 (LR・RL)	ミガキ	Ⅲ-4		398
13	15	S I - 07	堆積土	壺	肩部				平行沈線、B突起、LR (ヨコ)	ナデ	Ⅳ-4		397
13	16	S I - 07	堆積土	浅鉢?	口縁部				平行沈線、雲彩文	ミガキ	Ⅳ-3		321
13	17	S I - 07	堆積土	壺	胴部				平行沈線、粘土痕、雲彩文?		Ⅳ-3	海綿骨針	412
13	18	S I - 07	堆積土	注口	注口部				沈線文 (半歯状文?)	ミガキ	Ⅳ-2	海綿骨針	465
13	19	S I - 07	堆積土	深鉢	口縁部				羽状縄文 (LR・RL)、内閉ぎ	ミガキ	Ⅲ-6	20と同一個体	390
13	20	S I - 07	堆積土	深鉢	口縁部	(28.3)		(9.4)	羽状縄文 (LR・RL)、内閉ぎ	ミガキ	Ⅲ-6	19と同一個体	29
14	21	S I - 07	堆積土	深鉢	胴部				LR (ヨコ)	ナデ	Ⅲ-6		400
14	22	S I - 07	堆積土	深鉢	胴部				沈線、RL (ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6		403
14	23	S I - 07	堆積土	鉢	胴部				羽状縄文 (LR・RL)	ナデ	Ⅲ-6		389
14	24	S I - 07	堆積土	壺	胴部				LR (ヨコ)	ナデ	Ⅲ-6		92
14	25	S I - 07	床面	深鉢	胴部				LR (ヨコ・斜)	ミガキ	Ⅲ-6	P-16・18・39	463
14	26	S I - 07	床面	深鉢	口縁~胴部	36.5		(33.6)	LR (ヨコ)、補修孔	ミガキ	Ⅲ-6	P-25・27・40・43・46	27
15	27	S I - 07	堆積土	深鉢	胴部				条痕文	ミガキ	Ⅳ-8		424
15	28	S I - 07	堆積土	壺	口縁部				無文		Ⅳ-8	海綿骨針	91
15	29	S I - 07	床面	深鉢	口縁部				無文	ナデ	Ⅲ-6	30・31と同一個体、P-1	385
15	30	S I - 07	床面	深鉢	口縁部				無文	ナデ	Ⅲ-6	29・31と同一個体	384
15	31	S I - 07	床面	深鉢	胴部				無文	ナデ	Ⅲ-6	29・30と同一個体、P-2・3	386
15	32	S I - 07	堆積土	深鉢	胴部				無文	ナデ	Ⅲ-6		93
15	33	S I - 07	堆積土	壺	胴部				無文		Ⅳ-8		94
15	34	S I - 07	床面	鉢	底部				無筋R	ナデ	Ⅲ-6		95
15	35	S I - 07	堆積土	壺	底部		8.7	(3.8)	LR	ミガキ	Ⅳ-8		89
15	36	S I - 07	堆積土	鉢	底部		6.0	(3.3)	無文	ナデ	Ⅲ-6		88

第7号壑穴住居跡 石器観察表

図	番号	出土地点	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
16	1	S I-07	堆積土	石鏃	埴質頁岩	(28.0)	14.0	5.0	1.1		1
16	2	S I-07	堆積土	石鏃	玉髄質埴質頁岩	36.0	12.0	5.0	1.2	基部に黒色物質付着	2
16	3	S I-07	堆積土	石鏃	埴質頁岩	42.0	12.0	4.0	1.8		3
16	4	S I-07	堆積土	石匙	埴質頁岩	63.0	56.0	15.0	28.9		4
16	5	S I-07	堆積土	敲磨器	花崗岩	98.0	78.0	35.0	404.2		遺 1
16	6	S I-07	堆積土	敲磨器	花崗岩	107.0	82.0	50.0	611.5		遺 2

第8号壑穴住居跡 土器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
18	1	S I-08	堆積土	鉢	口縁部				沈線、磨消縄文、口唇突起	ミガキ	Ⅲ-4		422
18	2	S I-08	堆積土	鉢	胴部				磨消縄文、LR(タテ・ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-4		409
18	3	S I-08	堆積土	鉢	胴部				磨消縄文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6		395
18	4	S I-08	堆積土	壺	口縁部				磨消縄文、LR(ヨコ)		Ⅲ-4		417
18	5	S I-08	堆積土	鉢	口縁~胴部	(15.0)			平行沈線、磨消縄文、LR(ヨコ)、口唇突起	ミガキ	Ⅲ-4	海綿骨針	105
18	6	S I-08	堆積土	鉢	胴部~底部		3.0	(9.0)	沈線、磨消縄文、粘土啗	ナデ	Ⅲ-5	2点接合、P-8	108・116
18	7	S I-08	床面	壺	頸部				沈線、磨消縄文	ミガキ	Ⅲ-6	P-1	106
18	8	S I-08	床面	台付鉢	半完形	17.6	8.8	10.5	沈線、磨消縄文	ミガキ	Ⅲ-6	海綿骨針、P-5	111
18	9	S I-08	堆積土	浅鉢	底部		4.9		沈線、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-3		26
18	10	S I-08	堆積土	壺	完形	6.0	3.0	9.6	B突起、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-3	口縁内側沈線、P-7	15
19	11	S I-08	堆積土	深鉢	口縁部				LR(ヨコ)、内側ぎ	ナデ	Ⅲ-6		418
19	12	S I-08	床面	深鉢	口縁部				LR(ヨコ)、内側ぎ	ミガキ	Ⅲ-6	P-4	415
19	13	S I-08	床直	深鉢	口縁部				LR(ヨコ)、内側ぎ	ミガキ	Ⅲ-6	外面炭化物付着	387
19	14	S I-08	堆積土	深鉢	胴部				LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6	外面炭化物付着	408
19	15	S I-08	床直	深鉢	口縁部				LR(ヨコ)、内側ぎ	ナデ	Ⅲ-6	P-2・4・10	427
19	16	S I-08	堆積土	深鉢	口縁部				LR(ヨコ)、内側ぎ	ミガキ	Ⅲ-6		426
19	17	S I-08	床直	深鉢	口縁部				羽状縄文(LR・RL)、内側ぎ	ミガキ	Ⅲ-6	P-28	25
19	18	S I-08	床直	深鉢	胴部				LR(斜)	ミガキ	Ⅲ-6	P-29	394
19	19	S I-08	床直	深鉢	胴部				LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6		107

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
19	20	S I-08	堆積土	鉢	略兜形	(10.5)	(5.2)	8.0	LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6	内面炭化物付着、表面摩滅 P-9	90
19	21	S I-08	床面・床直	深鉢	口縁部	(27.0)		(17.3)	LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6	P-4・10・13・15	87
20	22	S I-08	床直	深鉢	胴部上半	(30.0)		(26.0)	LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6	P-4・19・27・30	110
20	23	S I-08	堆積土	小空蓋	兜形	3.9	1.8	5.0	無文		Ⅳ-8	P-11、海綿骨針	109
20	24	S I-08	床面	鉢	略兜形	(8.2)	1.8	8.0	無文	ミガキ	Ⅲ-6	P-3	65
20	25	S I-08	堆積土	鉢	略兜形	(11.4)	3.4	11.7	無文、内側ぎ	ミガキ	Ⅳ-8	P-10	59
20	26	S I-08	堆積土	注口	兜形	7.3	1.8	12.0	無文	ミガキ	Ⅲ-6	P-6	10

第8号竪穴住居跡 石器観察表

図	番号	出土地点	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
20	1	S I-08	堆積土	石匙	珪質頁岩	62.0	23.0	10.0	10.6		5
20	2	S I-08	床面	不定形石器	珪質頁岩	66.0	36.0	15.0	42.7		6

第9号竪穴住居跡 土器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
22	1	S I-09	堆積土	浅鉢	口縁部				B突起、雲形文	ミガキ	Ⅳ-3	口縁内側連続キズ	405
22	2	S I-09	堆積土	浅鉢	胴部				沈線、雲形文		Ⅳ-4		420
22	3	S I-09	堆積土	鉢	口縁部				沈線、LR (ヨコ)		Ⅳ-8	口縁内側沈線、外面炭化物付着	423
22	4	S I-09	堆積土	蓋	肩部				沈線、粘土層、LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-5		401
22	5	S I-09	Pit I 堆積土	深鉢	口縁部				LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	外面炭化物付着、6~8と同一個体	421
22	6	S I-09	Pit I 堆積土	深鉢	口縁部				LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	5・7・8と同一個体	145
22	7	S I-09	Pit I 堆積土	深鉢	胴部上半	(11.8)	(21.9)		LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	5・6・8と同一個体	133
22	8	S I-09	Pit I 堆積土	深鉢	胴部				LR (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	5~7と同一個体	391
22	9	S I-09	堆積土	深鉢	胴部				条状文		Ⅳ-8		413
22	10	S I-09	堆積土	深鉢	胴部				無文		Ⅳ-8	外面赤色顔料付着、海綿骨針	414

第58号土坑 石器観察表

図	番号	出土地点	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備	考	整理番号
25	1	S K-58	4層	石皿	凝灰岩	137	123	42	643.8	表面に凹み		遺5

第3号埋設土器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備	考	整理番号
26	1	I C-75		壺	胴部~底部		6.4	20.2	平行沈線、RL(斜)	ミガキ	IV-8	内部に小堀		64

第1号集石遺構 石器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備	考	整理番号
28	1	S Q-01	II層	深鉢	口縁部				B突起、平行沈線、三叉文		IV-1			368
28	2	S Q-01	II層	鉢	口縁部				平行沈線、LR(ヨコ)	ミガキ	IV-2			299

第1号集石遺構 石器観察表

図	番号	出土位置	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備	考	整理番号
28	1	S Q-01	II層	凹み石	凝灰岩	127.0	79.0	67.0	650.2	S-22		遺16
28	2	S Q-01	II層	凹み石	砂岩	97.0	68.0	36.5	206.9	S-23		遺17
28	3	S Q-01	II層	凹み石	砂岩	85.0	114.0	53.5	574.2	S-9		遺14
28	4	S Q-01	II層	凹み石	凝灰岩	120.0	122.5	104.0	1942.5	S-14		遺7
29	5	S Q-01	II層	凹み石	凝灰岩	115.0	89.0	69.0	455	S-11		遺11
29	6	S Q-01	II層	凹み石	凝灰岩	122.0	90.0	35.0	381.9	S-10		遺9
29	7	S Q-01	II層	石皿	安山岩	(281.0)	(200.0)	58.0	453.9	S-2、S-3接合		遺31
30	8	S Q-01	II層	石皿	安山岩	(135.0)	(131.0)	83.0	1797.2	S-25		遺18
30	9	S Q-01	II層	石皿	凝灰岩	(117.0)	(127.5)	67.0	906.7	S-17		遺15
30	10	S Q-01	II層	円盤状石製品	安山岩	100.0	107.0	29.0	418.7	S-19		遺13

第2号集石遺構 石器観察表

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備	考	整理番号
28	3	S Q-02	IV層	鉢	口縁部				平行沈線、口唇部キザミ		IV-8	口縁内側沈線		372
28	4	S Q-02	IV層	鉢	口縁部				平行沈線、RL(ヨコ)	ミガキ	IV-8	海綿骨針		494
28	5	S Q-02	IV層	鉢	口縁部				無文		IV-8	口縁内側沈線		493

第2号集石遺構 石器観察表

図	番号	出土地点	出土層位	器 種	石 質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備 考	整理番号
31	1	S Q-02	Ⅳ層	不定形石器	珉質頁岩	52.0	34.0	19.0	19	S-34	7
31	2	S Q-02	Ⅳ層	敲石	花崗岩	(65.0)	65.0	39.0	250.5	S-6	遺22
31	3	S Q-02	Ⅳ層	敲石	花崗岩	120	106	65	1142.1	S-29	遺29
31	4	S Q-02	Ⅳ層	凹み石	凝灰岩	91.0	78.0	63.0	481.5	S-2	遺21
31	5	S Q-02	Ⅳ層	凹み石	凝灰岩	110.0	88.0	61.0	665	S-4	遺28
31	6	S Q-02	Ⅳ層	凹み石	凝灰岩	84.0	76.0	44.0	313.8	S-12	遺23
32	7	S Q-02	Ⅳ層	凹み石	凝灰岩	127.0	82.0	69.0	705.6	S-16	遺25
32	8	S Q-02	Ⅳ層	石皿	安山岩	356.0	190.0	118.0	13100	S-28	遺27
33	9	S Q-02	Ⅳ層	石皿	安山岩	(196.0)	(189.0)	46.0	2381.2	S-15	遺32
33	10	S Q-02	Ⅳ層	石皿	凝灰岩	(211.0)	(106.0)	69.0	1467.3	S-13	遺24
33	11	S Q-02	Ⅳ層	石皿	安山岩	236	109.5	89.5	2926.2	S-33、被熱痕有	遺30
33	12	S Q-02	Ⅳ層	円盤状石製品	安山岩	72.0	66.0	22.0	149.8	S-11	遺26
33	13	S Q-02	Ⅳ層	石刺	粘板岩	(102.0)	25.0	21.5	79.6	S-3	184

第Ⅲ章 遺構外の遺物

遺構外からは、縄文時代前期～晩期の土器、石器、土製品、石製品、土師器、須恵器、古銭が出土した。土器は縄文時代後期～晩期のものが多い。石器は、剥片石器では石鏃・尖頭器・石錐・石篋・円形搔器・石匙・不定形石器などが出土しており、なかでも石鏃が多い。この他、黒曜石や珪質頁岩のフレックが多いことも特徴である。礫石器では磨製石斧・敲磨器・凹み石・石皿・石錘・磨切具が出土しており、凹み石の出土数は群を抜いて多い。これらの遺物の出土地点には偏りがあり、北区に比べて、南区の遺物出土量は少ない。これは南区が耕作により、かなりの部分が削平を受けたためと思われる。北区は水田造成により地形が段々畑状態となった後、リング圃造成に伴い、標高の高い場所から削平した土砂を厚く盛って、整地した状態であった。このことを裏付けるように、盛り土からは出土地点が離れている遺物が接合した例もある。これらの盛り土を除去し、精査を進めていった後、調査区（北区）の中央部より、やや東側のIC-71・72グリッドと東端のIE-72グリッド、調査区域外に接するIF-70グリッドの計3ヶ所において縄文時代晩期の遺物が集中して出土した。

これからIC-71・72、IE-72、IF-70地域の遺物集中区における出土状況について述べた後、遺構外から出土した土器、石器、土製品、石製品、土師器、須恵器、古銭の順に述べる。

第1節 遺物集中区の遺物出土状況（図34・35・36）

遺物集中区は3ヶ所に確認された。まず、IC-71・72グリッドは標高87～87.5mの緩斜面に位置し、第Ⅳ層において南北約4.6m、東西約5.5mの範囲で土器や石器の集中が確認された。土器では大洞C₂式の深鉢形・鉢形・台付鉢形・壺形土器が出土した。石器では凹石4点、石皿1点、磨製石斧の頭部破片1点、石製品では円盤状石製品1点が出土した。

IE-72グリッドは標高86.5m前後の緩斜面に位置し、第Ⅳ層から南北約6.0m、東西約7.5mの範囲で遺物の集中が確認された。遺物出土状況図を見てわかるように、南北1.6m、東西1.3mの範囲で深鉢形・浅鉢形・鉢形土器・台付鉢形・壺形土器は密集して出土した。その他にも小型遺物のまともにも確認できる。土器では大洞C₂式の深鉢形・浅鉢形・鉢形・台付鉢形・壺形土器が出土した。石製品では石棒が1点出土している。

IF-70グリッドは標高87.5mの緩斜面に位置し、東西約25cm・南北約2mの細長い範囲に土器の集中が確認された。土器では壺形土器や深鉢形土器が出土した。とくに、緑色細粒凝灰岩の玉材77点が入っていた内面赤彩の壺形土器は注目されるものである。その他にも、緑色細粒凝灰岩の玉材が多数出土している。そのなかには、穿孔がされた玉が1点、穿孔途中の玉が1点、未穿孔の玉が1点、面取りされた玉2点がある。

（齋藤 正）

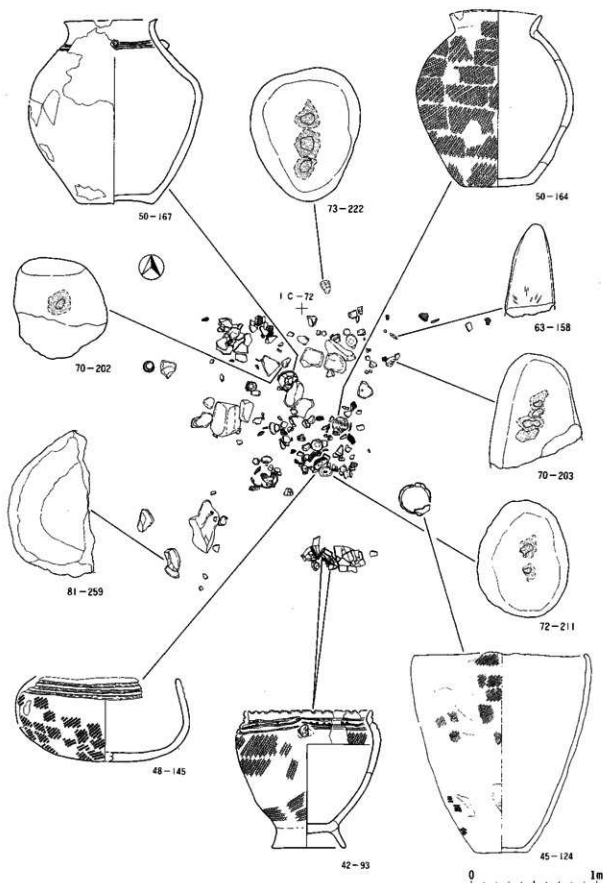


図34 IC-71・72グリッド遺物出土状況

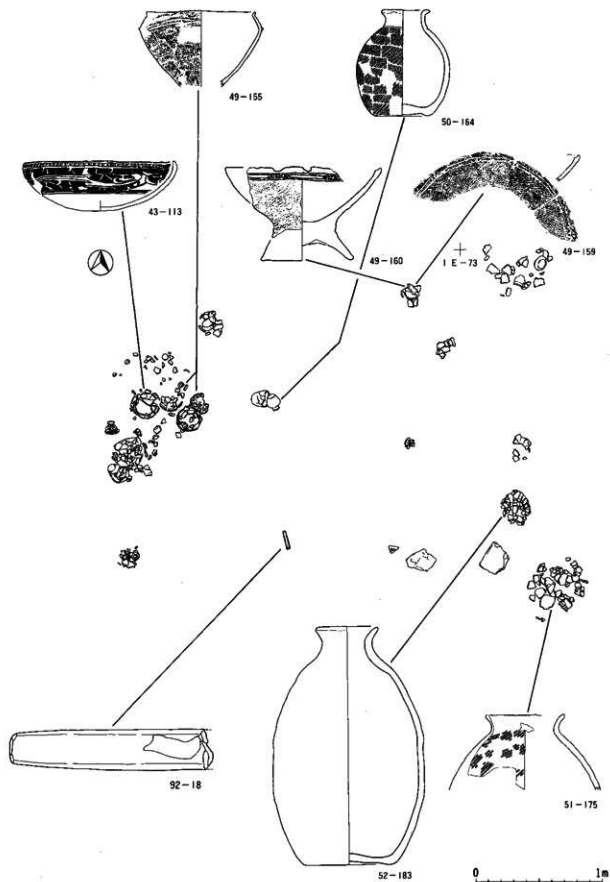


図35 I E-72・73グリッド遺物出土状況

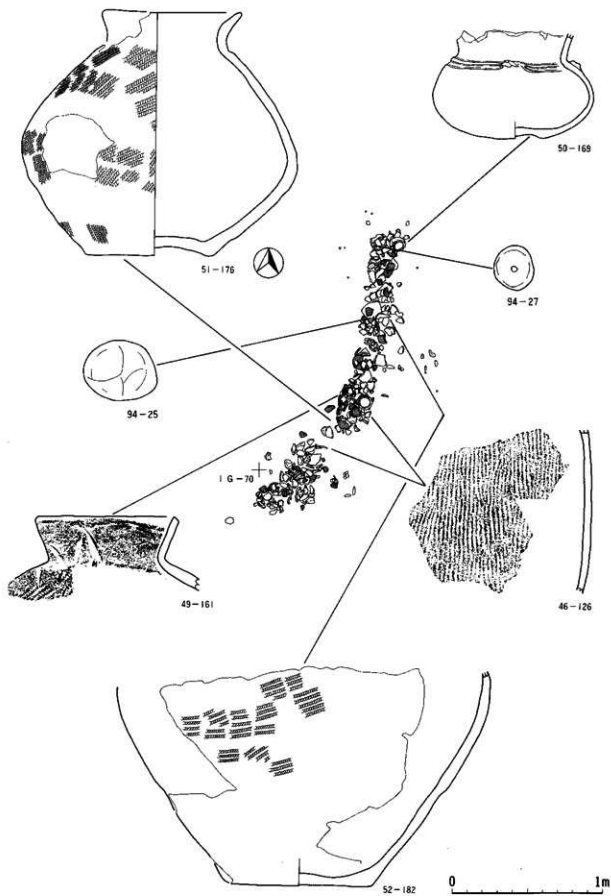


図36 I F-70グリッド遺物出土状況

第2節 縄文土器 (図37～52・写真58～67)

調査区から出土した縄文土器は、段ボール箱で約130箱である。出土地点は、I C-71・72、I E-72、I F-70の3カ所の遺物集中区を中心として調査区全域にわたっている。出土した縄文土器は、今から約5,000年前の縄文時代前期末葉、円筒下層d₁式土器から約2,300年前の晩期末葉、大洞A¹式土器まで多岐にわたる。また、第I層から第IV a層まで遺物の出土が認められるが、第III層より上層は平安時代以降の堆積土であるため、出土した土器を層位的に述べることは困難であった。

ここでは、出土した土器を下記の通りI～IV群に分類し、III・IV群は土器型式ごとに、さらにIV群については各種土器をA～Hの器種ごとに細分して報告する。また、第二章の遺構内出土土器の分類も下記に準ずる。

なお、本節では、遺物集中区出土遺物及び平成8年度の試掘調査で出土した遺物も併せて報告する。

I群土器 縄文時代前期の土器

II群土器 縄文時代中期の土器

III群土器 縄文時代後期の土器

- 1類 十腰内I式に比定されるもの
- 2類 十腰内II式に比定されるもの
- 3類 十腰内III式に比定されるもの
- 4類 十腰内IV式に比定されるもの
- 5類 十腰内V式に比定されるもの
- 6類 上記のいずれにも分類できなかったもの

IV群土器 縄文時代晩期の土器

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 1類 大洞B式に比定されるもの | A 深鉢形土器 |
| 2類 大洞BC式に比定されるもの | B 鉢形土器 |
| 3類 大洞C ₁ 式に比定されるもの | C 浅鉢形土器 |
| 4類 大洞C ₂ 式に比定されるもの | D 台付鉢・浅鉢形土器 |
| 5類 大洞A式に比定されるもの | E 壺形土器 |
| 6類 大洞A ¹ 式に比定されるもの | F 注口土器 |
| 7類 聖山式に比定されるもの | G 高坏 |
| 8類 上記のいずれにも分類できなかったもの | H A～Gのどれにも属さないもの |

I群土器 縄文時代前期の土器(1)

明確に本群に属するものは1点のみである。1は、縄文時代前期末葉の円筒下層d₁式土器の胴部破片である。口縁部と胴部を区画する隆帯には刺突が、胴部には単軸絡条体1A類がそれぞれ施されている。

II群土器 縄文時代中期の土器(2)

I群土器とともに出土量は非常に少ない。2は、深鉢形土器の波状口縁頂部と考えられる。縄文時代中期中葉以降のものと考えられるが、詳細は不明である。

III群土器 縄文時代後期の土器(3~34)

本群は、IV群土器に次ぐ出土量であり、縄文時代後期前葉の十腰内I式から末葉の十腰内V式まで出土している。器種は深鉢形土器を主体とし、鉢形・壺形土器も見られる。以下、時期ごとに分類して述べる。

1類 十腰内I式に比定されるもの(3~19)

主に、沈線文を主体とするものである。そのほとんどが深鉢形土器と考えられるが、鉢形土器も含まれている(19)。

3はほぼ完形の深鉢形土器である。底部から胴部上半にかけてゆるやかに外傾して立ち上がり、口縁部下端にかけていったん内傾した後、口縁部が外反する。口縁部は5単位の波状口縁で、地文には無節L縄文が施されている。口縁部文様帯には、横位平行沈線及び竹管状工具による刺突が施されている。2条の横位平行沈線によって区画された胴部文様帯には、縦位の沈線で区画後、斜位・U字状及び波状の沈線が充填される。胴部下半は無文である。

4~18は、口縁部及び胴部破片である。すべて深鉢形を呈すると考えられる。口縁部は外反するものが多い。横位の平行沈線によって文様帯を区画し、斜位及び弧状に沈線を施すもの(4・5・12)、細沈線によって文様を描出するもの(14~16)などがある。8・9には渦巻文が施されている。

19は、鉢形土器である。口縁部は2単位の波状口縁で、その直下には螺旋状の粘土紐の貼り付けが施されている。口唇部は折り返されており、その直下には2条の横位平行沈線文が施される。胴部には、連続するS字状の入組文が施される。

2類 十腰内II式に比定されるもの(20)

関東地方にみられる加曽利B₁式に併行するものである。20は深鉢形土器の波状口縁頂部である。円形の刺突が沈線に沿うように連続して施されている。また、大きく比厚する波状口縁頂部の側面には穿孔が施される。

3類 十腰内III式に比定されるもの(21・22)

関東地方にみられる加曽利B₂式に併行するものである。21は波状口縁を呈する深鉢形土器の口縁部破片である。横位の平行沈線文が施され、上下の沈線をつなぐ沈線が施文される。

4類 十腰内Ⅳ式に比定されるもの(23~26)

主に、撚りの異なる原体によって施文された羽状縄文を特徴とする一群である。平行線状の文様帯を持つもの(23)と木葉状のモチーフを持つもの(24~26)がある。器形は、深鉢・鉢形を呈すると考えられる。

5類 十腰内Ⅴ式に比定されるもの(27~31)

いわゆる「瘤付き土器」と呼ばれる一群である。深鉢形・鉢形・壺形土器がある。28は口縁部を欠損した壺形土器である。頸部と肩部にはそれぞれ4単位の粘土瘤の貼り付けが見られる。29は、深鉢形土器の口縁部である。口唇部は内削ぎになっており、角状突起の両側にも小突起が施される。角状突起直下には粘土瘤が貼り付けられている。30は深鉢形土器の波状口縁頂部と考えられる。沈線で区画された内部に小さな粘土瘤が貼り付けられている。また、裏面には矢羽根状に沈線が施される。31は鉢形土器である。箭楯状の沈線を横位・縦位に施文して文様帯を構成している。また、粘土瘤を沈線の取束点及び中間点に4段8単位で貼り付けている。

6類 時期不明のもの(32~34)

いずれも縄文時代後期に属すると考えられるが、時期の特定が困難なものを一括した。

32・33は鉢形土器の胴部破片である。いずれも磨消によって描出された縄文帯が帯状になる。33は沈線で区画された内部にさらに粗雑な沈線が2条施されている。いずれも後期中葉から後葉にかけてのものと考えられる。34は深鉢形土器の口縁部破片である。横位の平行沈線文が施されるものである。口唇部には刻みが施されている。後期後葉のものと考えられる。

Ⅳ群土器 縄文時代晩期の土器(35~189)

本遺跡出土土器の主体をなす一群である。出土土器は晩期の各時期におたるが、その中でも前半のものが中心となる。器種には、深鉢・鉢・浅鉢・台付き鉢・台付き浅鉢・壺形土器と注口土器および高坏があり、粗製土器も多く出土している。内面は丁寧^{ニジヤ}にミガキ調整が施されており、赤色顔料が付着したものや、煤状^{ツグ}の炭化物が付着したものも多い。なお、土器に付着している赤色の物質については、赤色顔料、あるいは赤色顔料が付着しているという表現で統一した。

1類 大洞B式に比定されるもの(35~46)

三叉文を主とする一群である。器形には、深鉢・鉢・台付き鉢・壺形土器、注口土器がある。以下、器種ごとに分類する。

A 深鉢形土器(35・36)

器高が、口径以上のものを深鉢形土器とした。

35・36は口縁部破片である。いずれも緩やかに外反しながら立ち上がり、口唇部にはB突起が施される。36は、2条の沈線と列点によって2段に区画され、内部に三叉文が施される。胴部には単節L R縄文が施される。

B 鉢形土器 (39~43)

器高が、口径の3分の2以上あるものを一括した。

39は、弧状に施文された沈線が三叉文を構成していると考え、本類とした。40・42は弧状の沈線文が連続して施されるものである。1類として報告するが、2類に含まれる可能性もある。43は、竹管状工具による刺突と弧線文によって文様帯が構成されている。

D 台付き鉢・浅鉢形土器 (44・45)

本来、異なる器種として別々に分類するところであるが、上部の形態が不明なものも多く、本類で一括して報告する。

44・45は、いずれも台部に貫通孔を持つものである。これを囲むように三叉文が施され、いわゆる玉抱き三叉文を構成している。裾部には縄文を施文した凸帯が巡る。

E 壺形土器 (37・38)

胴部に最大径を持ち、頸部にくびれを持つものを壺形土器とした。

37は頸部から口縁部にかけてやや外反しながら立ち上がるものである。頸部には2条の沈線文、胴部には三叉文が施されている。38は頸部破片である。2条の沈線で文様帯を区画後、三叉文を施している。胴部には単節LR縄文が施される。

F 注口土器 (46)

46は注口部を欠損している。頸部及び胴部には三叉文が施されている。

2類 大洞BC式に比定されるもの (47~72)

羊歯状文を用いる一群である。鉢・浅鉢形土器、注口土器がある。

B 鉢形土器 (47~67・70・71)

47~67は、口縁部及び胴部破片である。緩やかに外反しながら立ち上がるもの(58・60~63・65~67)、緩やかに外反しながら立ち上がり、口縁部直下に屈曲部を持ち、そこから外反するもの(47~49・53・54・57)と、胴部から口縁部にむかって内傾した後外反するもの(50~52・55・56)、そして口縁部が緩やかに内湾するもの(59・64)がある。いずれも小波状口縁を呈するものが多く、口縁部文様帯には羊歯状文が施される。55は横位の平行沈線文、連続刺突文とともに波状の沈線文が施されるものである。口縁部は外反し、B突起が連続して施されている。両面に煤状の炭化物が付着している。70は、完形の鉢形土器である。底部から外反して立ち上がり、胴部上半で屈曲し、口縁部は内湾し、小波状を呈する。口縁部には羊歯状文が展開し、1単位のB突起が施される。また、底部付近にも2条の平行沈線文が施されている。

C 浅鉢形土器 (68・69・72)

器高が口径の3分の2に満たないものを一括した。

72は底部を欠損している。口唇部にはB突起が施され、胴部には上下2条の沈線文で区画後、浮き彫り風に入組文を施している。

3類 大洞C；式に比定されるもの (73~105)**A 深鉢形土器 (73・74)**

73・74は同一個体である。口縁部が外反する器形となる。口唇部には刻みが施され、小波状を呈する。地文には単節LR縄文が施され、横位の平行沈線文で文様帯を区画している。区画内には、斜位に連続刺突文が施されている。

B 鉢形土器 (75・91)

75は口縁部破片である。口縁部には羊歯状文が残っている。91は底部が欠損している。台付きの可能性もあるが、ここでは鉢形土器として報告する。胴部上半で屈曲し、口縁部が外反するものである。横位平行沈線の上部に連続刺突文が施される。沈線文の直下には1単位の突起が、胴部には単節RL縄文が施される。口縁にはB突起が連続して施されている。大洞BC式の可能性もある。

C 浅鉢形土器 (76~90)

76~88は口縁部破片である。緩やかに外反しながら立ち上がるもの(79・82・86~88)、胴部上端で屈曲し、口縁部がほぼ垂直に立ち上がるもの(76・77・80・81・83・84)、内湾するもの(78・90)がある。いずれも胴部には雲形文が施され、口縁部には連続刺突文を施すものも多い。87・88は口唇部に装飾的なB突起が施されるものである。90は器形がほぼ復元できたものである。底部から緩やかに外反しながら立ち上がり、口縁部が内湾するものである。口縁部上端に連続刺突文を断続的に施し、口縁部文様帯には横位の沈線を巡らせている。胴部には雲形文が施されている。また、胴部下端及び底面には補修孔が施されている。

D 台付き鉢・浅鉢形土器 (92~95)

92~94は、いずれも口縁が小波状を呈し、胴部上端には1単位の突起が施されている。口縁部には3~4条の沈線が巡り、93には連続刺突文が2段にわたり施されている。地文は、92は単節RL縄文、93はLR縄文、94は直前段半燃りLLである。95は台部破片である。上半には3条の沈線が巡り、中央には透かしが施されている。裾部には、2条の凸帯に斜位の連続刺突文が施されている。

E 壺形土器 (96~102)

粘土紐の貼り付けによる隆線や4単位のB突起が施されるもの(96・99~102)、沈線及び隆帯のみもの(97・98)がある。100・101は小型の壺形土器である。いずれも口縁部を欠損している。

F 注口土器 (103~105)

103は、口縁部と胴部の屈曲部分にB突起が施される。胴部上半には羊歯状文が、下半には磨消縄文が施される。104・105は同一個体である。胴部の屈曲部には連続したB突起が施される。また、胴部上半には雲形文が、下半には2条の横位平行沈線文が施される。

4類 大洞C；式に比定されるもの (106~114)

雲形文が直線的になるなどの特徴を持った一群である。鉢・浅鉢・壺形土器が出土している。

B 鉢形土器 (106~108)

107・108は同一個体である。胴部にC字状の雲形文が施される。口縁部と胴部下半には2条の沈線文が、口唇部には刺突文が施される。

C 浅鉢形土器 (109~114)

雲形文が衰退し、直線的なモチーフが描かれたものである。いずれも口縁部には連続する刺突文が施されている。113は、胴部上半にのみ文様が施され、下半は無文となるものである。114は口唇部に2単位の退化したB突起が、1単位の緩やかな突起を挟むように施される。

5類 大洞A式に比定されるもの (115・116)

B 鉢形土器 (115)

115は口縁部破片である。口唇部が外反し、工字文が施されている。

D 台付き鉢・浅鉢形土器 (116)

116は台部破片である。台部には、3条の横位平行沈線文が施されている。

6類 大洞A'式に比定されるもの (117)

E 壺形土器 (117)

117は壺形土器の肩部破片である。肩部には変形工字文が施されている。

7類 聖山式に比定されるもの (118~121)

沈線多重手法によって、連続入組文及び横位連続工字文を施した一群である。昭和48・49年度に東北大学文学部考古学研究室を中心として行われた北海道七飯町聖山遺跡の調査では、連続入組文が施されるものを聖山I式、横位連続工字文が施されるものを聖山II式として報告している(七飯町教育委員会 1979)。聖山式土器は主に北海道西南部から東北地方北部にかけて分布するが、本遺跡における聖山式土器の出土量は少ない。今回の調査では、聖山I式と考えられる鉢形土器と壺形土器が合わせて4点出土している。

B 鉢形土器 (118~120)

118は胴部上半で屈曲した後、頸部に向かって内湾し、口縁部が外反するものである。肩部には平行沈線文が3条巡り、胴部には連続入組文が施される。また、口唇部には刻みと1単位のB突起も施されている。118は口縁部破片である。文様帯の上下をそれぞれ3条の沈線で区画している。内部には入組文が施され、さらに「く」字状の区画文が充填される。

E 壺形土器 (121)

121は口縁部及び胴部下半を欠損する壺形土器である。胴部上半が張り出す器形であり、頸部はやや外反しながら立ち上がる。肩部にはB突起が1単位確認される。しかし、B突起の痕跡が他の箇所にも確認できることから、本来は4単位であったと考えられる。地文には単節LR縄文、胴部上半には連続入組文が施されている。

8類 時期不明のもの (122~189)

縄文時代晩期に属するものと考えられるが、型式認定が困難なものを一括した。器形は、深鉢・鉢・浅鉢・台付き鉢・台付き浅鉢・壺形土器、注口土器・高坏である。

A 深鉢形土器 (122~131)

粗製のものがほとんどである。地文には、単節LR縄文を施すもの(122~125・127)、RL縄文を施すもの(126)、条痕文を施すもの(128・129)、無文のもの(130・131)があり、口縁部は内傾するものが多い。125・127は口縁部に平行沈線文を施すものであり、125は、沈線文の上に1単位のB突起を施すものである。129は、底部付近にも2条の平行沈線文を施している。

B 鉢形土器 (132~156)

粗製のものはあまり見られない。口縁部に2~4条の平行沈線文が施されるものが多い。口縁部の文様及び器形によって縄文時代晩期後半(大洞C₂~A式)のものもあると考えられるが、各型式認定が困難であったためここに一括した。器形には、緩やかに外反しながら立ち上がり、胴部上端で屈曲して内湾した後、頸部で再び屈曲し口縁部が外反するもの(133~139・141・143・155)、頸部の屈曲が緩やかなもの(140)、胴部上端で屈曲するが、頸部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部が外反するもの(132・152)、胴部上端で屈曲し、頸部にやや幅広の無文帯を持ち、口縁部が外反するもの(144)、胴部上半に屈曲部がなく、そのまま外反して立ち上がるもの(150・153)、緩やかに内湾して口縁部に至るもの(145~148・151)がある。胴部上端の屈曲部に突起を持つものがあり(138・140・142・143・155)、大型の把手が施されるものもある(141)。口縁部は、小波状を呈するものと平線のものがある。135・137・139は口縁部が連続したB突起風になっている。156は頸部に3条の平行沈線文が施され、その直上に連続刺突文が施されている。口縁は比厚し、裝飾風の突起が施される。

C 浅鉢形土器 (157)

157は地文に単節LR縄文を施し、口縁部には2条の沈線文が施されている。

D 台付き鉢形・浅鉢形土器 (158~160・181)

158は台付き鉢形土器である。底部から外反しながら立ち上がり、胴部上端で屈曲して内湾した後、頸部で再び屈曲して口縁部が外反する。口縁には刻みが施され、小波状を呈する。口縁部には4条の平行沈線が施され、その上に1単位の突起が付く。胴部には単節RL縄文が横位回転で施される。159・160は台付き浅鉢形土器である。口縁部に2条の平行沈線文が施され、その内部に刺突文列が断続的に施される。口縁部内側には沈線文が巡り、地文には単節LR縄文が施される。

E 壺形土器 (161~180・182~184)

壺形土器を一括した。肩部に沈線文が施されるものもあるが、粗製のものが多い。器形には、短い口縁部が外反するもの(166・173)、頸部に幅広の無文帯を持ち口縁部が外反するもの(162・164・165・168・174・178)、頸部にくびれを持ち口縁部が外反するもの(161・163・167・170・171・172・175・176・177)がある。165・168は胴部上端で大きく内湾するものであり、いずれも縄文時代晩期後半のものと考えられる。184は、口縁部に1単位のB突起が施され、内側には沈線文が施されるものである。地文として単節RL縄文が施されている。169は、遺物集中区出土の無文土器である。胴部上端に帯状の凸帯が巡り、1単位のB突起が施される。また、内外面には赤色顔料が付着し、特に内面の遺存状態がよい。調査時には、土器内に77個の緑色細粒凝灰岩の玉の未製品と考えられる小礫が入った状態で発見されており、祭祀的な用途が考えられる。縄文時代晩期中葉(大洞C₁式?)のものと考えられる。

F 注口土器 (185~187)

注口部のみのものを一括した。すべて縄文時代晩期前半に属すると考えられる。いずれも基部には粘土紐の貼り付けが見られる。187は先端部が外反するものである。粘土紐の上に5単位の粘土粒の貼り付けが施されている。

G 高環 (188)

188は高環の台部と考えられる。上部が欠損しているため全体の器形は不明である。裾部にB突起と考えられる突起が施されているため、晩期のものとした。

H その他 (189)

189は鉢形土器の底部破片と考えられ、絵画的な意匠が施されたものである。底面にはやや凹凸があり、胴部はそこから緩やかに外反しながら立ち上がる。底部には2~3条の沈線文が施されている。その内部には上下2段の沈線が平行に施文されており、その間を湾曲した沈線がつないでいる。この3本の沈線で区画された内部の上半には、斜位の細沈線が施文され、その直下には横位の細沈線が施文されている。さらにその下には、4条の垂下する細沈線が施文されている。また、上段の沈線に接して円形の細沈線が施文される。さらに、上段の沈線と湾曲した沈線の交点からは、爪形状の沈線が連続して施文されている。仮に、円形の細沈線を顔とし、爪形状の沈線を手とすれば衣服を身につけた人物にも見える。また、壑穴住居のような建物にも見えるが、底部の半分を欠損しているため全体の意匠は不明である。
(葛城 和穂)

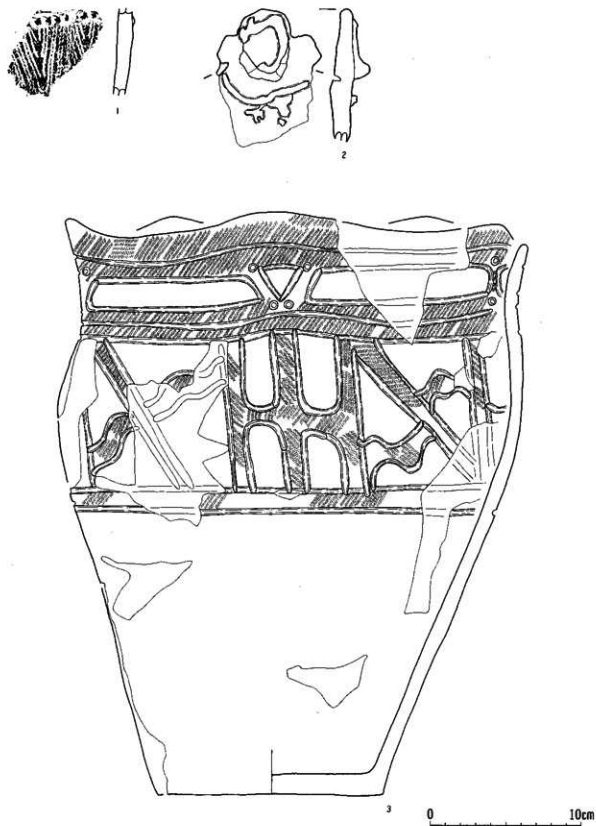


図37 遺構外出土土器(1)

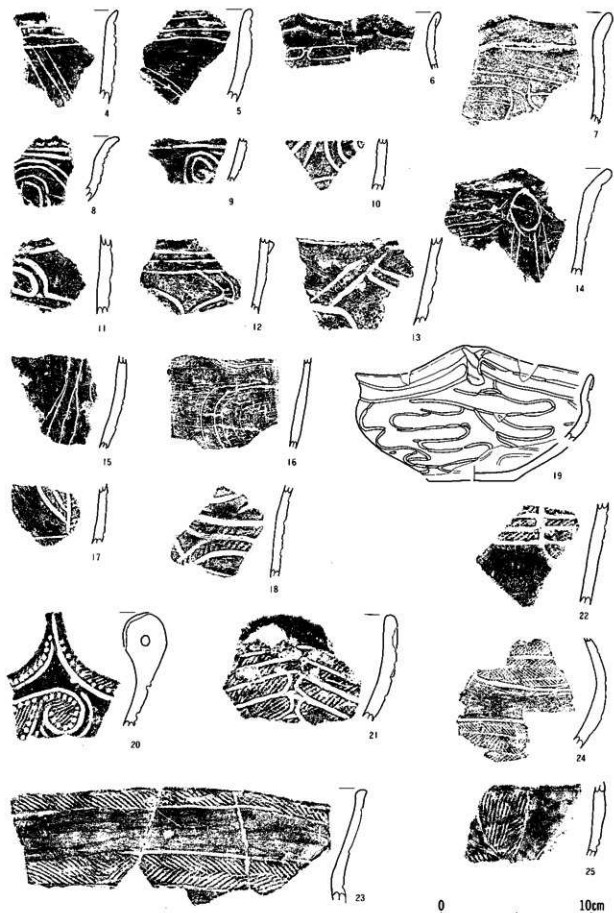


图38 遺構外出土土器(2)

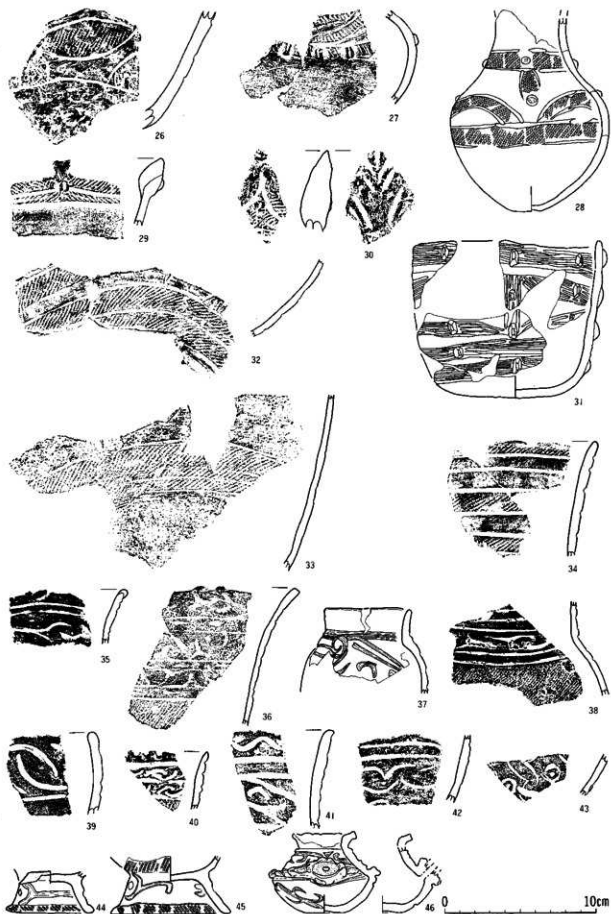


図39 遺構外出土土器(3)

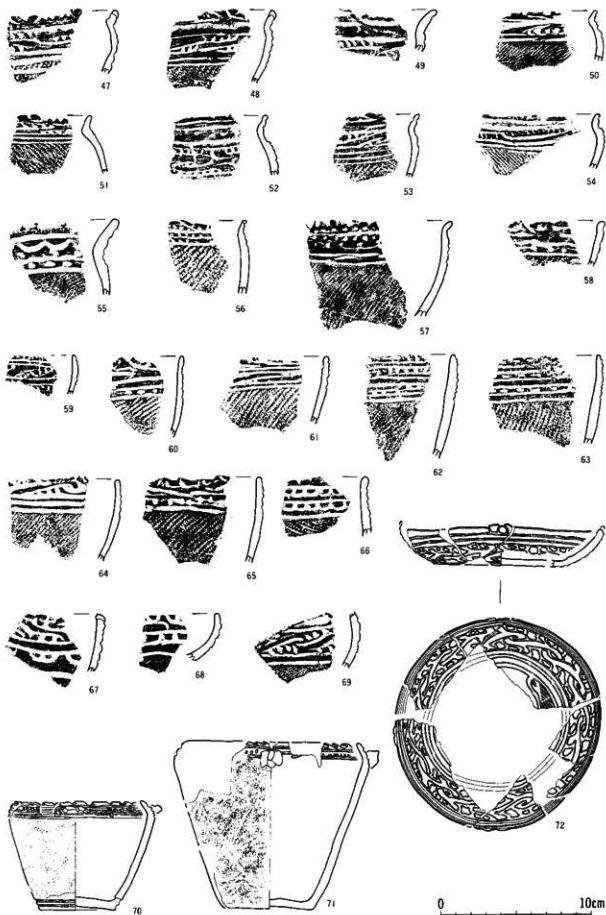


图40 遺構外出土土器(4)

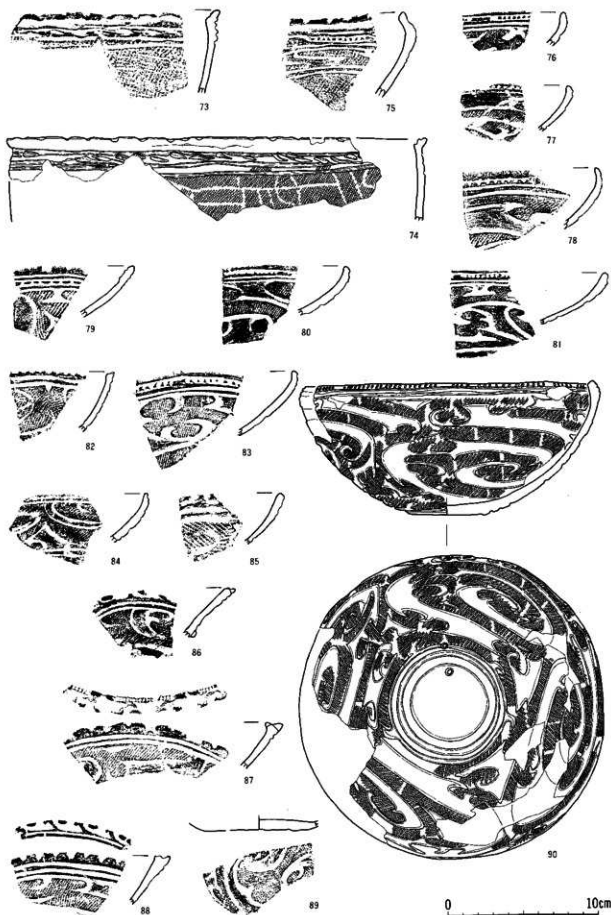


図41 遺構外出土土器(5)

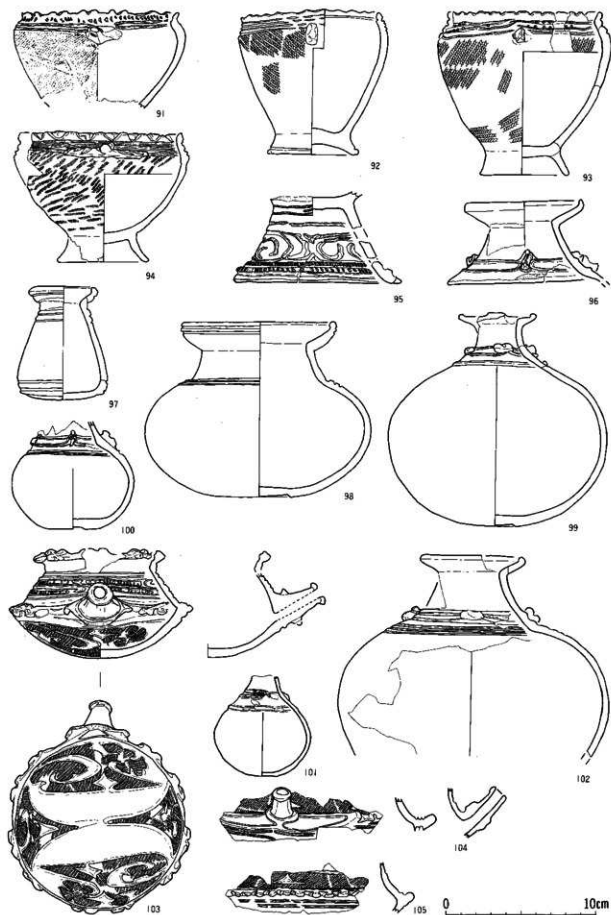


圖42 遺構外出土土器(6)

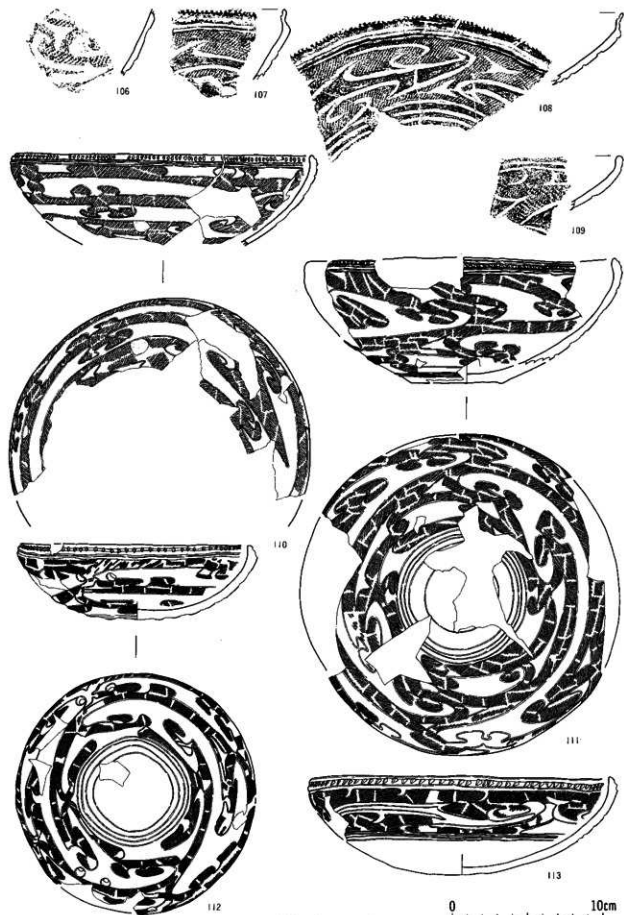


図43 遺構外出土土器(7)

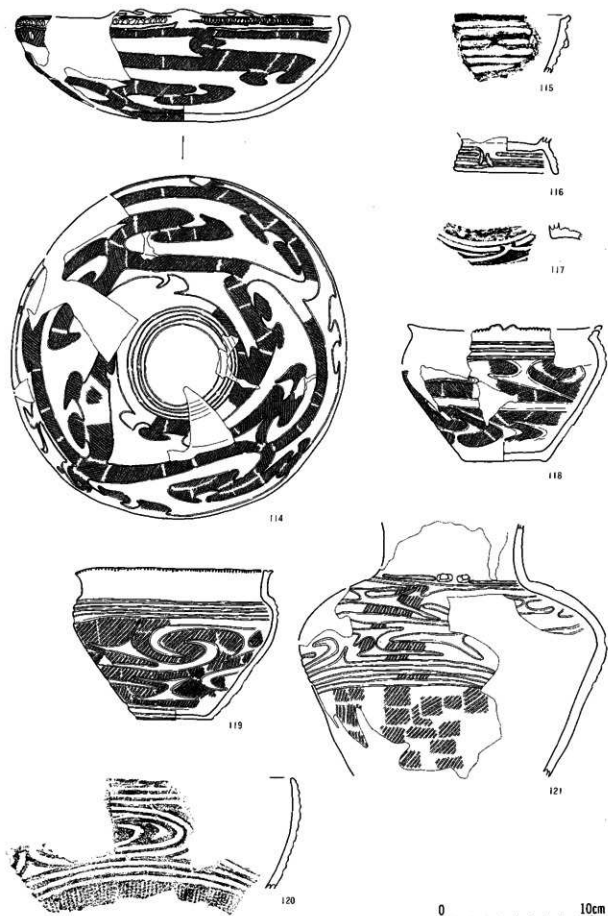
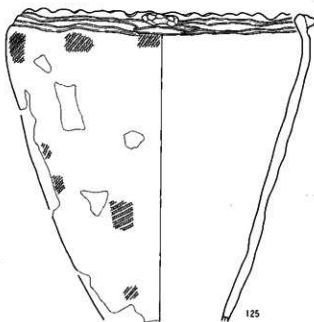
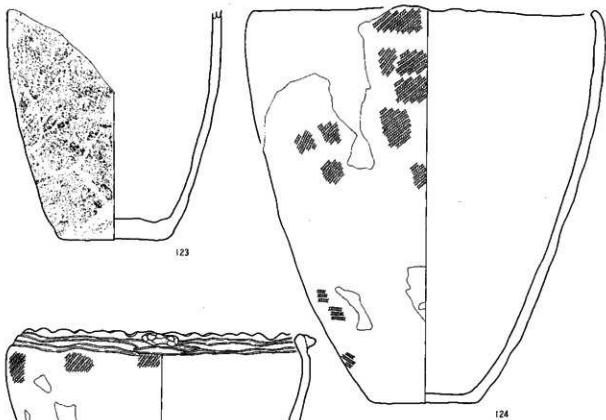
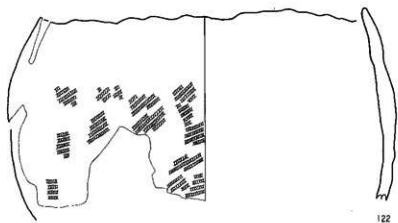


图44 遺構外出土土器(8)



0 10cm

図45 遺構外出土土器(9)



图46 遺構外出土器(10)

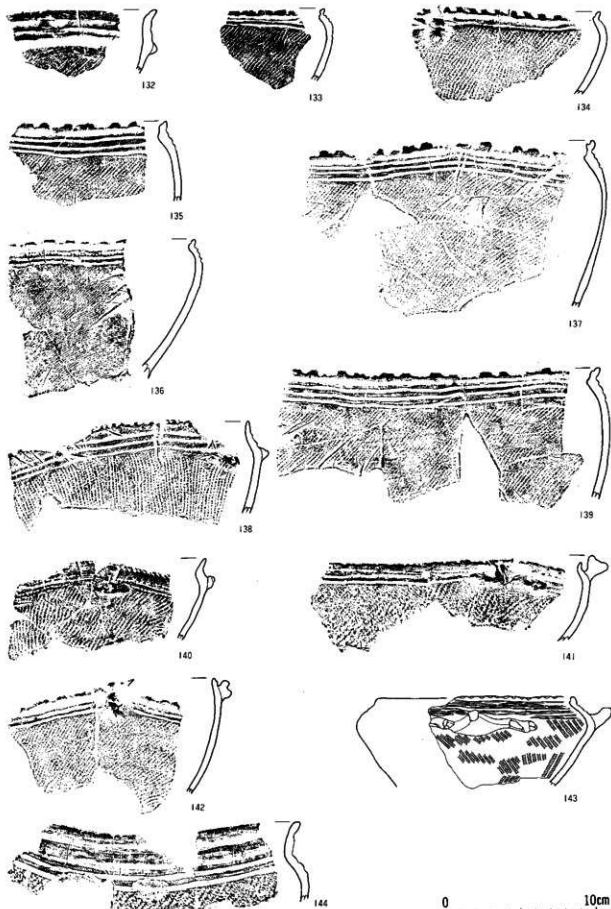


図47 遺跡外出土土器(11)

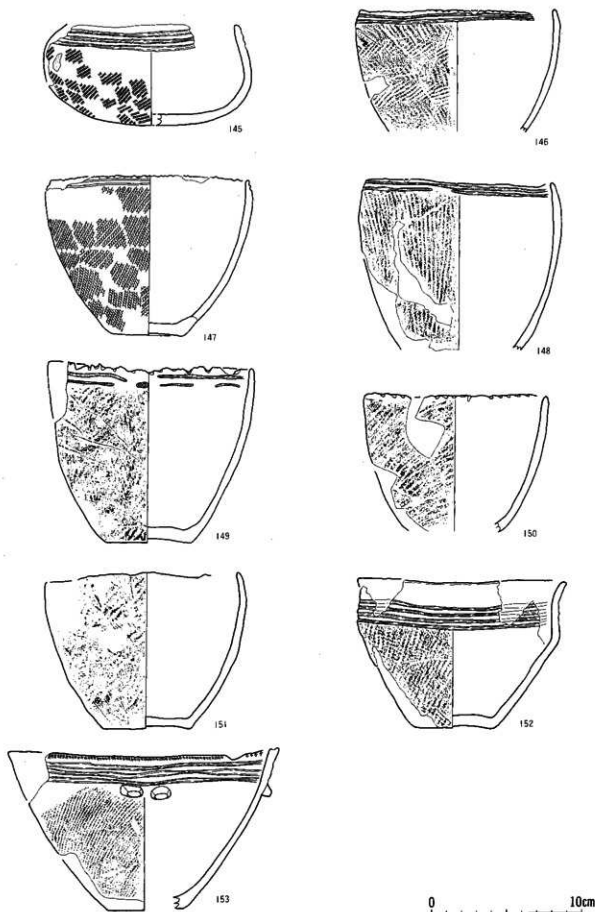
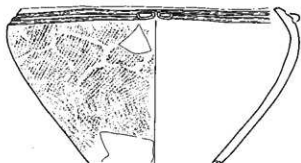
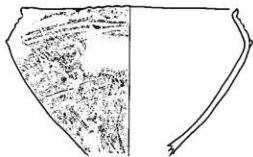


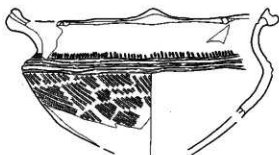
图48 遺構外出土土器(12)



154



155



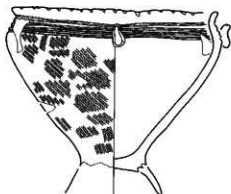
156



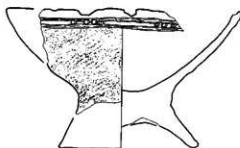
157



159



158



160



161

図49 遺構外出土土器(13)

0 10cm

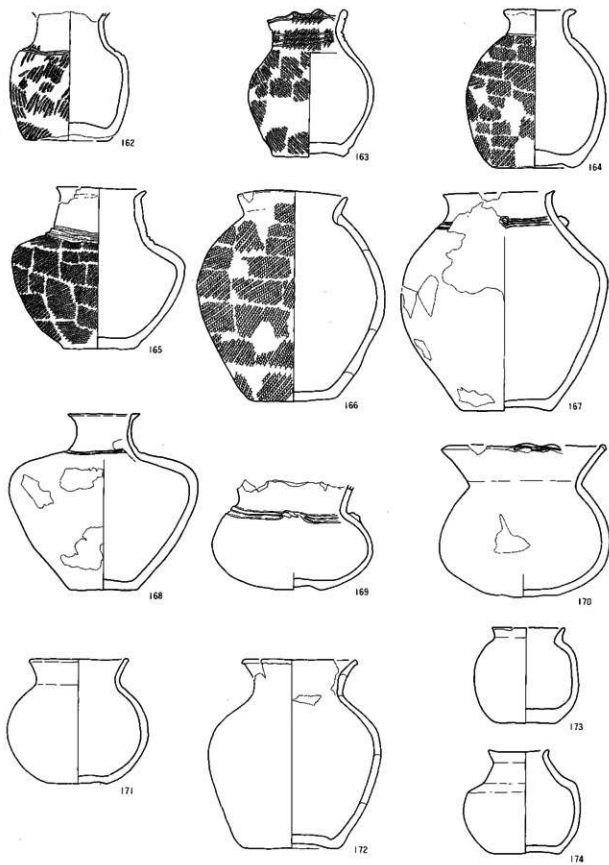


圖50 遺構外出土土器(14)

0 10cm

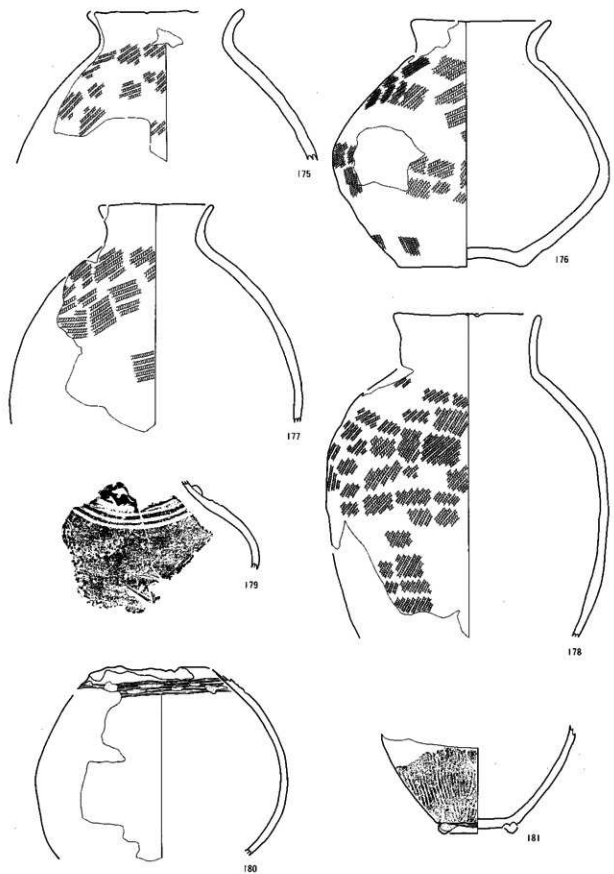


図51 遺構外出土土器(15)

0 10cm

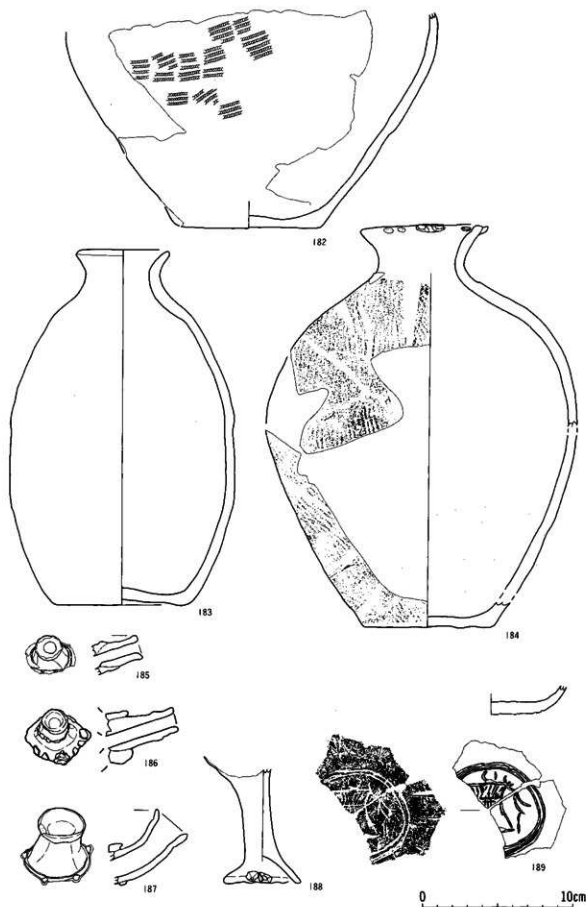


图52 遺構外出土土器(16)

遺構外出土土器観察表

(大きさ=cm)

国	番号	出土地区	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号	
	37	1	I O-68	I層	深鉢	胴部			連続刺突、単軸粘土体1A	ミガキ	I		230	
	37	2	I D-65	I層	深鉢	頂部			粘土粒貼付		II	裏面に方形のくぼみ	188	
	37	3	I E-70	III・IV a層	深鉢	兜形	31	15	38.6	沈線、磨消縄文、刺突	ミガキ	III-1	41	
	38	4	Z-76	I層	深鉢	口縁部				平行沈線、沈線文	ミガキ	III-1	215	
	38	5	Z-76	I層	深鉢	口縁部				平行沈線、沈線文	ミガキ	III-1	234	
	38	6	I D-40	IV層	深鉢	口縁部				波状口縁、沈線文	ミガキ	III-1	252	
	38	7	I A-73	風倒木	深鉢	口縁部				波状口縁、沈線文	ミガキ	III-1	481	
	38	8	I D-74	I層	深鉢	口縁部				平行沈線、渦巻文	ミガキ	III-1	197	
	38	9	I G-63	I層	深鉢	胴部				平行沈線、渦巻文	III-1	外面炭化物付着	207	
	38	10	I G-60	I層	深鉢	胴部					III-1		276	
	38	11	I C-74	III層	深鉢	胴部				沈線文	III-1		319	
	38	12	I D-66	I層	深鉢	胴部				平行沈線、沈線文	III-1		251	
	38	13	I B-75	IV層	深鉢	胴部				沈線文	ミガキ	III-1	海綿骨針	301
	38	14	I D-40	IV層	深鉢	口縁部				波状口縁、沈線文	ミガキ	III-1	173	
	38	15	I D-40	IV層	深鉢	胴部				沈線文	ミガキ	III-1	245	
	38	16	I C-74	IV層	深鉢	胴部				沈線文	ミガキ	III-1	323	
	38	17	I C-71	I層	深鉢	胴部				沈線文	ミガキ	III-1	257	
	38	18	I A-70	IV層	深鉢	胴部				沈線文	ミガキ	III-1	270	
	38	19	I F-70	風倒木	鉢	底部欠損	15.8	(9.0)		沈線文、粘土粒貼付	ミガキ	III-1	折り返し口縁	428
	38	20	Z-73	I層	深鉢	頂部				波状口縁、沈線文、連続刺突、LR(ヨコ)	ミガキ	III-2	海綿骨針、頂部貫通孔	169
	38	21	I V-46	I層	深鉢	口縁部				波状口縁 沈線文、LR(ヨコ)	ミガキ	III-3	海綿骨針	216
	38	22	I W-46	I層	深鉢	胴部				沈線文、LR(ヨコ)	III-3	海綿骨針	205	
	38	23	I D-74	I層	深鉢	口縁部				羽状縄文(LR・RL)、磨消	ミガキ	III-4	外面炭化物付着	152
	38	24	I C-75	IV層	鉢	胴部				羽状縄文(LR・RL)、磨消	ナデ	III-4	343	
	38	25	I D-74	I層	鉢	胴部				羽状縄文(LR・RL)、磨消	ミガキ	III-4	外面炭化物付着	196
	39	26	Z-75	I層	鉢	胴部				LR(ヨコ)、磨消	ミガキ	III-4?	192	
	39	27	I Z-42	I層	壺	胴部				沈線、粘土瘤	ナデ	III-5	382	
	39	28	I F-70	風倒木	壺	口縁部欠損		2.0	(13.3)		粘土瘤、LR(ヨコ)、磨消	III-5	9	
	39	29	I E-72	IV層	深鉢	口縁部				突起、粘土瘤、沈線、羽状縄文(LR・RL)	ミガキ	III-5	口縁内側小突起、炭化物付着	330
	39	30	I A-74	I層	深鉢	頂部				沈線、粘土瘤	ミガキ	III-5	口縁内側沈線	480
	39	31	I Z-42	I層	鉢	略兜形	12.0	5.0	10.5		沈線、粘土瘤	III-5	275	

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
39	32	I B-75	IV層	鉢	胴部				沈線、L R (ヨコ)、磨消	ミガキ	Ⅲ-6		342
39	33	I D-73	IV層	鉢	胴部				沈線、L R (ヨコ)、磨消	ミガキ	Ⅲ-6	内面炭化物付着	460
39	34	I C-67	I層	深鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅲ-6		204
39	35	I B-69	I層	深鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、三文文	ミガキ	Ⅳ-1	内面炭化物付着	209
39	36	I E-65	I層	深鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、三文文、刺突、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-1	外面炭化物付着	249
39	37	I R-55	I層	壺	口縁部	(5.8)		(5.5)	平行沈線、三文文?	ナデ	Ⅳ-1		117
39	38	I D-65	I層	壺	頸部~胴部				平行沈線、三文文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-1	内外面炭化物付着	244
39	39	I D-66	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、沈線、三文文?	ミガキ	Ⅳ-1		261
39	40	I C-71	Ⅲ層	深鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、連続弧線文	ミガキ	Ⅳ-1		364
39	41	I D-73	IV層	深鉢	口縁部				沈線、三文文?	ミガキ	Ⅳ-1	海綿骨針	371
39	42	I E-64	Ⅲ層	鉢	胴部				平行沈線、連続弧線文	ナデ	Ⅳ-1	海綿骨針	370
39	43	I D-73	Ⅲ層	鉢	胴部				円形沈線、弧線文	ミガキ	Ⅳ-1	外面炭化物付着	369
39	44	I A-71	I層	台付鉢?	台部		5.8	(2.8)	刺突、三文文、R L (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-1	裾部に凸帯	175
39	45	I D-66	IV層	台付鉢?	台部		8.0	(3.8)	貫通孔、三文文、R L (ヨコ、斜)	ミガキ	Ⅳ-1	裾部に凸帯	121
39	46	Z-76	I層	注口	注口部欠損	4.2	2.8	5.2	三文文、B突起		Ⅳ-1		7
40	47	I C-71	IV層	鉢	口縁部				小波状口縁、B突起、平行沈線、羊歯状文	ミガキ	Ⅳ-2	口縁内側沈線	335
40	48	I E-64	IV層	鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、羊歯状文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-2	内外面炭化物付着	226
40	49	Z-76	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、B突起、羊歯状文	ミガキ	Ⅳ-2		202
40	50	I C-67	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、羊歯状文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-2	内面炭化物付着	238
40	51	I C-73	Ⅲ層	鉢	口縁部				小波状口縁、B突起、平行沈線、羊歯状文、R L (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-2	口縁内側沈線、内面炭化物付着	303
40	52	I D-65	I層	鉢	口縁部				平行沈線、羊歯状文	ミガキ	Ⅳ-2		191
40	53	I B-75	IV層	鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、羊歯状文、L R (ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-2	内面炭化物付着	360
40	54	I E-66	I層	鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、羊歯状文、R L (ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-2	内外面炭化物付着	203
40	55	I C-75	Ⅲ層	鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、刺突列	ミガキ	Ⅳ-2	内外面炭化物付着	297
40	56	I C-71	Ⅲ層	鉢	口縁部				突起、小波状口縁、平行沈線、刺突列、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-2		318
40	57	I C-67	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、刺突列、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-2	内面炭化物付着	214

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
40	58	I B-71	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、刺突列、L R (ヨコ)		Ⅱ-2	外面炭化物付着	253
40	59	I D-68	I層	鉢	口縁部				平行沈線、半歯状文、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅱ-2		268
40	60	I B-69	Ⅳ層	鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、刺突列、L R (ヨコ)	ナデ	Ⅱ-2		328
40	61	I E-66	I層	鉢	口縁部				口縁B突起、平行沈線、半歯状文、L R (ヨコ)		Ⅱ-2	口縁内側沈線、外面炭化物付着	221
40	62	Z-76	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、刺突列、半歯状文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-2	外面炭化物付着	240
40	63	I B-73	Ⅳ層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、刺突列、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-2	内外面炭化物付着	378
40	64	I B-72	Ⅱ層	鉢	口縁部				平行沈線、半歯状文、L R (ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅱ-2	内外面炭化物付着	304
40	65	I B-71	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、半歯状文、L R (ヨコ)		Ⅱ-2		235
40	66	I E-69	Ⅲ層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、半歯状文?	ミガキ	Ⅱ-2	内外面炭化物付着	294
40	67	I D-73	I層	鉢	口縁部				口縁突起、平行沈線、半歯状文	ナデ	Ⅱ-2	海綿骨針	237
40	68	I E-69	I層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列	ミガキ	Ⅱ-2		233
40	69	I A-76	I層	浅鉢	胴部				平行沈線、半歯状文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-2	外面炭化物付着、海綿骨針	211
40	70	I C-67	Ⅲa層	鉢	略定形	8.5	5.0	7.2	小波状口縁、平行沈線、突起、刺突列、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-2	内面炭化物付着、1996年試掘分	489
40	71	I F-70	風洞木	鉢	略定形	11.6	5.8	11.0	小波状口縁、平行沈線、刺突列、突起、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-2	内外面炭化物付着	46
40	72	I C-66	I層	浅鉢	底部欠損	13.8	(8.4)	2.8	口縁突起、平行沈線、入組文、L R	ミガキ	Ⅱ-2	口縁内側沈線	443・459
41	73	I D-72	Ⅳ層	深鉢	口縁部				小波状口縁、刺突列、平行沈線、L R (ヨコ)	ナデ	Ⅱ-3	74と同一個体	435
41	74	I D-72	Ⅳ層	深鉢	口縁部				小波状口縁、刺突列、平行沈線、L R (ヨコ)	ナデ	Ⅱ-3	73と同一個体	462
41	75	I C-72	Ⅲ層	浅鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、半歯状文、雲形文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-3		338
41	76	I B-73	Ⅳ層	鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、雲形文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-3	外面赤色顔料付着	361
41	77	I D-69	I層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、雲形文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-3		158
41	78	I C-73	Ⅲ層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、雲形文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-3	内外面赤色顔料付着	348
41	79	I B-72	Ⅱ層	浅鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、連続刻み目、雲形文、L R (ヨコ)	ミガキ	Ⅱ-3	内外面赤色顔料付着	354

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
41	80	I C-66	I層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3	内外面赤色顔料付着	199
41	81	I C-74	III層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3		290
41	82	I D-69	I層	浅鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3	口縁内側沈線、内外面赤色顔料付着	242
41	83	I E-64	III層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3		308
41	84	Z-76	I層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3		259
41	85	I D-69	I層	浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突、雲形文、RL (ヨコ)	ミガキ	IV-3	内面赤色顔料付着	243
41	86	I D-64	I層	浅鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3	口縁内側連続キザミ	247
41	87	I A-71	IV層	浅鉢	口縁部				口唇部B突起、平行沈線、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3	口縁内側連続キザミ、口縁内側B突起、内外面赤色顔料付着	186
41	88	I E-70	III層	浅鉢	口縁部				口唇部B突起、平行沈線、雲形文、LR (ヨコ・斜)	ミガキ	IV-3		291
41	89	I E-71	III層	鉢?	底部				雲形文、LR		IV-3		356
41	90	I E-73	IV層	浅鉢	完形	19.0	4.1	8.6	平行沈線、刺突列、雲形文、LR (ヨコ)	ミガキ	IV-3	海綿骨針、内外面赤色顔料付着、補修孔、遺物集中区P-16	11
42	91	I D-73	IVa層	鉢	底部欠損	10.8		(6.3)	小波状口縁、刺突列、平行沈線、B突起	ミガキ	IV-3	口縁内側沈線	35
42	92	I C-71	III層	台付	完形	9.3	6.1	9.6	小波状口縁、平行沈線、B突起、RL (ヨコ)、裾部沈線	ナデ	IV-3	口縁内側沈線、内外面炭化物付着	6
42	93	I C-72	IVa層	台付	完形	10.2	5.8	10.9	小波状口縁、平行沈線、刺突列、B突起、LR (ヨコ)	ナデ	IV-3	内外面炭化物付着、遺物集中区P-5	5
42	94	I C-72	IVa層	台付	完形	10.9	6.0	8.6	平行沈線、直前段反摺L.L. (ヨコ)、突起、口唇部キザミ	ナデ	IV-3	内外面炭化物付着	16
42	95	ハイド	風倒木	台付	台部				平行沈線、透し孔、刺突列		IV-3		76
42	96	I C-72	IVa層	壺	口縁～頸部	(7.8)		(5.4)	貼付隆線、B突起	ミガキ	IV-3	内外面赤色顔料付着	490
42	97	I C-71	IV層	壺	完形	4.5	5.6	7.5	平行沈線	ミガキ	IV-3	海綿骨針、外面ミガキ	8
42	98	I A-75	風倒木	壺	完形	10.3	4.5	11.6	平行沈線	ミガキ	IV-3	内外面赤色顔料付着	1
42	99	I F-70	風倒木	壺	完形	(5.2)	3.0	14.1	貼付隆線、B突起	ミガキ	IV-3	内外面赤色顔料付着	2
42	100	Z-72	I層	壺	口縁部欠損		3.3	(7.1)	平行沈線、貼付隆線、B突起	ミガキ	IV-3	底部に脚状の極小突起 (4単位)	452

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
42	101	I E-71	Ⅲ層	壺	口縁部欠損		2.0	(6.6)	貼付沈線、B突起		Ⅳ-3	外面赤色顔料付着	63
42	102	I F-71	Ⅲ層	壺	胴部上半	(6.7)		(13.2)	平行沈線、貼付沈線、B突起		Ⅳ-3	外面赤色顔料付着、1996年度試掘分	491
42	103	I R-70	風倒木	注口	完形	(8.8)	3.5	7.0	口唇部B突起、半歯状文、B突起、雲形文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-3		4
42	104	I E-63	Ⅳ層	注口	胴部				平行沈線、雲形文、B突起、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-3	105と同一個体	176
42	105	I E-63	Ⅳ層	注口	胴部				平行沈線、雲形文、B突起、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-3	104と同一個体	220
43	106	I E-63	I層	鉢	胴部				雲形文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-4		260
43	107	I D-70	Ⅳa層	鉢	口縁部				平行沈線、雲形文、LR(ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-4	内面炭化物付着、108と同一個体	311
43	108	ハイド		鉢	口縁部				平行沈線、雲形文、LR(ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-4	内外面炭化物付着、107と同一個体	147
43	109	I D-70	Ⅲ層	洗鉢	口縁部				平行沈線、雲形文、RL(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-4	海綿骨針	284
43	110	I E-63	Ⅳ層	洗鉢	胴部上半	(19.8)		(6.0)	刺突列、平行沈線、雲形文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-4	海綿骨針	449
43	111	I A・F-70	風倒木	洗鉢	完形	20.3	5.0	8.4	刺突列、平行沈線、雲形文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-4	海綿骨針、内外面赤色顔料付着	130
43	112	I F-70	風倒木	洗鉢	完形	15.3	3.5	5.0	刺突列、平行沈線、雲形文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-4	内外面赤色顔料付着、補修孔	31
43	113	I E-72	Ⅳ層	洗鉢	完形	19.7	3.6	6.6	刺突列、平行沈線、雲形文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-4	遺物集中区P-3	28
44	114	I F-70	風倒木	洗鉢	完形	21.8	5.7	7.5	突起、刺突列、平行沈線、雲形文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-4	補修孔、内外面赤色顔料付着	54
44	115	I H-62	I層	鉢	口縁部				工字文	ミガキ	Ⅳ-5		195
44	116	I C-76	I層	台付	台部				平行沈線		Ⅳ-5		171
44	117	I A-72	I層	壺	胴部				雲形工字文	ミガキ	Ⅳ-6		264
44	118	I E-63	Ⅳ層	鉢	略完形	13.0	5.2	9.1	口唇B突起、平行沈線、連繫入組文、LR(ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-7	内面炭化物付着	48
44	119	I E-63	Ⅳ層	鉢	完形	13.6	5.2	9.9	平行沈線、連繫入組文、LR(ヨコ)、口唇部キザミ・沈線	ミガキ	Ⅳ-7	内外面炭化物付着	58
44	120	I E-72	Ⅲ層	鉢	口縁部				平行沈線、連繫入組文、RL(斜)	ミガキ	Ⅳ-7	内外面炭化物付着	118
44	121	I E-63	Ⅲ層	壺	胴部~胴部				平行沈線、B突起、連繫入組文、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-7		56
45	122	I D-72	Ⅳ層	深鉢	胴部上半	21.7		(12.6)	小波状口縁、LR(ヨコ)	ナデ	Ⅳ-8	外面炭化物付着	132
45	123	I A-70	風倒木	深鉢	胴部下半			7.0	LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	海綿骨針、外面炭化物付着	38

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
45	124	I C-72	IV a層	深鉢	略完形	22.8	6.8	26.1	小波状口縁、L R (ヨコ)		IV-8	内外面炭化物	131
45	125	I E-73	IV層	深鉢	底部欠損	18.4		(20.3)	小波状口縁、平行沈線、B突起、L R (ヨコ)	ナデ	IV-8	内外面炭化物	53
46	126	I F-70	IV層	深鉢	胴部				L R (斜)		IV-8	内外面炭化物	497
46	127	I B-69	I層	深鉢	口縁~胴部				L R (ヨコ・斜)、R L (ヨコ・斜)	ナデ	IV-8	内面炭化物付着	454
46	128	Z-76	I層	深鉢	胴部				条痕文	ミガキ	IV-8		222
46	129	I U-47	I層	深鉢	略完形	11.5	(7.0)	14.7	平行沈線、条痕文	ミガキ	IV-8	内外面炭化物、底面剥落	52
46	130	I C-72	IV a層	深鉢	口縁部				小波状口縁、無文		IV-8	外面炭化物付着、131と同一個体	210
46	131	I C-72	IV a層	深鉢	口縁部				小波状口縁、無文		IV-8	外面炭化物付着、130と同一個体、遺物集中区P-4	383
47	132	Z-76	I層	鉢	口縁部				平行沈線、粘土瘤、L R (ヨコ)	ミガキ	IV-8	内面炭化物付着	217
47	133	I D-66	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、L R (ヨコ)	ミガキ	IV-8	内面炭化物付着、口縁内側沈線	194
47	134	I D-66	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、粘土瘤、L R (ヨコ)	ミガキ	IV-8	内面炭化物付着、口縁内側沈線	250
47	135	I B-68	IV層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、L R (ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着、口縁内側沈線、137・139と同一個体	292
47	136	I C-72	IV層	鉢	口縁部				小波状口縁、刺突列、平行沈線、L R (ヨコ)	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着、口縁内側沈線	187
47	137	I B-68	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、L R (ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着、口縁内側沈線、135・139と同一個体	456
47	138	I E-72	IV層	鉢	口縁部				刺突列、平行沈線、粘土瘤、L R (ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	IV-8	海綿骨針、遺物集中区P-7	100
47	139	I B-68	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、L R (ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着、口縁内側沈線、135・137と同一個体	440
47	140	I E-72	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、粘土瘤、R L (斜)	ミガキ	IV-8	内面炭化物付着	437
47	141	I C-74	IV層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、突起、L R (ヨコ)	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着	119
47	142	I B-72	IV層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、B突起、L R (ヨコ)	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着	122
47	143	I G-61	I層	鉢	口縁部				小波状口縁、平行沈線、大型突起、B突起、R L (ヨコ)	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着	184

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号	
47	144	I E-72	Ⅲ層	鉢	口縁部				平行沈線、RL(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着	431	
48	145	I C-72	Ⅳa層	鉢	略完形	(11.3)	4	6.7	平行沈線、LR(ヨコ)	ナデ	Ⅳ-8	遺物集中区P-11	86	
48	146	I E-63	Ⅳ層	鉢	胴部上半	13.1		(8.1)	小波状口縁、平行沈線、羽状縄文(LR・RL)	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着	60	
48	147	I E-63	Ⅳ層	鉢	完形	13.2	4.6	10.5	小波状口縁、平行沈線、LR(ヨコ)	ナデ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着	3	
48	148	I A-70	風倒木	鉢	胴部上半	12.3		(11.3)	平行沈線、RL(斜)	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着	78	
48	149	I D-72	Ⅳa層	鉢	略完形	(13.4)	5.7	11.5	小波状口縁、平行沈線、L(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	外面炭化物付着	44	
48	150	I E-63	Ⅳ層	鉢	底部欠損	12.2		(9.0)	小波状口縁、	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着	66	
48	151	ハイド	風倒木	鉢	完形	12.9	5.8	10.4	LR(ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着、表面摩滅	75	
48	152	I D-63	I層	鉢	略完形	(13.7)	5.0	9.7	平行沈線、B突起、LR(ヨコ)、口唇部キザミ・沈線	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着	23	
48	153	I E-63	Ⅲ層	鉢	略完形	(17.6)	(5.1)	10.7	平行沈線、B突起、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	内面炭化物付着	39	
49	154	I E-63	Ⅲ層	鉢	胴部			(10.5)	平行沈線、B突起、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	内面炭化物付着	36	
49	155	I E-72	Ⅳ層	鉢	底部欠損	14.4		(9.9)	小波状口縁、平行沈線、粘土瘤、RL(ヨコ・斜)	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着、口縁内側沈線、遺物集中区P-4・6	114	
49	156	ハイド	風倒木	鉢	胴部上半	16.6		(9.7)	口縁部突起、連続キザミ、平行沈線、RL(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着、口縁内側沈線	77	
49	157	I F-70	風倒木	鉢	完形	11.0	3.8	3.8	平行沈線、LR(ヨコ)	ナデ	Ⅳ-8		43	
49	158	I E-63	Ⅳ層	台付鉢	略完形	13.7	(6.4)	12.2	小波状口縁、平行沈線、突起、RL(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	内外面炭化物付着	50	
49	159	I E-72	Ⅳ層	台付浅鉢	口縁部				平行沈線、刺突列、LR(ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-8	遺物集中区P-13、160と同一個体	146	
49	160	I E-72	Ⅳ層	台付浅鉢	略完形	(15.6)	9.1	9.1	平行沈線、刺突列、LR(ヨコ)、口唇部キザミ	ミガキ	Ⅳ-8	表面摩滅、遺物集中区P-13、159と同一個体	99	
49	161	I F-70	Ⅳ層	壺	口縁部				LR(ヨコ)		Ⅳ-8		495	
50	162	I C-67	I層	壺	口縁部欠損	(5.8)	(8.5)		平行沈線、L(ヨコ)		Ⅳ-8	底面剥落	18	
50	163	I E-72	Ⅲ層	壺	完形	4.5	4.5	9.6	口縁部突起、平行沈線、RL(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8		13	
50	164	I E-72	Ⅳ層	壺	完形	4.8	5.4	10.5	沈線、LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	遺物集中区P-11	17	
50	165	I E-63	Ⅲ層	壺	略完形	(6.0)	4.5	10.6	平行沈線、LR(ヨコ)		Ⅳ-8		12	
50	166	I C-72	Ⅳa層	壺	略完形	7.2	5.6	14.1	LR(ヨコ)	ミガキ	Ⅳ-8	遺物集中区P-9	19	
50	167	I C-72	Ⅳa層	壺	略完形	7.5	6.0	14.4	平行沈線、粘土瘤、	ミガキ	Ⅳ-8	遺物集中区P-2	68	
50	168	I D-64	I層	壺	略完形	4.8	4.4	11.7	沈線	ミガキ	Ⅳ-8	内外面赤色顔料付着	62	
50	169	I F-70	Ⅳ層	壺	口縁部欠損			3.2	(6.7)	隆線、B突起、	ミガキ	Ⅳ-8	内外面赤色顔料付着、玉未製品77個含む	455

(大きさ=cm)

図	番号	出土位置	出土層位	器種	部位	口径	底径	器高	外面文様	内面調整	分類	備考	整理番号
50	170	I F-70	風倒木	壺	完形	11.0	3.5	10.1	口縁部突起	ミガキ	IV-8	内外面赤色顔料付着、口縁部内側沈線	51
50	171	I F-70	風倒木	壺	完形	6.5	4.0	8.1	無文		IV-8		21
50	172	I D-73	IV a層	壺	略完形	(7.0)	6.2	12.4	無文		IV-8		20
50	173	I A-71	IV層	壺	略完形	6.3	4.0	4.9	無文		IV-8		477
50	174	I C-71	III層	壺	完形	4.1	4.6	6.8	無文		IV-8		476
51	175	I E-73	IV層	壺	胴部上半				LR (ヨコ)	ナデ	IV-8	遺物集中区P-19	123
51	176	I F-70	IV層	壺	略完形	6.3	8.2	16.2	LR (ヨコ)	ナデ	IV-8		113
51	177	I F-69	I層	壺	胴部上半	7.6		(14.4)	LR (ヨコ)		IV-8		71
51	178	I B-71	IV層	壺	胴部上半	9.7		(21.4)	LR (ヨコ)	ナデ	IV-8		96
51	179	I A-75	風倒木	壺	頸部				突起、平行沈線	ミガキ	IV-8		271
51	180	I C-67	III a層	壺	胴部				平行沈線	ミガキ	IV-8	1996年度試掘分	492
51	181	I A-70	風倒木	台付鉢	胴部下半				RL (斜)	ミガキ	IV-8	内外面炭化物付着	40
52	182	I F-70	IV層	壺	胴部下半		9.0	(14.5)	LR (ヨコ・斜)		IV-8		479
52	183	I E-73	IV層	壺	完形	6.2	8.6	23.5	無文	ナデ	IV-8		49
52	184	I D-66	I層	壺	略完形	8.7	8.7	26.6	口縁部B突起、RL (ヨコ)	ナデ	IV-8	口縁部内側沈線	160
52	185	I B-75	IV層	注口	注口部				隆帯		IV-8		332
52	186	I F-63	I層	注口	注口部				隆帯、粘土瘤		IV-8		177
52	187	I B-72	IV層	注口	注口部				隆帯、粘土瘤		IV-8		337
52	188	I E-63	IV層	高坏	脚部		5.2	(7.5)	無文		IV-8	裾部に突起	168
52	189	I E-64	III層	鉢?	底部				沈線		IV-8	底面に線刻	375

第3節 石 器

1 剥片石器

【石鏃】(図53～55・写真68)

110点出土しており、そのうち82点を図示した。

- 1 無茎石鏃 無茎石鏃は(1)のみである。両側縁が直線的で平面形は二等辺三角形を呈する。
- 2 有茎石鏃 本遺跡の石鏃の大半を占めており、以下のように細分される。
 - I 茎の基部に抉りが入るもので、以下のような形態がある。
平面形が小さく茎が短いもの(2・3)。平面形が幅広く茎が短いもの(4～11)。平面形がやや細身に茎が長いもの(12～21)。平面形が長い細身に茎が短いもの(22～26)。平面形が長く細身に茎が長いもの(27・28)。
 - II 茎の基部に顕著な抉りが入らないもので、以下のような形態がある。
平面形が幅広く茎が短いもの(29～34)。平面形がやや細身に茎が短いもの(35～42)。平面形が長い細身に茎が短いもの(43)。平面形が長い細身に茎が長いもの(44)。
 - III 基部の長さが平面形の半分程度のもの(45～52)である。
 - IV 抉りがないものであり、菱形のもの(53～63)、棒状のもの(64～66)がある。
 - V 茎の基部にわずかに抉りが入るもの(67～70)である。
 - VI 両側縁に肩状の段をもつもの(71・72)である。

この他、基部が折損しているもの(73～80)。製作途中と思われるもの(81・82)がある。アスファルトの付着しているものは、9点出土した。すべて基部に付着していることから欠柄への固着に使用されたと考えられる。石質は珪質頁岩と頁岩が主体であるが、(1)はメノウ、(74)は黒曜石、(65)は石英である。

【尖頭器】(図56・写真69)

10点出土し、そのうち9点を図示した。欠損したもの(83～87)と完形のもの(88～91)がある。石質はすべて珪質頁岩である。

【石錐】(図56・写真69)

10点出土し、すべてを図示した。棒状のもの(92～94)、剥片に短い錐部を作り出すもの(95～97)、柄部と錐部を持つもの(98～101)に分けられる。加工は急角度で、柄部を明瞭に作り出していないものが多く、石質はすべて珪質頁岩である。

【円形搔器】(図57・写真69)

4点(102～105)出土し、すべてを図示した。平面形は不整形円で、調整により急角度の刃部を作り出されている。石質は珪質頁岩である。

【石筥】(図57・写真69)

石筥は6点出土し、5点を図示した。形状は平面形が楕円形もの(106~107)、頭部がすばまるもの(108~110)がある。刃部は106・107・108が弧状を呈し、109・110が直線的である。石質はすべて珪質頁岩である。

【石匙】(図58~60・写真69・70)

26点出土しており、縦型石匙(111~122)と横型石匙(124~134)に分類される。その他、縦型と横型の柄み部をあわせもつ折衷型の石匙(123)や横型で柄み部を2ヶ所にもつ異形の石匙(135)がある。石質はすべて珪質頁岩である。

【不定形石器】(図61~62・写真70)

8点出土しており、削器として使用されたとみられるもの(136~141)と平面形が台形状をなすもの(142)、抉り入りのあるもの(143・144)がある。スクレイパーとして使用されたとみられるものには、刃部が1辺にあるものと2辺にあるものがある。1辺にあるもの(136~139)には片面調整のもの(136・137)と両面調整のもの(138・141)がある。2辺にあるもの(140~141)は両面調整されている。(142)は両側縁を両面調整をしている。抉り入りのあるものうち(143)は側縁に両面調整が行われ、(144)は抉り部周辺を中心に両面調整がなされている。石質は珪質頁岩である。

【石核】(図62・写真70)

黒曜石の石核(145)が1点出土している。

2 礫石器

【磨製石斧】(図63・写真71)

15点出土し、すべてを図示した。完形品がなく、すべて破損品である。146~152は刃部から基部まで残存している。152が円刃であるが、他は平刃である。153~160は基部及び基部から刃部を欠損している。147・155には敲きの痕跡がみられる。

【敲磨器】(図64~66・写真71)

敲きおよび磨りが主体的に行われたものである。34点出土し、うち14点を図示した。161~163は表裏面を除き側面を一回りするように敲きがみられる。164は両端部に敲きがみられる。165は表裏面と両側面に敲きが見られる。166は両端部を敲いている。167は長軸方向の片面を敲いている。168は表裏面と両側面に敲きが見られる。169は両端部を敲いており、表面にも敲きが見られる。170は表裏面に敲きがみられる。171は表裏面・側面に敲きがみられる。172は表裏面の中心部分と周縁に敲き、表裏面に磨りの痕跡が見られる。全体に赤色顔料の付着がみられる。173は円礫をそのまま使用しているが、平坦な磨り面を形成していない。磨り面には赤色顔料が付着している。敲きの痕跡もみられる。174は表面に敲きが見られるほか、表裏面に磨った痕跡が見られ、赤色顔料が部分的に付着している。175は表裏面に磨り面があり、平坦な磨り面を形成している。左側面には敲きの痕跡がある。

【凹み石】(図67～80・写真72・73)

礫の表面に凹みがあるものである。282点出土し、うち75点を図示した。凹みの他に敲き、磨りのみられるものがあり、それらも含めた。凹みは1～5面にあり、2面以上に凹みがあるものの大半が表裏面で対称な位置に凹みを持っている。また、凹みが単独のものと同数のものが存在する。1面にみに凹みがあるもの(176～190)は15個体であり、183と186には敲きの痕跡がみられ184と187には磨りがみられる。2面に凹みがあるもの(191～233)は43個体である。209は両側面に敲きがみられる。3面に凹みがあるもの(234～249)は16個体であり、238・249は敲き、240は磨りと敲きがみられる。4面に凹みがあるもの(250～257)は8個体である。5面に凹みがあるもの(258)だけである。2面に凹みがあるものが図示した中でもっとも多く、全体の57%を占める。図示し得なかったものを合わせると、1面に凹みがあるものは30%、2面に凹みがあるものは60%、3面に凹みがあるものは7%、4面に凹みがあるものは3%という割合である。凹みの形態については前回の報告(青森県教育委員会 1999)で断面形がU字状になるもの、V字状を呈するもの、底面中央が溝状になっているもの3種類がある旨報告されているが、今回も同様の様相を呈している。

【石皿】(図81～86・写真74)

29点出土し、20点を図示した。種々な形態があり、周囲に周縁のような縁をつくり出しているもの(259～265)、260の裏面には凹みが見られ、265には黒色物質が付着している。礫に浅く凹んだ面を作り出しているもの(266～268)。平坦な礫にくぼんだ面を作り出しているもの(270～277)。270・276の凹みには赤色顔料が付着している。また、石皿の中央部が高くなっている、いわゆる中高石皿(278・279)がある。石質は安山岩と凝灰岩である。

【石錘】(図87・写真74)

石錘は(280～282)の3点が出土している。短軸の両側縁を打ち欠いたもので、いずれも分銅型を呈している。石質は凝灰岩と花崗岩である。

【擦切具】(図87・写真74)

板状礫の縁辺部に刃部を作り出しているものであり、両端部を欠損している。敲打により整形した後、研磨して急角度の刃部を作り出している。刃部には研磨痕の他に使用痕とみられる斜位・横位方向の擦痕が残されている。石質は砂岩である。

【用途不明石器】(図87・写真74)

284は杵に似た形状に加工されたもので、段状に隆起して太くなる部分を持っている。端部には磨りの痕跡がみられる。石質は安山岩である。285は板状節理により分割された角柱状の流紋岩を用い、挟り部を作り出したものである。欠損しているため、全体の形状は不明である。(齊藤 正)

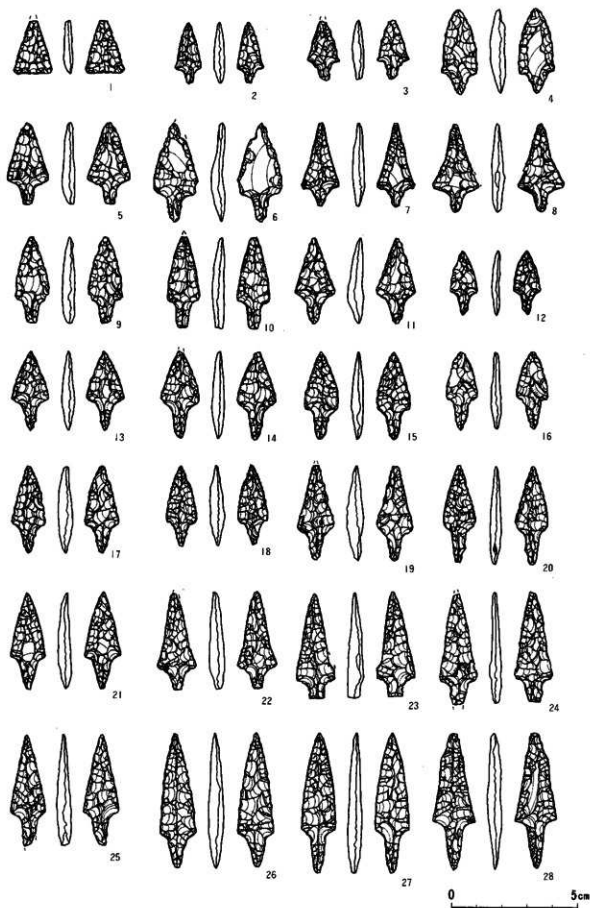


圖53 遺構外出土石器(1)

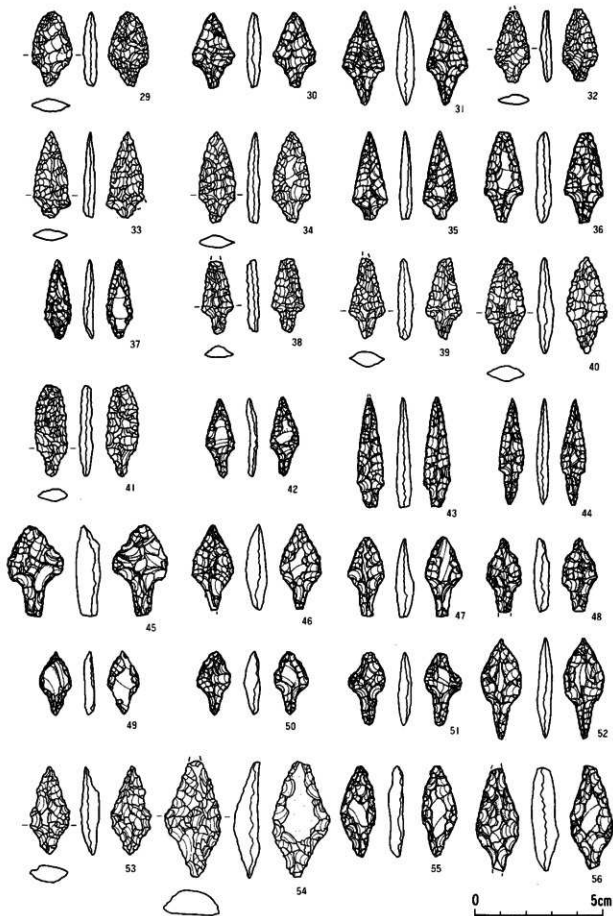


図54 遺構外出土石器(2)

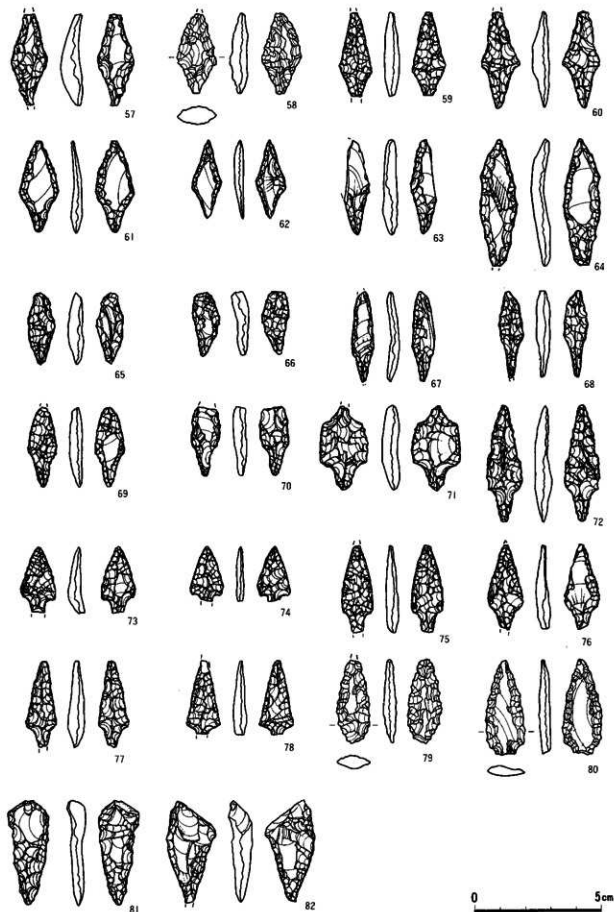


圖55 遺構外出土石器(3)

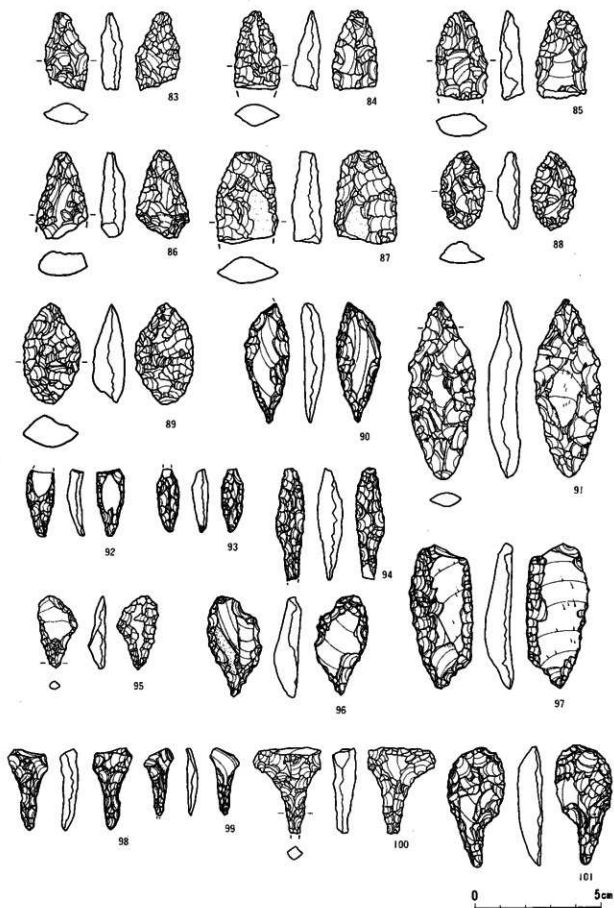


図56 遺構外出土石器(4)

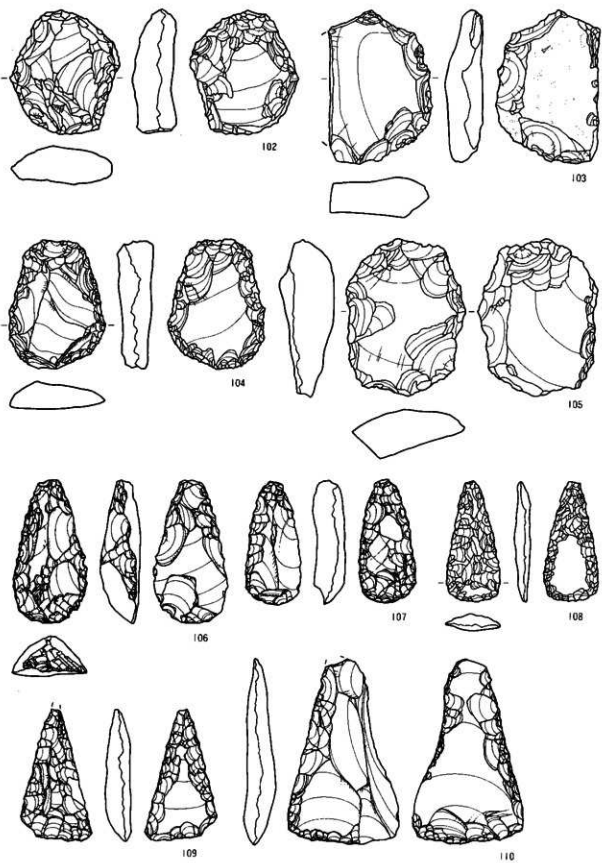


圖57 遺構外出土石器(5)

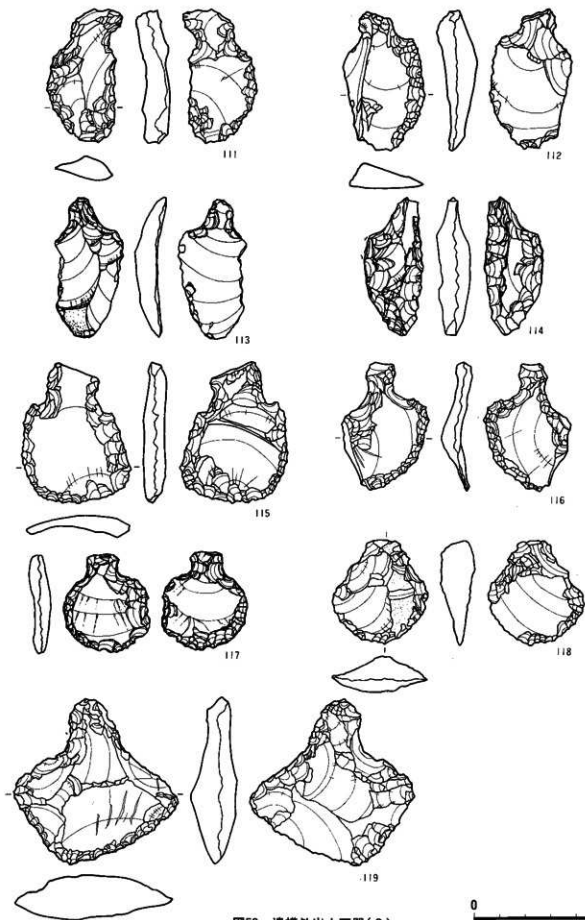


図58 遺構外出土石器(6)

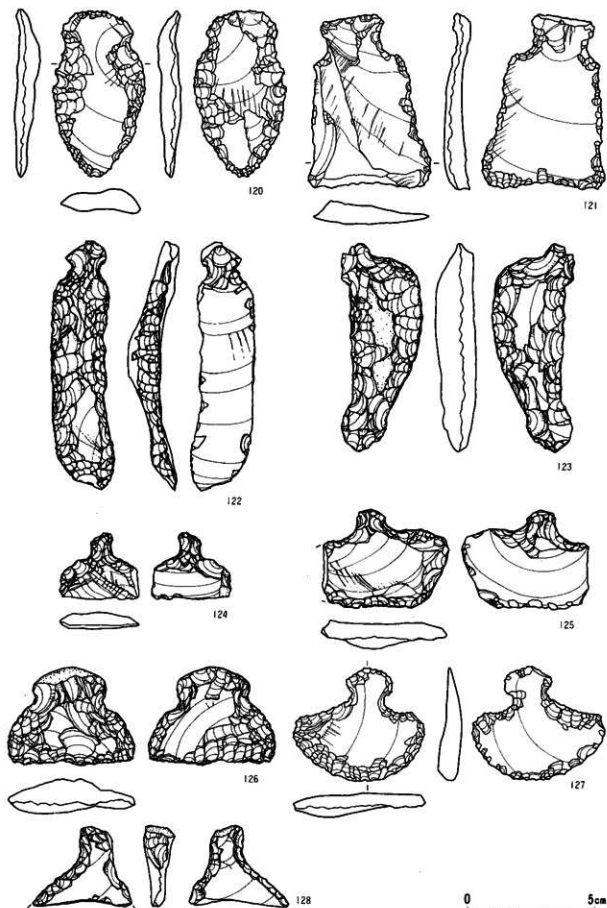


図59 遠禰外出土石器(7)

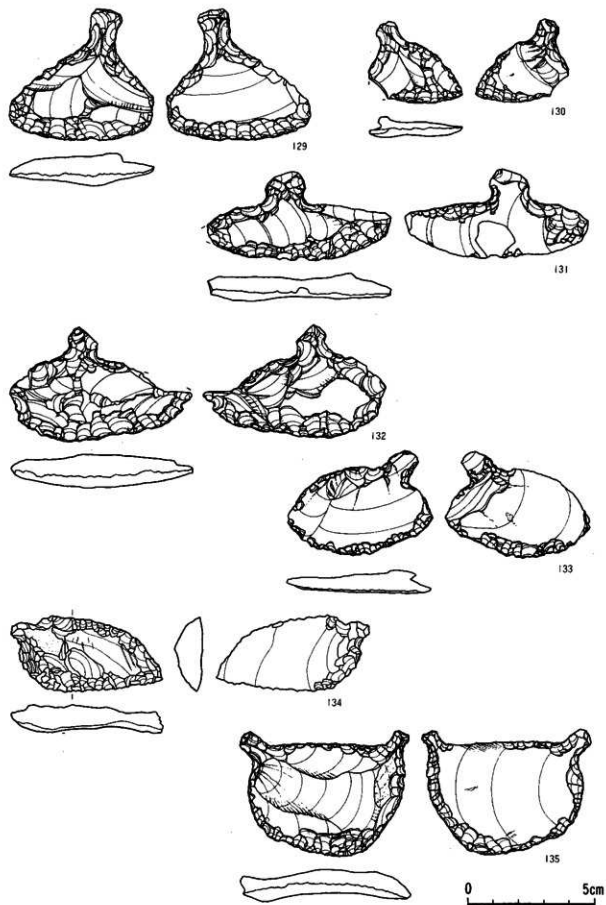


図60 遺構外出土石器(8)

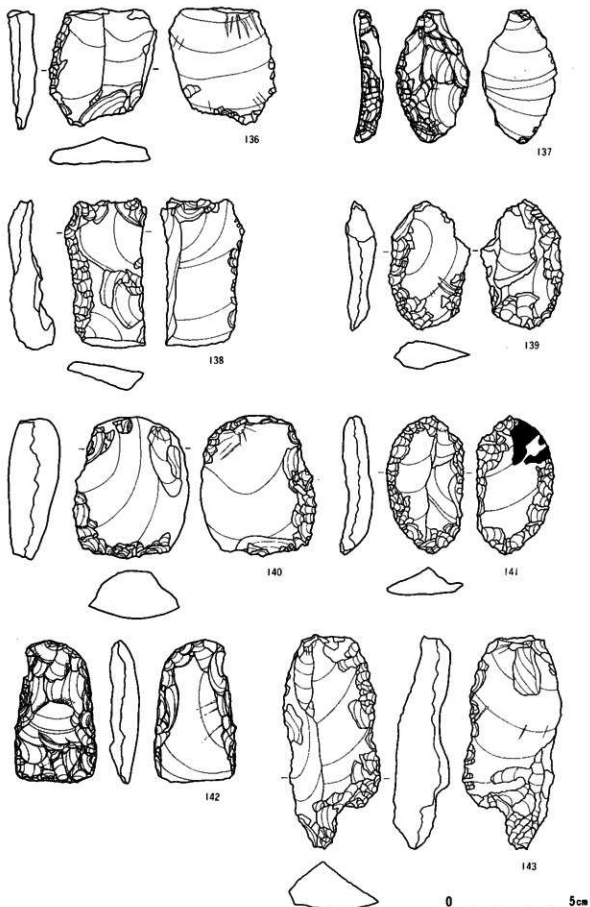


図61 遺構外出土石器(9)

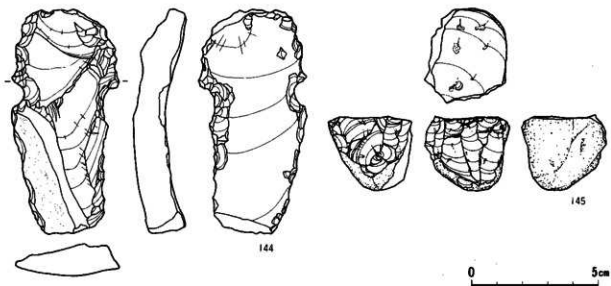


図62 遺構外出土石器(10)

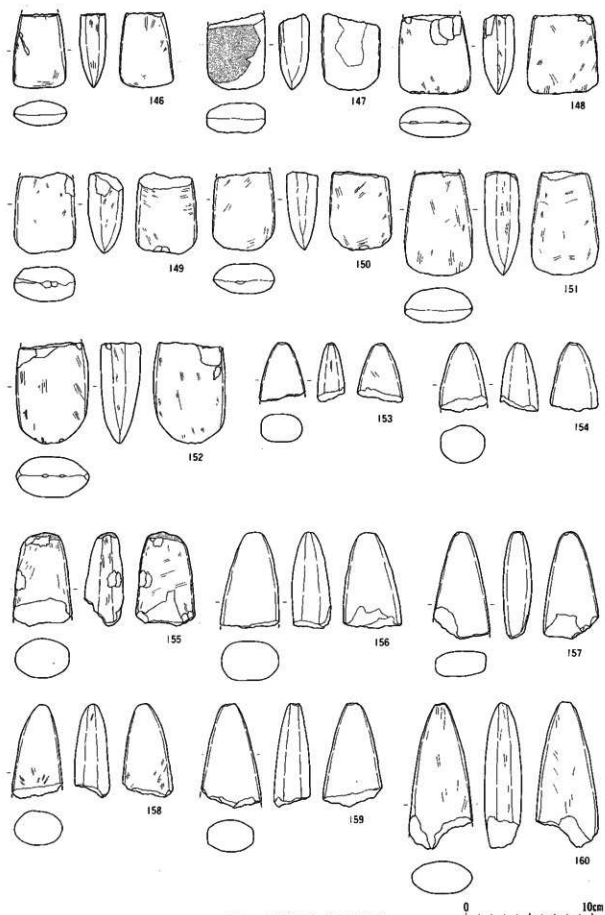


圖63 遺構外出土石器(11)

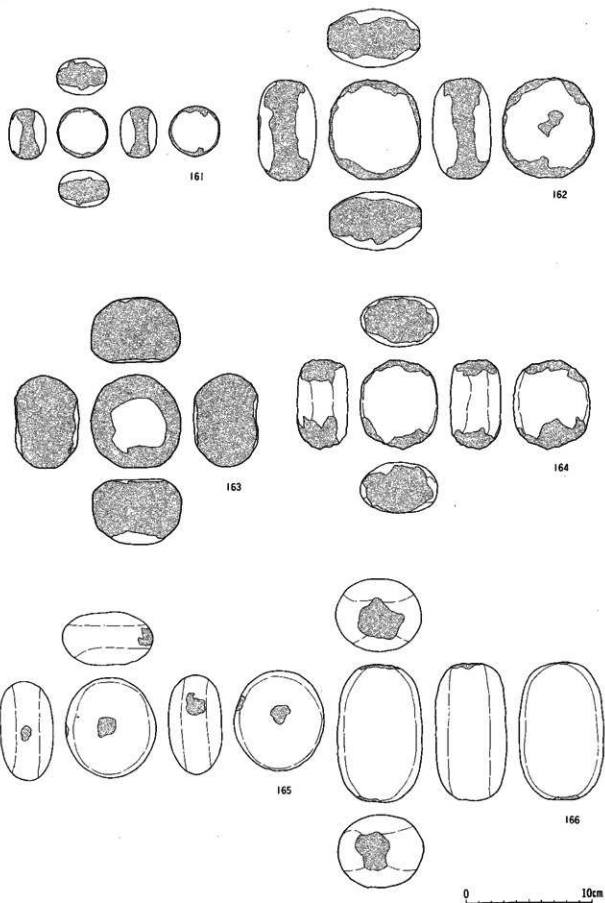


図64 遺構外出土石器(12)

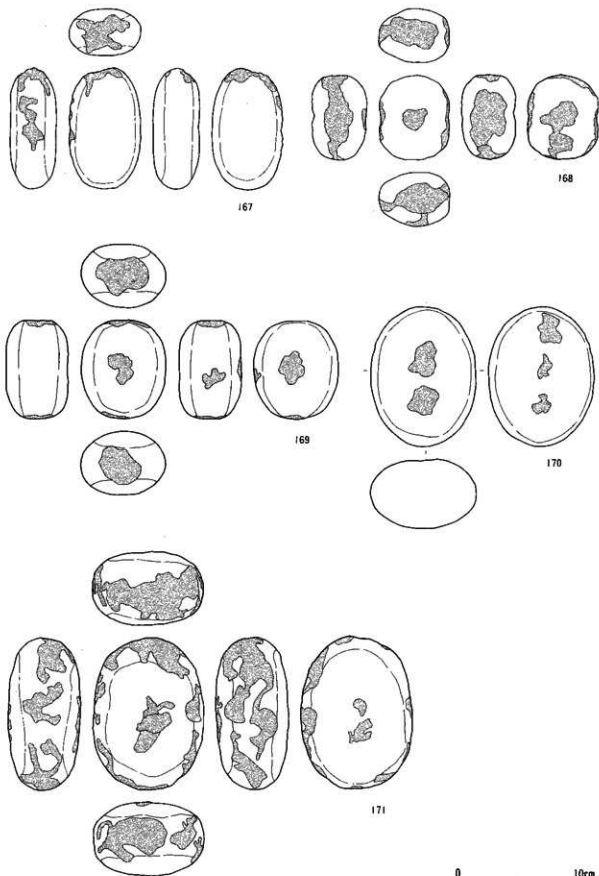


圖65 遺構外出土石器(13)

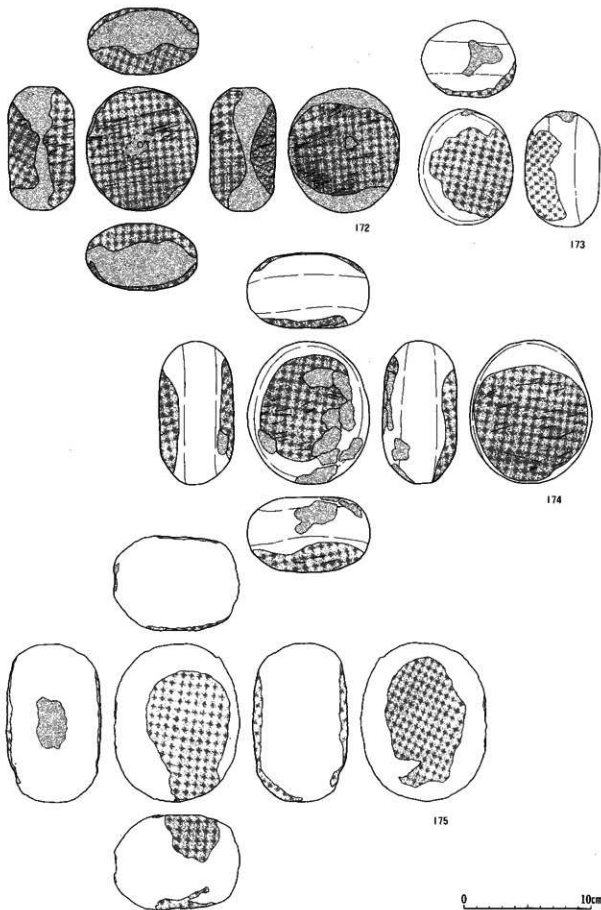


图66 遺構外出土石器(14)

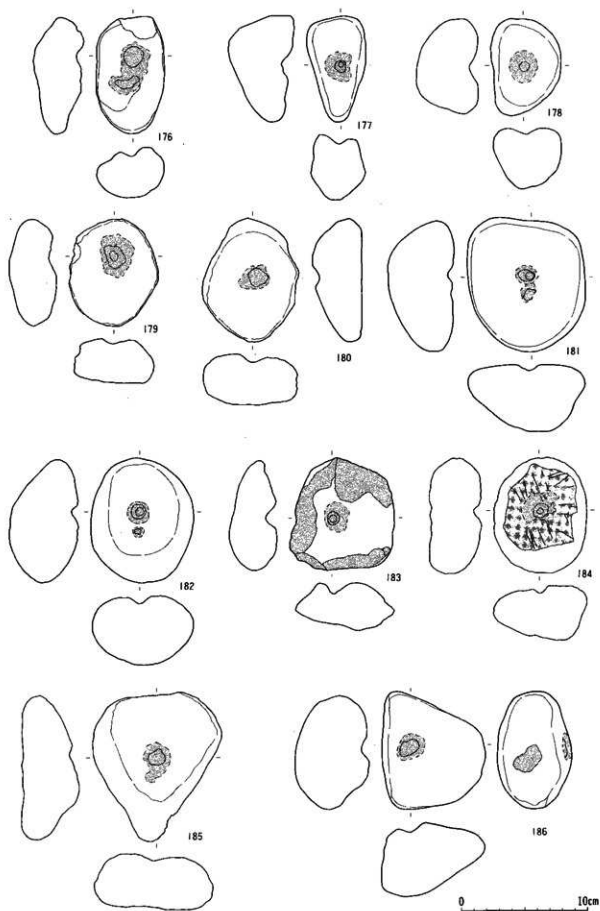


图67 遺構外出土石器(15)

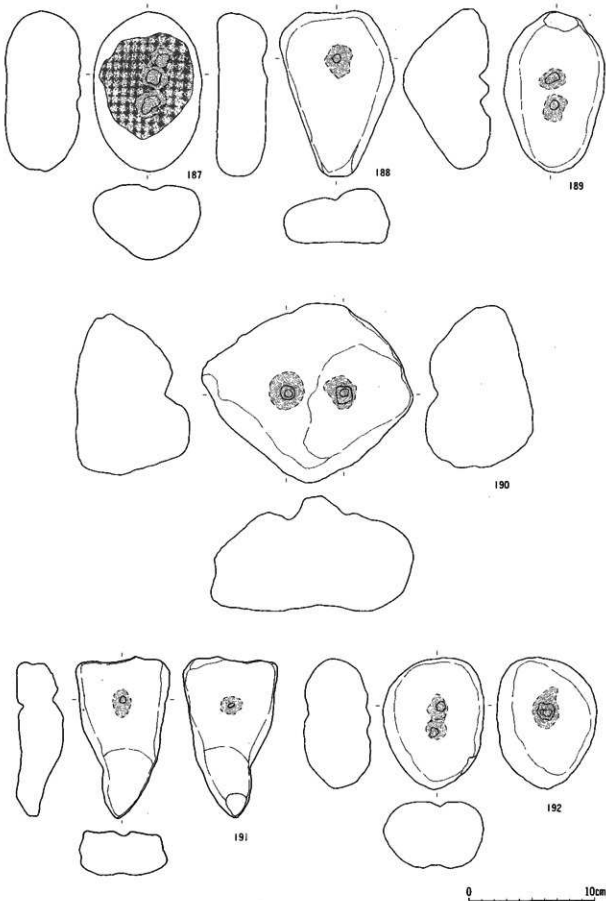


図68 遺構外出土石器(16)

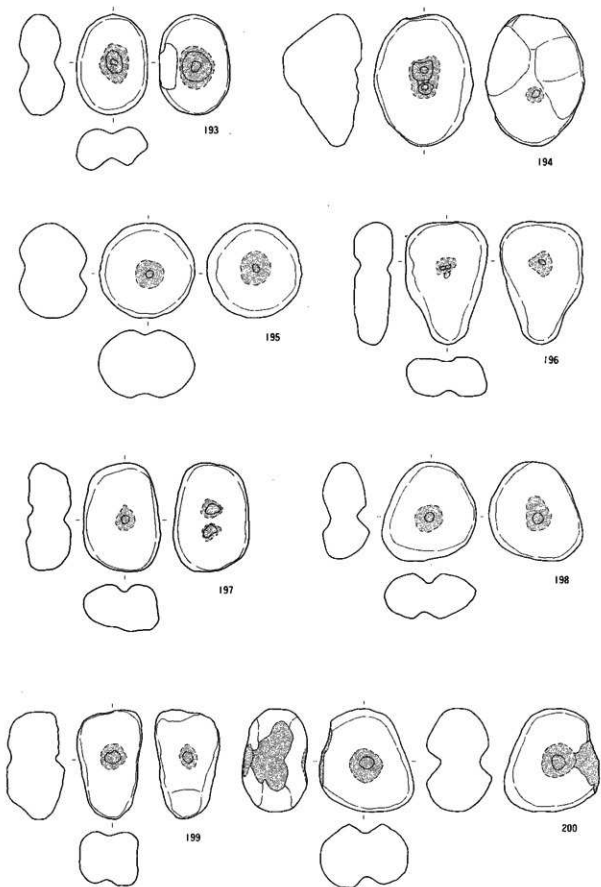


圖69 遺構外出土石器(17)

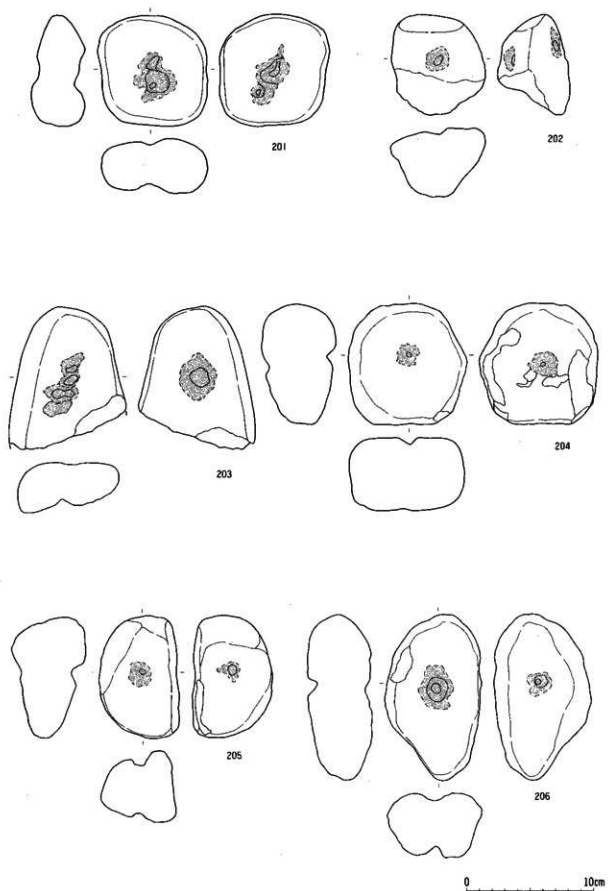


図70 遺構外出土石器(18)

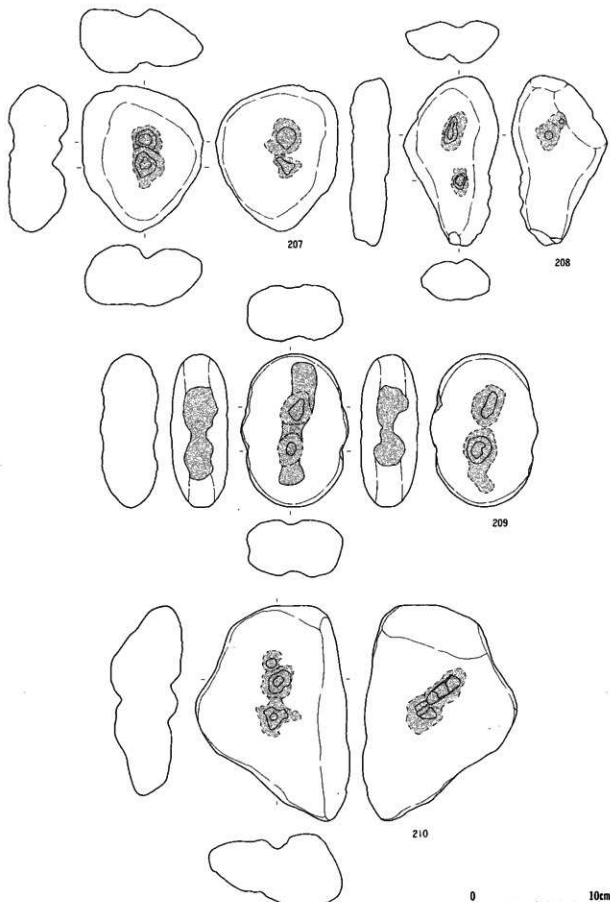


図71 遺構外出土石器(19)

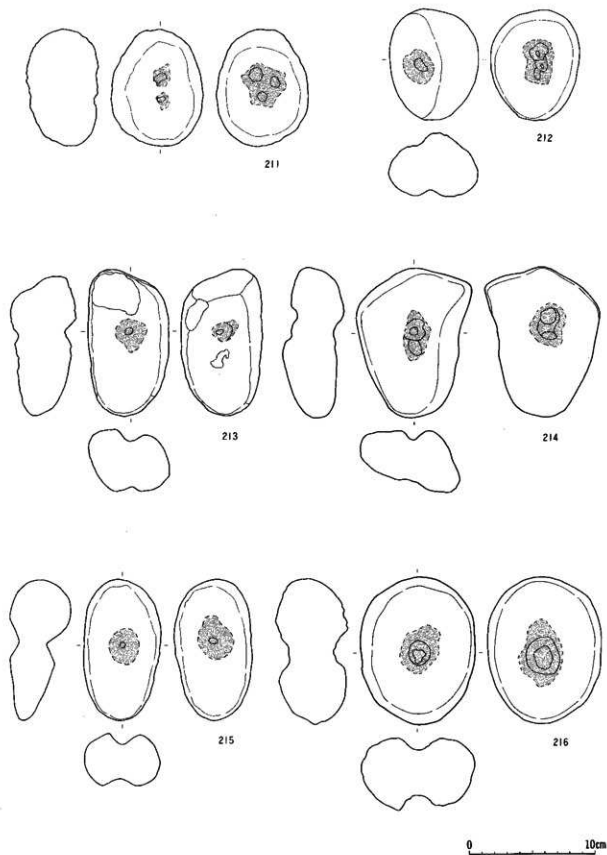


图72 遺構外出土石器(20)

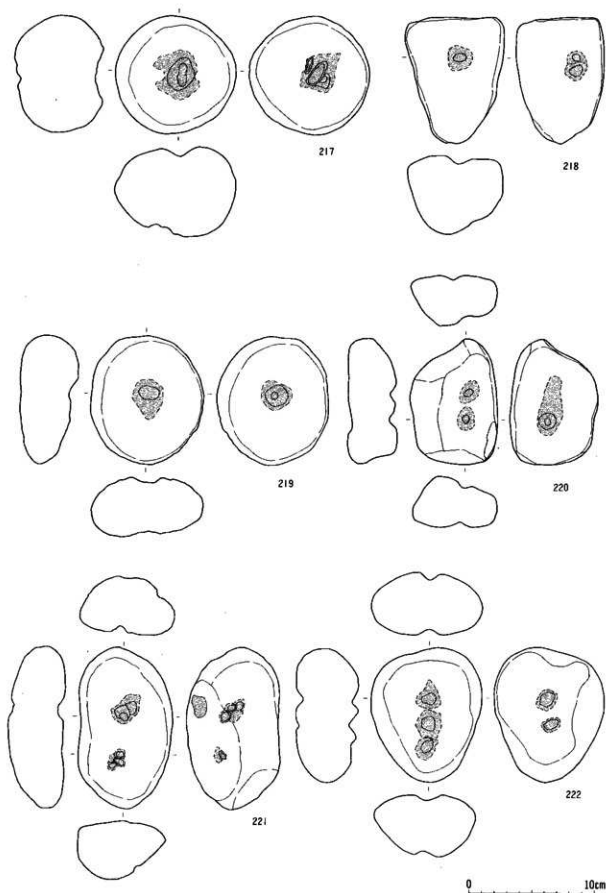


図73 遺構外出土石器(21)

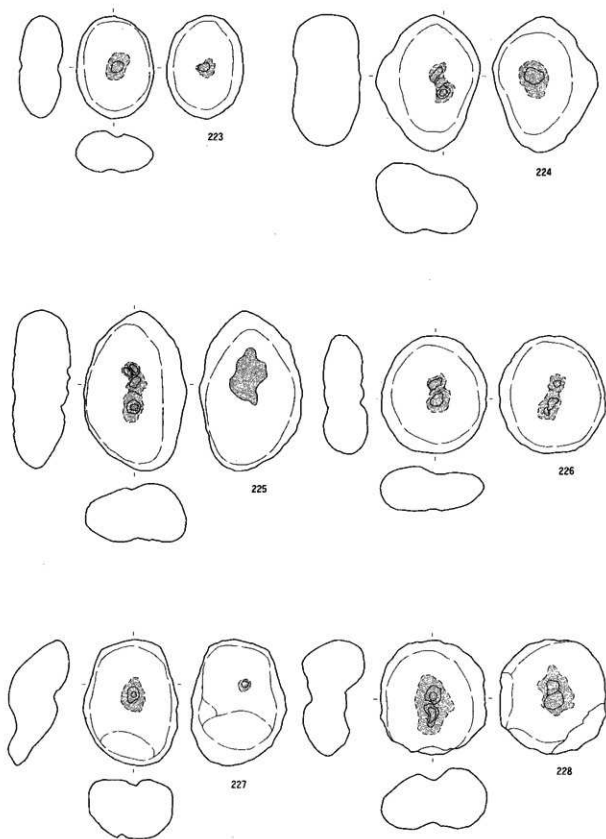


図74 遺構外出土石器(22)

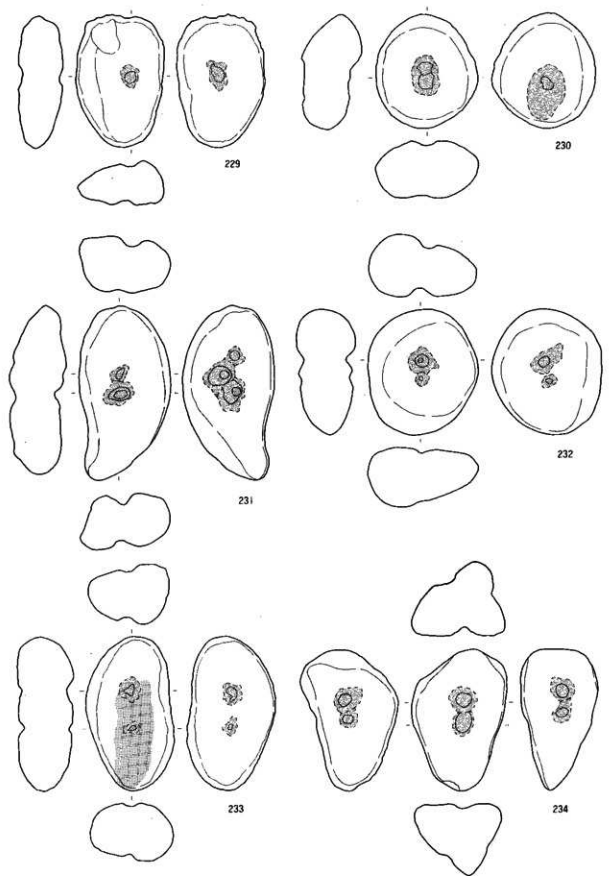
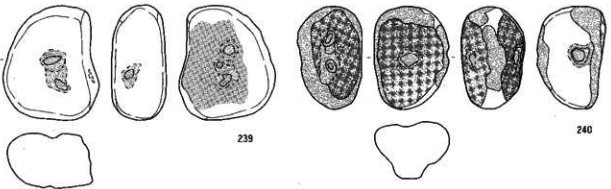
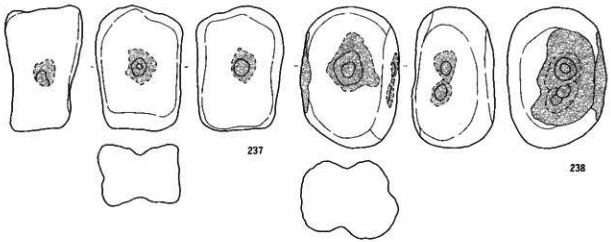
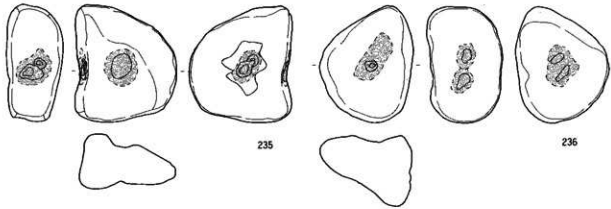


圖75 遺構外出土石器(23)



0 10cm

図76 遺構外出土石器(24)

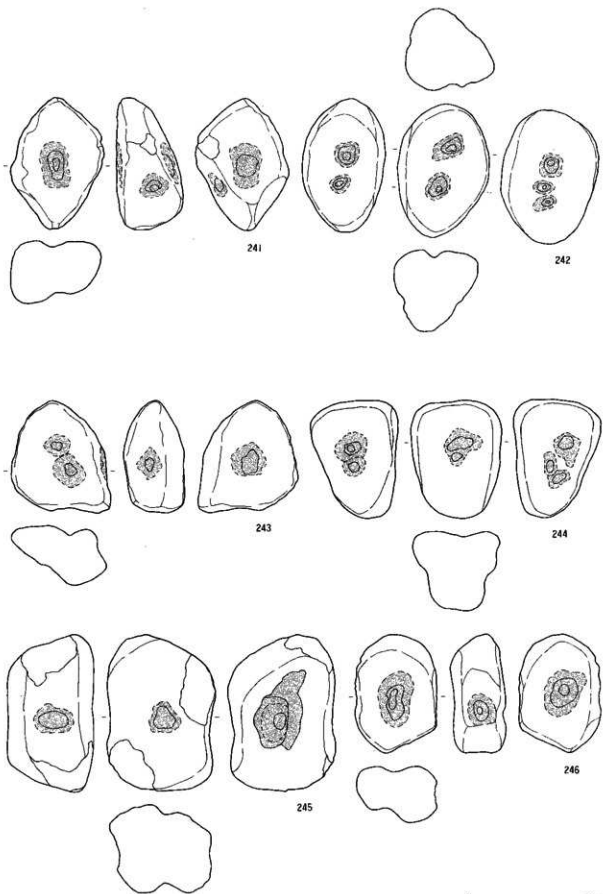


图77 遺構外出土石器(25)

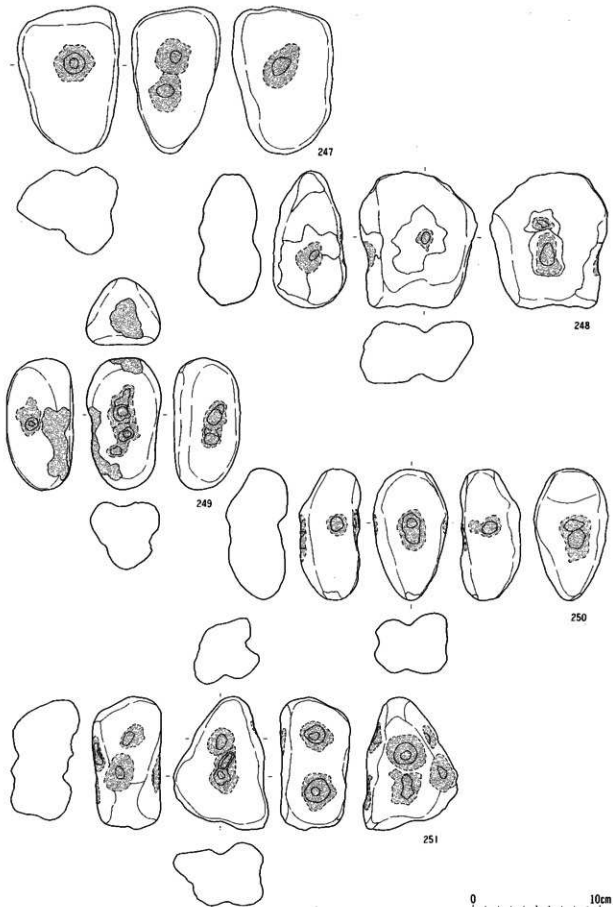


図78 遺構外出土石器(26)

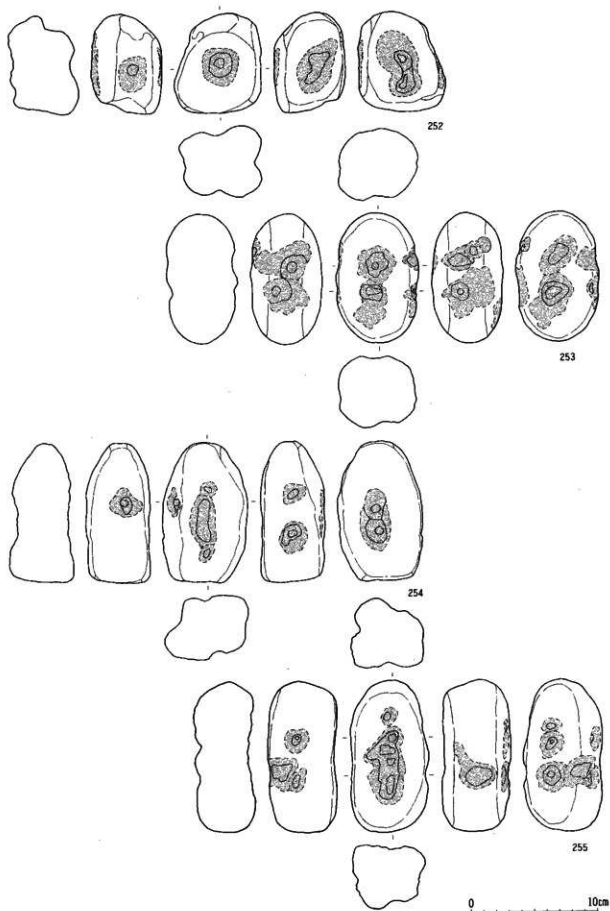


図79 遺構外出土石器(27)

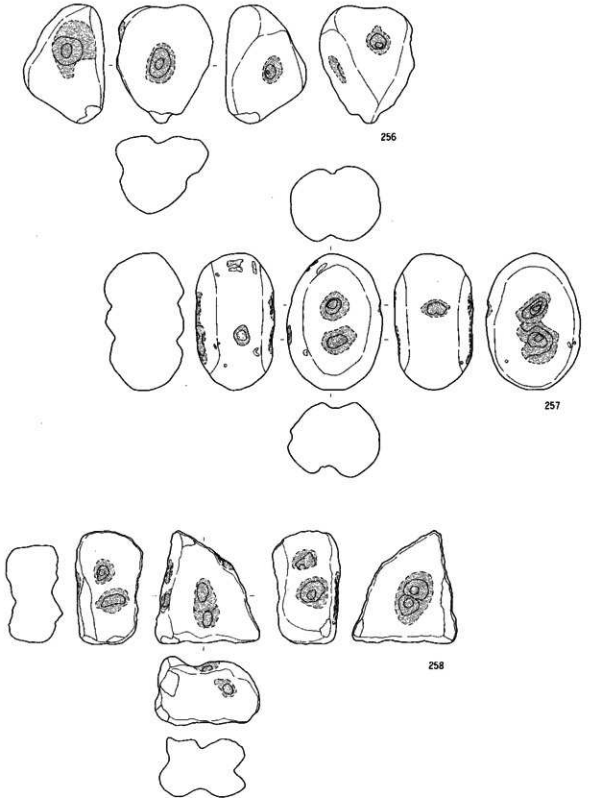


図80 遠構外出土石器(28)

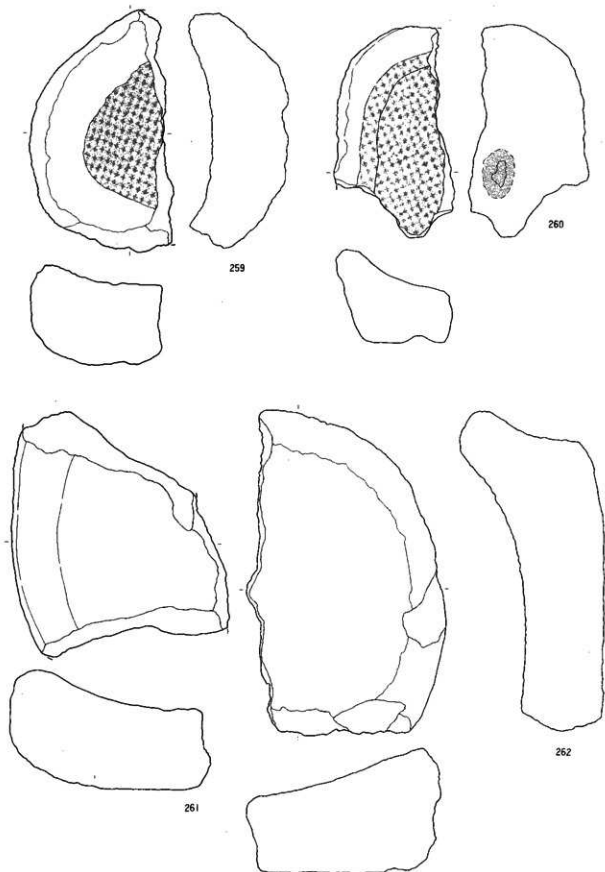


図81 遺構外出土石器(29)

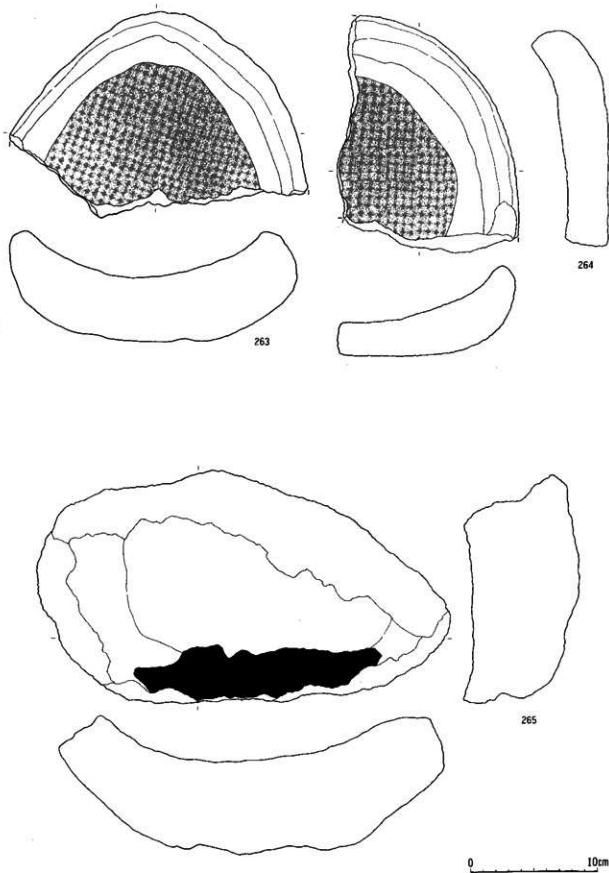


図82 遺構外出土石器(30)

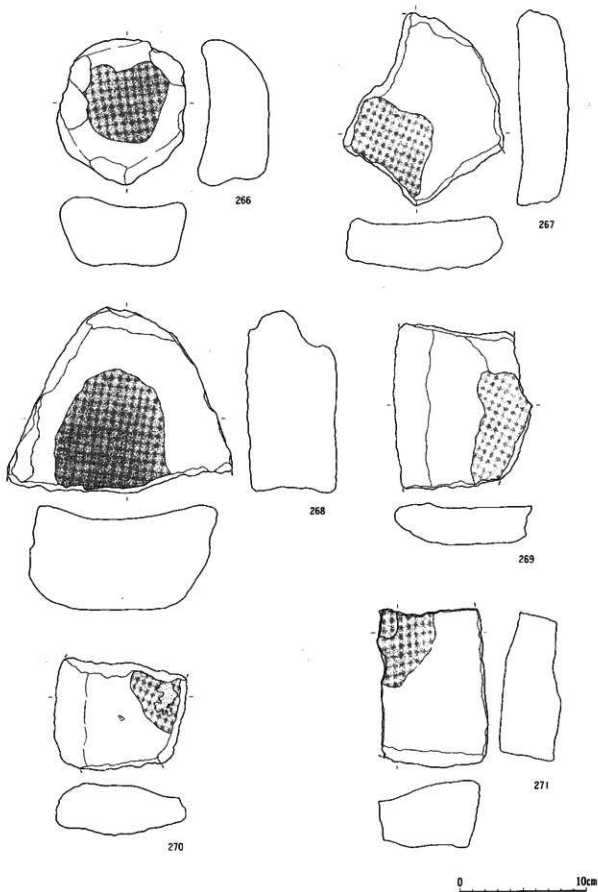
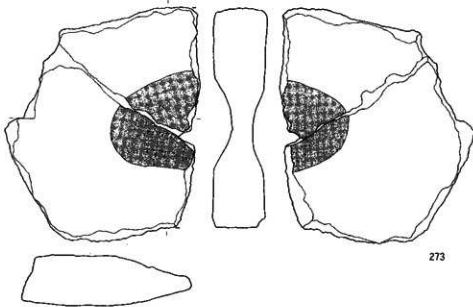
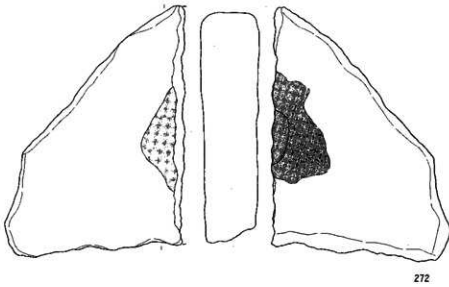
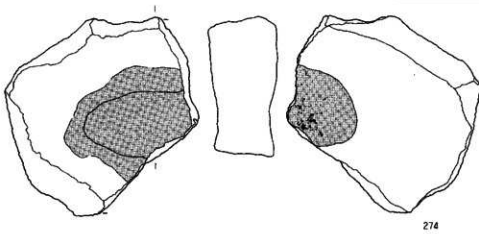


図83 遺構外出土石器(31)



0 10cm



0 10cm

図84 遺構外出土石器(32)

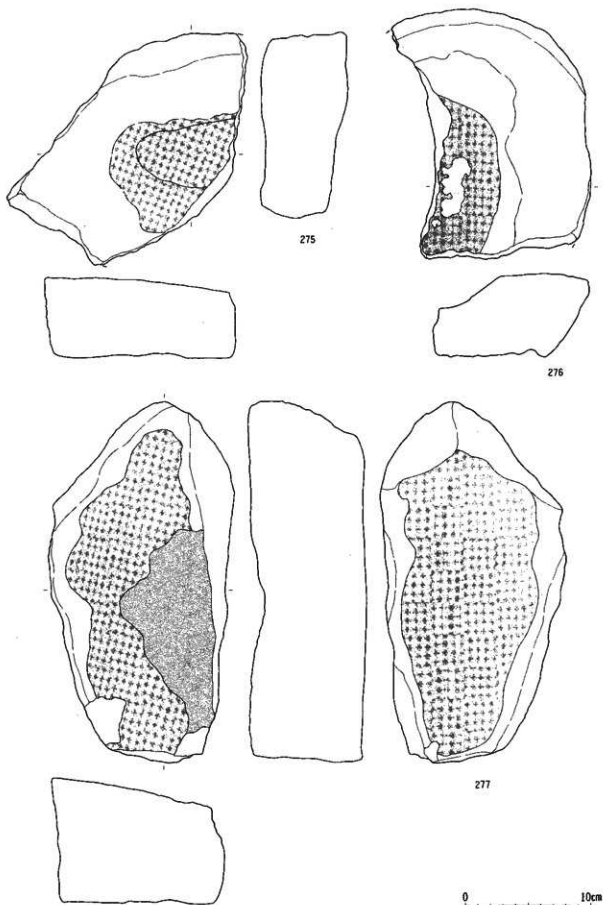


図85 遺構外出土石器(33)

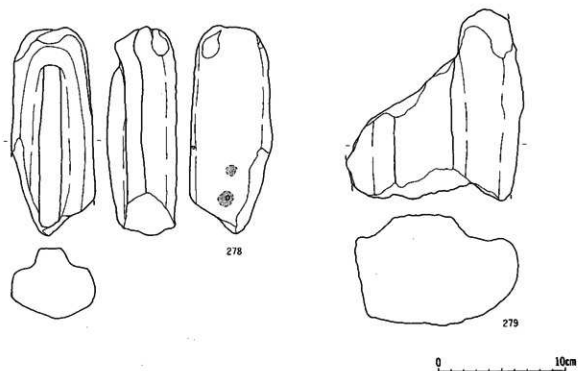


図86 遺構外出土石器(34)

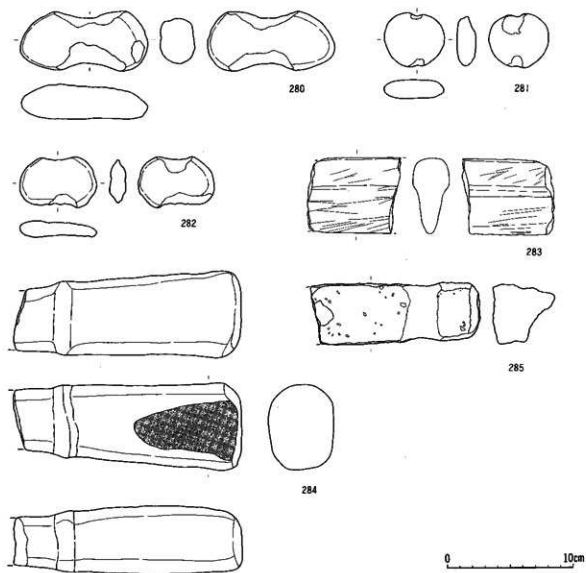


図87 遺構外出土石器(35)

遺構外出土石器観察表

図	番号	器種	石質	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	図番号
53	1	石鏃	瑪瑙	Z-76	I層	(21.1)	15.4	3.8	0.9		19
53	2	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-69	I層	24.1	10.4	4.5	0.4		34
53	3	石鏃	瑤瑯頁岩	1トレ	I層	(23.3)	12.7	4.8	0.9		69
53	4	石鏃	玉髄質瑤瑯頁岩	1B-70	I層	33.5	14.5	6.2	2.7		37
53	5	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-76	I層	32.3	16.8	5.4	1.9		29
53	6	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-68	I層	(39.1)	17.9	5.8	2.4		31
53	7	石鏃	瑤瑯頁岩	Z-76	I層	33.1	15	5.0	1.4	アスファルト付着	1
53	8	石鏃	瑤瑯頁岩	1D-64	I層	34.6	18.6	5.5	1.9	アスファルト付着	7
53	9	石鏃	瑤瑯頁岩	1C-70	I層	34.1	13.6	5.6	1.8		47
53	10	石鏃	瑤瑯頁岩	1C-69	I層	(36.1)	13.0	5.1	1.8		44
53	11	石鏃	瑤瑯頁岩	Z-76	I層	34.0	15.7	6.4	2		18
53	12	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-71	I層	25.3	11.1	3.7	2.8		22
53	13	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-68	I層	31.3	15.1	5.3	1.5		32
53	14	石鏃	瑤瑯頁岩	1C-70	I層	(34.6)	15.4	5.2	1.7		45
53	15	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-71	IV層	34.6	13.4	5.0	1.5		24
53	16	石鏃	石英	1O-66	I層	30.7	12.8	4.5	1.0		65
53	17	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-71	IV層	34.2	13.6	6.0	1.9	アスファルト付着	23
53	18	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-73	I層	31.8	12.3	6.1	1.5	アスファルト付着	4
53	19	石鏃	瑤瑯頁岩	1C-71	I層	(37.3)	14.4	6.6	2.1		48
53	20	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-69	I層	38.4	13.1	4.6	1.5		35
53	21	石鏃	瑤瑯頁岩	Z-75	I層	37.8	14.2	5.6	1.9		14
53	22	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-68	I層	(38.2)	15.7	6.4	2.2		33
53	23	石鏃	瑤瑯頁岩	1E-63	I層	41.3	15.4	6.6	2.5	アスファルト付着	9
53	24	石鏃	瑤瑯頁岩	1E-63	IV層	(43.6)	15.0	5.1	1.9		56
53	25	石鏃	瑤瑯頁岩	1F-70	II層	(43.4)	14.1	6.0	2.2		60
53	26	石鏃	瑤瑯頁岩	Z-76	I層	52.7	14.5	6.3	3.2		17
53	27	石鏃	瑤瑯頁岩	1E-63	I層	55.1	13.6	6.0	3	アスファルト付着	10
53	28	石鏃	瑤瑯頁岩	1D-73	I層	53.4	16.8	5.9	3.3		53
54	29	石鏃	瑤瑯頁岩	1E-70	II層	29.0	15.0	5.0	1.7	アスファルト付着	11
54	30	石鏃	玉髄	1C-69	I層	29.5	16.5	5.5	1.8		43
54	31	石鏃	瑤瑯頁岩	1C-68	I層	37.1	16.4	7.1	2.8	アスファルト付着	5
54	32	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-68	I層	(27.0)	14.0	4.0	1.1		30
54	33	石鏃	瑤瑯頁岩	1C-68	I層	34.0	(15.0)	5.0	1.6		40
54	34	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-73	I層	36.0	1.9	6.0	1.9		26
54	35	石鏃	瑤瑯頁岩	1D-73	III層	34.8	13.6	4.8	1.5		52
54	36	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-72	I層	35.8	15.4	6.3	2.8		25
54	37	石鏃	瑤瑯頁岩	1D-71	I層	31.3	10.3	4.1	1.1		49
54	38	石鏃	瑤瑯頁岩	1D-71	I層	(29.0)	12.5	5.0	1.3		50
54	39	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-70	I層	(32.0)	19.0	6.0	1.5		21
54	40	石鏃	瑤瑯頁岩	1F-70	II層	38.0	16.0	7.0	2.2		61
54	41	石鏃	瑤瑯頁岩	1E-71	I層	36.0	13.0	5.0	2.3		58
54	42	石鏃	瑤瑯頁岩	1F-72	I層	31.1	11.2	4.2	0.9		62
54	43	石鏃	瑤瑯頁岩	1G-64	III層	(43.4)	10.7	5.8	1.9		63
54	44	石鏃	瑤瑯頁岩	1D-75	IV層	41.7	9.7	5.0	1.4		55
54	45	石鏃	瑤瑯頁岩	1C-68	I層	35.8	21.9	9.5	5.2	石鏃の可能性有り	41
54	46	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-73	III層	33.8	16.4	8.4	3.4		38
54	47	石鏃	瑤瑯頁岩	1A-70	I層	31.2	14.5	7.3	1.9	基部欠はぬ	20
54	48	石鏃	瑤瑯頁岩	21トレ	I層	(29.1)	13.9	6.1	1.8		71
54	49	石鏃	瑤瑯頁岩	1B-69	I層	25.0	12.6	4.1	1		36

図	番号	器種	石質	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	図録号
54	50	石鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	24.6	13.6	6.5	1.4	アスファルト付着	3
54	51	石鏃	埴質頁岩	ID-67	I層	28.6	14.7	5.5	1.4		89
54	52	石鏃	埴質頁岩	Z-74	I層	39.6	16.0	6.1	2.4		74
54	53	石鏃	埴質頁岩	IP-66	I層	35.0	15.0	7.0	2.4		66
54	54	石鏃	埴質頁岩	Z-73	I層	(45.0)	22.0	1.0	7.9		73
54	55	石鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	35.8	13.8	6.4	2.8		15
54	56	石鏃	埴質頁岩	IF-67	I層	(40.7)	17.0	10.4	5.9		59
55	57	石鏃	埴質頁岩	IA-74	I層	(36.2)	14.4	8.9	3.2		80
55	58	石鏃	埴質頁岩	3トレ	I層	(31.0)	15.0	7.0	2.6		70
55	59	石鏃	埴質頁岩	IC-69	I層	(33.0)	13.1	6.1	2.0		28
55	60	石鏃	埴質頁岩	IA-76	I層	(38.2)	15.2	7.0	2.3		42
55	61	石鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	36.3	15.6	4.8	1.7		2
55	62	石鏃	埴質頁岩	IB-73	III層	31.0	11.7	3.9	0.9		39
55	63	石鏃	埴質頁岩	IE-70	I層	(37.4)	10.2	6.2	2.0	未製品	94
55	64	石鏃	頁岩	Z-76	I層	(50.2)	14.9	7.7	4.0		76
55	65	石鏃	埴質頁岩	IC-68	I層	28.3	10.9	6.4	1.5		87
55	66	石鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	25.2	10.6	7.0	1.4		75
55	67	石鏃	埴質頁岩	IA-74	IV層	(35.4)	9.1	5.1	1.1		81
55	68	石鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	(34.2)	9.8	5.9	1.4		78
55	69	石鏃	埴質頁岩	IC-70	I層	(31.4)	11.8	5.2	1.5		46
55	70	石鏃	埴質頁岩	IA-76	I層	(27.3)	11.7	5.4	1.6		83
55	71	石鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	(33.2)	19.3	7.0	3.2		16
55	72	石鏃	埴質頁岩	ID-65	I層	45.9	14.0	6.8	2.2		8
55	73	石鏃	埴質頁岩	ID-71	I層	(26.0)	13.9	6.8	1.4		51
55	74	石鏃	黒曜石	ID-73	II層	(21.4)	13.2	3.4	0.6		54
55	75	石鏃	埴質頁岩	IC-72	I層	(34.5)	12.7	5.2	1.7		6
55	76	石鏃	埴質頁岩	IA-76	I層	(33.3)	14.1	5.9	1.7		27
55	77	石鏃	埴質頁岩	IG-65	I層	(34.0)	12.3	6.6	1.7		64
55	78	石鏃	埴質頁岩	IE-67	IV層	(29.0)	13.4	5.4	1.5		57
55	79	石鏃	埴質頁岩	IA-75	I層	(33.0)	14.0	5.0	1.7		82
55	80	石鏃	埴質頁岩	Z-72	I層	(37.0)	24.0	4.0	2.6		13
55	81	石鏃	埴質頁岩	ID-69	I層	41.0	16.4	7.5	3.6	未製品	91
55	82	石鏃	埴質頁岩	IF-72	I層	(39.8)	19.8	9.5	4.7	未製品	95
56	83	石鏃	埴質頁岩	IA-70	I層	(30.0)	18.0	8.0	3.6		79
56	84	尖頭鏃	埴質頁岩	1トレ	I層	(32.0)	18.0	10.0	4.6		132
56	85	尖頭鏃	埴質頁岩	IC-68	I層	(35.0)	20.0	9.0	6.6		158
56	86	尖頭鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	(34.0)	20.0	10.0	6.0		133
56	87	尖頭鏃	埴質頁岩	IB-70	I層	(36.0)	24.0	12.0	10.5		156
56	88	尖頭鏃	埴質頁岩	IB-70	I層	30.0	18.0	8.0	4.0		159
56	89	尖頭鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	39.0	23.0	13.0	9.2		134
56	90	尖頭鏃	埴質頁岩	ID-69	I層	(47.1)	17.6	8.9	5.6		90
56	91	尖頭鏃	埴質頁岩	1トレ	I層	70.0	26.0	14.0	22.2		131
56	92	石鏃	埴質頁岩	IE-65	I層	(26.3)	11.1	6.8	1.3		93
56	93	石鏃	埴質頁岩	IQ-65	I層	(24.8)	8.9	6.6	1.3		96
56	94	石鏃	埴質頁岩	Z-76	I層	(44.1)	11.5	10.3	3.9		77
56	95	石鏃	埴質頁岩	IB-71	I層	29.0	17.0	7.0	2.0		85
56	96	石鏃	埴質頁岩	IB-70	I層	39.5	21.5	10.7	6.8		84
56	97	石鏃	埴質頁岩	2トレ	I層	57.1	25.3	11.2	14.9		96
56	98	石鏃	埴質頁岩	ID-70	I層	31.9	15.9	7.2	2.2		92
56	99	石鏃	埴質頁岩	21トレ	I層	26.5	11.5	4.6	0.6		99

図	番号	器種	石質	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	資料番号	
	56	100	石鏃	珪質頁岩	IB-70	I層	(35.0)	27.0	9.0	5.3		154
	57	101	石鏃	珪質頁岩	IC-72	I層	47.0	22.6	10.2	8.4		88
	57	102	円形埴器	珪質頁岩	IB-75	I層	49.0	44.0	18.0	35.3		139
	57	103	円形埴器	珪質頁岩	IA-73	I層	61.0	(41.0)	15.0	43.6		135
	57	104	円形埴器	珪質頁岩	IB-63	I層	50.0	33.0	14.0	33.7		148
	57	105	円形埴器	頁岩	IB-70	I層	62.0	47.0	22.0	56.5		137
	57	106	石匙	珪質頁岩	IB-72	I層	56.5	30.0	15.9	22.1		101
	57	107	石匙	珪質頁岩	拂土中		48.7	22.4	13.1	12.6		106
	57	108	石匙	珪質頁岩	IC-76	I層	48.0	21.0	7.0	6.7		153
	57	109	石匙	珪質頁岩	ID-69	I層	(51.9)	28.7	10.5	12.0		104
	57	110	石匙	珪質頁岩	Z-73	I層	(73.0)	44.1	12.9	31.6		100
	58	111	石匙	珪質頁岩	IB-68	I層	53.0	29.0	14.0	15.3		108
	58	112	石匙	珪質頁岩	2トレ	I層	55.0	32.0	16.0	17.2		127
	58	113	石匙	珪質頁岩	IP-65	I層	55.3	27.2	12.4	9.5		122
	58	114	石匙	珪質頁岩	ID-70	IV層	54.5	(23.7)	13.8	15.4		105
	58	115	石匙	珪質頁岩	IB-69	I層	55.0	43.0	10.0	17.9		109
	58	116	石匙	珪質頁岩	ID-67	I層	50.0	34.0	12.0	9.9		117
	58	117	石匙	珪質頁岩	IC-72	I層	38.7	34.0	8.2	8.7		115
	58	118	石匙	珪質頁岩	Z-76	I層	40.0	38.0	14.0	16.4		155
	58	119	石匙	珪質頁岩	IC-70	I層	65.0	64.0	19.0	46.7		113
	59	120	石匙	珪質頁岩	IE-70	I層	65.0	36.0	9.0	18.6		121
	59	121	石匙	珪質頁岩	21トレ	I層	69.0	49.0	10.0	26.2		128
	59	122	石匙	珪質頁岩	IE-65	IV層	97.9	25.6	20.2	28.8		120
	59	123	石匙	珪質頁岩	IC-71	I層	82.0	32.6	16.9	36.9		114
	59	124	石匙	珪質頁岩	IC-69	I層	26.3	31.6	6.6	4.2		112
	59	125	石匙	珪質頁岩	1トレ	I層	(39)	50.1	11.1	16.1		126
	59	126	石匙	珪質頁岩	IC-75	I層	39.0	50.3	13.7	20.8		116
	59	127	石匙	珪質頁岩	IA-71	I層	44	52.0	9.5	15.8		107
	59	128	石匙	珪質頁岩	ID-72	I層	(32.0)	(39.2)	12.2	7.0		119
	60	129	石匙	珪質頁岩	IP-69	I層	52.0	57.3	12.9	24.7		123
	60	130	石匙	珪質頁岩	IC-67	I層	(32.7)	(37.1)	8.3	5.8		111
	60	131	石匙	珪質頁岩	IN-70	I層	35.0	(73.0)	11.0	19.2		124
	60	132	石匙	珪質頁岩	IB-69	I層	44.8	72.2	13.2	32.1		110
	60	133	石匙	珪質頁岩	IR-66	I層	42.0	57.3	9.3	10.3		125
	60	134	石匙	珪質頁岩	IA-73	I層	30.0	60.0	11	18.1		161
	60	135	石匙	珪質頁岩	ID-69	I層	49.2	67.3	12.4	30.6		118
	61	136	不定形石器	珪質頁岩	ID-72	I層	45.0	40.0	9.0	17.7		147
	61	137	不定形石器	珪質頁岩	ID-67	I層	52.5	29.6	11.7	13.1		103
	61	138	不定形石器	珪質頁岩	ID-70	I層	59.0	33.0	17.0	23.3		145
	61	139	不定形石器	珪質頁岩	IC-65	I層	51.0	31.0	12.0	15.1		140
	61	140	不定形石器	珪質頁岩	IC-68	I層	55.0	46.0	20.0	54.7		141
	61	141	不定形石器	珪質頁岩	IA-73	IV層	54.0	31.0	13.0	18.5	黒色物質付着	136
	61	142	不定形石器	珪質頁岩	IC-73	I層	56.3	33.0	11.7	23.1		102
	61	143	不定形石器	珪質頁岩	21トレ	I層	84.0	38.0	19.0	51.1		152
	62	144	不定形石器	珪質頁岩	IP-72	I層	88.0	42.0	21.0	64.4		149
	62	145	石核	燐灰石	IB-70	I層	30.0	34.0	34.0	30.2		163
	63	146	磨製石斧	輝綠巖灰岩	Z-72	IV層	(59.0)	40.0	20.0	85.4		134
	63	147	磨製石斧	輝綠巖灰岩	IB-69	I層	(61.0)	47.0	24.0	108.3	タタキ	140
	63	148	磨製石斧	緑色巖灰岩	IB-69	IV層	(62.0)	54.0	24.0	155.2		131
	63	149	磨製石斧	輝綠岩	ID-72	IV層	(62.0)	47.0	27.0	141.1		135

区	番号	器種	石質	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	登録号
63	150	磨製石斧	輝綠凝灰岩	1D-67	I層	(63.0)	49.0	24.0	118.2		138
63	151	磨製石斧	輝綠岩	1C-70	I層	(82.0)	54.0	37.0	203.5		136
63	152	磨製石斧	凝灰質細粒砂岩	1E-63	IV層	(79.0)	53.0	21.0	209.8		133
63	153	磨製石斧	輝綠凝灰岩	1A-69	I層	(47.0)	36.0	22.0	48.1		141
63	154	磨製石斧	花崗岩	1B-74	I層	(55.0)	38.0	30.0	68.4		142
63	155	磨製石斧	輝綠凝灰岩	1B-70	I層	(74.0)	47.0	31.0	152	タタキ	144
63	156	磨製石斧	輝綠岩	1B-71	IV層	(76.0)	47.0	31.0	164.4		139
63	157	磨製石斧	輝綠凝灰岩	Z-76	I層	(84.5)	45.0	22.5	119.4		143
63	158	磨製石斧	輝綠凝灰岩	1C-72	IVa層	(74.0)	40.0	28.0	104.6	遺物集中区 S-25	132
63	159	磨製石斧	輝綠凝灰岩	21トレ	IV層	(82)	47.5	29.0	149		170
63	160	磨製石斧	輝綠凝灰岩	1E-65	I層	(115.0)	50.0	29.0	222.6		137
64	161	敷石		1E-65	I層	40.0	40.0	29.0	61.7		34
64	162	敷石	花崗岩	1C-67	I層	79.0	73.0	46.0	401.4		18
64	163	敷石	安山岩	1A-71	IV層	73.0	81.0	51.0	396.3		21
64	164	敷石	花崗岩	1C-73	II層	71.0	62.0	40.0	266.1		22
64	165	敷石	花崗岩	1F-69	風割木	79.0	72.0	42.0	346		19
64	166	敷石	花崗岩	1D-74	IV層	109.0	68.0	57.0	687.8	赤色顔料付着	14
65	167	敷石	花崗岩	1B-68	I層	96.0	57.0	37.0	308.7		17
65	168	敷石	花崗岩	1B-72	III層	67.0	56.0	43.0	256		149
65	169	敷石	花崗岩	1B-71	I層	78.0	68.0	50.0	394.5	赤色顔料付着	13
65	170	敷石	花崗岩	1A-71	IV層	110.0	84.0	59.0	794.1	赤色顔料付着	27
65	171	敷石	花崗岩	1D-74	IV層	120.0	88.0	58.0	910.6		23
66	172	磨・敷石	ヒン岩	1F-70	風割木	98.0	88.0	57.0	684.4	赤色顔料付着	16
66	173	磨・敷石	花崗岩	1F-73	III層	92.0	75.0	61.0	573.8	赤色顔料付着	24
66	174	磨・敷石	安山岩	1E-71	IV層	113.0	97.0	60.0	992.2	赤色顔料付着	25
66	175	敷磨器	凝灰岩	1E-64	I層	125	100	76	1129.8		33
67	176	凹石	凝灰岩	1C-73	IV層	93.5	55.0	40.0	206.1	1面	91
67	177	凹石	安山岩	1F-62	I層	84.0	42.0	52.0	252.5	1面	86
67	178	凹石	凝灰岩	1E-64	III層	77	56	49	237.3	1面	97
67	179	凹石	凝灰岩	1D-74	IV層	85.0	71.0	37.5	216.7	1面	103
67	180	凹石	凝灰岩	1B-72	II層	98.0	76.0	40.0	291.1	1面	76
67	181	凹石	安山岩	1H-60	I層	107.0	94.0	53.0	793.3	1面	61
67	182	凹石	凝灰岩	1F-71	IV層	99.0	82.0	55.0	508	1面	41
67	183	凹石	凝灰岩	1B-70	I層	89.0	84.0	38.0	276.2	1面 タタキ	84
67	184	凹石	凝灰岩	1E-65	I層	92.0	74.0	43.0	316	1面 凹み周辺スリ	43
67	185	凹石	安山岩	Z-73	IV層	117.5	103.0	46.0	578	1面	120
67	186	凹石	凝灰岩	1C-75	IV層	93.0	82.0	59.0	501.5	1面 タタキ	60
68	187	凹石	安山岩	1F-66	I層	127.0	86.0	60.0	767	1面 凹み周辺スリ	123
68	188	凹石	凝灰岩	1E-62	I層	131.0	91.5	43.0	686	1面	83
68	189	凹石	安山岩	1D-72	IV層	127.0	80.0	70.0	727.2	1面	127
68	190	凹石	凝灰岩	1X-46	IV層	168.0	142.0	91.0	1917.7	1面	75
68	191	凹石	凝灰岩	1D-74	I層	128.0	75.0	37.0	366.8	2面	54
68	192	凹石	凝灰岩	1G-63	I層	104.0	80.0	53.0	547.1	2面	116
69	193	凹石	凝灰岩	1F-69	IV層	79.0	56.0	36.0	175	2面	112
69	194	凹石	凝灰岩	1F-64	I層	104.0	79.0	62.0	467.5	2面	78
69	195	凹石	凝灰岩	1D-66	I層	75.0	76.0	54.0	353.3	2面	81
69	196	凹石	凝灰岩	1O-70	IV層	98.0	66.0	31.0	267.5	2面	89
69	197	凹石	安山岩	1F-64	I層	86.0	61.0	37.0	231.3	2面	68
69	198	凹石	凝灰岩	1C-71	III層	78.0	75.0	37.0	239.4	2面	96
69	199	凹石	凝灰質砂岩	1A-74	I層	87	52	46	216.9	2面	92

図	番号	器種	石質	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	図録号
69	200	凹石	凝灰岩	IC-67	I層	81.0	75.0	52.0	305.4	2面、タタキ	42
70	201	凹石	安山岩	IE-67	IV層	88.0	87.0	43.0	469	2面	58
70	202	凹石	安山岩	IC-72	IVa層	80.0	75.0	55.0	292.9	2面 遺物集中区 S-24	157
70	203	凹石	凝灰岩	IC-72	IVa層	(113.5)	93.0	41.0	473.9	2面 遺物集中区 S-10	153
70	204	凹石	凝灰岩	IE-71	I層	96.0	94.0	59.0	669.8	2面	50
70	205	凹石	凝灰岩	IA-74	IV層	97.0	64.0	59.0	394	2面	101
70	206	凹石	凝灰岩	ID-72	IV層	131.0	77.0	51.0	506.6	2面	109
71	207	凹石	凝灰岩	IC-73	I層	115.0	98.0	48.0	600	2面	115
71	208	凹石	凝灰岩	IC-74	II層	135.0	76.0	32.0	339.7	2面	62
71	209	凹石	花崗岩	ID-74	IV層	121.0	86.0	46.0	735	2面 両面にタタキ	110
71	210	凹石	凝灰岩	IX-46	IV層	170.0	123.0	57.0	1054.2	2面	57
72	211	凹石	安山岩	IC-72	IVa層	93.0	73.0	58.0	449	2面 遺物集中区 S-26	162
72	212	凹石	凝灰岩	IE-73	II層	88.0	71.0	51.0	358.8	2面	44
72	213	凹石	凝灰岩	IA-74	I層	116.0	64.0	52.0	465.6	2面	77
72	214	凹石	凝灰岩	IE-67	IV層	119.0	92.0	49.0	482.2	2面	65
72	215	凹石	安山岩	IE-63	IV層	111.5	62.0	48.0	354.6	2面	113
72	216	凹石	凝灰岩	ID-74	I層	117	91	58	551	2面	102
73	217	凹石	凝灰質砂岩	IE-67	IV層	94.0	97.0	71.0	700.2	2面	85
73	218	凹石	凝灰岩	IC-67	I層	100.0	79.0	62.0	509.1	2面	125
73	219	凹石	凝灰岩	IC-72	I層	102.0	90.0	47.0	454.8	2面	82
73	220	凹石	凝灰質砂岩	ID-74	IV層	99.0	70.0	40.0	359	2面	106
73	221	凹石	凝灰岩	IC-76	I層	128.0	75.0	45.0	518.7	2面	37
73	222	凹石	安山岩	IC-72	IVa層	106.5	88.0	50.0	527.4	2面 遺物集中区 S-1	158
74	223	凹石	凝灰岩	ID-70	I層	80.0	62.0	34.0	230	2面	73
74	224	凹石	凝灰岩	排土中		106.0	84.0	56.0	562.3	2面	117
74	225	凹石	凝灰岩	IE-63	IV層	126.0	80.0	45.0	627	2面	63
74	226	凹石	凝灰岩	IA-71	I層	93.0	84.0	35.0	357.7	2面	119
74	227	凹石	凝灰岩	IC-67	IV層	100.0	70.0	48.0	338.2	2面	47
74	228	凹石	凝灰岩	IA-71	IV層	90.0	85.0	48.0	354.8	2面	55
75	229	凹石	凝灰岩	IE-71	IV層	105.0	70.0	35.0	292.6	2面	94
75	230	凹石	凝灰岩	IB-72	I層	92.0	83.0	47.0	398	2面	90
75	231	凹石	凝灰岩	IT-48	I層	138.0	73.0	45.0	452.2	2面	49
75	232	凹石	凝灰岩	Z-72	IV層	99.0	88.0	49.0	499.2	2面	39
75	233	凹石	安山岩	IC-68	I層	122.0	71.0	47.0	442.5	2面 被熱痕	95
75	234	凹石	凝灰岩	IC-73	IV層	112.0	77.0	59.0	407.5	3面	66
76	235	凹石	安山岩	ID-66	I層	93.0	81.0	45.0	408.2	3面	67
76	236	凹石	凝灰岩	IB-72	II層	93.0	75.0	60.5	438.9	3面	64
76	237	凹石	凝灰岩	IA-71	I層	100.0	70.0	62.0	321.1	3面	105
76	238	凹石	凝灰岩	IC-73	I層	112.0	79.0	66.0	709.5	3面 凹み周辺及び側面タタキ	53
76	239	凹石	凝灰岩	IE-63	IV層	91.0	76.0	44.0	378.8	3面 被熱痕	56
76	240	凹石	凝灰岩	IC-71	II層	81.0	59.0	55.0	222.8	3面 凹み周辺より、側面タタキ	124
77	241	凹石	凝灰岩	Z-73	IV層	104.0	75.0	53.0	340.3	3面	122
77	242	凹石	凝灰岩	IB-71	I層	106.0	73.0	65.0	476	3面	46
77	243	凹石	凝灰岩	Z-73	IV層	89.0	80.0	49.0	329.8	3面	38
77	244	凹石	凝灰岩	IC-70	I層	94.0	72.0	70.0	519	3面	99
77	245	凹石	凝灰岩	IF-69	風倒木	124.0	86.0	70.0	806.3	3面	36
77	246	凹石	凝灰岩	ID-72	IV層	94.0	66.0	45.0	303	3面	51
78	247	凹石	凝灰岩	IG-63	I層	117.0	80.0	70.0	612	3面	98
78	248	凹石	凝灰岩	IE-73	II層	103.0	94.0	58.0	602.3	3面	62
78	249	凹石	凝灰岩	IC-75	IV層	104.0	59.0	53.0	325.6	3面、敷き	40

区	番号	部 種	石 質	出土地点	層 位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備 考	資料
78	250	凹石	安山岩	IE-65	I層	104.0	59.0	48.0	331.6	4面	87
78	251	凹石	凝灰岩	IQ-65	I層	105.0	75.0	55.0	435	4面	107
79	252	凹石	凝灰岩	IA-71	IV層	79.0	70.0	56.0	355	4面	108
79	253	凹石	流紋岩	IC-71	IV層	103.0	67.0	57.0	568	4面	104
79	254	凹石	凝灰岩	IB-71	I層	111.0	68.0	51.0	515.3	4面	45
79	255	凹石	凝灰岩	IB-70	I層	120.0	63.0	55.0	498	4面	118
80	256	凹石	凝灰質砂岩	IB-71	IV層	94.0	76.0	64.0	416	4面	111
80	257	凹石	安山岩	IC-71	IV層	108.0	71.0	62.0	682.2	4面、赤色顔料付着	126
80	258	凹石	凝灰岩	IA-73	IV層	89.5	82.0	54.0	382.7	5面	93
81	259	石皿	凝灰岩	IC-72	IVa層	(116.0)	(192.0)	79.5	1505.3	遺物集中地点 S-20	154
81	260	石皿	凝灰岩	IC-73	IV層	(167.0)	(97.0)	73.0	950	裏面に凹み有り	167
81	261	石皿	凝灰岩	ID-70	I層	(194.0)	(176.0)	94.0	3658.7		7
81	262	石皿	凝灰岩	ID-70	I層	(257.0)	(159.0)	115	5600.2		3
82	263	石皿	凝灰岩	IA-71	IV層	(166.0)	238.0	87.0	2351.1		5
82	264	石皿	凝灰岩	ID-69	I層	(188.5)	(145.0)	72.0	1773.6		10
82	265	石皿	凝灰岩	IA-71	I層	179.0	(328.0)	92	5369.5		1
83	266	石皿	凝灰岩	IC-71	I層	116.0	103.0	56.0	726.3		4
83	267	石皿	凝灰岩	IC-70	I層	(153.0)	(125.0)	42.0	820		166
83	268	石皿	安山岩	IB-70	I層	(147.0)	179.0	82.0	3427		6
83	269	石皿	凝灰岩	IA-71	IV層	(130.0)	(105.0)	35.0	600		168
83	270	石皿	凝灰岩	IE-72	I層	(89.0)	(105.0)	41.0	380	赤色顔料付着	162
83	271	石皿	凝灰岩	IE-73	II層	(126.0)	(90.0)	53.0	1240		163
84	272	石皿	凝灰岩	IQ-54	I層	200.0	(143.0)	48.0	2000	赤色顔料付着	164
84	273	石皿	安山岩	IC-70	I層	(186)	155.0	43.0	2025.3	両面に磨り	2
84	274	石皿	凝灰岩	排土中		209.0	207.0	74.0	4200	赤色顔料、黒色物質付着	161
85	275	石皿	安山岩	ID-69	I層	(184.0)	(182.0)	70.0	3100		165
85	276	石皿	安山岩	IC-71	IV層	(199.0)	(160.0)	67.0	3698.7	赤色顔料付着	9
85	277	石皿	凝灰岩	ID-70	I層	286	148	98	6550		169
86	278	石皿	砂質凝灰岩	IB-69	I層	(165.0)	66.0	55.0	686.5	中高石皿	12
86	279	石皿	凝灰岩	IB-69	IV層	(152.5)	141.5	88.0	1404.5	中高石皿	8
87	280	石鉢	凝灰岩	Z-73	IV層	47.5	101.0	28.0	160.8		145
87	281	石鉢	花崗岩	IN-69	I層	44.0	48.0	15.0	45.4		148
87	282	石鉢	凝灰岩	IA-73	風割木	41.0	61.0	13.0	35.6		147
87	283	押切具	砂岩	IU-48	IV層	60.0	(74.0)	29.0	160		150
87	284	用途不明	安山岩	ID-70	I層	(179.0)	68.0	52.0	1152.5		160
87	285	用途不明	流紋岩	IA-71	IV層	(135.0)	50.0	50.0	440.7		159

第4節 土製品

土製品としては、土偶11点、ミニチュア5点、耳飾り1点、円盤状土製品3点、用途不明土製品1点が出土した。

1 土偶 (図88・89・写真75)

1は中実土偶の胴部である。正面から見て、頸部のやや下部に横位と斜位に沈線が施されている。胴部中心部には縦位に2条の沈線(正中線)がみられ、その間に刻みが施されている。2条の沈線・刻みを挟むように矢印状の沈線が縦位に施されている。側面観察から、左腕欠損部分にはアスファルトと考えられる黒色物質が付着している。背面は、全体に入組文が施されており、赤色顔料が付着している。外面は全体に文様を施したあと、ミガキ調整が行われており、色調は黒褐色である。2は中実土偶の胴部である。正面からみて、左右両頸部から胸の谷間に向かうように斜位の沈線が施されている。また、胴部中心部からは縦位に1条の沈線(正中線)が施されている。沈線が頸部から背面にかけて施され、タオルを首からかけた様な姿である。背面は、上から横位の沈線、中ほどに入組文状の沈線、欠損部付近に横位の沈線が施されており、色調はにぶい褐色である。3は中実土偶の顔部とみられる。粘土を貼り付けて目・口を成形し、頭部両側部には孔によって耳飾りの装着を表現している。4は中実土偶の脚部である。全体にナデ調整が行われており、色調は黒褐色である。5は中実土偶の右脚部分とみられ、色調はにぶい黄褐色である。6は中実土偶の左脚部分と思われ、色調は明褐色である。7は中実土偶の胴～脚部である。胴部中央には1条の沈線(正中線)が施されており、腹部周辺には胴部を一回りするよう直径約1～2mm、幅約5mmの刺突帯がみられる。色調は黒褐色である。8は中実土偶の脚部とみられる。膝と思われる部分が沈線で区画され、区画内には小さい刻みが多数施されている。裏の部分も同様である。色調は浅黄褐色である。9は中実土偶の左足部分とみられ、横位の沈線を施した後に、縦位に沈線を施している。また、背面には横位、斜位、横位、縦位の順に沈線が施されているのが確認できる。内面及び欠損部の観察から粘土紐を輪積みした後、その上に粘土を貼り付け成形しているのがうかがわれる。外面はミガキ調整が行われており、色調は褐色である。10は中空土偶の右足部分とみられる。横位に1条の沈線を施し、斜位に短い沈線が3条施している。内面及び欠損部の観察から粘土紐を輪積みした後成形しているのがうかがわれる。外面はミガキ・ナデ調整が行われており、色調はにぶい黄褐色である。11は中空土偶の左肩から腕にかけての部分とみられ、手の一部を欠損している。肩部に4本の短い沈線を施し、下部の隆帯は、正面の脇部分で1条あったものが分離して2条となり、背面に向かって再び1条となる。隆帯の上下、脇部分に沈線がみられる。内面及び欠損部の観察から粘土紐を輪積みした後、その上から粘土で沈線及び隆帯分の貼り付けを行い成形しているのがうかがわれる。外面はミガキ・ナデ調整が行われており、色調は黒褐色である。

2 ミニチュア土器 (図90・写真75)

遺構外から5点出土した。ミニチュア土器は分類する際に土器ととらえるか、土製品に含めるか議論が分かるところであるが、本稿では日常生活に使用する土器としては考えにくいことから、器高

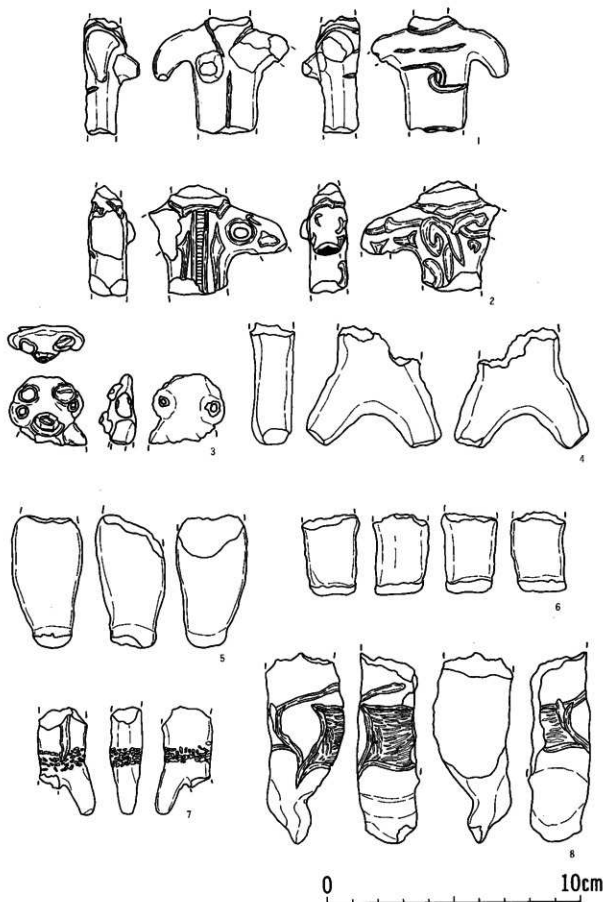


圖88 遺構外出土土製品(1)

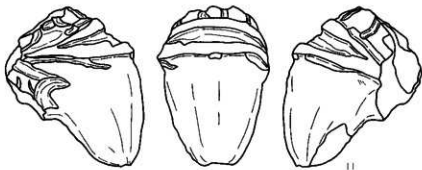
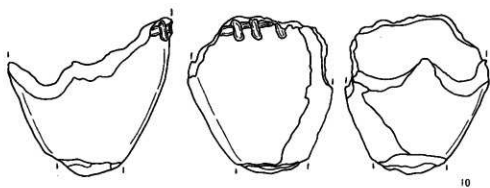
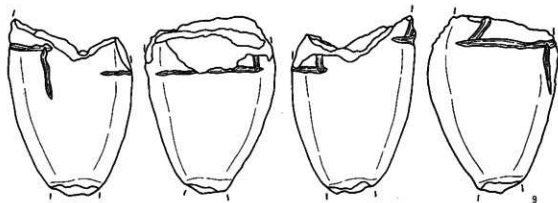


図89 遺構外出土土製品(2)

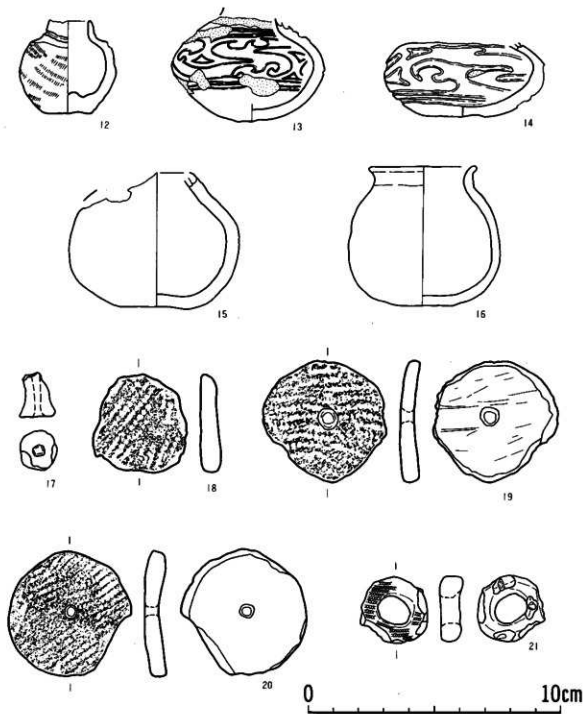


図90 遺構外出土製品(3)

が6cm以下のものをミニチュア土器とし、土製品として扱うこととした。

ミニチュア土器の器種はすべて壺形である。12は口縁部を一部欠損している。頸部に沈線、底部には沈線文が環状に施されている。13はλ字状文が施され、赤色顔料が付着している。15は無文で、剝落が多い。16は無文である。

3 耳飾り (図90、写真75)

1点出土した。耳栓状のもので、貫通孔を有する。

4 円盤状土製品 (図90、写真75)

土器破片の周縁部を打ち欠き、すって円盤状に整形したものである。3点出土した。18は貫通孔がみられない。19・20には貫通孔がみられる。

5 用途不明土製品 (図90、写真75)

21は環状に成形された遺物であり、片面に縄文が施されている。裏面には突起が2ヶ所にみられる。突起の対になる箇所には剝落痕があることから、本来は4ヶ所の突起があったとみられる。縄文が施されている面には、赤色顔料が付着している。

(齋藤 正)

遺構外出土土製品観察表

図	番号	器種	出土地点	層位	大きさ(cm)	重量(g)	備考	整理番号
88	1	土 偶	Z-76	Ⅱ層	長さ(4.6)×幅(5.4)×厚さ2.3	28		±3
88	2	土 偶	I C-71	Ⅳ層	長さ(4.4)×幅(5.5)×厚さ1.8	24.6	赤色顔料付着	±1
88	3	土 偶	I B-71	Ⅳ層	長さ(2.7)×幅3.0×厚さ1.4	15.2		±7
88	4	土 偶	I C-75	Ⅳ層	長さ(4.7)×幅5.3×厚さ1.7	30.7		±2
88	5	土 偶	I D-75	Ⅰ層	長さ(5.2)×幅2.8×厚さ2.7	33.1		±5
88	6	土 偶	I B-75	Ⅲ層	長さ(3.2)×幅2.2×厚さ2.3	7.1		±6
88	7	土 偶	I E-70	Ⅳ層	長さ(4.3)×幅2.3×厚さ1.3	9.3		±4
88	8	土 偶	I C-68	Ⅰ層	長さ(7.5)×幅2.5×厚さ3.2	45.3		±15
89	9	土 偶	I D-68	Ⅰ層	長さ(7.0)×幅5.2×厚さ4.9	81.7		±8
89	10	土 偶	I D-72	Ⅳ層	長さ(6.4)×幅5.8×厚さ6.6	79.3		±10
89	11	土 偶	I B-72	Ⅳ層	長さ(6.3)×幅(5.5)×厚さ4.6	68.7		±9
89	12	ミニチュア土器	I D-69	Ⅰ層	口径1.7×底径1.9×器高3.7	30.4		±19
90	13	ミニチュア土器	I C-72	Ⅳ層	口径(-)×底径1.5×器高(4.0)	46.6		±23
90	14	ミニチュア土器	I D-71	Ⅲ層	口径4.1×底径2.2×器高2.9	39.1		±27
90	15	ミニチュア土器	Z-76	Ⅰ層	口径(-)×底径3.0×器高(5.3)	57		±22
90	16	ミニチュア土器	I D-65	Ⅰ層	口径4.2×底径2.2×器高5.5	37.5		±26
90	17	耳飾り	I D-71	Ⅰ層	径(1.6)×高さ(1.8) 孔径0.6	2.2		±11
90	18	円盤状土製品	I E-64	Ⅰ層	長さ3.9×短径3.8×幅0.8	14.7	L.R横	±17
90	19	円盤状土製品	I E-66	Ⅰ層	長さ4.8×短径5.0×幅0.8 孔径0.9	18.1	L.R横	±13
90	20	円盤状土製品	I C-65	Ⅰ層	長さ5.1×短径4.9×幅0.9 孔径2.5	19	L.R横	±12
90	21	用途不明土製品	I D-69	Ⅰ層	長さ2.7×短径2.6×幅1.0 孔径1.4	4.2		±14

第5節 石製品 (図91～99、写真76～80)

各種の石製品が出土しており、石棒・石剣・石刀・岩版・円形石製品・玉類・円盤状石製品がある。これらの遺物は、相伴した土器型式は明確ではないが、主体を占める縄文時代後期後葉～晩期前半の土器のうち、出土数量がもっとも多い晩期前半のものが大半とみられる。

1 石棒・石剣・石刀 (図91・92、写真76)

接合した破片を除いて破片が19点出土したが、個体数では少なくとも13個体分ある。いずれも粘板岩製である。これらの区分にあたって、形状が直線的で、断面が円形・楕円形を呈するもののうち、刃部状の鋭角な部位をもつものを石剣とし、もたないか不明なもの^{ツルギとも}を石棒とした。また、全体の形状が反ったものを石刀とした。しかし、石棒と石剣との区分は必ずしも明確ではない。石棒に、端部に膨らみがあるもの(有頭)とないもの(無頭)があり、有頭のは3片で3個体分ある。1は2片が接合したもので、両側にえぐりの入ったほぼ円形の頭部に接して握りが設けられたものである。2は蛇頭状の頭部破片である。また、3は柄頭部分で、平行沈線や工字文が刻まれている。また、無頭の石棒は5片で少なくとも3個体分ある。端部に向って細くなるものが多いが、4はやや赤い色調の粘板岩製の先端部破片である。8は中央部破片であり、右側が柄状にやや細くなる。また、石剣は8片で4個体分ある。9は石剣の先端部～中央部破片で、身の両側端が鋭角で刃部状を呈するものである。10は3条の刻線が一周したもので、11と同一個体の可能性がたかく、ほかに12～14も同一個体の可能性がある。また、この11は2点の破片が接合したもので、接合した破片1点は第1号集石遺構から出土しているため、当該遺構の出土遺物としても図示・紹介されている。なお、1～3の有頭の石棒及びその他の無頭の石棒としたものについては、石剣として扱われる場合、石剣としたものについても石棒として扱われる場合があり、区分は明確ではない。石刀は3片で3個体分あり、17は先端部片で、薄緑色の粘板岩製である。18は扁平先^{ヒラタテ}先端部破片、19は薄手で身がやや内反り気味の中央部破片であり、刃区^{ヒラタテ}が設けられている。

2 岩版 (図93、写真77)

泥岩製のものが3点出土した。いずれも欠損部があるもので、完形品はない。20は楕円形でもっとも欠損部が少ないものである。表面には縦位の正中線が線刻され、その横に数字の6の字ないしは鈎状の曲線、裏面には2～3重の小円文が多数施されている。21は長方形で摩滅しており、文様は断片的にしか残されていないが、表面には縦位に正中線が施されている。22も楕円小破片であり、C字状の入り組み文が裏面に施されている。

3 円形石製品 (図93、写真77)

1点のみ出土した(23)。軟質の石材を用いており、中央部の孔が確認されないため円形石製品としたが、形態は環状石斧に類似したものである。

4 玉類 (図94、写真77)

緑色凝灰岩製の玉と玉の未製品あわせて5点出土した。完形品は1点のみ(24)で両面穿孔のものである。未製品は4点あり、円環の一部を面取りしたも2点(25・26)、穿孔途中の小玉(27)、管玉状のもの(28)各1点がある。管玉状のものは穿孔中に破損したものとみられる。このほかに、玉材とみられる細粒緑色凝灰岩製の小円礫がI F-70グリッドの遺物集中区IV層から多数(33点以上)出土している(写真77)。ここはまた、前に述べた晩期壺形土器に77点の玉材が納められて出土した(巻頭写真)地区でもある。さらにベンガラ材料とみられる赤岩(赤鉄鉱)の小片も7点(写真77)出土している。

5 円盤状石製品 (図95~99、写真78~80)

盤状石製品や石製円盤とも言われている石製品で、151点出土した。安山岩、凝灰岩などの自然礫を打ち欠いたりすったりしておもに円盤状に整形したものであり、詳細を別表にまとめている。

まず、出土状況では、一カ所に多数まとまって(たとえば積み上げられた状態など)出土した状況はなく、出土地も調査区全体に及んでいる。また、平面形では円形で断面が長方形になるように、表裏両面・周囲側面をすって整形したものがあり、58はそのうちでもっとも丁寧につくられたものである。また、平面形では粗く円形に整形したものももっとも多い。また、このほかに平面形がほぼ楕円形のものや三角形・方形・五角形状を呈するものもある。また、表裏面の整形は、大半があまり行われず、自然面をそのまま残し多少の起伏をもったままのものが多く、なかには片面を打ち欠き薄くしたものもみられる。また、片面ないし両面の一部を細かく敲き浅いくぼみをつけたものもある。周囲側の整形は、何らかの形ですったものが多いが、打ち欠いたままの鋭角状のものや加工せずに自然面をそのまま残したのも多い。大きさは、円形のものでは直径が最大122.0mmで、直径50~69mmのもので過半数を占め、最小は35.7mmである。また、厚さでは最大が58.0mm、10~29mmのもので全体の80%以上を占め、最も薄いのは6.7mmである。これらの遺物には、少数ながら天然アスファルトとみられる黒色物質が付着したもの(69)や、鉄錆とみられる赤褐色物質が付着したもの、さらに赤く焼けた痕跡のあるものもある。

このように、円盤状石製品は多様な形状をしており、すべてを同一名称に区分することは難しい面がある。とくに、扁平自然礫の一部にわずかな加工しかないものは、未製品か自然破砕礫かの判別がきわめて難しいものである。表中の152~178(写真80-155・165・176)については、当初自然破砕礫の破片とみられたが、未製品の可能性も捨てきれないため、表に含めたものである。

第6節 古銭ほか (図94、写真77)

縄文時代以外の遺物として、平安時代の土師器・須恵器と江戸~明治時代の古銭が少数出土した。

土師器(1)は、杯の底部破片1点のみで、I E-63グリッド第三層から出土した。ロクロからの切り離しを示す回転糸切り痕が底面に残されている。また、須恵器は壺の胴部・底部の小破片が数点ある。2は低い高台がつく底部破片であり、I D-70・I B-72グリッド第I層から出土した。青灰色を呈し、胎土に微細な礫が多く含まれている。また、古銭は銅製の寛永通寶4枚がある。このうち写真77-4は緑青のため拓影を示していないが、「占寛永」である。(福田 友之)

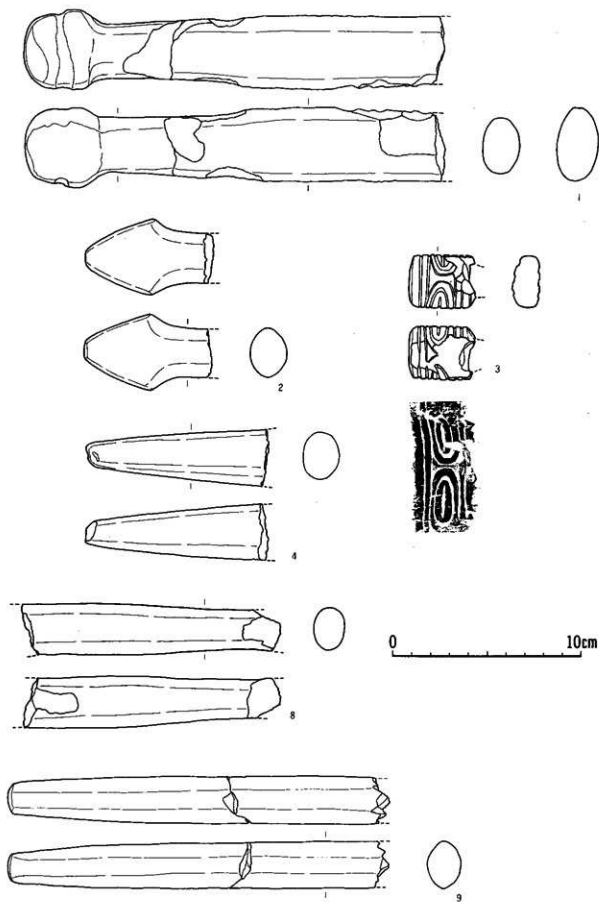


图91 遺構外出土石棒・石刻

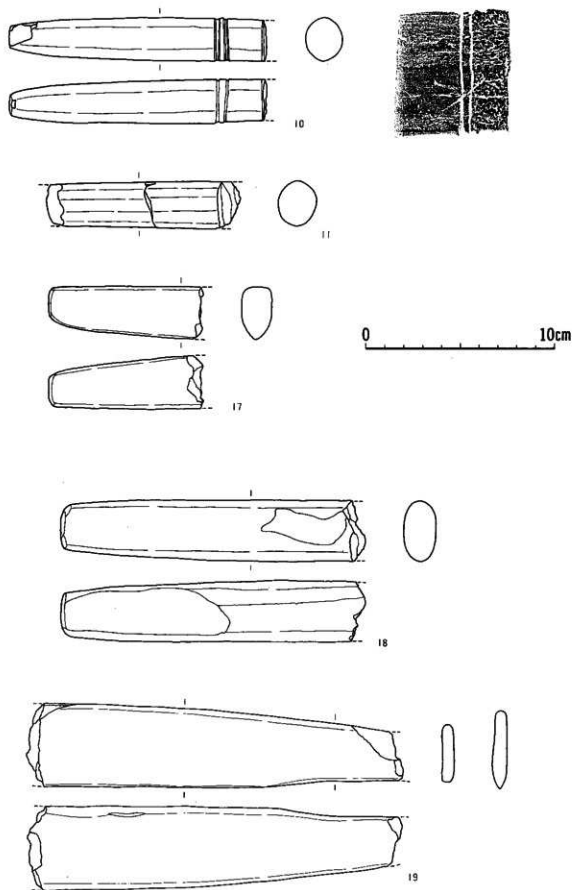


図92 遺構外出土石剣・石刀

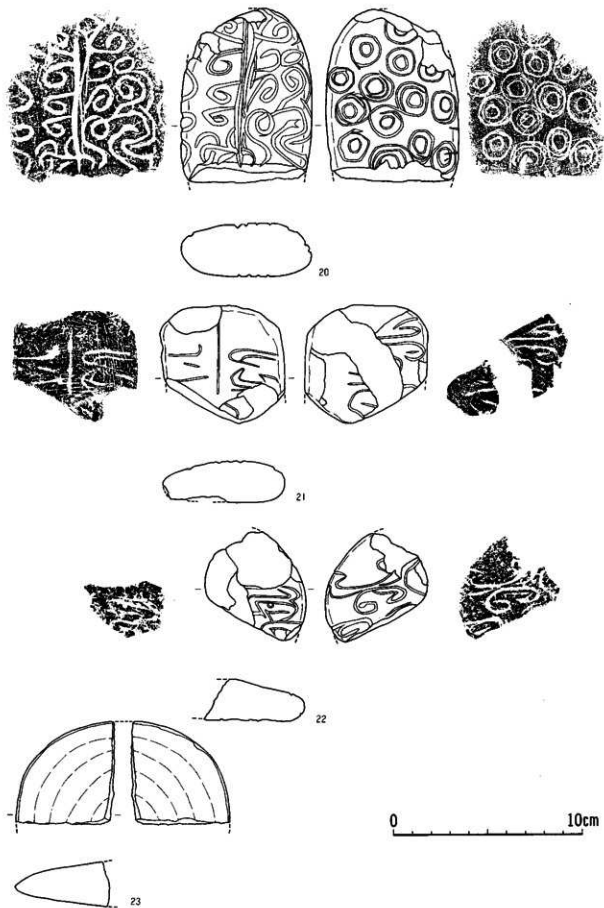


図93 遺構外出土岩版・円形石製品

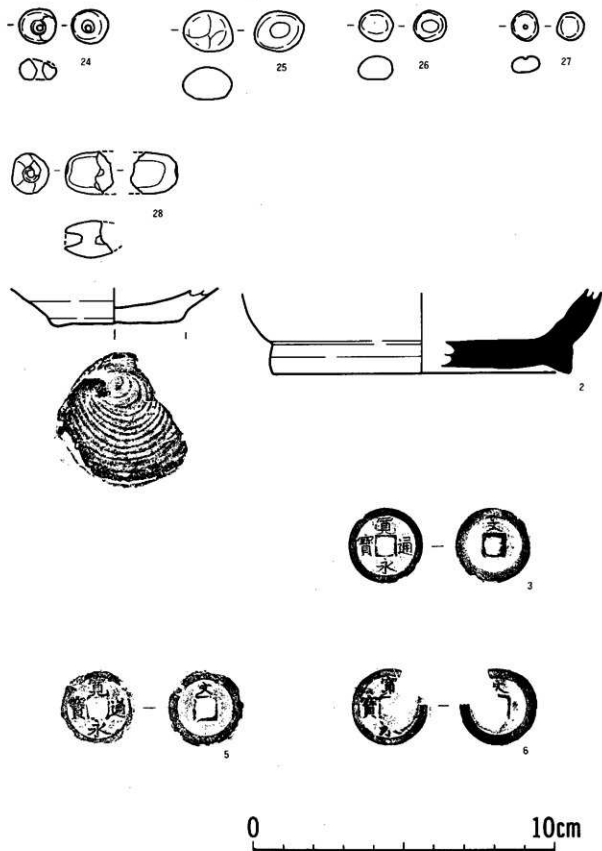


図94 遺構外出土玉類ほか

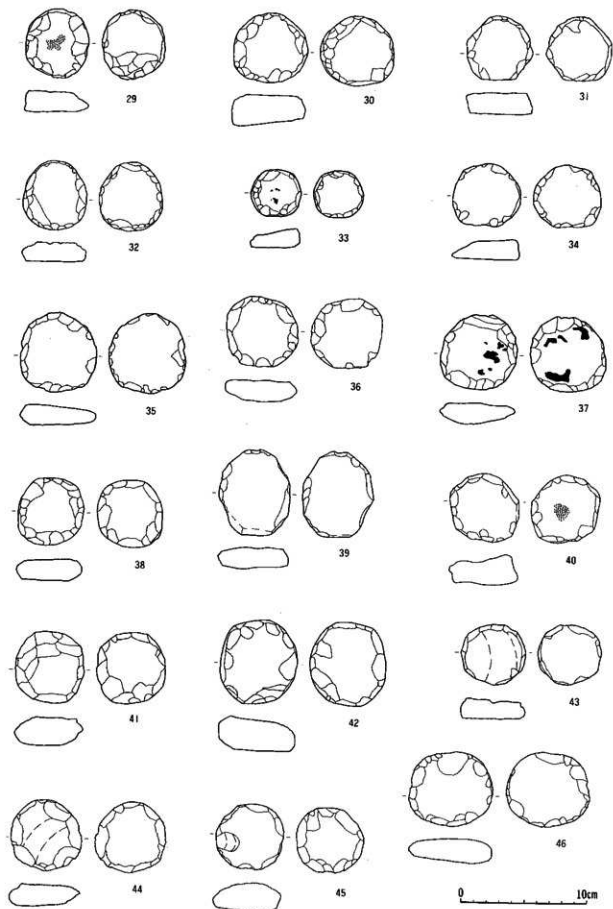


図95 遺構外出土円盤状石製品(1)

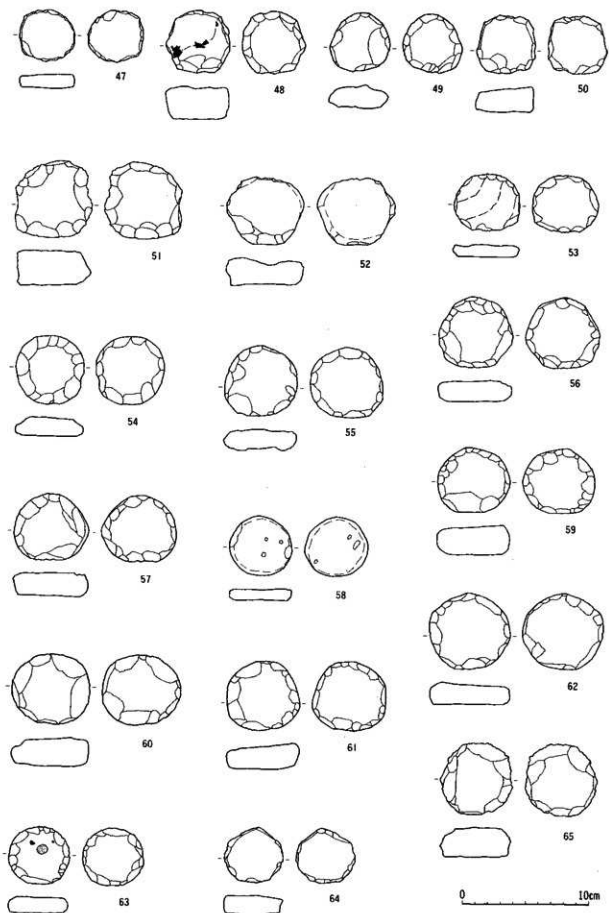


図96 遺構外出土円盤状石製品(2)

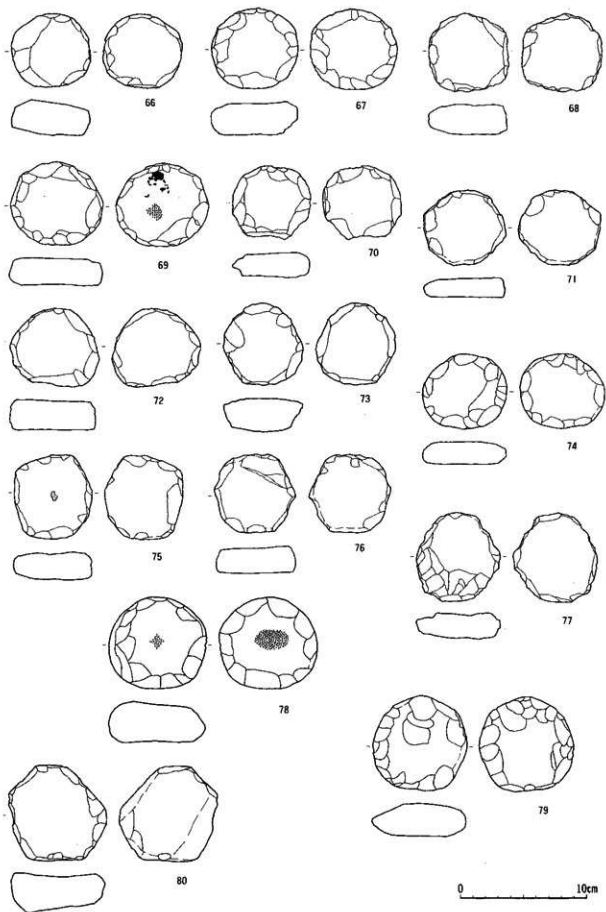


图97 遺構外出土円盤状石製品(3)

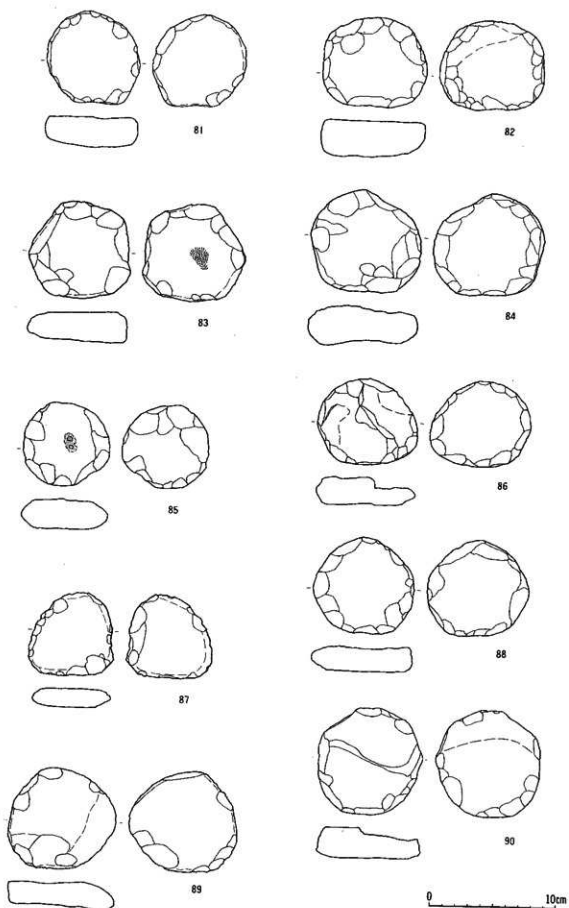


図98 遺構外出土円盤状石製品(4)

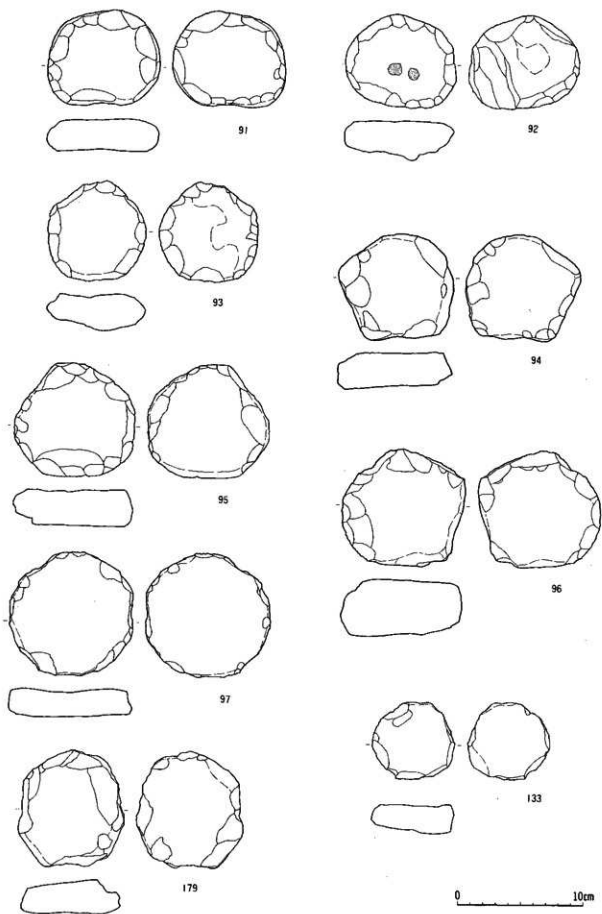


図99 遺構外出土円盤状石製品(5)

遺構外石製品観察表

(※スリはすった部分)

回	番号	器種	石質	出土地	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	整理番号
91	1	石鐮	粘板岩	I B-71 Z-74	Ⅲ I	(223.0)	41.0	(22.3)	317.1	端部片、握り作り出し、2点接合	8
91	2	石鐮	緑色凝灰岩	I F-70	岡本Ⅲ	(67.0)	39.0	21.0	74.3	端部片	7
91	3	石鐮	粘板岩	I B-71	I	(34.0)	27.0	(9.0)	25.1	端部片、平行沈線・工字文	1
91	4	石鐮	粘板岩	I F-64	I	(98.0)	29.0	22.0	75.9	端部片、5・6と同一	2
	5	石鐮	粘板岩	I C-69	I	(39.3)	(30.5)	(11.0)	16.9	剥片、4・6と同一	178
	6	石鐮	粘板岩	I C-73	I	(63.9)	(28.5)	(10.5)	19.6	剥片、4・5と同一	181
	7	石鐮	粘板岩	I C-73	I	(36.8)	31.2	(10.2)	21.5	剥片	180
91	8	石鐮	粘板岩	I C-75	Ⅱ	(138.0)	26.0	17.0	107.7	半分欠	9
91	9	石剣	粘板岩	I B-69 I B-73	I I	(203.0)	24.0	18.0	141.9	半分欠、2点接合	11
92	10	石剣	粘板岩	I D-71	I	(136.0)	22.0	19.0	105.9	端部片、沈割線3条、11~14と同一か	10
92	11	石剣	粘板岩	Z-76	I	(102.0)	25.0	21.5	79.6	S Q-2のS-3と接合、10-12~14と同一か	184
	12	石剣	粘板岩	I E-69	I	(78.8)	26.0	22.3	65.1	破片、10・11・13・14と同一か	183
	13	石剣	粘板岩	I C-68	I	(57.2)	18.6	15.2	26.3	破片 10-12・14と同一か	182
写76	14	石剣	粘板岩	I B-70	I	(56.8)	(23.7)	7.2	13.1	剥片、鋸身、10・11~13と同一か	176
	15	石剣	粘板岩	I D-73	Ⅳ	(38.0)	26.9	14.4	22.9	身部片	179
写76	16	石剣	粘板岩	I E-73	Ⅱ	(48.0)	(21.0)	(7.0)	9.5	先端部片	177
92	17	石刀	粘板岩	I P-68	I	(82.0)	26.0	16.0	49.8	先端部片	3
92	18	石刀	粘板岩	I E-72	Ⅳ	(161.0)	32.0	19.0	154.8	先端部片、石剣か	4
92	19	石刀	粘板岩	I D-64	I	(198.0)	43.0	8.0	116.0	身部片・刃区(はまち)有	5
93	20	岩版	泥岩	I D-70	Ⅳ	(91.0)	69.0	29.0	181.3	一部欠	13
93	21	岩版	凝灰質泥岩	I G-67	I	(62.0)	65.0	24.0	50.0	破片	14
93	22	岩版	凝灰質泥岩	I E-72	I	(58.0)	(52.0)	23.0	26.9	破片	15
93	23	円形石製品	砂岩	I E-72	Ⅲ	(51.0)	49.0	23.0	49.2	破片	12
94	24	玉	緑色凝灰岩	I B-71	Ⅳ	11.0	10.0	7.0	0.8	完形品、両面穿孔	18
94	25	玉未製品	緑色凝灰岩	I F-70	Ⅳ	16.8	12.8	10.7	2.6	一部面取り、S-6	16
94	26	玉未製品	緑色凝灰岩	I D-71	Ⅲ	11.7	10.2	8.2	1.3	一部面取り	17
94	27	玉未製品	緑色凝灰岩	I F-70	Ⅳ	95.0	95.0	55.0	0.5	穿孔途中、S-1	19
94	28	管状玉未製品	緑色凝灰岩	I F-62	I	14.0	14.0	(12.0)	2.5	穿孔途中、半分欠	20
95	29	円盤状石製品	安山岩	I A-75	I	55.0	51.0	17.0	70.3	粗円形、周側面にスリ多、片面浅い凹み	21
95	30	円盤状石製品	安山岩	I B-72	Ⅳ	59.0	55.0	25.0	132.2	粗円形、周側面にスリ多	22
95	31	円盤状石製品	凝灰岩	I C-71	Ⅲ	53.0	50.0	21.0	82.9	粗円形、周側面にスリ無	23
95	32	円盤状石製品	安山岩	I B-70	I	55.0	50.0	16.0	61.1	粗円形、周側面にスリ多	24
95	33	円盤状石製品	安山岩	I C-71	I	39.0	39.0	15.0	37.3	粗円形、周側面に自然磨3、アスファルト?付着	25
95	34	円盤状石製品	凝灰岩	I F-67	Ⅲ	53.0	48.0	16.0	64.1	粗円形、周側面にスリ多・一部自然面	26

図	番号	器種	石質	出土地	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	整理番号
95	35	円盤状石製品	安山岩	I E-67	I	62.0	61.0	16.0	82.9	楕円形、周側面が刃部状	27
95	36	円盤状石製品	凝灰岩	I H-62	I	58.0	57.0	16.0	86.6	楕円形、一部自然面	28
95	37	円盤状石製品	安山岩	I D-65	I	60.0	60.0	17.0	83.3	楕円形、周側面が刃部状、赤褐色付着	29
95	38	円盤状石製品	安山岩	I B-72	I	52.0	52.0	17.0	78.6	楕円形、周側面にスリ多	30
95	39	円盤状石製品	凝灰岩	I C-70	I	68.0	57.0	18.0	103.9	楕円形、周側面にスリ多・一部自然面、アスファルト付着	31
95	40	円盤状石製品	安山岩	I C-75	IV	56.0	51.0	22.0	91.0	楕円形、周側面にスリ多・一部自然面、片面浅い凹み	32
95	41	円盤状石製品	凝灰岩	I B-71	IV	56.0	55.0	22.0	93.9	楕円形、周側面にスリ有	33
95	42	円盤状石製品	安山岩	I E-67	I	67.0	60.0	27.0	183.1	楕円形、周側面にスリ多	34
95	43	円盤状石製品	凝灰岩	I D-72	III	50.0	47.0	16.0	58.1	楕円形、周側面にスリ無、裏面割離	35
95	44	円盤状石製品	凝灰岩	I E-64	I	57.0	55.0	19.0	81.4	楕円形、周側面にスリ有、裏面割離	36
95	45	円盤状石製品	凝灰岩	I C-75	III	53.0	50.0	23.0	82.6	円形、周側面にスリ多、裏面割離	37
95	46	円盤状石製品	頁岩	I A-71	IV	67.0	59.0	19.0	85.8	楕円形、周側面が刃部状、炭化物付着	38
95	47	円盤状石製品	安山岩	I E-67	I	44.0	40.0	11.0	33.2	楕円形、周側面にスリ無	39
95	48	円盤状石製品	凝灰岩	I C-69	I	51.0	48.0	30.0	92.5	楕円形、周側面にスリ少、赤褐色付着	40
95	49	円盤状石製品	凝灰岩	I C-75	IV	47.0	44.0	19.0	42.8	楕円形、周側面にスリ有、赤褐色	41
95	50	円盤状石製品	凝灰岩	I G-63	I	47.0	46.0	20.0	66.6	楕円形、周側面にスリ無	42
95	51	円盤状石製品	凝灰岩	I C-69	I	62.0	60.0	28.0	134.1	楕円形、周側面にスリ無	43
95	52	円盤状石製品	凝灰岩	I D-65	I	57.0	56.0	27.0	100.2	角張った円形、周側面にスリ無・半分自然面	44
95	53	円盤状石製品	凝灰岩	I B-71	IV	52.0	45.0	(10.0)	29.8	楕円形、周側面にスリ多、裏面割離、一部欠	45
95	54	円盤状石製品	凝灰岩	I B-71	III	55.0	54.0	16.0	59.9	円形、周側面にスリ多、断面台形	46
95	55	円盤状石製品	凝灰岩	I E-64	I	57.0	56.0	17.0	75.1	楕円形、周側面にスリ有	47
95	56	円盤状石製品	安山岩	I D-72	III	59.0	55.0	16.0	88.2	楕円形、周側面にスリ有	48
95	57	円盤状石製品	安山岩	I C-70	I	59.0	52.0	19.0	96.0	楕円形、周側面にスリ多	49
95	58	円盤状石製品	安山岩	I E-66	I	49.0	46.0	9.0	29.9	円形、周側面にスリ多、アスファルト付着	50
95	59	円盤状石製品	安山岩	I B-68	I	56.0	50.0	23.0	111.6	だ円形、周側面にスリ多	51
95	60	円盤状石製品	凝灰岩	I A-72	I	61.0	54.0	22.0	112.9	楕円形、周側面にスリ多・一部自然面	52
95	61	円盤状石製品	凝灰岩	I A-71	I	57.0	55.0	19.0	106.7	楕円形、周側面にスリ多	53
95	62	円盤状石製品	安山岩	I C-71	I	65.0	60.0	18.0	109.1	楕円形、周側面にスリ多	54
95	63	円盤状石製品	凝灰岩	I B-71	I	48.0	44.0	13.0	43.4	楕円形、周側面にスリ少・片面浅い凹み・アスファルト付着?	55
95	64	円盤状石製品	凝灰岩	I E-65	I	44.0	43.0	16.0	40.5	楕円形、周側面にスリ少	56
95	65	円盤状石製品	凝灰岩	I E-63	IV	56.0	56.0	25.0	91.0	楕円形、周側面にスリ無	57
95	66	円盤状石製品	凝灰岩	I D-65	I	61.0	58.0	26.0	112.8	楕円形、周側面にスリ多、赤褐色付着	58
95	67	円盤状石製品	凝灰岩	I A-75	例木痕	68.0	62.0	25.0	159.5	楕円形、周側面にスリ多	59
95	68	円盤状石製品	凝灰岩	I E-70	IVb	62.0	61.0	24.0	141.1	楕円形、周側面にスリ無・一部自然面	60
95	69	円盤状石製品	頁岩か	I C-74	II	72.0	65.0	21.0	166.3	楕円形、周側面にスリ多・片面凹み・アスファルト付着	62
95	70	円盤状石製品	頁岩か	Z-76	I	63.0	56.0	20.0	72.2	楕円形、周側面にスリ無・刃部状	63
95	71	円盤状石製品	安山岩	I D-69	I	63.0	59.0	16.0	101.1	楕円形、周側面にスリ無	64
95	72	円盤状石製品	安山岩	I B-72	II	70.0	60.0	27.0	183.6	楕円形、周側面にスリ少	65
95	73	円盤状石製品	安山岩	I B-72	IV	64.0	58.0	26.0	167.9	楕円形、周側面にスリ無	66

図	番号	器種	石質	出土地	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	整理番号
97	74	円盤状石製品	安山岩	I C-74	II	65.0	58.0	17.0	116.4	楕円形、周側面にスリ多	67
97	75	円盤状石製品	安山岩	I E-70	III	65.0	61.0	21.0	133.2	楕方形、周側面にスリ有、一部自然面、片面洗い凹み	68
97	76	円盤状石製品	安山岩	I B-70	I	65.0	60.0	22.0	135.2	楕円形、周側面にスリ有、一部自然面	69
97	77	円盤状石製品	凝灰岩	I C-69	I	70.0	67.0	23.0	150.3	楕円形、周側面にスリ少、一部自然面	70
97	78	円盤状石製品	凝灰岩	I C-71	III	77.0	71.0	32.0	276.8	楕円形、周側面にスリ多、片面洗い凹み	71
97	79	円盤状石製品	安山岩	I B-71	IV	75.0	74.0	25.0	200.7	楕円形、周側面にスリ多	72
97	80	円盤状石製品	安山岩	I C-70	I	81.0	72.0	30.0	260.2	楕五角形、周側面に自然面 2	73
98	81	円盤状石製品	安山岩	I B-70	I	79.0	69.0	24.0	216.2	楕円形、周側面にスリ多、一部自然面	74
98	82	円盤状石製品	安山岩	I C-71	III	82.0	70.0	42.0	337.3	楕円形、周側面にスリ多、一部自然面	75
98	83	円盤状石製品	凝灰岩	Z-76	I	79.0	76.0	24.0	243.4	楕五角形、周側面に自然面多、片面洗い凹み	76
98	84	円盤状石製品	凝灰岩	I E-69	I	89.0	79.0	32.0	360.4	楕円形、周側面にスリ多	77
98	85	円盤状石製品	凝灰岩	I A-71	I	69.0	65.0	27.0	135.3	楕円形、周側面にスリ多、一部自然面、片面洗い凹み	78
98	86	円盤状石製品	凝灰岩	Z-72	IV	80.0	68.0	27.0	170.6	楕円形、周側面の一部自然面、裏面一部割離	79
98	87	円盤状石製品	安山岩	I B-71	I	73.0	65.0	15.0	108.5	楕三角形、円盤状石製品かどうか?	80
98	88	円盤状石製品	安山岩	辨土	-	77.0	75.0	19.0	185.8	楕円形、周側面にスリ有	81
98	89	円盤状石製品	凝灰岩	I B-70	I	82.0	79.0	20.0	167.1	楕方形、周側面にスリ多、一部自然面、炭化物付着	82
98	90	円盤状石製品	安山岩	I B-71	IV	87.0	86.0	24.0	231.6	楕円形、周側面にスリ無	83
99	91	円盤状石製品	凝灰岩	I C-72	I	91.0	74.0	26.0	296.8	楕円形、周側面にスリ多	84
99	92	円盤状石製品	凝灰岩	I A-71	IV	88.0	72.0	32.0	257.2	楕円形、周側面にスリ無、片面洗い凹み 2	85
99	93	円盤状石製品	凝灰岩	I D-71	IV	77.0	77.0	30.0	231.6	楕円形、周側面にスリ無、赤褐色痕	86
99	94	円盤状石製品	安山岩	I A-71	I	88.0	83.0	33.0	398.1	楕五角形、周側面にスリ少、赤褐色痕	87
99	95	円盤状石製品	安山岩	I A-74	I	122.0	115.0	58.0	430.4	楕三角形、周側面に自然面 1、赤褐色鉄付着	88
99	96	円盤状石製品	安山岩	I G-64	I	92.0	88.0	46.0	596.6	楕方形、周側面に自然面 2	89
99	97	円盤状石製品	安山岩	I A-73	IV	100.0	97.0	22.0	323.4	楕円形、周側面にスリ少	90
99	98	円盤状石製品	凝灰岩	I C-71	I	65.0	69.0	24.0	92.5	楕円形、周側面にスリ多、裏面割離	91
99	99	円盤状石製品	安山岩	辨土	-	59.0	56.0	24.0	133.2	楕方形、周側面にスリ多	92
100	100	円盤状石製品	凝灰岩	辨土	-	63.0	61.0	21.0	114.2	楕方形、周側面にスリ有	93
101	101	円盤状石製品	安山岩	I B-70	I	67.0	60.0	26.0	136.8	楕五角形、周側面にスリ多、自然面 1	94
102	102	円盤状石製品	凝灰岩	I B-75	IV	71.0	66.0	22.0	126.4	楕円形、周側面にスリ有、一部刃部状	95
103	103	円盤状石製品	安山岩	I A-74	IV	53.0	53.0	18.0	71.4	楕円形、周側面にスリ有、自然面 1	96
104	104	円盤状石製品	凝灰岩	I C-75	IV	57.0	54.0	15.0	65.5	楕円形、周側面にスリ少、自然面 1	97
105	105	円盤状石製品	凝灰岩	Z-76	I	60.0	60.0	20.0	88.4	楕方形、周側面にスリ少、自然面 1、赤褐色痕	98
106	106	円盤状石製品	凝灰岩	I A-69	IV	67.0	60.0	22.0	99.3	不整形、周側面にスリ少、刃部状、自然面 2	99
107	107	円盤状石製品	凝灰岩	I G-69	I	81.0	70.0	29.0	156.6	楕円形、周側面にスリ多、裏面一部割離	100
108	108	円盤状石製品	凝灰岩	I A-75	I	69.0	61.0	19.0	113.1	楕円形、周側面にスリ有、刃部状、赤褐色痕	101
109	109	円盤状石製品	安山岩	I B-71	IV	56.0	51.0	15.0	59.9	楕方形、周側面にスリ有	102
110	110	円盤状石製品	凝灰岩	I E-67	I	55.0	52.0	(13.0)	47.0	楕円形、周側面にスリ有、裏面割離	103
111	111	円盤状石製品	安山岩	Z-72	IV	60.0	53.0	23.0	110.4	楕方形、周側面にスリ有、自然面 1	104
112	112	円盤状石製品	凝灰岩	I C-71	I	49.0	46.0	12.0	42.1	楕小方形、周側面にスリ有、自然面 3	105

図	番号	器種	石質	出土地	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	整理番号
	113	円盤状石製品	凝灰岩	排土	—	63.0	53.0	18.0	76.6	粗小円形、周側面にスリ無・刃部状・自然面1	106
	114	円盤状石製品	安山岩	I C-72	Ⅲ	58.0	53.0	19.0	120.5	粗小円形、周側面にスリ有	107
	115	円盤状石製品	凝灰岩	I C-72	I	64.0	58.0	17.0	76.1	粗小円形、周側面にスリ有	108
	116	円盤状石製品	凝灰岩	I A-71	IV	72.0	63.0	(18.0)	112.0	粗小円形、周側面にスリ無・自然面1、裏面割離	109
	117	円盤状石製品	凝灰岩	I C-71	I	71.0	58.0	22.0	139.4	粗小円形、周側面にスリ無・自然面3	110
	118	円盤状石製品	凝灰岩	I B-69	I	43.0	40.0	11.0	26.8	粗小円形、周側面にスリ無・自然面2	111
	119	円盤状石製品	凝灰岩	I C-71	Ⅲ	58.0	49.0	15.0	51.4	粗小円形、周側面にスリ無・刃部状・自然面2	112
	120	円盤状石製品	凝灰岩	排土	—	61.0	55.0	20.0	98.8	粗小円形、周側面にスリ無・自然面3	113
	121	円盤状石製品	花崗岩	I E-68	IV	43.0	41.0	14.0	40.1	粗小円形、周側面にスリ無・自然面2	114
	122	円盤状石製品	凝灰岩	I C-70	I	80.0	72.0	28.0	163.1	粗小円形、周側面にスリ無・自然面2、鉄分付着	115
	123	円盤状石製品	安山岩	I C-69	I	75.0	59.0	23.0	134.4	粗小円形、周側面にスリ無・自然面3	116
	124	円盤状石製品	凝灰岩	排土	—	77.0	65.0	24.0	156.2	粗長方形、周側面にスリ多・自然面1	117
	125	円盤状石製品	安山岩	I E-63	IV	65.0	52.0	18.0	69.3	粗小円形、周側面にスリ無・刃部状・自然面2	118
	126	円盤状石製品	凝灰岩	I C-70	I	67.0	61.0	21.0	104.1	粗小円形、周側面にスリ有、赤褐色	119
	127	円盤状石製品	安山岩	I C-63	I	54.0	50.0	12.0	42.7	粗小円形、周側面にスリ無・刃部状・自然面1	120
	128	円盤状石製品	凝灰岩	I C-68	I	69.0	65.0	(24.0)	48.5	粗小円形、周側面にスリ有、裏面割離	121
	129	円盤状石製品	凝灰岩	I E-63	IV	54.0	51.0	19.0	74.6	粗小円形、周側面にスリ無	122
	130	円盤状石製品	安山岩	I C-72	I	65.0	63.0	20.4	40.6	粗小円形、周側面にスリ無・自然面1	123
	131	円盤状石製品	凝灰岩	I H-60	I	63.0	55.0	25.0	103.6	粗小円形、周側面にスリ無・自然面1	124
	132	円盤状石製品	凝灰岩	Z-76	I	90.0	83.0	13.9	72.7	粗小円形、周側面にスリ無・自然面2	125
99	133	円盤状石製品	凝灰岩	I C-74	IV	64.0	62.0	23.0	137.9	粗小円形、周側面にスリ無・自然面2	126
	134	円盤状石製品	安山岩	I D-65	I	64.0	55.0	15.0	62.4	粗小円形、周側面にスリ無・自然面3	127
	135	円盤状石製品	安山岩	I F-66	I	81.0	71.0	14.0	111.5	粗三角形、周側面にスリ無・自然面2	128
	136	円盤状石製品	安山岩	I E-64	I	74.0	61.0	24.0	163.1	不整形、周側面にスリ無・自然面2	130
	137	円盤状石製品	安山岩	I D-65	I	64.0	60.0	23.0	86.7	粗三角形、周側面にスリ無・自然面2	131
	138	円盤状石製品	凝灰岩	I E-68	I	72.0	60.0	18.0	82.0	粗小円形、周側面にスリ有・自然面2	132
	139	円盤状石製品	安山岩	I C-67	I	68.0	63.0	18.0	127.2	粗小円形、周側面にスリ多・自然面4	133
	140	円盤状石製品	凝灰岩	I C-67	I	68.0	56.0	21.0	103.4	粗小円形、周側面にスリ多・自然面1、赤褐色	134
	141	円盤状石製品	凝灰岩	I E-68	I	77.0	71.0	19.0	142.5	粗小円形、周側面にスリ有・自然面1	135
	142	円盤状石製品	安山岩	I F-67	I	56.0	50.0	19.0	76.2	粗小円形、周側面にスリ無・自然面2、一部欠	136
	143	円盤状石製品	凝灰岩	I D-65	I	72.0	62.0	23.0	125.8	粗小円形、周側面にスリ無・自然面2	137
	144	円盤状石製品	安山岩	I F-67	I	68.0	45.0	17.0	40.5	粗小円形、周側面にスリ無・刃部状・自然面3	139
	145	円盤状石製品	凝灰岩	排土	—	62.0	(39.0)	(10.0)	43.3	周側面にスリ有、黒褐色分付着、破片	140
	146	円盤状石製品	凝灰岩	I F-67	I	(70.0)	(54.0)	19.0	80.3	不整形破片、周側面にスリ無・自然面	141
	147	円盤状石製品	凝灰岩	I C-67	I	(61.0)	(51.0)	23.0	84.5	粗小円形、周側面にスリ多、一部欠	142
	148	円盤状石製品	凝灰岩	I F-67	Ⅲ	49.0	(36.0)	12.0	33.0	粗小円形、周側面にスリ有、裏面割離、一部欠	143
	149	円盤状石製品	安山岩	I B-75	Ⅲ	76.0	(47.0)	32.0	141.2	粗小円形、周側面にスリ多、半欠	144
	150	円盤状石製品	凝灰岩	I C-75	IV	88.0	(56.0)	22.0	128.4	周側面にスリ無、赤褐色分付着、半欠	145
	151	円盤状石製品	凝灰岩	I D-69	I	84.0	(54.0)	33.0	193.2	粗小円形、周側面にスリ多、一部欠	146

図	番号	器種	石質	出土地	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	整理番号
	152	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	65.0	54.7	23.1	122.6	楕方形、周側面にスリ無・自然面 3	147
	153	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	53.0	47.8	24.7	43.1	不整形、周側面にスリ無、破片	148
	154	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	77.6	64.3	25.3	193.8	楕方形、周側面にスリ無・自然面 2	149
写80	155	円盤状石製品	安山岩	—	—	89.0	69.7	21.0	172.2	楕方形、周側面にスリ無・自然面 2	150
	156	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	85.1	84.3	23.1	214.2	不整形、周側面にスリ無・自然面 2	151
	157	円盤状石製品	安山岩	—	—	62.7	49.9	24.9	148.8	楕方形、周側面にスリ無・自然面 2	152
	158	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	46.4	45.2	13.3	45.2	不整形、周側面にスリ無	153
	159	円盤状石製品	安山岩	—	—	65.7	50.0	13.3	72.1	不整形、周側面にスリ無、裏面割離	154
	160	円盤状石製品	安山岩	—	—	65.7	57.3	30.6	185.5	不整形、周側面にスリ無・自然面 3	155
	161	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	83.4	61.9	15.0	122.7	楕方形、周側面にスリ無・自然面 3	156
	162	円盤状石製品	安山岩	—	—	68.1	59.7	23.1	133.5	楕方形、周側面にスリ無・自然面 3	157
	163	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	45.8	44.1	14.5	37.7	楕方形、周側面にスリ無・自然面 2	158
	164	円盤状石製品	頁岩	—	—	55.4	50.9	11.1	46.0	楕六角形、周側面にスリ無・自然面 5	159
写80	165	円盤状石製品	安山岩	—	—	65.6	(41.7)	34.7	154.7	楕円形、周側面にスリ無、破片	160
	166	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	67.3	(54.5)	21.7	92.9	不整形、周側面にスリ無、破片	161
	167	円盤状石製品	安山岩	—	—	69.4	(37.9)	18.3	54.4	楕円形、周側面にスリ無、破片	162
	168	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	50.0	(30.1)	23.3	46.2	楕円形、周側面にスリ有、破片	163
	169	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	47.4	35.7	13.7	34.3	楕方形、周側面にスリ無、薄手	164
	170	円盤状石製品	安山岩	—	—	62.2	54.3	16.1	69.7	不整形、周側面にスリ無・自然面 2、薄手	165
	171	円盤状石製品	安山岩	—	—	38.3	43.0	6.7	19.8	楕円形、周側面にスリ無、破片	166
	172	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	67.8	(42.6)	10.5	45.6	不整形、周側面にスリ無・自然面 2、半欠	167
	173	円盤状石製品	安山岩	—	—	40.7	41.4	20.7	54.5	楕六角形、周側面にスリ無・自然面 2	168
	174	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	39.4	41.1	8.9	19.3	楕円形、周側面にスリ有・薄手	169
	175	円盤状石製品	安山岩	—	—	48.8	(43.2)	12.2	37.9	不整形、周側面にスリ無、赤焼面、破片	170
写80	176	円盤状石製品	安山岩	—	—	62.5	58.2	16.1	80.2	楕円形、周側面にスリ無・自然面 2	171
	177	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	81.2	(48.2)	19.3	114.2	楕方形、周側面にスリ無・自然面 2	172
	178	円盤状石製品	凝灰岩	—	—	55.8	(50.6)	16.3	53.4	不整形、周側面にスリ無・自然面 2	173
99	179	円盤状石製品	安山岩	I C-72	IV	92.0	85.0	27.0	275.2	不整形、周側面にスリ無・自然面 3、S-22	174

遺構外古銭観察表

図	番号	銭貨	材質	出土地	層	直径(mm)	外輪厚(mm)	外輪幅(mm)	重量(g)	備考	整理番号	
	94	3	寛永通寶	銅	I S-61	I	25.0	1.3	2.5	2.8	背文・新寛永	1
写77	4	寛永通寶	銅	I E-61	I	23.5	1.0	2.2	2.3	無背・古寛永	2	
	94	5	寛永通寶	銅	I R-56	I	25.0	1.3	2.6	1.9	背文・新寛永	3
	94	6	寛永通寶	銅	I R-56	I	25.6	1.2	2.6	1.2	背文・新寛永、一部欠	4

第IV章 放射性炭素年代測定結果報告

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けた試料について、結果を得たのでご報告します。

報告内容の説明

14C age(y BP) : 14C年代測定値

試料の14C/12C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。半減期として5568年を用いた。

補正14C age : 補正14C年代測定値

(y BP) 試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。

δ 13C (permil) : 試料の測定14C/12C比を補正するための13C/12C比。

この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体からの千分偏差(‰)で表現する。

$$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C) [\text{試料}] - (13C/12C) [\text{標準}]}{(13C/12C) [\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、13C/12C [標準] = 0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中の14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14C測定、サンゴのU-T h年代と14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース(“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により約19000年までの換算が可能となった。

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析 Radiometric : 液体シンチレーションカウンターによるβ-線計数法

処理、調製、その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid - alkali - acid : 酸-アルカリ-酸洗浄

acid washes : 酸洗浄

acid etch : 酸によるエッチング

none : 未処理

調製、その他 Bulk - Low Carbon Material : 低濃度有機物処理

Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 : BETA ANALYTIC INC. 4985 SW 74 Court, Miami, FL 33155, U.S.A

C14年代測定結果

○第6号竪穴住居跡(SI-06)出土炭化材(C-2)の測定値

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta - 137341	3, 040 ± 40	-25.0	3, 040 ± 40
試料名(12916)	TOKO-1		
測定方法、期間	Standard - AMS		
試料種、前処理など	charred material	acid - alkali - acid	

○第7号竪穴住居跡(SI-07)床面出土炭化材(C-3)の測定値

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta - 137342	3, 260 ± 40	-24.6	3, 260 ± 40
試料名(12917)	TOKO-2		
測定方法、期間	Standard - AMS		
試料種、前処理など	charred material	acid - alkali - acid	

○第7号竪穴住居跡(SI-07)床面出土炭化材(C-4)の測定値

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta - 137343	3, 240 ± 40	-24.2	3, 260 ± 40
試料名(12918)	TOKO-3		
測定方法、期間	Standard - AMS		
試料種、前処理など	charred material	acid - alkali acid	

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダンリファレンススタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables:C13/C12=-24.2;lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137343

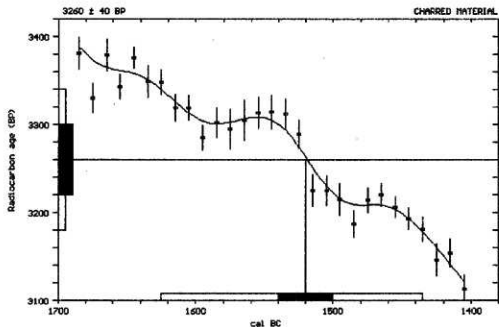
Conventional radiocarbon age: 3260 ± 40 BP

Calibrated results: cal BC 1625 to 1435 (Cal BP 3575 to 3385)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: cal BC 1520 (Cal BP 3470)

1 sigma calibrated results: cal BC 1540 to 1500 (Cal BP 3490 to 3450)
(68% probability)



References:

- Calibration Database
- Editorial Comment
- Stuiver, M., van der Plight, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-viii
- INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
- Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083
- Mathematics
- A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
- Talms, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-24.6; lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137342

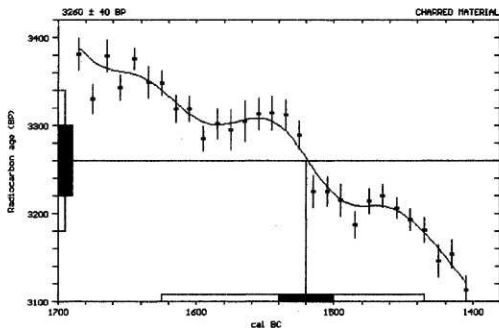
Conventional radiocarbon age: 3260 ± 40 BP

Calibrated results: cal BC 1625 to 1435 (Cal BP 3575 to 3385)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 1520 (Cal BP 3470)

1 sigma calibrated results: cal BC 1540 to 1500 (Cal BP 3490 to 3450)
 (68% probability)



References:

Calibration Database
Editorial Comment
 Stuiver, M., von der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), p111-1111
INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
 Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
 Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25; lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137341

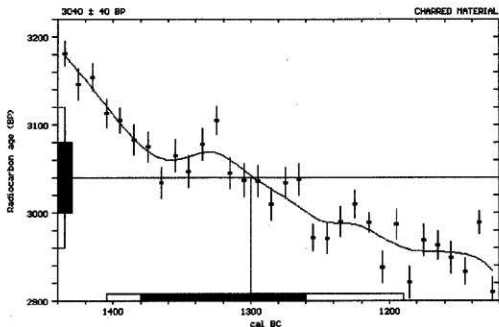
Conventional radiocarbon age: 3040 ± 40 BP

Calibrated results: cal BC 1405 to 1190 (Cal BP 3355 to 3140)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: cal BC 1300 (Cal BP 3250)

1 sigma calibrated results: cal BC 1380 to 1260 (Cal BP 3330 to 3210)
(68% probability)



References:

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., von der Plüsch, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xtii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

第V章 まとめ

岩山北東麓(標高80～120メートル)にある十腰内(1)遺跡(青森県遺跡番号02010)の本格的発掘調査は、平成9年度に引き続き、今回で2度目になる。調査は平成11年4月20日から6月30日まで行われた。その結果、縄文時代後期後葉～晩期前半を主な時期とする集落跡・遺物包含地が発見・調査され、各種の遺物が出土した。以下、それらについてまとめそれぞれの持つ意義について述べる。

第1節 検出遺構と遺物

(1) 遺構

竪穴住居跡・土坑・土器埋設遺構・集石遺構の計28基がある。

・竪穴住居跡

縄文時代後期後葉～晩期前半とみられるものが6軒ある。第4～9号竪穴住居跡である(第1～3号については、平成11年度刊行の発掘調査報告書に掲載済み)。遺構が調査区外に延びていたり、風倒木で壊されたりしており、完掘され平面プランが確認されたものは第4・8号である。確認された2例はともに円形で直径約3メートル、3.6メートルほどの小型のものである。また、第4号には半円状の張り出し部と地床炉1基、第5・9号には地床炉1基がみられ、第6号には、石囲い炉1基と土器を埋設した二重石囲い炉という特殊な形状の炉跡1基がみられた。また、第7・8号には土器片で覆われた地床炉がある。このなかで細かな時代を特定できるのは、第7・8号であり、縄文時代後期後葉(十腰内Ⅳ式期)である。また、第4・6・9号については出土した土器により晩期前半とみられ、第5号については、明確な時期は不明であるが、後期～晩期とみられる。

・土坑

計19基あり、大半が円形である。このなかで、縄文時代後～晩期のものは2基あり、うち1基はフラスコ状土坑である。また、平安時代以降のものも1基ある。その他の土坑は遺物が出土していないため時期は不明である。なお、平成9年度の調査で1基検出された墓穴とみられる土坑は、今回は発見されなかった。

・土器埋設遺構

縄文時代晩期中葉の小型壺形土器が埋設された遺構が1基ある。土器内部には小礫が1点入っていた。土器棺墓ともみられるが、土器の底部に孔・破壊痕がないため、用途は不明である。

・集石遺構

縄文時代晩期前半と平安時代以降のものが各1基ある。縄文晩期前半のものには、石皿等の礎石器が含まれていたが、ともに定形的なものではなく、また集石下部に土坑等の掘り込みもない。用途は不明である。

(2) 遺物

土器・石器・土製品・石製品などの各種遺物がある。年代は、年代をほぼ特定できる土器・古銭以外では、縄文時代後期のものも若干含まれている可能性があるが、大半が縄文時代晩期前半のものと

みられる。

・土器

縄文時代前期・中期の円筒上層・下層式土器、後期前葉・中葉の十腰内Ⅰ～Ⅲ式土器が少数あり、さらに後葉の十腰内Ⅳ・Ⅴ式土器もあるが、大半を占めるのは晩期前葉～中葉の土器である。後・晩期の型式では、後期の十腰内Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ式、晩期の大洞B・BC・C₁・C₂・A・A'式、聖山Ⅰ式があり、数量的には晩期前半期のものが多い。また、晩期の小型（ミニチュア）土器もある。

・石器

石鏃・尖頭器・石錐・円形搔器・石筥・石匙・不定形石器・磨製石斧・敲磨器（こうまき。すり石・たたき石）⁽⁶⁾・凹み石・石皿・石錘など各種がある。このなかで、石鏃・凹み石・石皿が多く、また石器製作時にできる頁岩や黒曜石剥片も多い。しかし、石錘は少ない。

・土製品

土偶（中実・中空土偶）、土器片を利用した円盤状土製品（有孔・無孔）、土製耳飾りなどがある。

・石製品

石棒・石剣・石刀類、岩版・円形石製品・玉類・円盤状石製品がある。このうち、玉類はすべて軟質の細粒緑色凝灰岩である。小玉と管玉状のものがあり、完形品は1点のみ、他の4点は面取りされた部分や未貫通孔が残された製作途中のものである。また、細粒緑色凝灰岩製の玉材は110余点あり、そのうちの77点が納められていた晩期中葉の赤彩壺形土器もある。

・その他

平安時代の土師器・須恵器片と近世の寛永通寶が少数ある。寛永通寶には古寛永と背文銭がある。

第2節 問題点の指摘と若干の考察

以上検出された遺構・遺物のなかで、問題点を指摘し、若干の考察をくわえたい。

(1) 遺構

竪穴住居跡・土坑・土器埋設遺構・集石遺構があるが、このなかで、縄文時代後期の住居跡が検出されたのは十腰内(1)遺跡の調査でははじめてである。また、今回の調査でも平成9年度の調査に引き続いて晩期の住居跡が検出された。しかし、平成9年度の調査では、晩期前葉の住居跡2軒（直径約13メートルの大型住居跡と直径約2.6メートルの小型住居跡）が検出され、いずれも石囲い炉をもつ住居跡であったのに対し、今回の調査では、この石囲い炉のみの住居跡は少なく、大半が地床炉の住居跡であった点が異なる。今回の住居跡の細かな年代が明確ではないという点はあるものの、この違いはおそらく年代差を示すものであろう。晩期の住居跡は、近年青森県内において、次第に類型が増えてきており、晩期初頭には石囲い炉が多く、次第に地床炉に移るようである。また、本例は直径3メートル前後の小型のものであるが、これも比較的多くみられる規模である。第4号は半円状の張り出し部があるものであるが、この時期の形態としては、類型がないものである。また、第6号は石囲い炉と埋設土器を伴う二重石囲い炉をあわせもつ例である。津軽地方では、土器埋設炉はきわめて少なく、埋設土器を伴う石囲い炉の例は小泊村縄文沼遺跡に晩期中葉（大洞C₂式）の住居跡があるの

みであるが、これも二重の石囲い炉ではなく、しかも炉跡は1基である。本例はこの点からはじめての検出となる。しかしこの第6号に双方の炉跡が同時に併存したかどうかという問題がある。張り出し部をもつ第4号とともに住居跡の用途・空間利用という観点から注目される例であり、今後の類例検出に期待したい。また、第7・8号の後期後葉の地床炉は土器片で意識的に覆われていた例である。類例は岩手県一戸町袴の木遺跡のS I 0 2住居跡（後期中葉）などにある。これは、おそらく炉の廃棄に関する祭祀的な行為を示唆したものとみられるもので、今後の類例の増加に期待したい。

(2) 遺物

石鏃は多数出土したが、なかに基部に天然アスファルトとみられる黒色物質が附着したのも少数含まれている。これは、秋田県北部に産出したものとみられるが、本県域における天然アスファルト（可能性のあるものも含め）の利用は、一般的には縄文時代中期から一般化し、後・晩期にはより多用されるが、十腰内(1)遺跡の例はそれと軌を一にした現象とみられる。また、ここでは、剥片石器の材料として頁岩のほかに黒曜石製の剥片が多く出土しており、石器製作が行われていたことを示している。ただし、黒曜石製の石鏃は1点のみであり、製品数は非常に少ない。これは、出来島産の黒曜石には小礫が多く、しかも気泡が多く含まれているため、必ずしも石器製作に適したものではなかったことを意味しているものとみられる。この黒曜石の産地分析を平成9年度の出土試料について行った結果は、すべて地元の出来島産（七里長浜や鱈ヶ沢町の中村川などで採集される）を利用したものであった。晩期の木造町亀ヶ岡遺跡でも黒曜石の剥片が多く出土しているが、遺跡が産地に近接しているという地理的条件によるものであろう。また、ここで出土した磨石・敲き石と石皿には赤色顔料が附着したものがあり、さらに赤岩片もある。酸化鉄すなわちベンガラとみられるものである。本県域では、この赤色顔料は既に縄文時代早期末から使用され、後・晩期になって各地で多用される状況と軌を一にした現象である。ベンガラは、津軽半島先端にあって江戸時代から良質なベンガラ産地として知られた今別町赤根沢産の可能性がたかく、そのベンガラを利用し、製作していたとみられる。また、玉類には細粒緑色凝灰岩製の未製品が4点あり、さらに壺形土器にはその小礫が77点納められていた例がある。このことから、この遺跡では玉を磨く砥石は出土していないものの、玉作りが行われていたと考えられる。本県では、晩期には木造町亀ヶ岡遺跡や三戸町泉山遺跡などの各遺跡で、この細粒緑色細粒凝灰岩の小礫を用いた玉作りが行われている。石質が軟かく、加工しやすい点大きい。ちなみに、浪岡町源常平遺跡、六ヶ所村上尾駮(1)遺跡C地区からはこの石材を用いた玉類が多数出土しており、上尾駮(1)遺跡C地区では20基の土坑墓から計860点（破片も含めて）も出土している。つぎに、石製品のなかでもっとも多いのは円盤状石製品であり、151点が出土した。平成9年度の調査では、わずか13点の出土であったが、今回の調査で多数出土した。この遺物は東北地方の晩期前半に一般的にみられる遺物であり、県内では三戸町泉山遺跡から322点、県外では岩手県北上市九年橋遺跡では171点出土している。この用途についてはさまざま考えられてはいるが、まだ想像の域を出るものではなく、用途不明の遺物である。今回の調査・研究においても、この用途を特定するに足るだけの出土状況や遺物の観察結果はなかった。今後の研究課題としておきたい。

(3) 放射性炭素による年代測定

今回の調査において、検出された住居跡から炭化した材木片が出土している。これらのうち3点について、放射性炭素年代測定(AMS測定)を依頼した。測定試料は、第6号竪穴住居跡の炭化材1点、第7号竪穴住居跡の炭化材2点である。その結果は、第6号例は1950年を現在として3,040±40年前、第7号例は3,260±40年前という年代値であった。この年代値を、出土した土器の型式と比較してみると、第6号出土の土器は、型式名が明確ではないものの晩期前半の壺型土器であることから、双方の年代はほぼ一致する。また、第7号出土の土器は後期後葉の十腰内Ⅳ式期であり、双方の年代は一致すると考えられる。

本報告書を終えるにあたり、この遺跡の調査の準備・実施から、出土遺物の整理、調査報告書の作成まで、多くの方々からご協力・ご教示をいただいている。心から感謝申しあげる次第である。

(齋藤・葛城・福田)

【引用・参考文献】

- (1) 青森県教育委員会 1977 『水木沢遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第34集
- (2) 青森県教育委員会 1978 『源常平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第39集
- (3) 青森県教育委員会 1980 『金木町 神明町遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第58集
- (4) 青森県教育委員会 1982 『馬場瀬(1)(2)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第70集
- (5) 青森県教育委員会 1985 『尻高(2)(3)(4)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第89集
- (6) 青森県教育委員会 1986 『今津遺跡・間沢遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第95集
- (7) 青森県教育委員会 1988 『上尾敷(1)遺跡C地区発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第113集
- (8) 青森県教育委員会 1995 『泉山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第181集
- (9) 青森県教育委員会 1996 『泉山遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第190集
- (10) 青森県教育委員会 1999 『十腰内(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第261集
- (11) 青森県教育委員会 2000 『山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第274集
- (12) 青森県立郷土館 1974 『亀ヶ岡石器時代遺跡』青森県立郷土館調査報告第17集・考古-6
- (13) 秋田県教育委員会 1998 『虫内Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第274集
- (14) 一戸町教育委員会 1995 『山井遺跡-縄文晩期の包含層』一戸町文化財調査報告書第36集
- (15) 今井 富士雄・磯崎 正彦 1968 『十腰内遺跡』『岩木山-岩木山麓古代遺跡発掘調査報告書』岩木山刊行会
- (16)(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財文化財センター 1986 『馬場野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第99集

- (17)(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第100集
- (18)(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『寺久保遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第239集
- (19)(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『和当地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第259集
- (20)(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『椏の木遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第263集
- (21)(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『大芦Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第306集
- (22)(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第336集
- (23)岡田 康博 1986 『十腰内第Ⅲ群・第Ⅳ群・第Ⅴ群土器の再検討』『弘前大学考古学研究』第3号
- (24)葛西 勲編 1996 『宇鉄遺跡発掘調査報告書』三厩村教育委員会
- (25)鹿角市教育委員会 1993 『赤坂B遺跡』鹿角市文化財調査資料48
- (26)鹿角市教育委員会 1995 『赤坂A遺跡』鹿角市文化財調査資料53
- (27)小宮 恒雄 1990 『住まいの入口』『季刊考古学』第32号
- (28)鈴木 公雄・林 謙作編 1981 『縄文土器大成4 晩期』小学館
- (29)芹澤 長介編 1979 『峠下聖山遺跡』七飯町教育委員会
- (30)東京国立博物館 1996 『東京国立博物館図版目録—縄文遺物篇(土偶・土製品)』中央公論美術出版
- (31)東北大学文学部 1982 『東北大学文学部考古学資料図録 第1巻』
- (32)東北歴史資料館 1996 『東北地方の土偶』
- (33)「土偶とその情報」研究会 1998 『土偶研究の地平』3 勉誠出版
- (34)中谷 治宇二郎 1929 『東北地方石器時代遺跡調査豫報』『人類学雑誌』第44巻第3号
- (35)八戸市教育委員会 1986 『丹後谷地遺跡発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集
- (36)八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅱ発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集
- (37)福田 正宏 2000 『北部亀ヶ岡式土器としての聖山式土器』『古代』第108号
- (38)藤村 東男 1981 『岩手県九年橋遺跡出土の円盤状土製品について』『萌木』第16号
- (39)宮城県教育委員会 1990 『摺菘遺跡』宮城県文化財調査報告書第132集
- (40)宮本 長二郎 1990 『炉からカマドへ』『季刊考古学』第32号
- (41)早稲田大学文学部考古学研究室 1991 『縄文沼遺跡発掘調査報告書』小泊村文化財調査報告書第2集
- (42)渡辺 誠・南 博史編 1997 『青森県石亀遺跡における亀ヶ岡文化の研究』(財)古代学研究所
研究報告第5輯

写 真 图 版



南区（岩木山を望む）



北区（W→）



南区（W→）

写真1 遺跡の状況（調査前）



北区



北区



基本層序
(I E-74グリッド付近・N→)

写真2 調査風景と基本層序



住居跡確認状況 (SW→)



遺物出土状況 (SW→)



遺物出土状況 (SW→)

写真3 第4号竪穴住居跡(1)



南西-北東セクション (S E→)

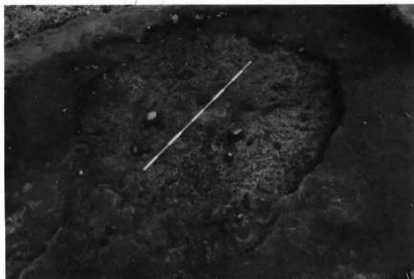


南東-北西セクション (N E→)

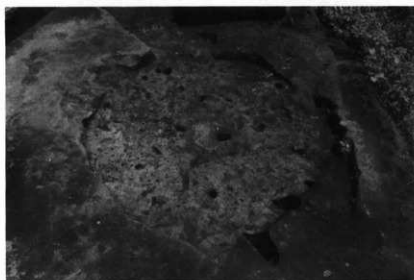


炉跡確認状況 (S W→)

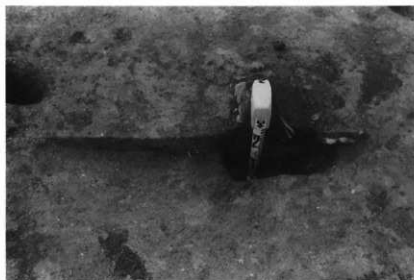
写真4 第4号竪穴住居跡(2)



遺物出土状況 (NE→)



住居跡完掘状況 (SW→)



炉跡セクション (SW→)

写真5 第4号竪穴住居跡(3)



第4号竖穴住居跡(右)と第6号竖穴住居跡(W→)



第5号竖穴住居跡発掘状況(S E→)

写真6 第4・6号, 第5号竖穴住居跡



調査風景



炭化材検出状況 (S→)

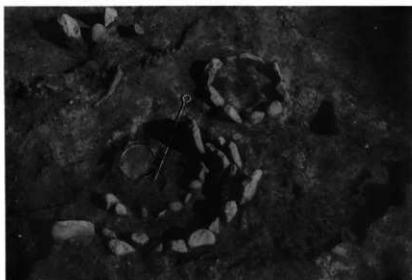


住居跡セクション (S E→)

写真7 第6号竪穴住居跡(1)



住居跡完掘状況 (S→)



炉跡検出状況 (NW→)



炉跡検出状況 (S→)

写真8 第6号竪穴住居跡(2)

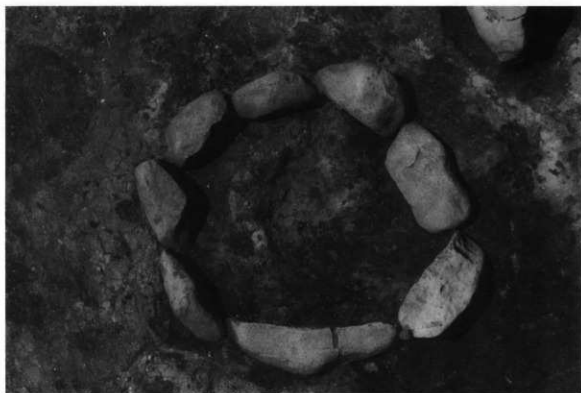


炉跡セクション (SW→)

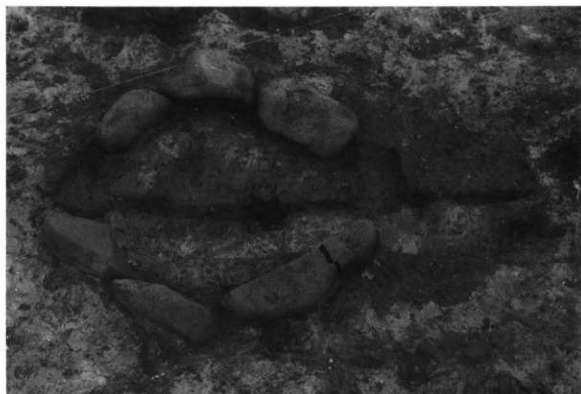


炉跡掘り方セクション (SW→)

写真9 第6号竪穴住居跡(3)



炉跡検出状況 (S E→)



炉跡掘り方セクション (S W→)

写真10 第6号竪穴住居跡(4)



住居跡セクション (S W→)

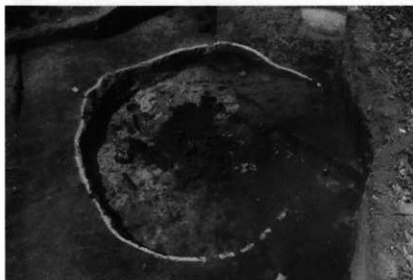


住居跡セクション (W→)

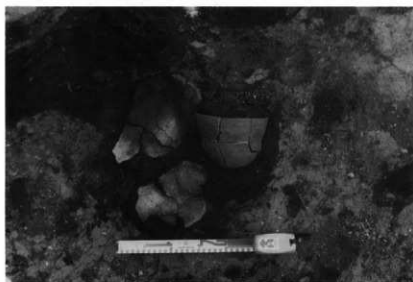
写真11 第7号竪穴住居跡(1)



炭化材検出状況 (S→)

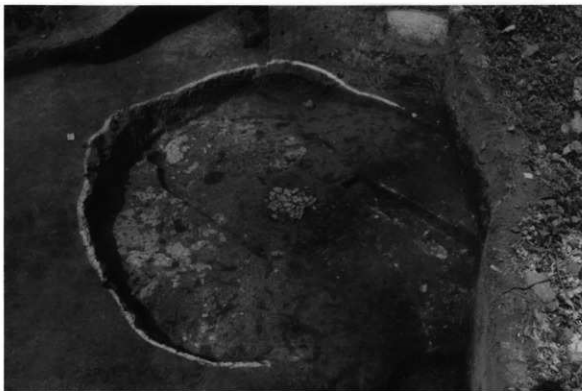


炭化材・遺物出土状況 (S→)

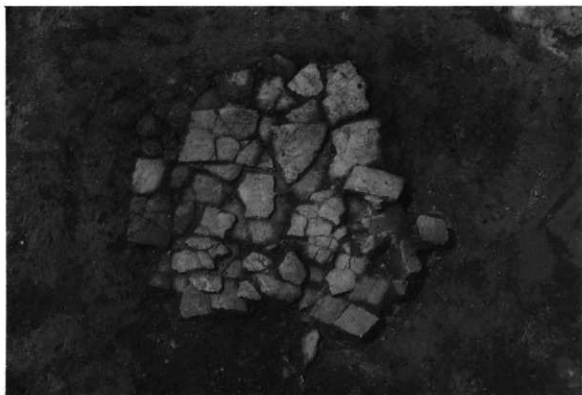


土器出土状況 (W→)

写真12 第7号竪穴住居跡(2)



炉跡検出状況 (S→)

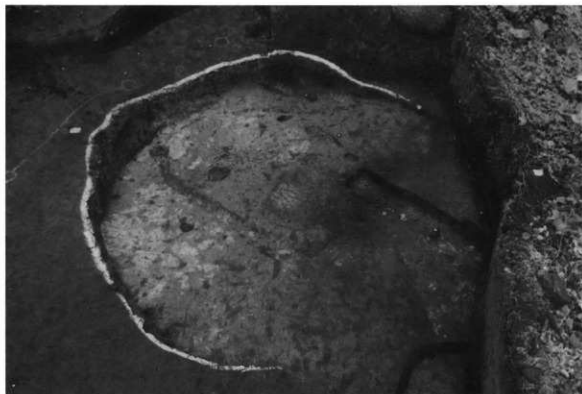


炉跡検出状況 (N→)

写真13 第7号竪穴住居跡(3)



住居跡完掘状況 (N→)



住居跡完掘状況 (S→)

写真14 第7号竪穴住居跡(4)



住居跡セクション (W→)

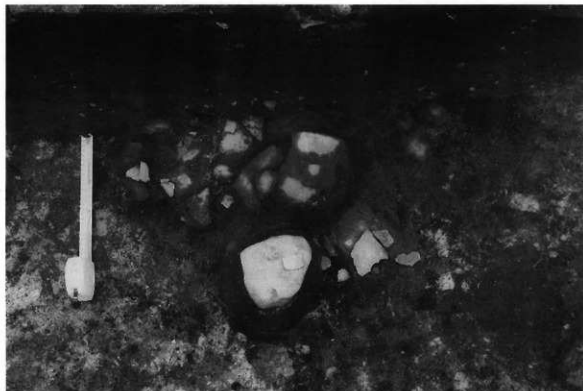


住居跡東-西セクション (S→)



遺物出土状況 (S E→)

写真15 第8号竪穴住居跡(1)



遺物出土状況 (S E→)



遺物出土状況 (W→)

写真16 第8号竖穴住居跡(2)



遺物出土状況 (S E→)

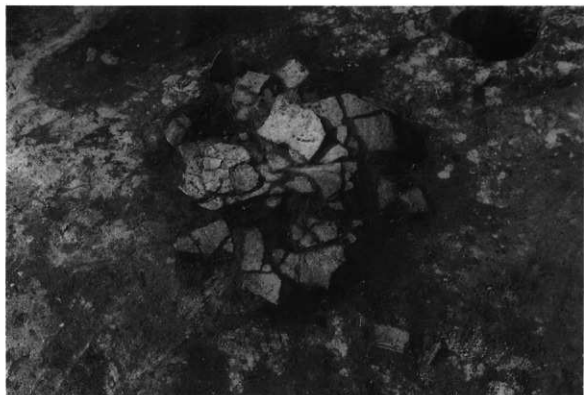


遺物出土状況 (W→)

写真17 第8号竖穴住居跡(3)



住居跡完掘状況 (S→)



炉跡検出状況 (S→)

写真18 第8号竖穴住居跡(4)



住居跡確認状況 (S→)



住居跡東-西セクション (S→)

写真19 第9号竪穴住居跡(1)



住居跡南-北セクション (E→)

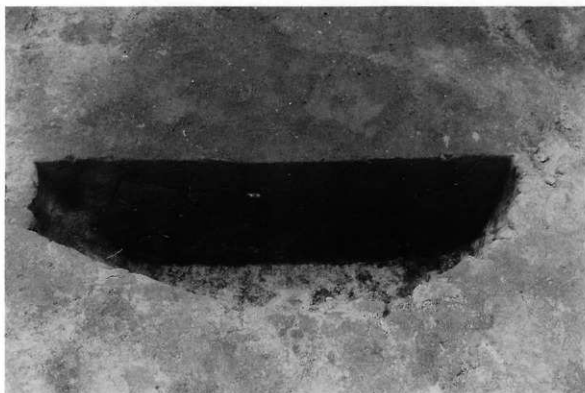


住居跡床面検出状況 (S→)

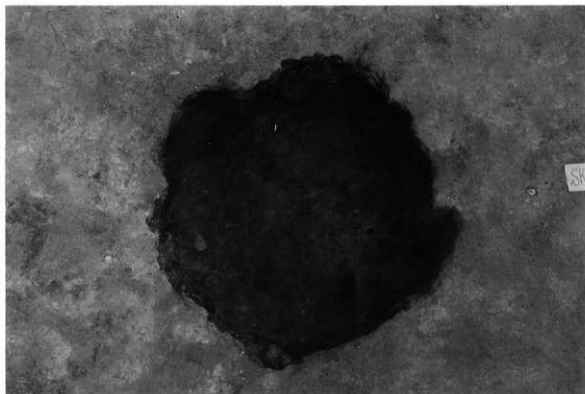


住居跡発掘状況 (S→)

写真20 第9号竪穴住居跡(2)



第54号土坑セクション (N→)

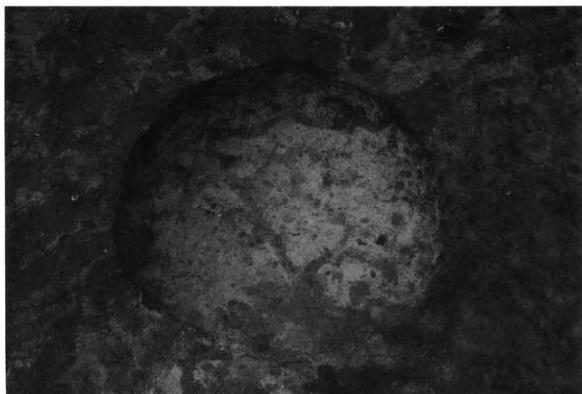


第61号土坑発掘状況 (S→)

写真21 第54・61号土坑



セクション (S→)



発掘状況 (S→)

写真22 第55号土坑

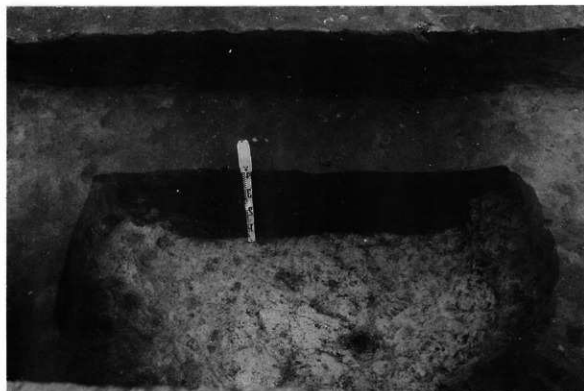


セクション (N→)

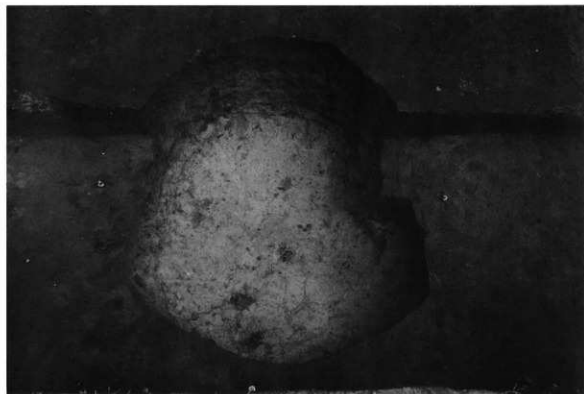


完掘状況 (N→)

写真23 第56号土坑

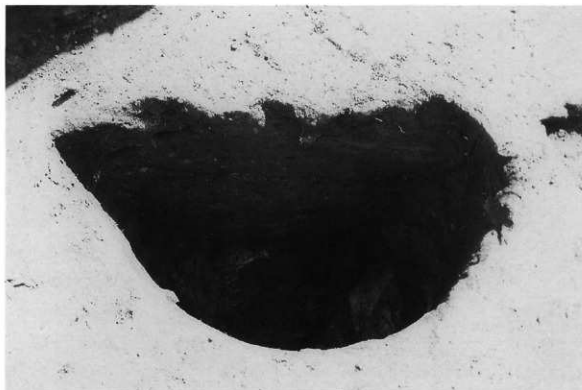


セクション (S→)

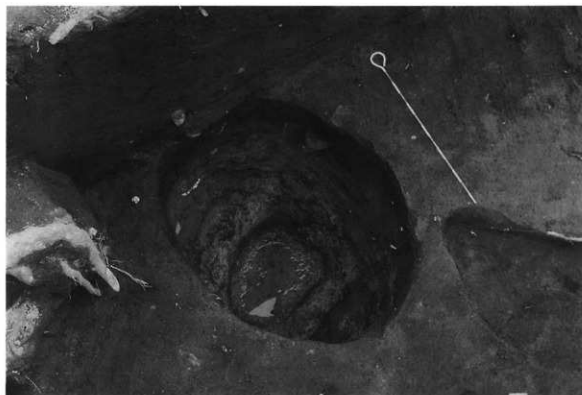


完掘状況 (S→)

写真24 第57号土坑



セクション (NE→)

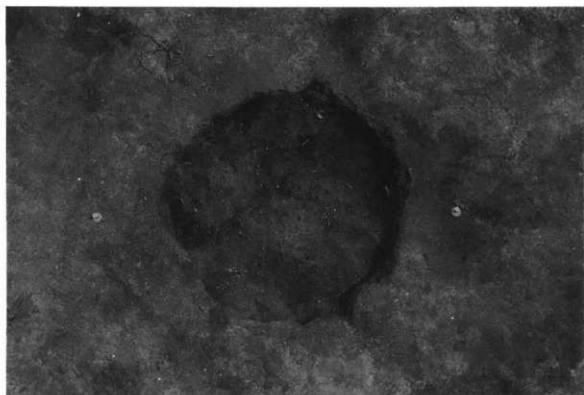


完掘状況 (NE→)

写真25 第58号土坑

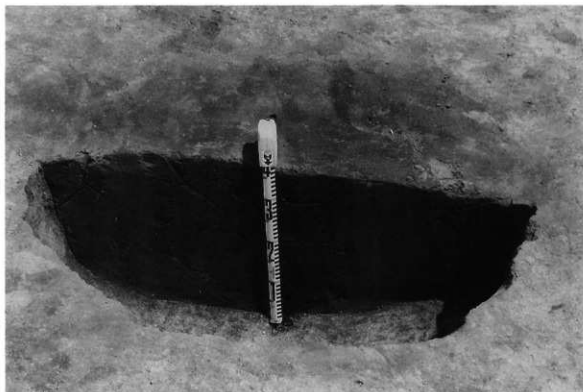


セクション (SW→)

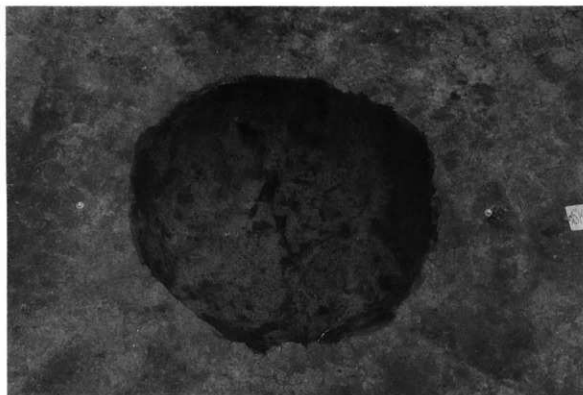


発掘状況 (SW→)

写真26 第59号土坑



セクション (SW→)

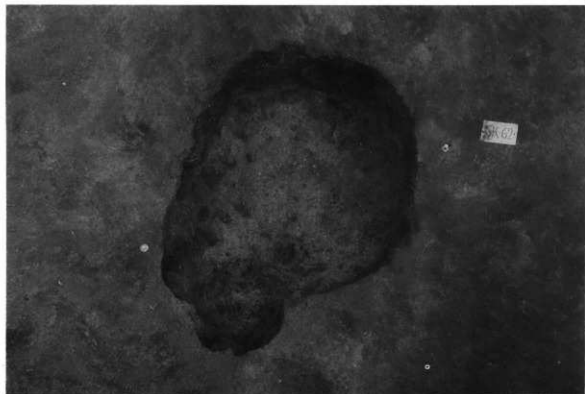


完掘状況 (SW→)

写真27 第60号土坑

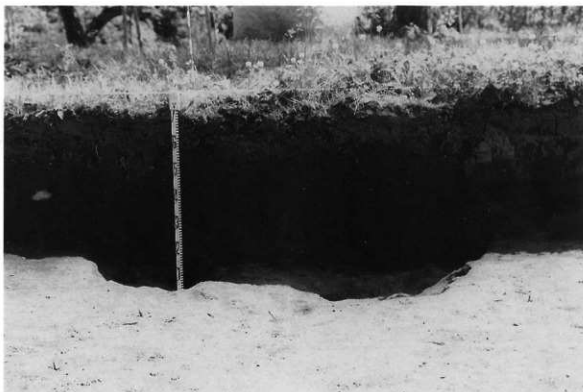


セクション (S→)



発掘状況 (S→)

写真28 第62号土坑

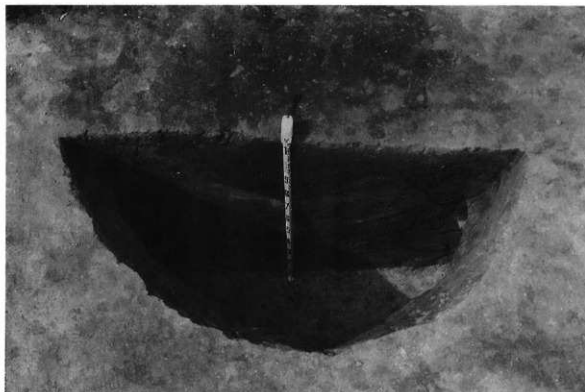


セクション (N→)



完掘状況 (N→)

写真29 第63号土坑



セクション (S→)

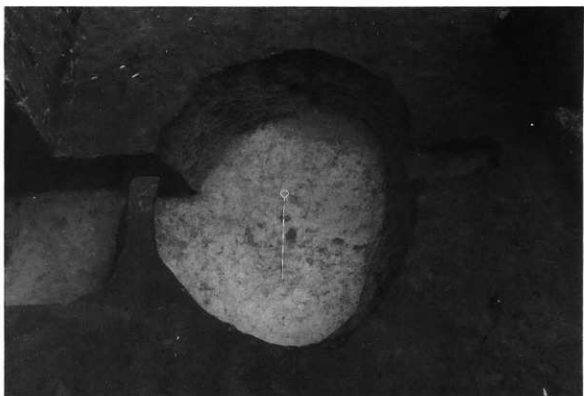


完掘状況 (S→)

写真30 第64号土坑



セクション (N→)

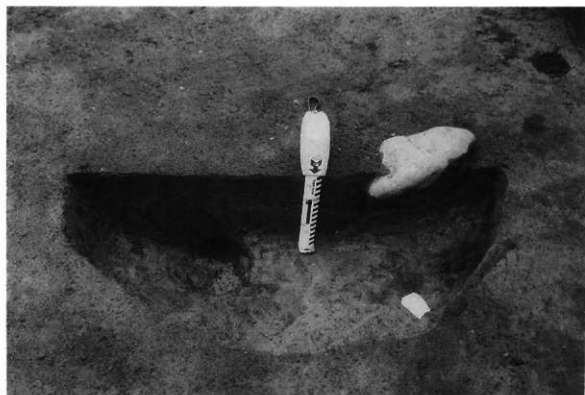


完掘状況 (N→)

写真31 第65号土坑



第66号土坑完掘状況 (S→)

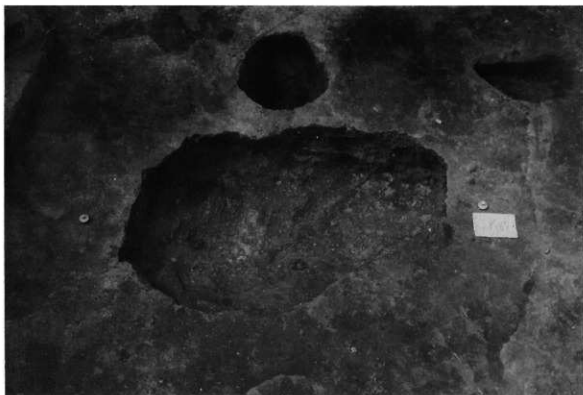


第70号土坑セクション (S→)

写真32 第66・70号土坑



セクション (SE→)

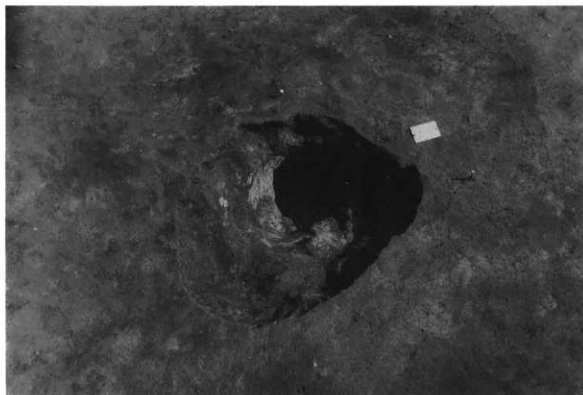


発掘状況 (SE→)

写真33 第67号土坑



セクション (SE→)

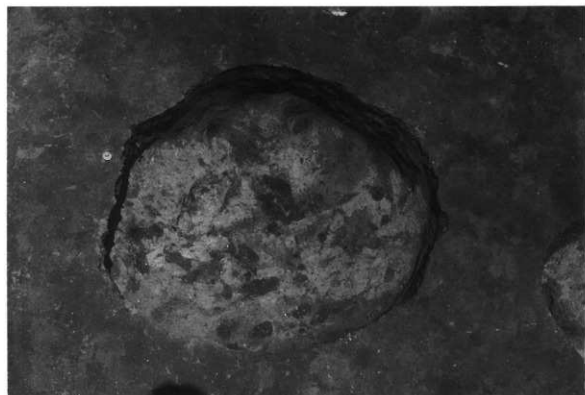


完掘状況 (N→)

写真34 第68号土坑



セクション (S→)



完撮状況 (S→)

写真35 第69号土坑



第71号土坑セクション (S→)

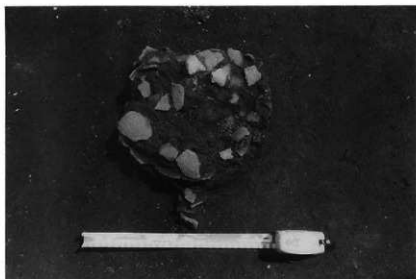


第71号土坑完備状況 (S→)



第72号土坑完備状況 (NE→)

写真36 第71・72号土坑



検出状況 (S W→)



セクション (S W→)



掘り方完備状況 (S W→)

写真37 第3号土器埋設遺構



検出状況 (S E→)



発掘状況 (N E→)

写真38 第1号集石遺構



検出状況 (NE→)



完掘状況 (NE→)

写真39 第2号集石遺構



I E-63~65グリッド (E→)



I E-63・64グリッド (S→)



I B-68グリッド (E→)

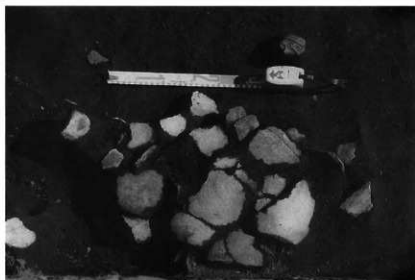
写真40 遺物出土状況(1)



I E-70・71グリッド (S→)



I E-70・71グリッド (N→)



I E-70・71グリッド (N→)

写真41 遺物出土状況(2)



(土器)
I D-64グリッド (W→)

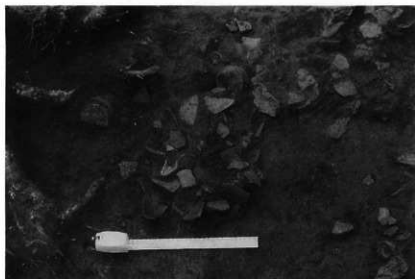


(土器)
I A-75グリッド (S W→)



(岩版)
I D-71グリッド (N W→)

写真42 遺物出土状況(3)



IB-68グリッド (E→)



遺物集中区
IC-71・72グリッド (SE→)



遺物集中区
IC-71・72グリッド (SE→)

写真43 遺物出土状況(4)



遺物集中区
I C-71グリッド (W→)



遺物集中区
I C-71グリッド (W→)



遺物集中区
I C-72グリッド (SE→)

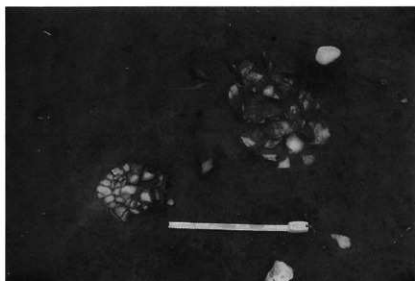
写真44 遺物出土状況(5)



遺物集中区
I E-72グリッド (E→)



遺物集中区
I E-72グリッド (E→)



遺物集中区
I E-72グリッド (E→)

写真45 遺物出土状況(6)



遺物集中区
I E-72グリッド (E→)

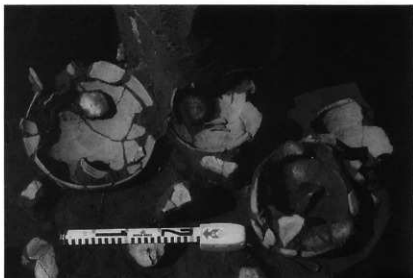


遺物集中区
I E-72グリッド (E→)

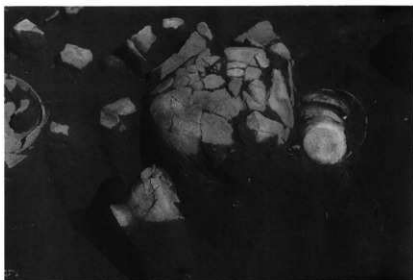


遺物集中区
I E-72グリッド (S→)

写真46 遺物出土状況(7)



遺物集中区
I E-72グリッド (S→)



遺物集中区
I E-72グリッド (S→)



遺物集中区
I E-72グリッド (S→)

写真47 遺物出土状況(8)



遺物集中区
I F-70グリッド以東 (W→)



遺物集中区
I E-70グリッド付近 (N→)



遺物集中区
I E-70グリッド付近 (N→)

写真48 遺物出土状況(9)



遺物見学会



遺跡見学会

写真49 遺物・遺跡見学会



北区完掘状況 (W→)



北区完掘状況 (W→)



北区完掘状況 (W→)

写真50 遺跡の状況(調査後)



南区完掘状況 (N→)

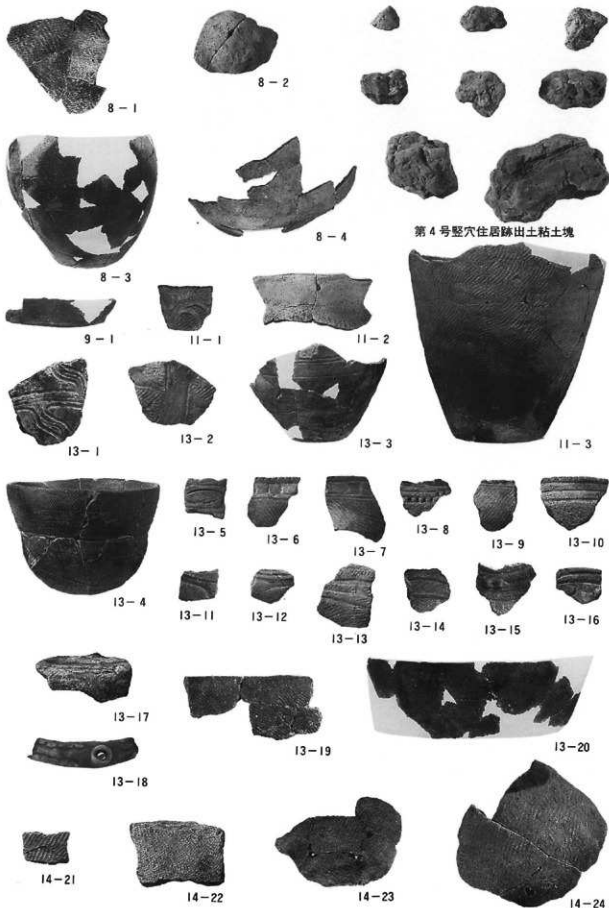


南区完掘状況 (W→)



南区完掘状況 (W→)

写真51 遺跡の状況 (調査後)



第4号竪穴住居跡出土粘土塊

写真52 第4~7号竪穴住居跡出土遺物



14-26



15-27



15-28



15-30



15-31



15-33



15-34



15-35



15-36



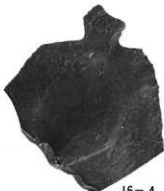
16-1



16-2



16-3



16-4



16-5



16-6

写真53 第7号竖穴住居跡出土遺物

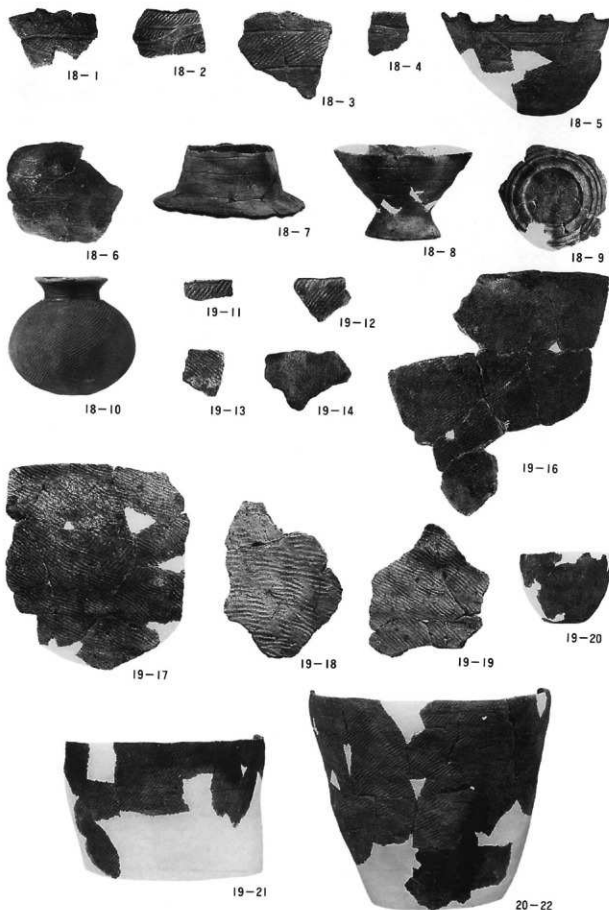


写真54 第8号竖穴住居跡出土遺物

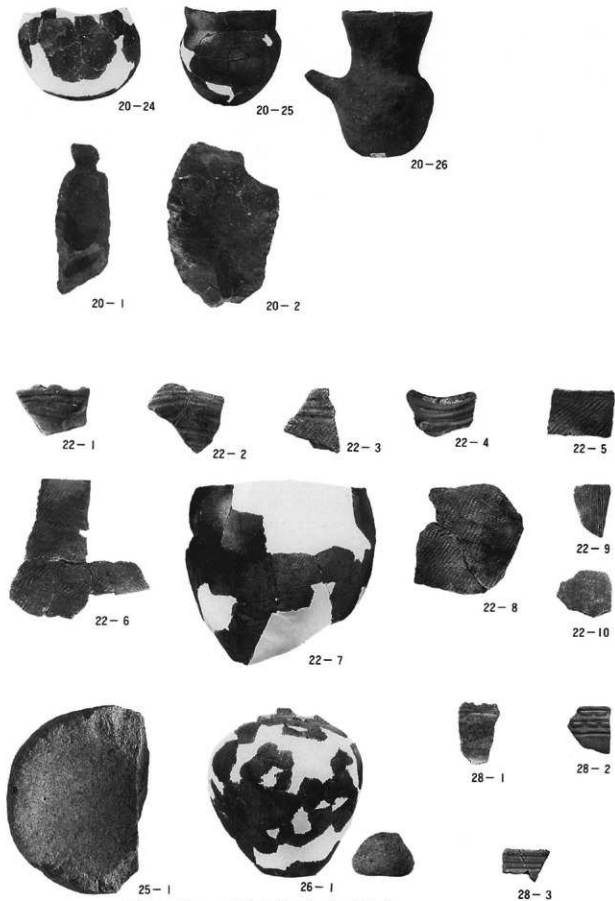


写真55 第8・9号竪穴住居跡、第58号土坑
第3号土器埋設遺構、第1・2号集石遺構出土遺物



28-1



28-2



28-3



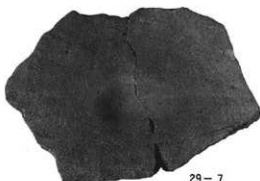
28-4



29-5



29-6



29-7



30-8



30-10



30-11



31-1



31-2



31-3



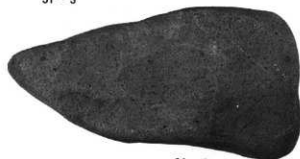
31-4



31-5



31-6



32-8



33-9



33-10



33-11



33-12

写真57 第2号集石遺構出土遺物

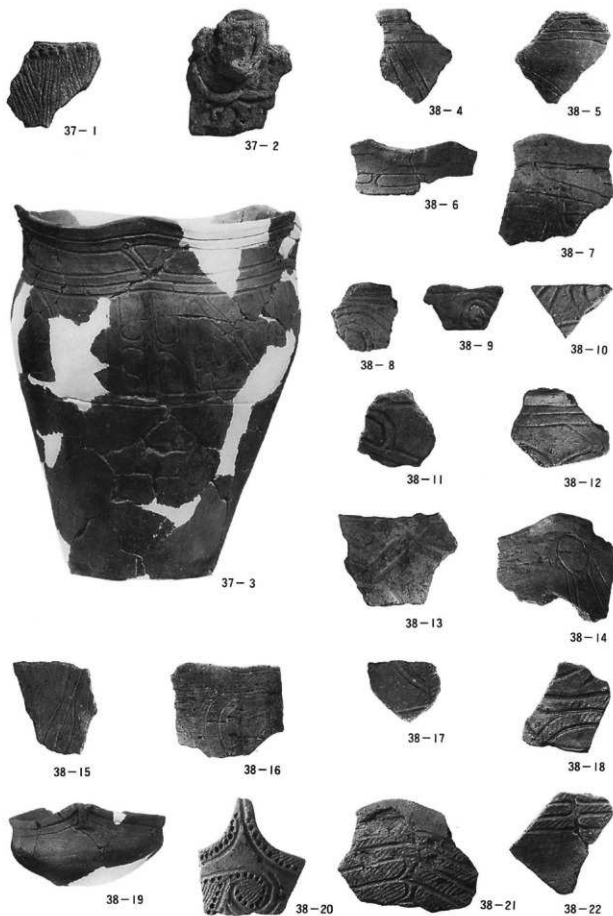


写真58 遺構外出土土器(1)



38-23



38-24



38-25



39-26



39-27



39-28



39-29



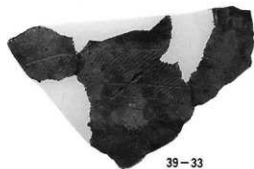
39-30



39-31



39-32



39-33



39-34



39-35



39-36



39-37



39-38



39-39



39-40



39-41



39-42



39-43



39-44



39-45



39-46

写真59 遺構外出土土器(2)

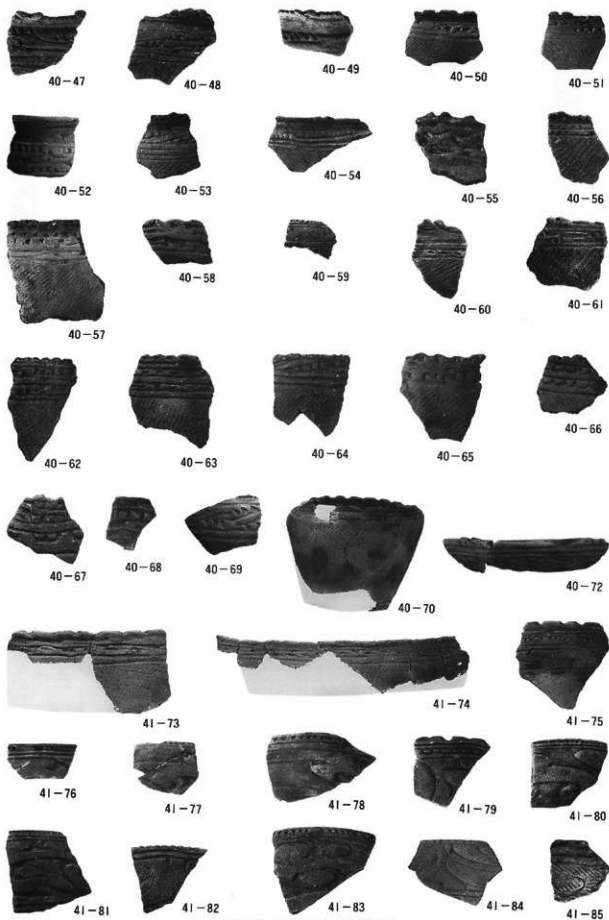


写真60 遺構外出土土器(3)



写真61 遺構外出土土器(4)



42-102



42-103



42-104



42-105



43-106



43-107



43-108



43-109



43-110



43-111



43-112



43-113



44-115



44-116



44-117



44-118



44-119



44-120



44-121

写真62 遺構外出土土器(5)



45-122



45-123



45-124



45-125



46-127



46-128



46-129



46-131



47-132



47-133



46-130



47-134

写真63 遺構外出土土器(6)



47-135



47-136



47-137



47-138



47-139



47-140



47-141



47-142



47-143



47-144



48-145



48-146



48-147



48-148



48-149



48-150



48-151



48-152

写真64 遺構外出土土器(7)



48-153



49-154



49-155



49-156



49-158



49-159



49-157



50-162



50-163



50-164



50-165



50-166



50-167



50-168



50-169



50-170



50-171



50-172



50-173



50-174

写真65 遺構外出土土器(8)



51-175



51-176



51-177



51-178



51-179



51-180



51-181



52-182



52-183



52-184



52-185



52-186



52-188



52-189

写真66 遺構外出土土器(9)



43-111



43-112



44-114

写真67 遺構外出土土器(10)

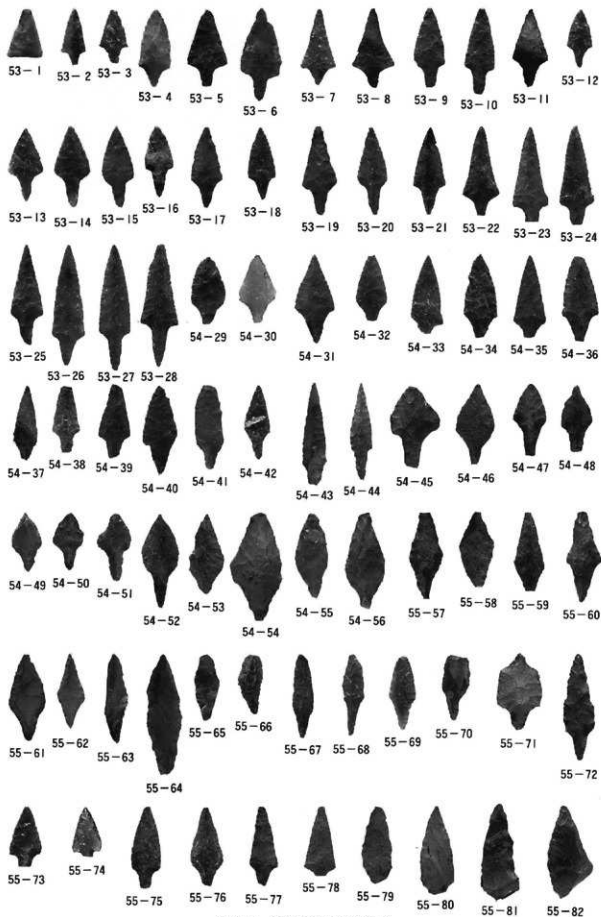


写真68 遺構外出土石器(1)

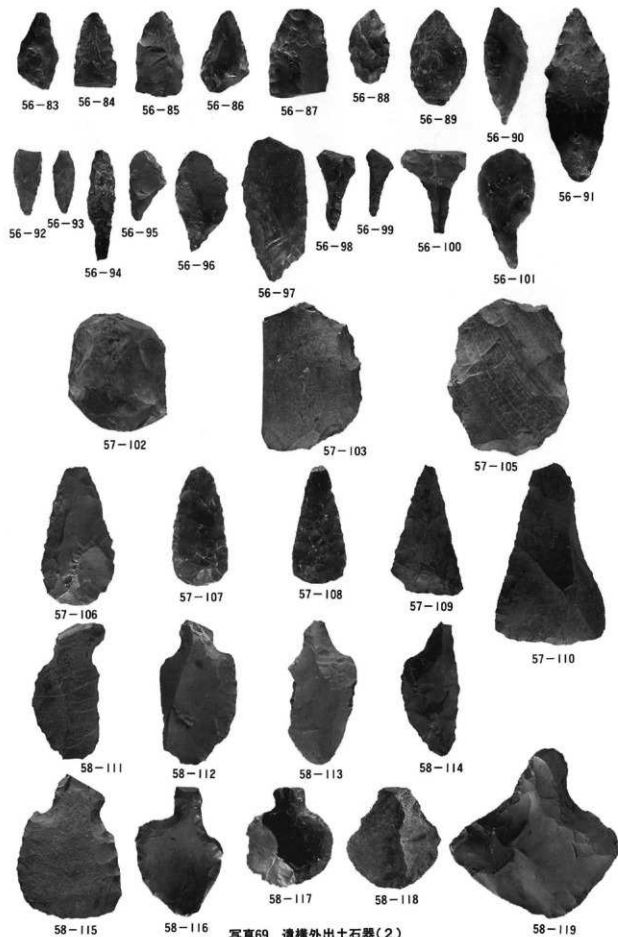


写真69 遺構外出土石器(2)



59-120



59-121



59-122



59-123



59-124



59-125



59-126



59-127



59-128



60-129



60-130



60-131



60-132



60-133



60-134



60-135



61-136



61-137



61-138



61-139



61-140



61-141



61-142



61-143



62-144



62-145



黒曜石の剥片

写真70 遺構外出土石器(3)

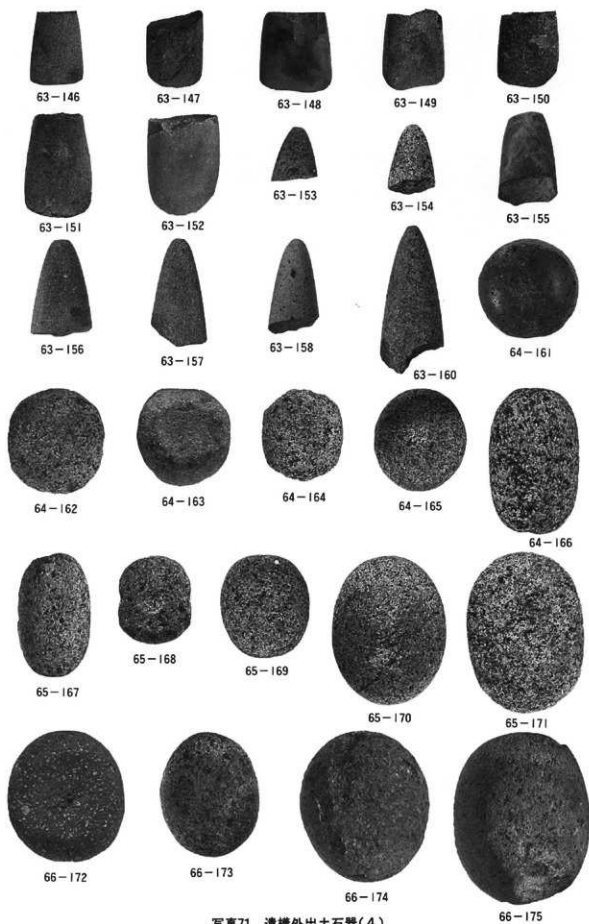


写真71 遺構外出土石器(4)

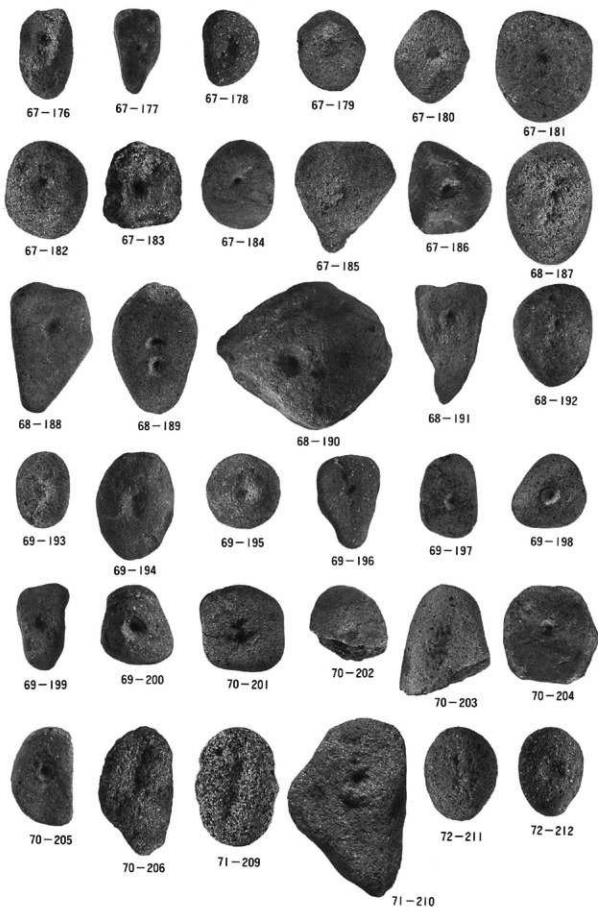


写真72 遺構外出土石器(5)

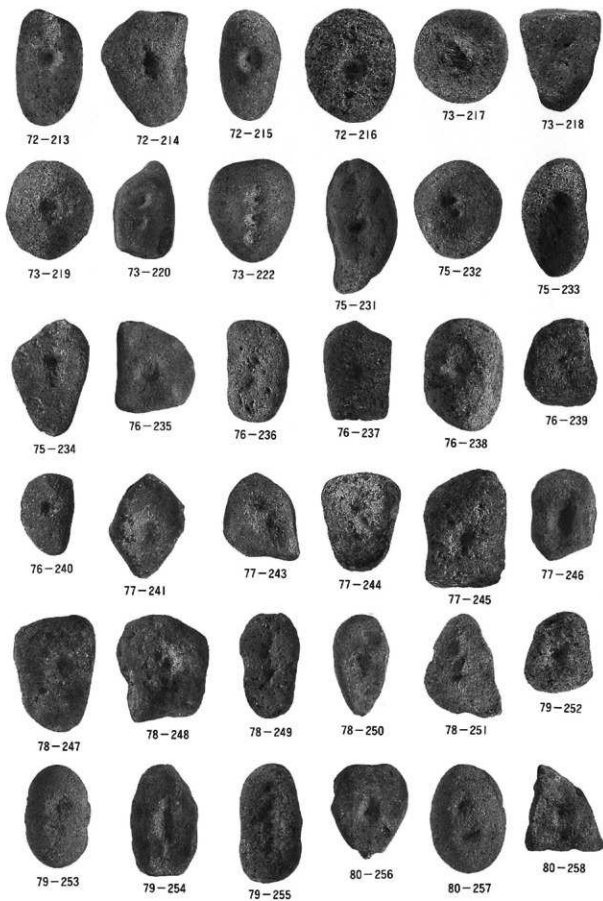


写真73 遺構外出土石器(6)

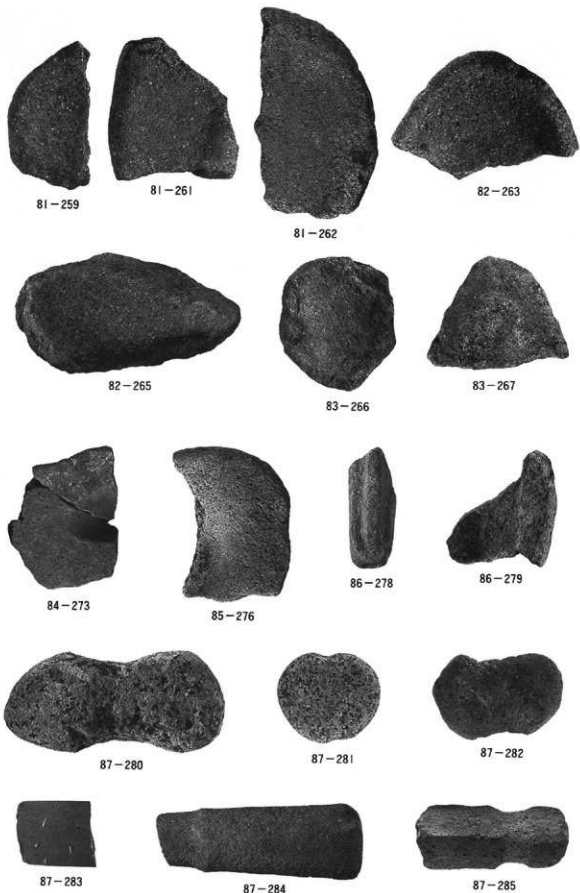


写真74 遺構外出土石器(7)



88-1

88-2



88-3

88-4

88-5



88-6

88-7

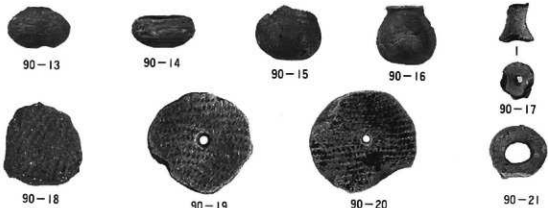
88-8

89-9



89-10

89-11



90-13

90-14

90-15

90-16

1

90-17

90-18

90-19

90-20

90-21

写真75 遺構外出土製品

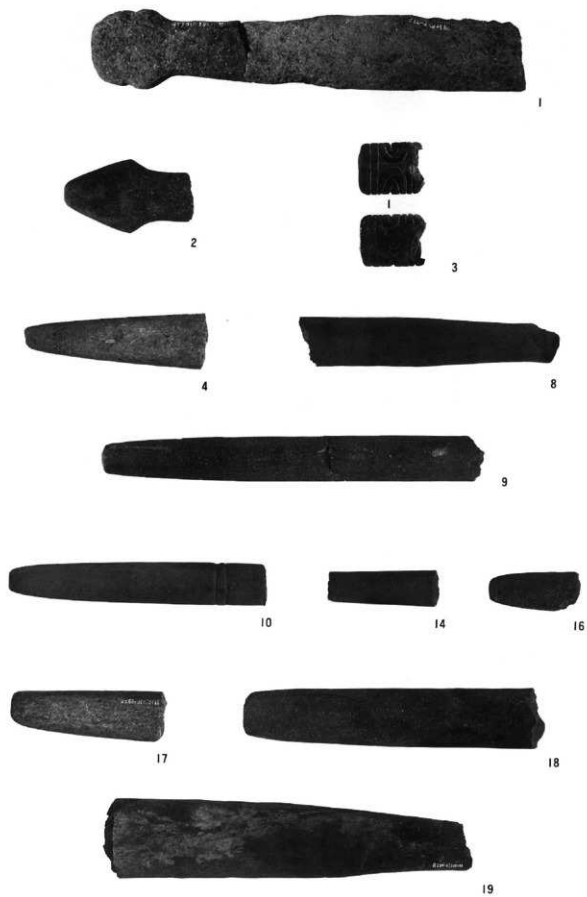


写真76 遺構外出土石棒・石剣・石刀



20



21



22



23



24



25



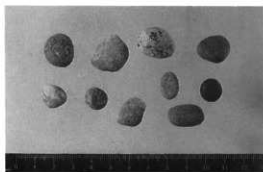
26



27



28



(細粒緑色凝灰岩小円礫)



(左端4.7cm大)



1



2



3



4



5



6

写真77 遺構外出土岩版・玉類・古銭ほか

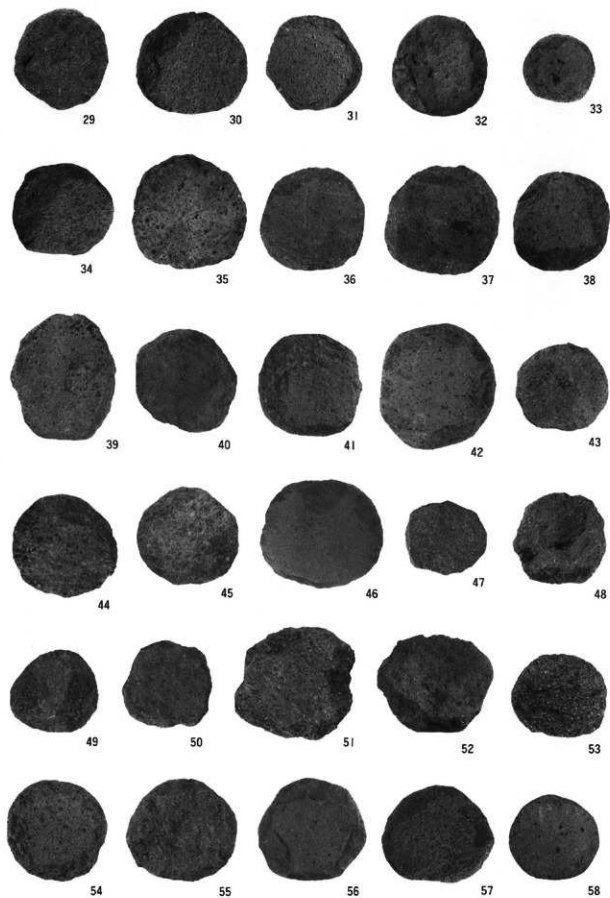


写真78 遺構外出土円盤状石製品(1)

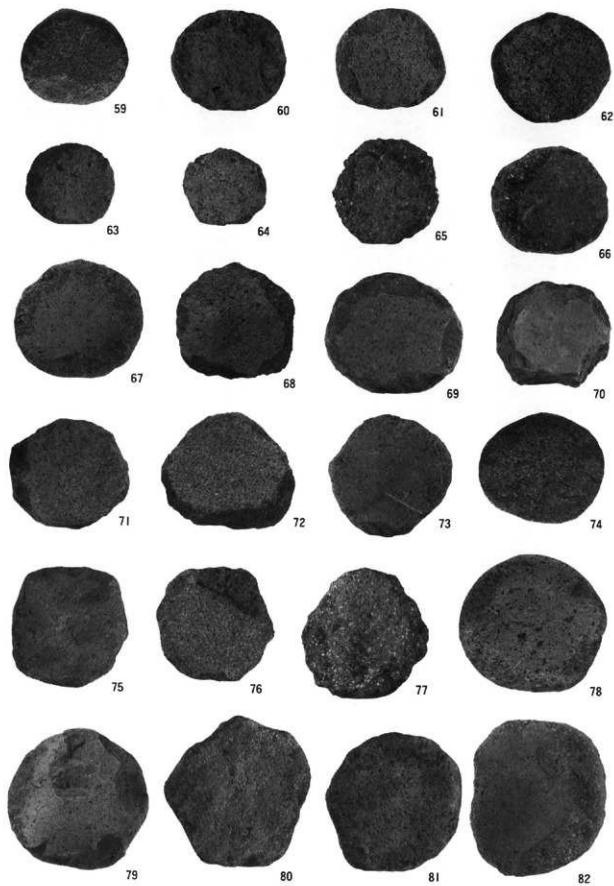


写真79 遺構外出土円盤状石製品(2)

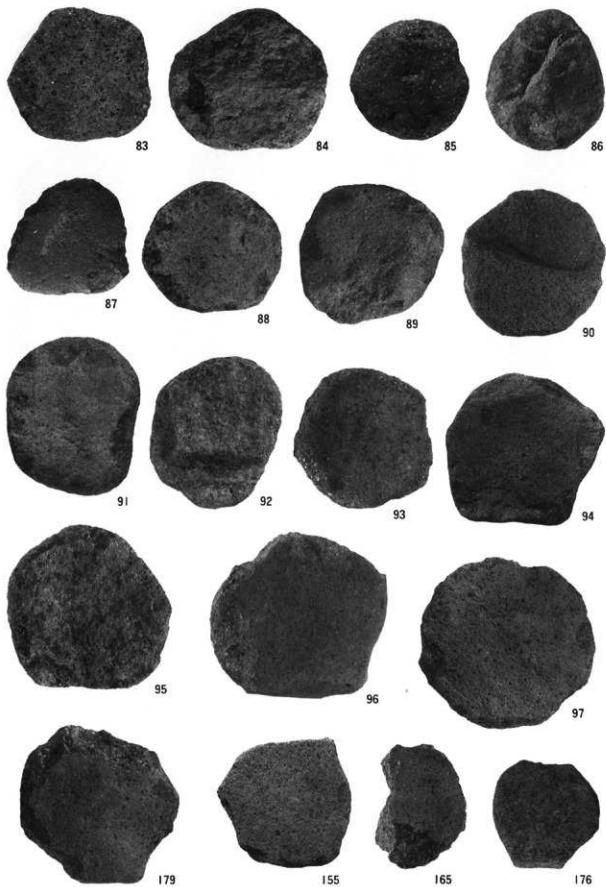


写真80 遺構外出土円盤状石製品(3)

報告書抄録

ふりがな書名	とこしないかっこいちいせきに 十腰内(1)遺跡II							
副書名	県営津軽中部広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第304集							
編者者名	齋藤 正・葛城和穂・福田友之							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森県青森市新城市天田内152-15							
発行年月日	平成13年(西暦2001年)3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
とこしないかっこいちいせきに 十腰内(1)遺跡	あおもりけんこうまきし 青森県弘前市 おおきとこしんち 大字十腰内字 まらまら 二ツ 猿沢84他	02202	02010	40° 44' 00"	140° 20' 19"	19960507 ～ 19960606 19990420 ～ 19990630	220m ² 2,700m ²	県営津軽中部広域農道 建設事業に伴う遺跡試 掘調査 県営津軽中部広域農道 建設事業に伴う遺跡発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
十腰内(1)遺跡	集落跡	縄文時代 後期後葉 ～晩期前半 平安時代 江戸時代	竪穴住居跡 6軒 土坑 19基 土器埋設遺構 1基 集石遺構 2基	縄文土器 前・中期(ごく少数)、 後期前葉～後葉、主体は 晩期前半 石器 石鏃(多数)・尖頭器・ 石錐・円形磨器・石距・ 石匙・不定形石器・磨製 石斧・敲磨器・凹石・石 皿(多数)・石鏝、頁岩・ 黒曜石石核・剥片 土製品 土偶・ミニチュア土器・ 耳飾り・円盤状土製品(有 孔・無孔)・粘土塊 石製品 石棒・石剣・石刀・岩 版・円形石製品・玉類(未 製品を含む)・円盤状石製 品(多数) 土師器・須恵器 (ごく少数) 寛永通寶(少数) 計ダンボール箱138			縄文時代後期後葉～晩期 前半主体で、この時期の 竪穴住居跡が検出された。 土器では、晩期中葉(大 洞C ₁ 式?)の赤塗り壺形 土器に、玉の材料とみら れる細粒緑色凝灰岩小礫 が77個納められていた。 また、石器・石製品では、 平成9年度の調査で出土 しなかった石鏝が出土し、 さらに晩期の石鏝・円盤 状石製品が多く出土した。 玉類には製作途中のもの も含まれている。	

青森県埋蔵文化財調査報告書第304集

と こし ない
十 腰 内 (1) 遺 跡 II

— 県営津軽中部広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

発行年月日 平成13年3月30日
発 行 青森県教育委員会
〒030-0801 青森市新町2丁目3-1
編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森市新城字天田内152-15
TEL.(017)788-5701, FAX.(017)788-5702
印 刷 高金印刷株式会社
〒038-0015 青森市千刈2丁目1-30
TEL.(017)781-0519・2244



活彩あomor
—輝くあomor新時代—